

▲右の数字は日本、左は清韓なり

引 索

わ ら や ま は な 花 さ か あ

六五	六四	六四	六四	六三	六三	六三	五二	五
九〇	八九	八七	七三	四七	三四	一六	七八	九一
八五	五七	一三	三三	五九	九〇	四四	五八	六七

り み ひ に ち し き い

六四	六四	六三	六三	六三	五二	五二	五
八九	七四	五九	四六	一九	七〇	四三	一一
八八	七五	四四	三三	七九	九七	四四	五九

る ゆ む ふ め つ す う

五	六四	六四	六四	五	六三	五二	五
〇	八八	七六	五二	七	三〇	九四	五四
二	三四	八三	三三	一	六七	〇〇	三二

れ め へ ね て せ け え

六五	六四	六四	六三	六三	五二	五二	五
九〇	七六	五三	四七	三〇	九五	五五	一六
五二	九九	八三	三三	七五	八〇	五七	九八

ろ よ も ほ の ど そ こ お

六五	六四	六四	六四	六三	六三	五二	五
九〇	八八	八七	六三	四七	三〇	〇五	六六
六五	三九	〇〇	三三	四四	三九	八九	〇四

## 凡例

- 一、本書は、日本地理に關し、實用と趣味とを兼備へて、學者のためには、斯學の指針たるべく、顧問たるべく、一般の士女に對しては、地誌上の指導たるべく、はた、案内記たるべく、その旅行と閑居とを問はず、既知と未知とに論なく、苟も訪はんと欲するところ、知らんと欲するところは、聲に従ひ手に應じて、直に搜し出さるべき便利を圖り、これを普通辭書の體裁に編纂したるものなり。
- 一、附録に清韓地理を加へたるは、現今我が日本の位置よりして、各方面の形勢事實よりして、勢、かくの如くせざる可らざるは、讀者の直に了悉せらるる所ならん。
- 一、多くの寫眞版木版等を挿入し、記事を簡明平易ならしめ、且つ歴史の沿革及詩歌等を附記したるなど、いづれも第一項に述べたる實用と趣味とを兼備へんとの希望を現實にしたるに外ならず。
- 一、日本地理には、さる懸念も少なかるべけれど、清韓地理に至りては、その讀法區々にして、容易に見出しがたきもの多かるべし、されば、本書は普通なる索引の外、内容全部其見出しの頭字によりて、全書索引を編纂し、これを卷末に添へたり。

凡例

一、本書は、とくに出版を終へんの豫定なりしかども、寫眞の蒐集に意外の日子を要したるがため、遂に遅延今日に至れり、然れども、これがために、挿畫は、豫定よりも一、二百有餘の増加となれり。讀者のためには、此の遅延、却つて幸たらすんばあらず。

一、地理上の稱呼、その他、本書の記事に關し、誤謬遺脱等を發見して、これが増補訂正を求められんには、編者は謹んでその勞を謝し、且つ再版の折、必ず増補訂正せんことを豫めここに告白す。

明治三十九年八月三日

郁文舎編輯所にて

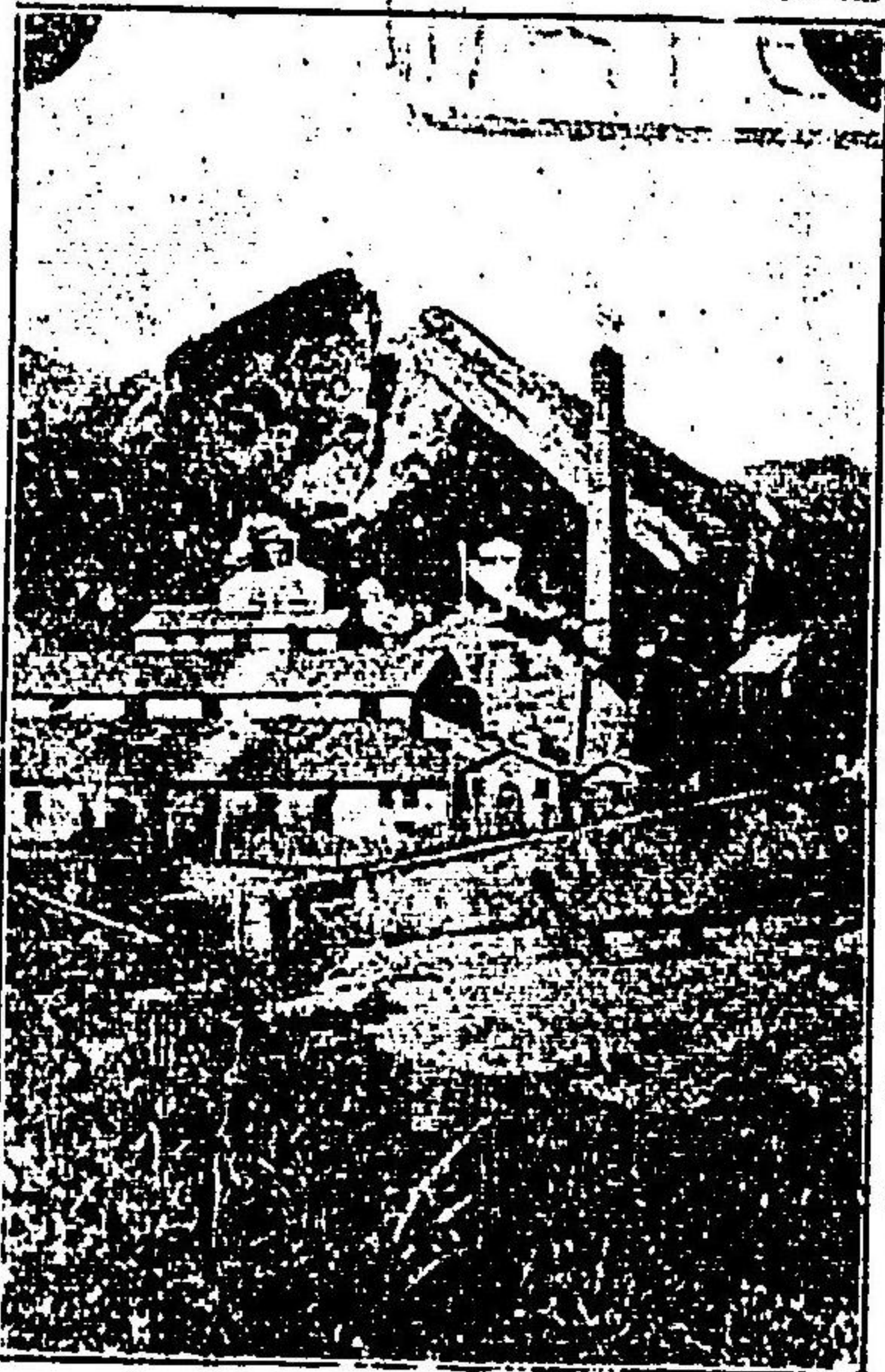
編者しるす

# 日本地理辭典

## あ

**あいかわまち 相川町** 佐渡國の西海岸にあり、國中第一の都邑にして、明治四年、相川縣を置かれし地なりしが、後、新潟縣に合併せられ佐渡郡役所所在地となる、警察署、郵便電信局、裁判所、稅務署等あり、新潟港へ廿九里五丁、東北に有名なる金銀礦山あり、坑口二十餘、其産額極めて多し。

**あいかわむら 相川村** 甲斐國西山梨郡甲府市の北方にあり、武田氏に關する名蹟多く、同村字古府中には永正年間武田信成の築ける、躑躅ヶ崎館の遺跡あり、字岩窪には武田晴信の墓あり、(碑あり、注性院機山信玄公之墓の十字を勒す)、又同村夢見山の南麓には武田氏累世の靈廟ある大泉寺



(山銀金川相)

あり、堂宇の宏壯と風景の絶佳とを以て知らる。

**あいちけん 愛知縣** 縣廳は名古屋市にあり、尾張、三河の一圓を管す、面積三百二十二方里あり、一市十九郡六十四町六百五十村より成る。

**あいつ 會津** 岩代國の内、南會津、北會津、河沼、大沼、耶麻五郡の汎稱にして、蕪松平氏の領地たり、又其城下たる若松市のみを會津と稱することあり、猶岩代の國の部參照。

**あいつがわ 會津川** 阿賀川上流の別稱。

**あいつふじ 會津富士** 磐梯山の別稱。

**あいつやま 會津山** 岩代國磐梯山の別稱。

**あいのじんしゅ アイヌ人種** 古史に東夷、熱蝦夷、麗蝦夷とあるは、蓋しアイヌ人種にして、熱蝦夷は開明人種に屬するや、其文化を採用し、自から其特色を失ひ、全く大和民族と同化し終りて、今は之を求むる能はず、麗蝦夷は即ち現今のアイヌ人種の祖先にして、大和民族と競争し、次第に逐はれて、東北地方に逃れ、終に北海道に入り、古

あいか

あいつ

來の風俗習慣を傳ふ、然れども人口次第に減少し、漸く一萬七千人に過ぎず、其大部は日高國に住す、彼等は男女共に髪を剃り、徒跣にして、左衽す、衣服はアツシ又は熊、鹿等の毛皮を以て製す、男子は常に弓箭、銃砲を携へ、獵漁に従事し、女子は家居して、衣食の事を掌ると云ふ。

(俗風 × イ ア)



**あおいまつり 葵祭** 京都下鴨社の祭禮なり、昔し欽明帝の御宇、賀茂神樂りし給ふを以て、四月吉日を選み、人は猪頭を被り、馬を駆けて神に祈れり、葵祭はその遺風なりと云ふ、明治維新後一時廢絶せしを、近年また再興したり、毎年

五月十五日を以て之を執行す、勅使の参向あり、儀式嚴重にして、行粧頗る古風なり、祇園會と共に京都の壯觀たり。  
**あおねおんせん 青根温泉** 陸前國栗田郡川崎村大字前川にあり、海拔二千四百尺、西に不忘山(藏王山)を負ひ西北に花淵山を控へ、東南遙かに太平洋を望み桃生、牡鹿の諸勝歴々指點し得、大河原町を去る七里半車馬の便あり、泉質、鹽類泉に屬し無色透明にして少しく鹹味あり、慢性、腰痛、頭痛、婦人病、腺病等に効あり、傳へ云ふ、天文年間、土人初めて大湯を發見し、次で享保年間に新湯を開き爾來年とともに盛なるに



(祭葵の茂賀)

至れりと。

**あおのがはら 青野原** 美濃國不破郡垂井の北方平野の總稱にして、一に不破野とも云ふ、延元三年正月、土岐頼遠、桃井直常等、源頼家の西上を防ぎて奮戦せし地たり。

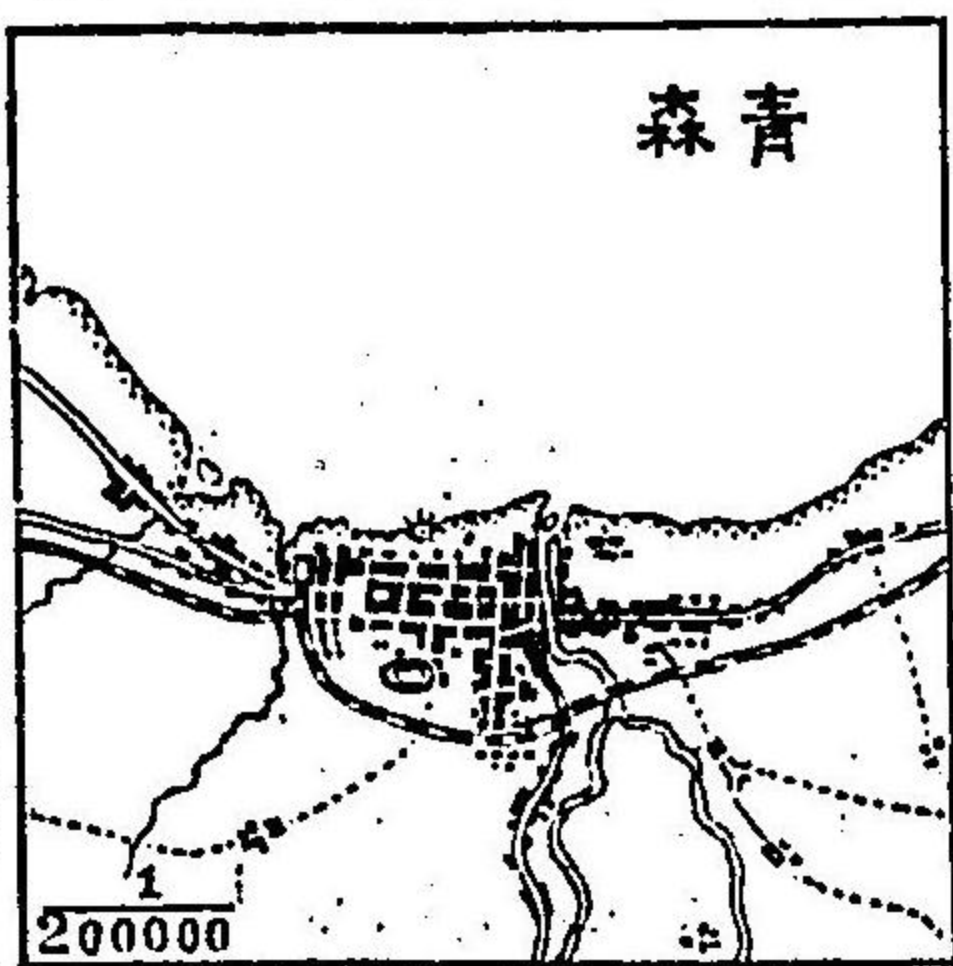
**あおのさん 青野山** 芋山又は妹山とも云ふ、石見國鹿足郡の中央にあり、高さ二千九百九十尺。

**あおはかむら 青墓村** 美濃國不破郡青野村の東にあり、上古は驛邑たりしが、今は小村落として残る、平治元年源頼朝、父義朝に従ひ敗走して此地に別る、事は平家物語に詳かなり、同村字元圓興寺谷に頼朝の兄源朝長の墓あり、又字青野に聖武天皇の勅建にかゝる美濃國分寺の遺跡あり。

**あおばじょし 青葉城址** 陸前國仙臺市の別名にして、仙臺市の西端廣瀬川の西にあり、慶長五年伊達政宗の築く所にして、山に倚り河を控へ頗る峻要の地たり、政宗以後累世此地に據り六十二萬石を食む、明治維新の變後、本城を毀ち今は唯舊城門を存するのみ、今第二師團司令部所在地たり。

**あおばやま 青葉山** 陸前國仙臺市の西北方の丘陵の名。市の北方北山町の丘上に青葉神社あり、藩祖伊達政宗を祭る、仙臺の舊城を一に青葉城と稱し、城下を流るる廣瀬川を一に青葉川と云ふ、蓋し古歌に「たづねばや青葉の山のおそ櫻、花の残るかほるのとまるか」とあるより、此名を得たる

ならんか。○若狭國大飯郡の西方、丹波の國境にあり、高さ二千二百三十尺、一に若狭富士と稱す、四時の風光絶佳なるを以て、古より名所の一に數へらる、西麓に松尾親音あり。  
**あおもりけん 青森縣** 縣廳は青森市にあり、陸奥國青森、弘前の二市及、東津輕、西津輕、中津輕、南津輕、北津輕、上北、下北、三戸の八郡を管す、面積六百七方里○三、二市八郡五町百六十三村より成る。  
**あおもりし 青森市** 陸奥國の北方青森灣に臨める一要港にして本品と北海道との交通連絡地點として殊に重要位置を占む、東京を去ること、百九十二里(米澤通りより)は二百四里)、上野青森間の、鐵道停車場あり青森縣廳の所在地にして、警察署、郵便電信局、地方裁判所、區裁判所、稅務署、御料局事務所、測候所、水産銀行、諸會社等の諸官衙、學校等多し、此地元と島頭、安瀉、多開天、堤の四ヶ村より成れる荒寒たる漁村たりしが、寛文年間津輕信牧其臣森山某に命じて埠頭を開かしめ且國內に



青森 大小林區署步兵第五聯隊及び師範學校中學校、女學校、病院、

あおも

布告して移住を奨励せしめてより、忽ち商業地と變じ、爾來歳とともに繁盛に赴き、殊に日本鐵道の全通してより旅客の往來、貨物の集散、頗る頻繁を加へ、我國北方に於ける一大要地となるに至れり。

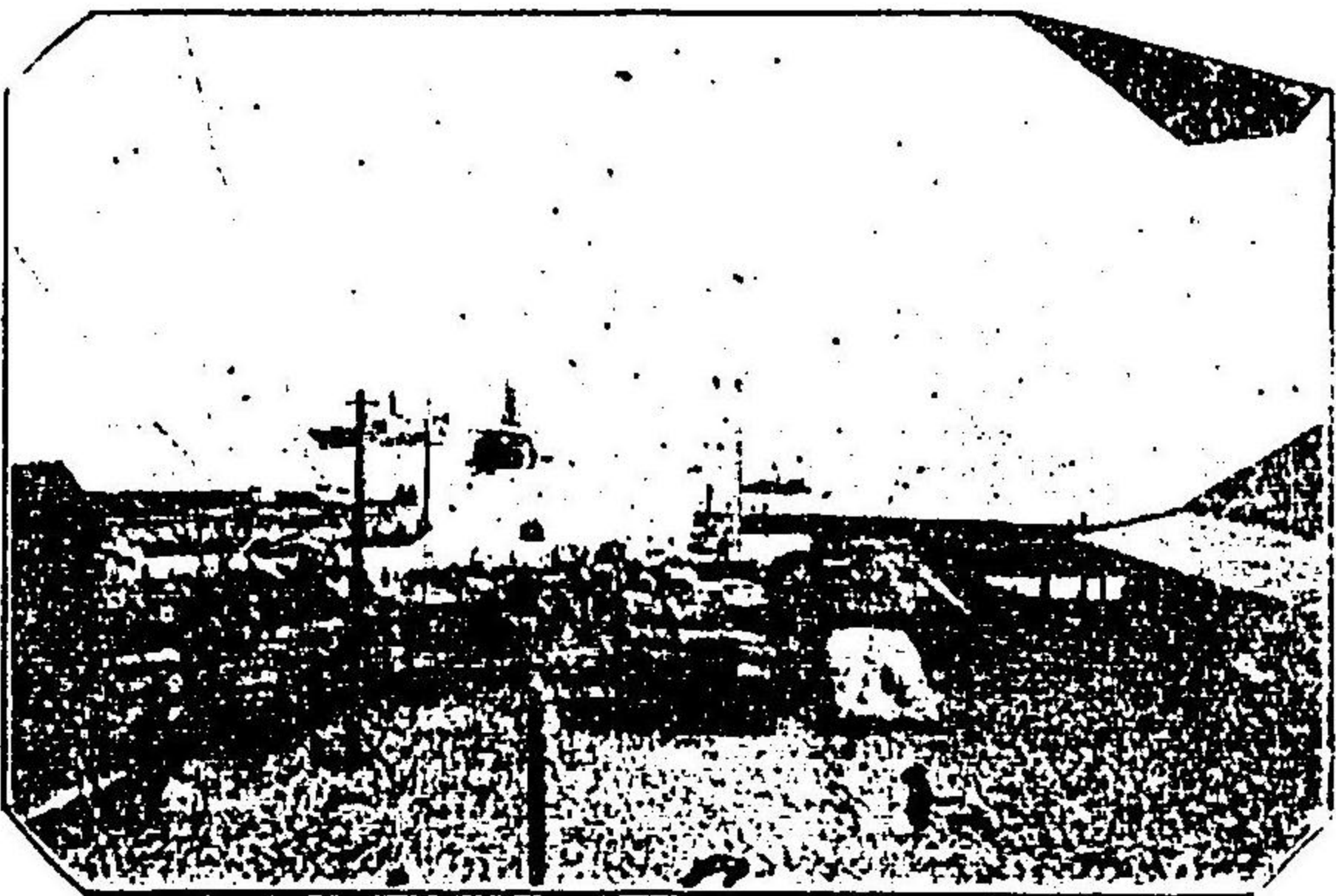
あおもりみなど 青森港

陸奥國東津輕郡青森市の北海岸にあり、奥羽中の良港にして、東西二十三町十八間、南北六町餘、水深八切、大船の碇泊に適す、港口、不動赤色の燈竿あり、其光よく六淵を照すと云ふ、兩館港へ六十淵あり。

あおもりわん 青森灣

陸奥國の北方陸奥灣内にあり、夏泊崎によりて野邊地灣と境す、灣内青森港あり、我國北方に於ける一大良港にして、船舶の出入多し、青森より西北の沿岸を外ヶ濱といふ、古歌に「陸奥の奥床しくぞ思ほゆる、靈のいしぶみ外の濱風」(山家集)「陸奥の外の濱なる呼子鳥、鳴くなる聲はうとう安方」(夫木集)などある名所なり、又外ヶ濱の北方、今別村の東字母衣月の海濱を舍利濱と

(前社會船郵木日港森青)



いふ、橋南溪の東遊記に舍利石を産すとある所なり。あおもりみなど 青谷村 因幡國氣高郡の西部にあり、當國の名邑にして、郵便局、警察分署、區裁判所出張所あり、木綿の産多く青谷木綿の名は近國に著はる。

あおもりみなど 青柳村

近江國高島郡にあり、聖人と呼ばれたる中江藤樹の居村にして、藤樹書院今尙存す(同村大字上小川にあり)、又同村玉林寺には藤樹及び其子季重の墓あり、村民の尊信篤く、香花今に至る迄絶ゆるなし。

あおもりみなど 青山御所

東京市赤坂區の北部、青山練兵場の東方にあり、赤坂離宮に接續す、もと英照皇太后坐せられし處にして、今は東宮殿下の御所となる、宮殿の結構精美を盡くし、都て日本固有の建築たり。

あかいしやま 赤石山

駿河國阿倍郡、信濃國下伊那郡に跨れる高山にして、高さ一萬二百餘尺あり、絶頂より眺望すれば、東に甲斐白峯北に千丈嶽、甲斐駒嶽西に信州駒嶽等あり、其景の雄大なること富士山に譲らず、登り口五條あり、東京よりは高遠に至るを便とす。

なること富士山に譲らず、登り口五條あり、東京よりは高遠に至るを便とす。

あかいだけ 關伽井嶽

(赤井嶽、阿加井嶽) 磐城國石城郡平町の西北にあり、高さ二千三百尺、昔時より此山中にて夜間燐火見ゆ、人呼んで龍燈と稱す、山上に薬師堂あり、大同年間の開基と稱す。

あかいわさんみやく 赤岩山脈

富士帶山脈の四仙丈山の邊より起り駒ヶ嶽山脈と共に赤岩山系を成す、大井、天龍二川の間を走せ、本脈の盟主たる赤岩山、大無間山、池口岳となり、漸く西南に向ひ、黒帽子岳、背崩岳を経て、遠江國に大日山、秋葉山、三河國に鷹巣山、木宮山等の諸山を成す。

あかがは 赤川

羽前國東田川郡の山中大鳥池より發し、大梵字川を合せ、本郷村に至り北流して赤川と稱し、鶴岡町の東を過ぎ新堀村に至て最上川に入る、流域十里許。

あかきさん 赤城山

上野三名山の一にして上野國前橋市の東北六里餘、南勢多郡にあり、休火山にして高さ五千七百餘尺、字小暮より頂上まで凡そ四里餘、阪路頗る峻なり、登ること一里半許にして有名なる石垣沼あり其水清くして鏡の如く拾遺集を始め歴代歌集に詠歌多し、山上に覺満大菩薩あり、今赤城神社と改稱し、大已賈命、豐城入彦命等を奉祀す。



(山 城 赤)

あからやま 赤倉山

陸奥國上北郡八甲田山の西南、東津輕郡界に屹立す、高さ五千餘尺。

あかさかじょし 赤坂城址

河内國南河内郡金剛山の西麓、赤坂村字水分にあり、南は山に靠り西北谷に臨み、溪流其下を流れ頗る形勝の地たり、元弘元年楠木正成此に築き、東軍勢を拒ぎ、正平年中に其子正儀再三此地に據りて北軍を防ぐ。

あかさかりきり 赤坂離宮

東京市赤坂

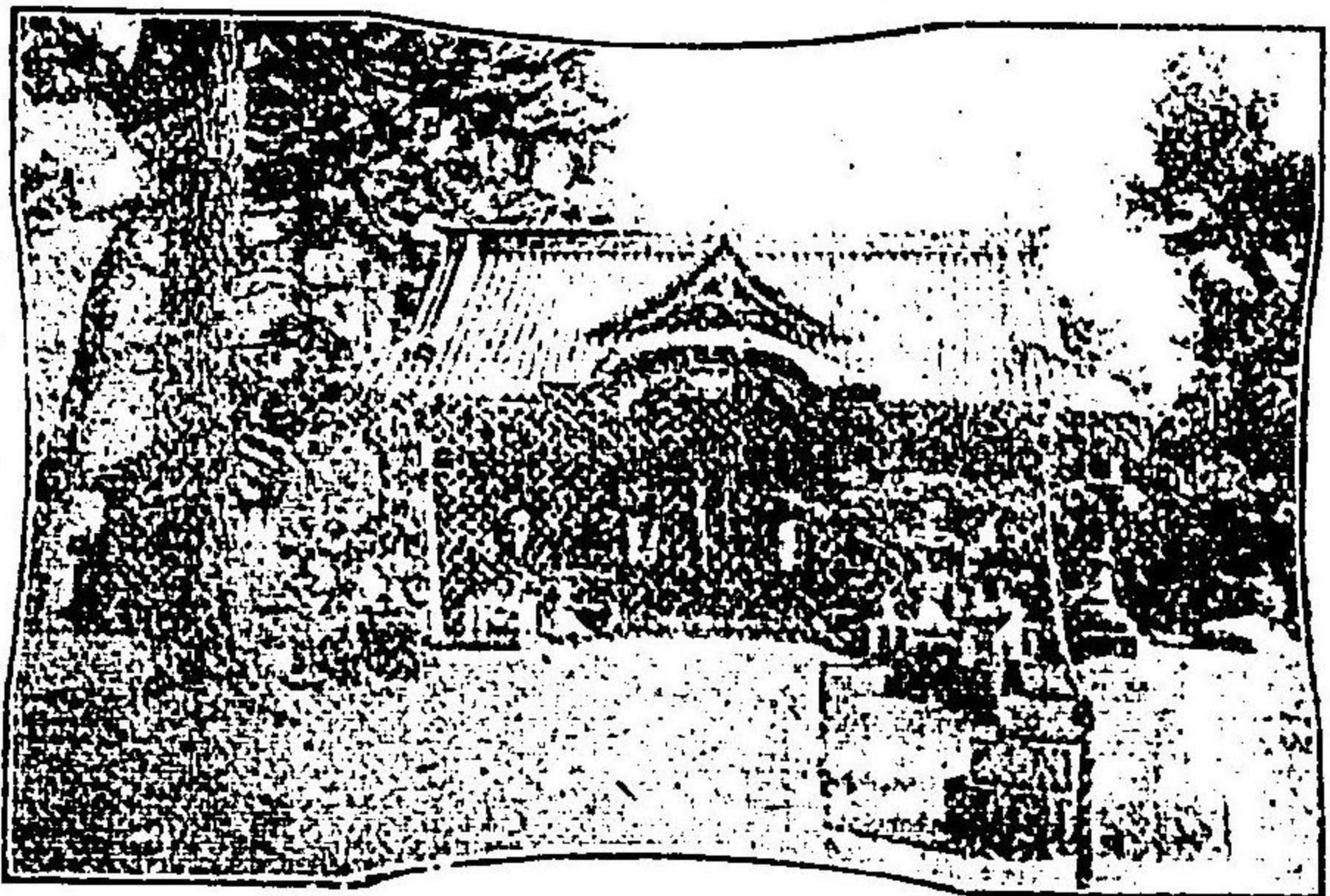
あかし

坂區の北部にあり、青山御所に接續し、正門は紀國坂の上にあり、元紀州家の邸宅なりしが、明治六年皇居炎上の折、一度假皇居と定められてより、離宮となれり、御苑の廣袤十八萬餘歩、苑内御殿あり、皇太子殿下の御館となす、毎年親菊の御宴を開かせられ、高等官に拜觀を許さる。

あかしかいき

明石海峡 播磨灘の東口にして、播磨國明石浦と淡路の北端岩屋町との間の海を云ふ、一に岩屋海峡と稱す古書に赤石門、又は、明の大門と呼ぶは是なり、其濶さ約二海里、潮流不定にして強き激湍を起す。

(社 神 丸 人)



あかしじょし

あかな

明石城址 明石町の北にあり、山に倚り海に面し、土地高燥にして、老樹繁茂し、古來景勝の地として知らる、城址區域方八町許、城は元和三年小笠原氏の築く所にして、天和二年松平若狭守直明(徳川秀康の孫)の入り以來世襲して明治維新に至る、今は其一部をさきて公園地とす、歌聖柿本人丸を祭れる人丸神社は此地の東方字大藏谷にあり。

あかしのうら

明石浦 播磨國明石町前面の海濱の總稱にして一に明石潟とも云ふ、明石海峡を隔てて淡路島に對し、風光太佳にして古來名勝の地として知らる、夫の有名なる「ほのぼのと明石の浦の朝霧に、鳥かくれ行く舟をしぞ思ふ」(古今集)の古歌を始め、此地につき詠じたる和歌多し。

あかしまち

明石町 播磨國明石郡にあり、神戸を距る十二哩、松平氏八萬石の舊城下にして、元和三年小笠原氏築城以降の邑里とす、北に丘陵を負ひ、南海に臨み、明石川其西を流れ、中國街道の要地にして、人口二萬二千餘、郡役所、警察署、郵便電信局、區裁判所、女子師範學校、農學校、病院等あり、其港灣南に向ひ、深さ六仞より十仞に至り、波止場を築き出して波濤を防ぐ。

あかなきん

赤雉山 下野國上都賀郡日光山中にあり、女體山と並立す、那須山系に屬する休眠山にして高さ七千四百七十尺餘あり。

あがのかは

阿賀川 (阿賀野川、揚の川)、源を岩代國猪苗代湖及び同國西南隅の諸山に發す、日橋川、只見川、鶴沼川等の諸流、麻耶、河沼兩郡境にて相會し、西流して越後國東蒲原郡に至り、諸水を合せて、中蒲原、西蒲原の郡境をなし、小賀川を分派して松崎港に注ぐ、延長五十七里、川口より四十五里餘舟楫の便あり。

あかはだやま

赤膚山 大和國生駒郡都跡村大字五條村の西にあり、兀たる赭山、高さ二丈許、赤土にして不毛なるより其名あり、有名なる赤膚焼は此山の土を以て焼きたる陶器なり。

あかまめま

赤間沼 下野國下都賀郡赤間村にあり、周圍四里許り、其水東に流れて思川に會す。

あかまがせき

赤間關 下關市を見よ。

あかまのみや

赤間宮 官幣中社、長門國下關市阿彌陀寺町にあり、安徳天皇を祀る、もと阿彌陀寺と稱して、梵刹なりしを、維新後今の名に改む、土人帝の御遺骸を海底に得て、此地に安置したりと云ふ。

あかんと

阿寒湖 釧路國阿寒郡雄阿寒嶽の五六合目にあり、パンケトー、ベンケトー二沼と相擁す。

あかんだき

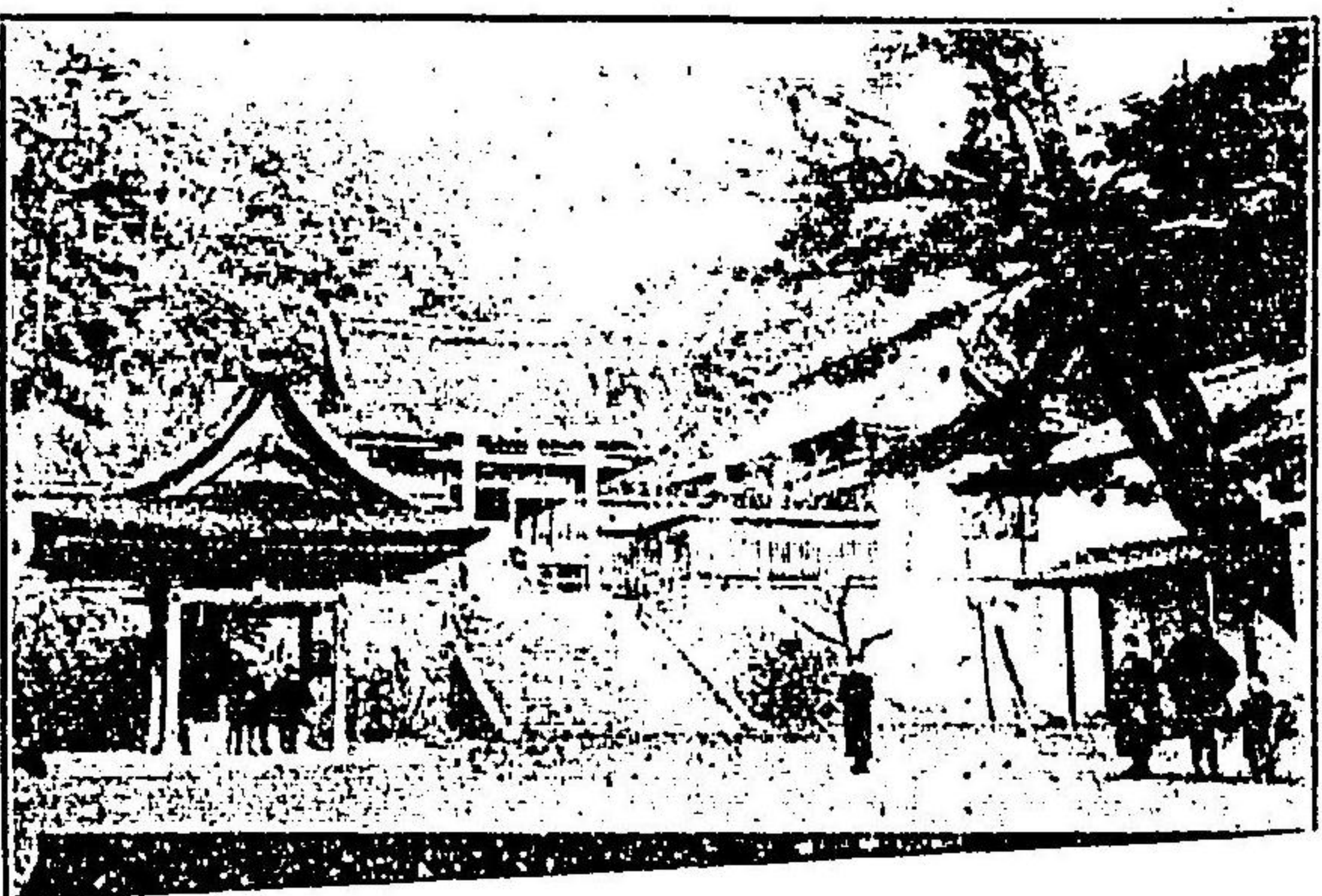
阿寒瀑 釧路國阿寒郡釧路町より廿一里、雄阿寒嶽にあり、高さ五十丈巾五十間北海道第一の大瀑布たり。

あがの

あかめ

あかめのたき

赤目瀧 伊賀國瀧川村大字長坂の山中にあり、名張驛を距る二里、山麓延壽院迄腕車を通ず、所謂赤目四十八瀧の勝景あり、中にも大なる瀑布十二、固より脱塵の仙境にして、常に銷夏の勝地たるのみならず、春秋の探勝亦頗る佳なるものありと、此地久しく世に知られざりしが、嚮に名張町民寫眞を東宮に上りてより、其名始めて遠近に聞ゆるに至れり。



(宮 間 赤)

あかやすざん 赤安山 岩代上野の國境、南會津郡の南境にあり、上野國にては北間田山と云ふ、高さ六千四百餘尺

あがの

下野國上都賀郡にあり、上野に跨る、上野國にては中間田山と稱す。

**あかゆおんせん 赤湯温泉** 羽前國東置賜郡赤湯町にあり米澤市を去ること北方四里三丁、町は羽前街道に沿ふ、警察署及び郵便電信局あり、温泉は大湯、丹波山、甘湯、森の四處に涌出す、泉質鹽類、温度百二十度、正和元年の發見にかかり、爾來幾多の變遷あり、近傍、小野川、高湯、五色温泉等と相並んで共に有名なり。

**あきたけん 秋田縣** 縣廳は秋田市にあり、羽後の内、南北秋田、山本、川邊、山利、仙北、平鹿、雄勝の八郡及陸中の鹿角郡を管す、面積七百五十四方里。

**あきたし 秋田市** 羽後國南秋田郡の西南御物川の東岸にあり、東京を去ること百五十一里、秋田縣廳の所在地にして、地方裁判所、區裁判所、警察署、郵便電信局、稅務署、師範學校、中學校、女學校、第十六旅團司令部及歩兵第十七聯隊あり、此地古くは露田と稱す。



秋田 實字年間秋田城を置き延暦年間一たび廢せられしが、後之を再

置せり、中世秋田氏長く此地を領有せしが、徳川氏天下を一統するに及び佐竹氏を常陸より移して二十萬五千餘石を食ましむ、爾來子孫世襲して明治維新に至る。

**あきたじょうし 秋田城址** 秋田市の東北にあり、一名葛根城と云ふ、慶長九年八月當國の大守佐竹義宣、其臣須田某に命じて築かしめたる所なり、廢藩の後、火災に罹り、遂に荒廢に屬せしが今は此を開きて公園地となせり、當城址は旭川に臨み、東及び南に島海、太平洋等の諸山を望み、西北日本海を眺め、風光極めて佳なり。

**あきのくに 安藝國** 山陽道八國の一にして、東は備後に、西は周防に、北は石見に界し、南は瀬戸内海に臨む、地勢東西に長く南北に短く、層巒北方に連り、土地多くは肥沃ならず、國を分ちて廣島市及び安佐、高田、山縣、賀茂、安藝、佐伯、豊田の七郡とし、今は隣邦備後國とともに、廣島縣に屬す、此國上古より知られ、中世平氏の盛なるや其管國に屬せしが、後院の御領となり、次で武田家の管する所となる、元龜天正の頃、毛利氏此地方を從へ、提封十ヶ國に連り威を海内に振ひしが、關ヶ原の役に大敗して遂に其封を失ひ、東軍の將福島正則代つて當國を領せしが後罪あり國除かれ、淺野長成代り封せられ四十二萬六千石を食む、子孫相襲いで王政維新に至りしが、明治四年廢せられて廣島縣に屬す。

**あきはさん 秋葉山**

遠江國周智郡にあり、群峯高く連りて東北に亘り、信濃に邊す、山上秋葉神社あり、鎮火の神として信徒の參詣多し、掛川驛を距る北九里三十町。

**あきまち 安藝町** 土佐國安藝郡の西海岸にあり、高知市を距る十里、人口六千二百餘、郡役所、警察署、區裁判所、郵便電信局、稅務署、小林區署等あり、此地元郡領安藝氏累世の居住地たりしが、永祿年間備後守國虎に至り、終に長曾我氏の亡ぼす所となる、其城址、今宇土居村にあり、縣壕の遺跡歴然として存す。

**あくしじま 悪石島** 實七島の一にして、薩摩國の南方海中、諏訪島の南方四里十町にあり、周囲二里二十七町、川邊郡に屬す。

**あくりがは 阿久利川** 阿武隈川の別稱。  
**あくりがい 阿猴街** 臺灣の南方にあり臺灣縣に屬す、阿猴廳の所在地にして、警察署、稅務署、郵便電信局等あり、臺南府へ北方十五里十二町、總督府へ百八十八里。

**あこがは 安居川** 越前國にあり、日野川、足羽川の合流にして、北流吉田郡に至りて、九頭龍川と合し、坂井郡に入りて坂井港に注ぐ。

**あこじょうし 赤穂城址** 赤穂町市街の南端字上假屋にあり、寛永年間池田輝興の遺館する所にして、正保年間輝興

の除封後、淺野内匠頭長直代つて此地に居り封五萬五千石を食みしが、其孫長矩に至り終に元祿の變あり、國除かれ、永井伊賀守之に代りしが四年にして森和泉守の領有する所となり子孫相次で明治維新に至る。

**あこがうら 阿漕浦** 伊勢國安濃一志兩郡の東方、雲出川注ぐより塔世川注口に至る間の海濱を云ふ、白砂青松相映じて風景絶佳、芭蕉が「月の夜をなにを阿古木に鳴く千鳥」の句碑は近傍柳山にあり、もと阿漕とは安濃といへるをば詠歌者流の句調を整ふる爲めに異様に讀めるより起れる者にして、「逢、このあ、きの島に引く潮の、度かさならば人も知らん」(古今六帖)「忘るなよたびをかされて、鹽木つむ、あ、きが浦になれし月影」(新續拾遺集)等、此地につきて詠める歌多し。

**あこてんがい 阿公店街** 臺灣の南方にある名邑にして、警察署、郵便電信局等あり、臺南へ六里、總督府へ百三十八町、停車場あり、臺南より一時間にして達す。

**あこまち 赤穂町** 播磨國赤穂郡の南方、有年川畔にあり、本名假屋(又加里屋に作る)、鹽屋、尾崎等と相並んで一大海邑をなす、郡役所、警察署、郵便電信局、區裁判所出張所、稅務署等あり、古來赤穂鹽の名産地として名あり、此地は元淺野氏五萬石の城下たりしが、元祿十四年淺野長矩、殿

中にて吉良義興を傷けたる罪を以て没收せられ、永井、森の  
二家相次で之を領して、維新に及ぶ、廢藩後廢城となりし  
が、四方の城景今尙存す、町に大石良雄以下四十七士の遺  
趾多し。

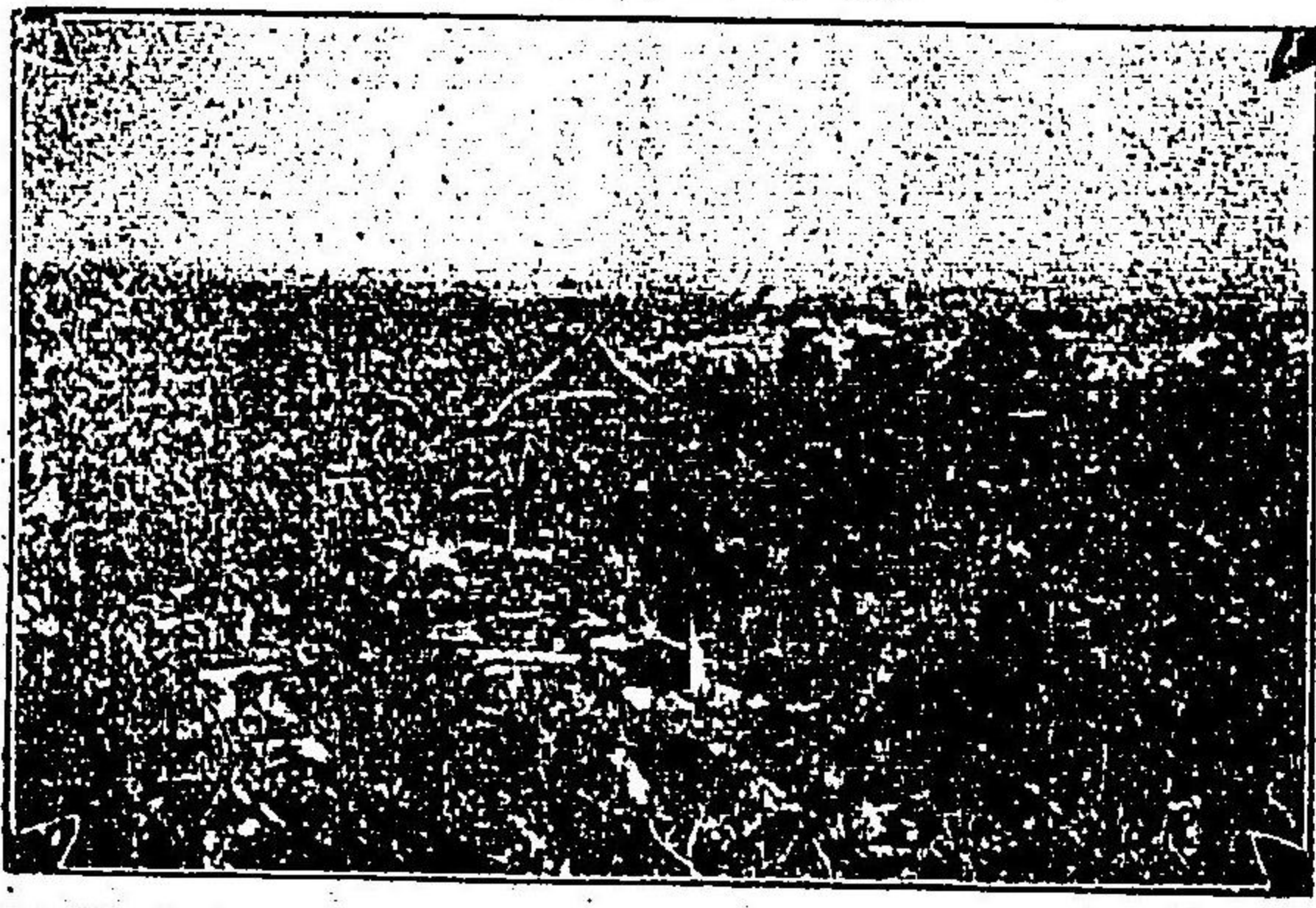
**あさかやま 安積山** 岩代國安積郡山の井村にあり、一に額  
取山とも云ふ、同國の名所なり、故事は大和物語に詳かな  
り、蓋し萬葉集に「淺香山影さへ見ゆる山の井の、淺き心を  
我れ思はなくに」とあるによりて作れる物語ならん。

**あさかめま 安積沼** 岩代國安積郡山の井村大字日和田東  
勝寺の後にあり、昔時は安積山と共に有名なる處なりしが、  
今は水涸れて水田となれり、「みちのくの安積の沼の花かつ  
み、かつみる人に戀やわたらむ」(古今集)の古歌を初め、此  
地につきて詠める歌多し。

**あさかきーえん 淺草公園** 東京市淺草區にあり、元金  
龍山淺草寺の境内たりしを明治六年初て公園地と定め、同  
九年に奥山の人家を取拂ひ、同十五年には千束村の一部を  
埋立てて、九萬六千八坪となし、之を七區に分つ、園内淺草  
寺及淺草神社、辨天祠、平内兵衛像又花屋敷、淺雲閣、パノラ  
マ、及小劇場、見世物小屋、茶店、楊弓店、寫眞店、飲食店等無  
數、日々數萬の群集雜沓す、其盛なる實に東都第一となす。

**あさかきーえん 淺草寺** 淺草觀音を見よ。

**あさかきーえんおん 淺草觀音** 東京市淺草區淺草公園に  
あり、金龍山淺  
草寺と稱す、十  
八間四面の御堂  
にして、本尊は  
一寸八分の觀音  
菩薩たり、推古  
天皇の御宇土師  
臣瀧成、武成の  
二人、宮戸川に  
て得たるものな  
りと、本堂は大  
化中僧勝海の建  
つる處、現今の  
堂宇は慶安年間  
徳川家綱の再營  
にかゝる、朝暮  
賽客常に絶ゆることなく、香煙終日堂に滿つ。



**あさかきーえん 朝來川** 但馬國にあり、源を生野銀山に發し、  
諸流水を合して、北流發父郡に入り、西北に轉じて城崎郡に  
入り、北流佐野、入江兩川を合し、豊岡町を過ぎて海に入る、

一に岡山川、釜川、城崎川とも稱す。  
**あさのがわ 淺野川** 加賀國にあり、河北郡醫王山に發  
し、山間の小流を合して西北に流れ、石川郡の境に沿ひて、  
金澤市の北方を過ぎ、北轉して河北潟に入る、流域十三里  
餘。

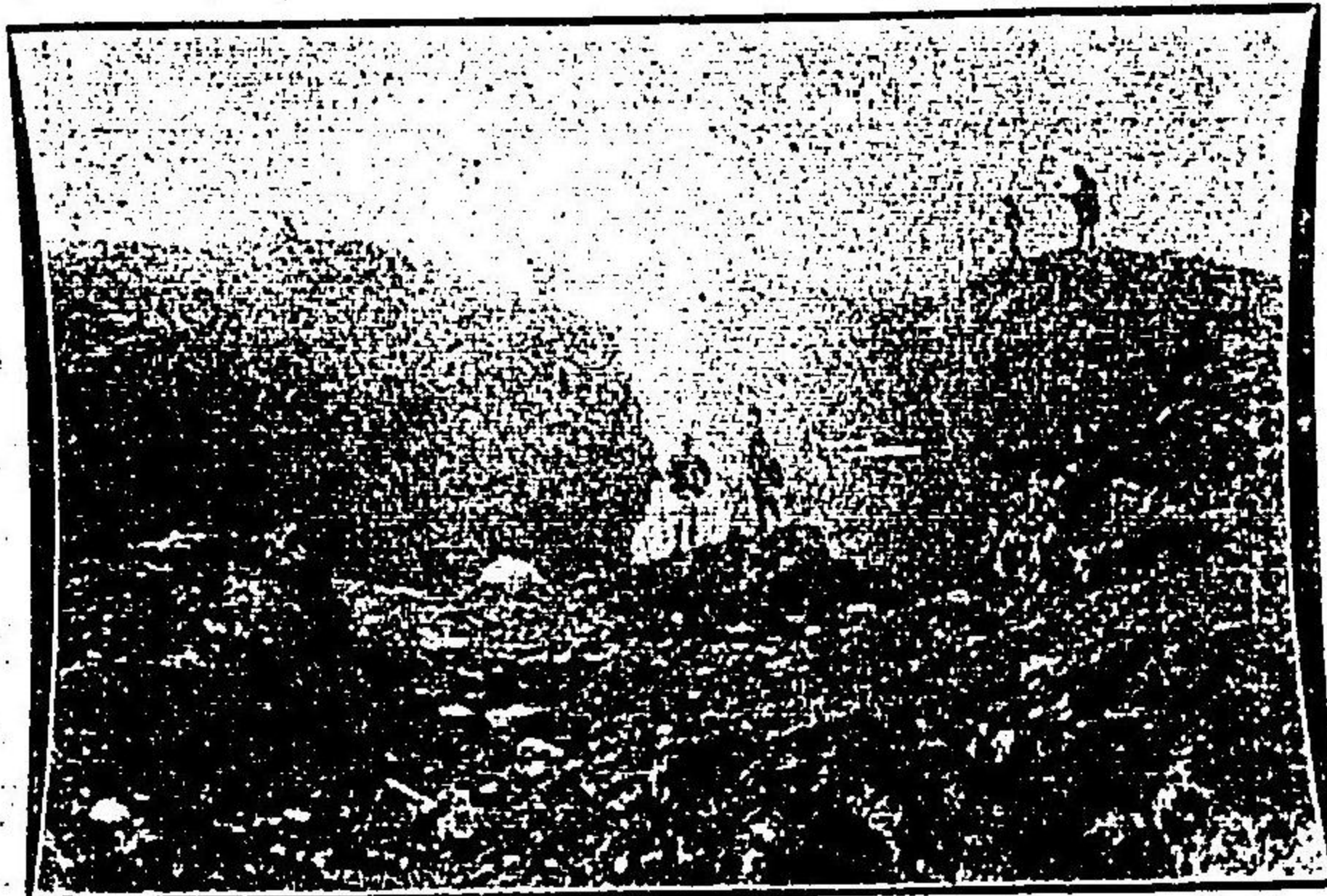
**あさひがわ 旭川** 一に四大川と云ふ、美作國高田川の下流  
にして、備前國御津赤磐兩郡境を南流して岡山市を過ぎ、上  
道郡に入りて兒島灣に注ぐ、流域其州界より十三里二町、一  
に笠瀨川、御野川と稱す。

**あさひがわ 旭川村** 石狩國上川平野の中央にあり、  
市街整然として規模宏壯、北海道中央に於ける一大都會と  
す、上川支廳、警察署、郵便電信局、區裁判所出張所、第七師  
團司令部、十四旅團司令部あり、砂川鐵道、空知より來りて  
當驛に到り岐れて南北三線となり、一は天鹽に至り、一は十  
勝に入る、此地、明治十八年、時の北海道長官岩村通俊、上川  
平野を探險し、植民地を撰定したる後、始めて市街の區劃を  
定めたるものなりしが、爾來歲とともに人口増殖し遂に今  
日の股賑を見るに至れり。

**あさひだけ 朝日岳** 羽前國西置賜、西村山、東田川の三  
郡に亘り、越後の國境に接す、高さ七千尺、嶽の北麓なる大  
島池は蓋し噴火口なりと。○磐城國西白川郡にあり、岩代國

南會津郡に亘る、高さ六千五百尺。○岩代國南會津郡の中  
央、赤松山の南方にあり。○蓮華山の一名にして、越後國西  
頸城郡、信濃國北安曇郡、越中國下新川郡に跨る、高約一萬  
尺、噴火山にして、舊火口は湖水となる、北麓に温泉あり、蓮  
華温泉と云ふ。

**あまやま 淺  
間山** 山羽  
山脈に屬す、  
信濃國北佐久  
郡の北端にあ  
り、上野國吾  
妻郡に亘る、  
我國有名の活  
火山にして山  
巔常に硫烟を  
噴出す、高さ  
八千二百餘  
尺、山上に淺  
間神社あり、  
此山、天武天  
皇の白鳳十四  
年に噴火し



(山 間 淺)



爾來屢々大噴火ありて山麓の諸村其害を被むること多し。

**あさまやま 朝熊山** 伊勢國宇治山田町の東方二里、朝熊村にあり、志摩國境に亘る、海拔一千七百尺、山頂に金剛證寺あり、臨濟宗に屬す、寺傳によれば、欽明天皇の時僧曉臺の開創する所にして、其後大に荒廢せしが、大同年間僧空海に及び禪真兩宗兼學となる、此地を去る三丁盤見峯の東麓に吞海庵(奥院)あり、其眺望の絶佳なる古來人口に噴々たる所とす、有名なる萬金丹本舖は寺門の前にあり。

**あさむしおんせん 淺虫温泉** 陸奥國東津輕郡野内村大字淺虫にあり、東西南三面山を頂ひ、北は一面海に臨み、鷗島、湯野島等近く前面に横はり風景尤も佳なり、温泉は鹽類泉にして泉源八ヶ所、浴客常に多し。

**あしおさんみやく 足尾山脈** 樺太山系に屬するものにして關東平原の北端、利根、鬼奴、兩川の間に位し、北は大谷川中禪寺湖を隔て、日光諸火山と、西は渡瀬川を隔て、赤城山、二子山等と相對し、一個獨立の山麓を成す、山脊の最高主線は、古峯ヶ原、三峯、氷室、根本山にして、渡瀬川に沿ひ、北東に走る。

**あしおまち 足尾町** 下野國日光の西南七里、上都賀郡庚申山の南方にあり、有名なる足尾銅山は此地にあり、銅の産

額本邦第一にして毎年の産出額二百萬圓を下らずと云ふ、警察署、郵便電信局、小林區署あり。

**あしかがっこ**

**足利學校** 下野國足利町に舊蹟あり、天長年間小野篁の創建なりと云ひ、又足利義兼の建立なりとも云ひて、其創立年代詳ならず、永享年間上杉憲實再興し、宋より五經註疏を購ひ、古書若干部を藏して、文學を振興す、徳川時代特に學田を寄附して士民を教育せしむ、明治の初年國庫より保助金を下して之を保護したりしが、其後廢廢して、今は漸く僅少の書籍を保管するのみ、其聖廟には孔子の木像あり。

(山 銅 尾 足)



年間富士山噴火して此通路を塞ぎしより、別に箱根路を開きて通路となし、其後足柄をも藪に復し、二路共に行はれたり、足柄の古關は今の北足柄村大字矢倉澤に在りしも今は其跡不詳なり、其西の峻嶺は則ち足柄峠にして「あしがらの關の山路を行く人は知るも知らぬも疎からぬかな」(後撰集)の歌を初め此地につき詠せる古歌多し。

**あしづりさき 蹠跣岬** (足摺崎) 土佐國幡多郡の南端にあり、海中に突出する二里許、岬上山脈連亘し、著明なる丹頂山あり高さ一四八〇尺、此地其字音により一に佐田岬とも呼ぶ、此處に足摺山金剛禰寺あり、弘仁年間弘法大師の開創と稱し、中世以降頗る隆盛を極む、今は四國巡拜三十八番の札所たり。

**あしたかやま 愛鷹山** (鷹鷹山) 駿河國駿東郡の西部、富士山の南方に跨立す、高さ三千九百餘尺、山麓に牛馬飼養場あり、徳川幕政時代には牧馬場として有名の地なり。

**あしこの蘆湖** 富士八湖の一にして箱根山中にあり、一に箱根湖とも云ふ、周囲四里三十町、深さ四十六仞、其水溢流して早川となり東流五里小田原町の西に至りて海に入る、湖中堂島あり、箱根離宮は其湖畔にありて、元箱根町之に接す、湖中遊き富士の美觀を以て名あり。

**あすか 飛鳥** 大和國高市郡飛鳥村大字飛鳥の地にして、尤

**あしかがじょうし 足利城址** 下野國足利町西北の山上にあり、天喜年間足利成行の築く所にして、後足利義隆の有となり、子孫世襲して尊氏に至り、遂に此地より興つて天下を風靡せしは史上に有名なる所とす、後世長尾氏此地を領有せしが、徳川氏天下を一統するに及び先づ土井氏を封じ、次で戸田氏を移して其領主たらしめ、子孫相傳へて明治維新に至り遂に廢城となる。

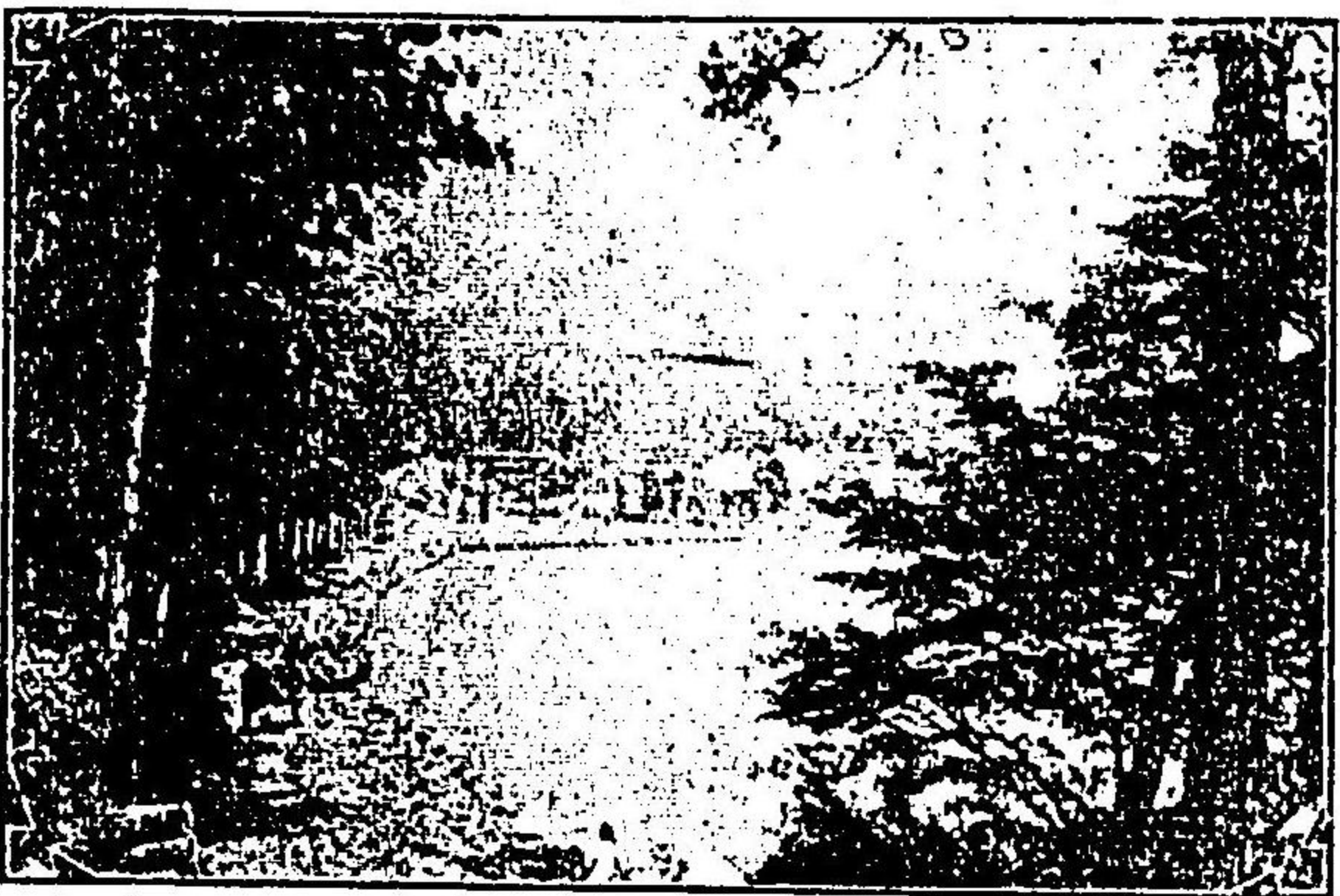
**あしかがまち 足利町** 下野國宇都宮市の西南十五里二十町、足利郡の南端渡瀬川の北岸に位す、小山前橋間鐵道停車場あり、郡役所、警察署、郵便電信局、區裁判所出張所、税務署等あり、戸田氏の舊藩地にして、足利氏苗字の地たり、當地は有名なる機械業の中心地にして、足利組の名は殊に有名なり、足利學校、鐵阿寺等の名所あり。

**あじかさわまち 鯨澤町** 陸奥國四津輕郡の中央海岸にある名邑にして、青森市の西方十四里二十三町にあり、郡役所、警察署、郵便電信局、區裁判所、税務署、小林區署等あり、此地維新前迄は、大坂、越後等より來れる船舶の碇泊港として頗る繁盛の地たりしが、縣廳を青森に置かれてより大に衰微せり。

**あしがらやま 足柄山** 相模國足柄上郡にあり、駿河國駿東郡に亘り、箱根山に連る、往古は此處に關所を設けしが延暦

あすか

恭天皇の遠飛鳥宮及顯宗天皇の近飛鳥入鈞宮を初め、推古天皇以下持統天皇に至る迄、數代の皇居遺跡の地として名あり、又元明天皇の「飛」とりの明日香の里をおきていなば、君があたりは見えずもあるらん」(新古今集)及田原天皇の「たをやめの



(湖の蘆)

猶吹きかへすあすか風、都を遠みいたづらに吹く」(續古今集)等を初め、此地につきて詠める歌多し。

あすかは、飛鳥川 大和國にあり、高市郡稻瀨山及多武峰の二所に發す、高市村にて二水合流し、北葛城郡に入りて初瀨川に合す「飛鳥川七瀨の淀にすむ鳥も、心あればこそ波

あすは

たたらめ」(萬葉集)「あすか川瀨は瀨となる世なりとも、思ひそめては人は忘れじ」(古今集)等の古歌多し。

あすかやまこ一えん 飛鳥山公園 東京市の北方、武藏國北豊島郡王子村の四箇丘上にあり、道灌山に接し、瀨の川に連なる、もと元享年間豊島左衛門、飛鳥洞を遷す、故を以て山名となす、元文中幕府此地に櫻樹を植う、明治十四年、地城一萬三千五百二十坪を限りて公園となす、花時遊觀者頗る多し。

あすかまち 足助町 三河國東加茂郡にあり、岡崎の東北七里十六町、足助川の北岸に位す、郡役所、警察署、郵便電信局、區裁判所出張所等あり、此地は元弘の忠臣足助重範の故郷にして、又元龜二年武田信玄、鈴木越中の古戰場たり。

あすかは、足羽川 越前國にあり、源を同國今立郡及美濃の國境より發し、西北に流れて數多の小流を合し、福井市を貫き、日野川と合し、安居川となりて海に入る、流域二十五里、一に福井川、淺水川と云ふ。

あすはやま 足羽山 越前國福井市の南方にあり、南北朝時代足羽城のありし處にして、山麓に足羽神社あり、山高からずと雖も、四方眼界を遮る者なく、風景頗る佳にして、殊に櫻花の頃來遊する者多し。

あすはじんじや 足羽神社 福井市宇足羽上町、足羽山の半

腹にあり、縣社にして、男大迹皇子(即位の後、繼體天皇と稱し奉る)を祭り、生井神、福井神、阿須波神、波比岐神を祀祀す、鎌倉幕府の頃には四千石の社領を有せしが、天正の兵亂以後頗る荒蕪して徳川幕府の末に至り僅かに其復舊を見るに至りしも、全く昔時の壯觀を失ふに至れり。

あそさん 阿蘇山

肥後國阿蘇郡の東部にあり、有名なる活火山にして、頂上常に硫煙を吐出す、其最高峯を高岳と稱す、高さ五千百尺、支脈東にのびて根子岳となる、御嶽、往生嶽、檜尾岳を合せて阿蘇の五岳と稱す、此等は悉く古代の外輪山と

(山 蘇 阿)



あすか

す、舊噴火口は長徑七里、短徑四里、蓋し全世界稀に見る所の者たり、山中、温泉多し、垂玉、地獄、枹の本、湯の谷等尤も著はる。

あそじんじや 阿蘇神社 官幣中社、肥後國阿蘇郡宮地村にあり、孝養天皇九年の創建にして、併磐龍命を祀る、一に阿蘇宮とも云ふ、古書に崇宗神宮に作り、延喜式に阿蘇郡健甕龍命神社に作る、毎年七月廿八日に行はるる大祭を田植祭と稱して、甚だ賑へり、健甕龍命は神八井耳命の子にして、阿蘇大宮司家の祖とす、子孫連綿として永く九州の地にあり、其強盛四隣の諸族に冠たりしが、天正の末年奇禍にかかり、一時衰微の域に沈淪せしも、再び其勢威を復して、現代に至り、華族に列せられ、男爵を賜ふ、阿蘇神社現今の社殿は天保十一年より三年間に成就せるものなり。

あそつむら 麻生津村 越前國足羽郡福井市の南方にあり、古へ淺水の地にして、此地名備馬樂等の古書に見えたり。

あたくまち 安宅町 加賀國能美郡小松町の西北一里許、安宅川口にあり、人口二千餘の小都會にして、郵便電信局あり、此地は昔時奥州官道として安宅の關のありたる地なるも關址今明かならず、有明なる辨慶勳進帳の論曲中に現はれたる安宅關は則ち此地につきて記述せるものなり。

あすか

あたご

あたご一えん 愛宕公園 東京市芝区愛宕山愛宕神社の境内を云ふ、山上には櫻樹を移植し、處々にベンチを設けて休息に供す、此地一帯の高地たるを以て、都下百萬の人家を一瞬に敵下し、盡くる處東京灣の風光を望む、蓋し都下第一の勝地と稱せらる。

あたごさん 愛宕山 山城國葛野郡の西、丹波の國境に望み、京都市の西北に位す、高さ二千八百尺、一に朝日峯、嵯峨山とも云ふ、山上に愛宕神社あり。

あたごじんじや 愛宕神社 山城國葛野郡愛宕山上にあり、伊弉册尊、火産靈尊、雷神、破死神を祀る、元佛者の勧請せし處にして、愛宕権現と稱し、朝日山白雲寺の境内に屬せしが、維新後神佛混合を禁せられ神社となる、火防の神として、遠近よりの参拜者多し、山麓嵯峨村より山路五十町と稱す。

あたたらさん 安達太郎山 (吾田太良山) 岩代國安達郡にあり、二本松町の西部に位す、依て二本松嶽の別稱あり、高さ四千七百餘尺。

あたがはら 安達原 岩代國安達郡二本松町の東、阿武隈川の對岸太平村にあり、平兼盛が詠める「みちのくの安達が原の黒塚に、鬼こもれりと云ふはまことか」との古歌と共に、有名な地にして、今は公園となり、衆人遊覽の地たり、公園の麓、岩石重疊し一見土窟の如き者を俗に黒塚と稱し、

瘧疾、眼疾、微毒等に効あり。

あたみまち 熱海町 伊豆國田方郡の東北海岸、日金山の麓にあり、三方山を繞らし、東南の一隅のみ海に面す、氣候極めて温和にして、夏涼冬暖、療病地として名あり、人車鐵道小田原より通す、離宮及警察分署、郵便電信局、區裁判所出張所等あり、此地有名な熱海温泉あるを以て、浴客充満頗る繁盛の地たり。

あぢかは 安治川 淀川の分流にして、大阪市中之島の西南より西南流して内海に入る、川口甚だ廣く大船の往來自由なるを以て、貿易商品の輸出入は多く此川を以てす、河口安治川驛あり、福島驛より汽車往來す、此河は貞享年中河村瑞賢の開墾せる所にして、獨り舟楫の便あるのみならず、淀川の溢溢を治めて、畿内諸國の水患を免除せること極めて大なりき、河口、瑞賢山あり、之れ本川開墾の際防波丘として築ける者にして、蓋し瑞賢が名をして千古不朽たらしむる者とす。

あつかしやま 厚樫山 (阿津賀志山、厚樫山) 岩代國伊達郡大木戸村にあり、一に國見嶺とも云ふ、古へ伊達の大木戸と稱せし地にして、文治五年源頼朝奥州征伐の時、藤原泰衡の將西木戸太郎國衡精兵を率ゐ、此地に城つきて激戦し大敗せし地なり、其殘遺遺墟今猶存す。

あたみ

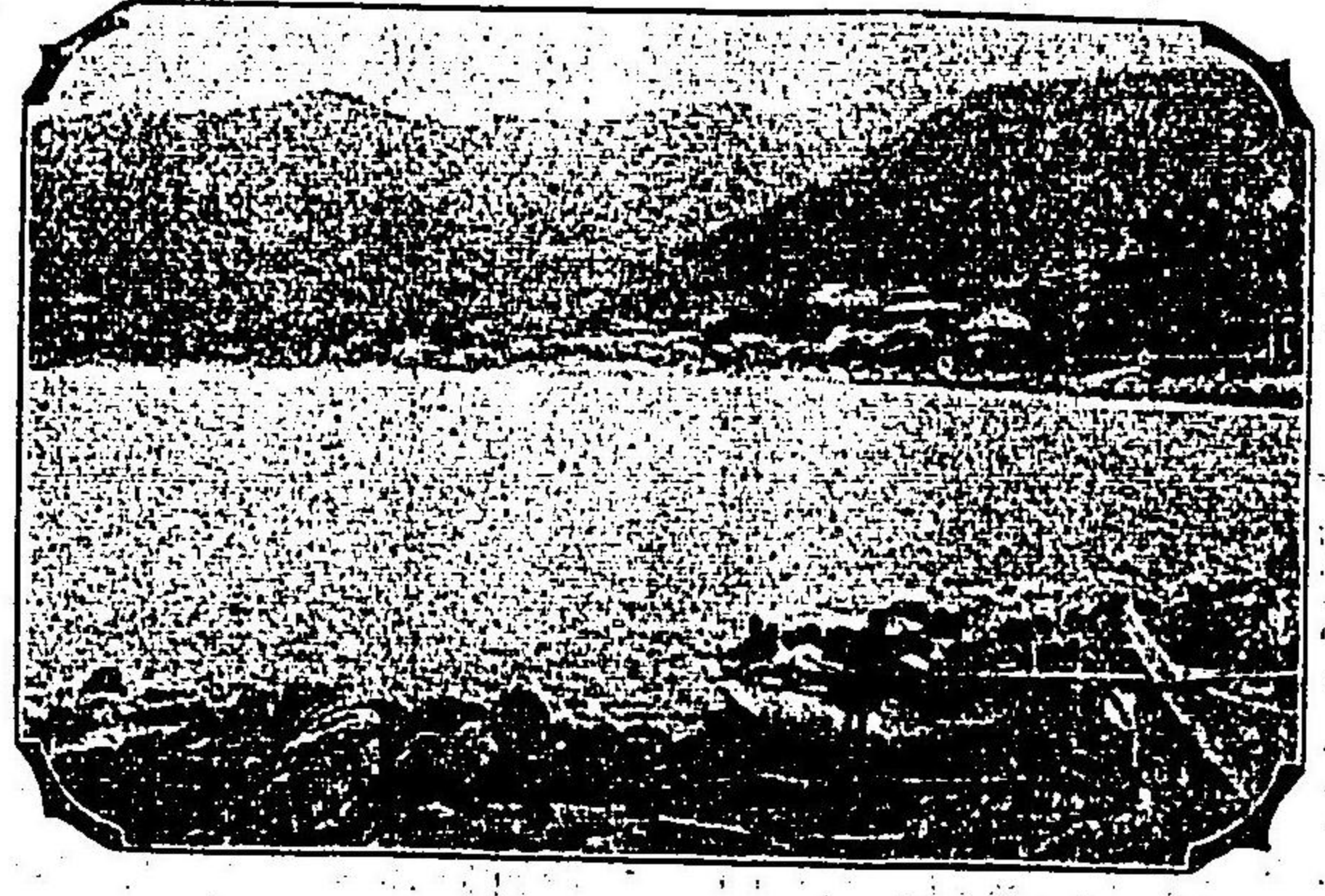
あたみ

昔時鬼の住める跡なりと言ひ傳ふとかや。

あたみおんせん 熱海温泉 伊豆國田方郡の東北海岸、熱海町にあり、

有名なる間歇泉にして、晝夜三回、時を定めて噴出す、湯戸二十戸皆寛を以て之を引く、大湯、河原湯、平左衛門湯、勘太郎湯等尤も有名なり、泉質大湯を除く外、大概大同少異にして、鹽氣及硫酸氣等を含む、中風、眼疾、腸胃病、脚氣等の諸病に効あり。

◎岩代國安達郡高川村大字高玉字熱海にあり、微温湯とも稱す、本宮驛を去る四三里、岩越鐵道に沿ひ車馬の便あり、泉質無色透明にして少しく硫酸氣を含む。



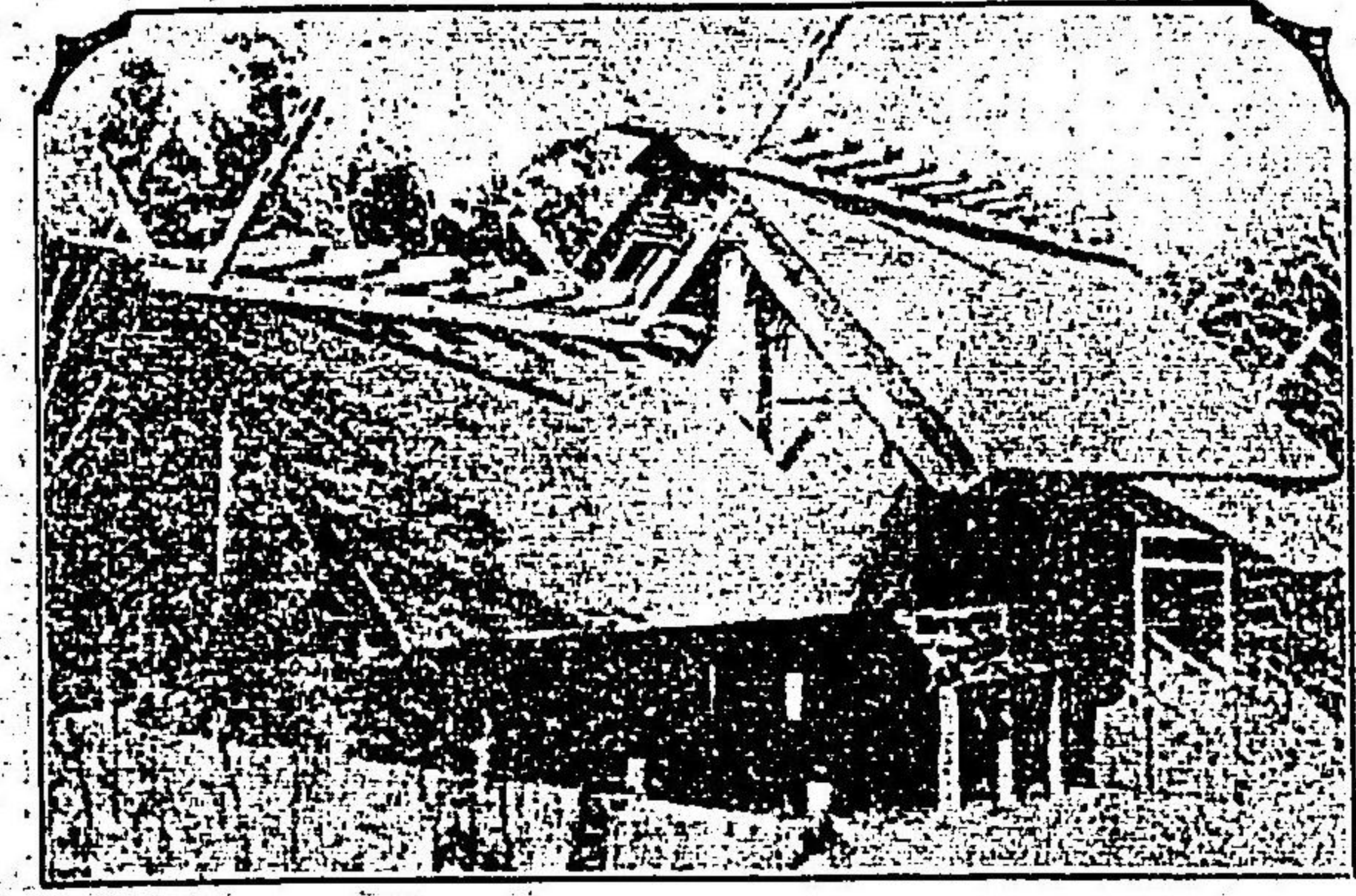
(泉 温 海 熱)

あつけしみなと 厚岸港 我國開港場の一にして、劍路國劍路町の東十四里厚岸灣口にあり、兩館を去る海路二百三十里、同國東海岸に於ける一要害にして、沿岸水産物集散地たり、警察分署、郵便電信局、學校、病院等あり。

あつけしわん 厚岸灣 劍路國厚岸郡の北方にあり、シレバ床譚の兩岬東西に斗出して灣口をなす、廣袤八里、灣口に大黒島あり。

あつたじんぐー 熱田神宮 尾張國愛知郡熱田町にあり、官幣大社にして、三種の神器の一なる草薙の寶劍を奉安せる處、社は景行天皇四十年の創建にして、日本武尊、天

(宮 神 田 熱)



あつた

照大神、素戔鳴尊、宮饗姫命を合祀す、社域極めて廣潤、神威自から高きを覺ゆ、今の社殿は明治廿六年の改造とす。

**あつたまち 熱田町** 尾張國愛知郡の西南海岸にあり、官幣大社熱田神宮の所在地にして、東海道鐵道此地に停車す、此地一に宮と稱し、東海道驛路の要津に衝り、名古屋市と街衢相接するを以て、市街極めて殷盛なり、郡役所、警察署、郵便電信局、稅務署、區裁判所出張所及銀行、諸會社等の盛大なる者多し、熱田港は其南にあり、東西十九町、南北十八町、水深三仞二尺、伊勢方面諸港との交通の衝にあたる、目下大工事を施し築港中なり、此地の魚市は古來有名なるものにして、其繁盛海道に冠たり、此地は永祿三年織田信長、今川義元の襲撃に備へん爲め、陣せし處、古くは景行天皇の朝日本武尊の暫し止り給ひし處、近傍に古墳あり、俗に白鳥陵と云ふ。

**あつちむら 安土村** 近江國蒲生郡の一村、天正四年織田信長此地の一小丘に城郭を構へ、七層の天主閣を起し規模宏大、人目を驚かすに足るものありしが、同十年信長の歿後、明智光秀の占領する所となり、次で明智左馬助光春の爲めに焼かれ灰燼に歸し遂に廢城となる、其城址今猶巖然として存す。

**あつま 東國** (吾妻國、吾嬬國) 相模國箱根關以東、相模、武藏、安房、上總、下總、常陸、上野、下野、磐城、岩代、陸前、陸

中、陸奥、羽前、羽後十五ヶ國の古稱なり、景行天皇の四十三年、日本武尊碓氷峠より東方を望み、橘姫を追想して「吾嬬はや」と嘆ぜられしこと古史に見えたり、東國を「アヅマ」と云ふは、これより起りしか。

**あつまばし 吾妻橋** 東京隅田川に架したる鐵橋にして、淺草區花川戸より、本所區に亘る、明治十九年起工し、二十年十二月に竣工せり、五大橋中第一の美觀たり。

**あつまやさん 四阿山** 出羽山系の餘波にして、信濃國小縣郡の東北、吾妻、島居兩山の中にあり、高さ八千九百餘尺、上野國吾妻郡に跨る、(あつまやまを見よ)。

**あつまやま 吾妻山** 岩代、羽前兩國に跨る高山にして、東吾妻山は本名を一切經山と云ひ、岩代國耶麻、信夫の二郡に跨り、高さ六千五百餘尺、明治二十六年破裂せし噴火山にして、火口は南麓宇硫黃谷にあり、絶えず水蒸氣を噴出す、時としては泥灰を降らすことあり、西吾妻山は同國耶麻郡、羽前國南置賜郡に跨る、高さ六千二百餘尺、中吾妻山は耶麻郡の西北方にあり。◎信濃國上高井、下高井の二郡及、上野國吾妻郡に跨る、その高七千七百餘尺、山頂は何方より見ても屋の棟の如し、故に四阿山とも書す、實に齊整せる圓錐形の舊火山なり、頂上に祠あり菊理姫命及び伊弉册尊を祀る、毎年六月十三日參詣登山者多し。

**あつみおんせん 温海温泉** 羽前國四田川郡温海村大字湯温海にあり、温海嶽の麓に位す、泉質硫酸泉にして無臭無味

金刺、打撲等に功あり、越後方面よりの來浴者多し。

**あつみはんご 渥美半島** 三河國の東南隅、渥美の一郡、豊橋町附近より、西方海中に突出する半島を云ふ、其西端を伊良湖崎とす、尾張國知田半島師崎と相對して三河灣口を扼す、地勢概して峻峻にして丘岡多し。

**あつみわん 渥美灣** 三河國の南海を云ふ、東に渥美半島西に知多半島突出し、相對して灣口をなす、灣内東部を渥美灣又表が浦と云ひ、西部を知多灣と云ふ、灣内白魚の産多し。

**あでらななき 阿寺七瀧** 三河國八名郡の東北隅、葛葉山の東北山中にあり、三輪川の上流にして一道の飛泉七折して落つ、故に此稱あり。

**あどさのぼり 跡左登** 劍路國の北隅スリ湖の東方にあり、其附近盛に梳篋を産出す。

**あにあいまち 阿仁合町** 羽後國北秋田郡の南方阿仁川の上流にあり、人口九千餘、郵便電信局、警察分署、小林區署等あり、此地に有名なる阿仁銅山あり、毎年の産額十萬貫以上に及ぶと云ふ。

**あにばわん Aniva灣** 樺太半島東部の最南端知床岬と、北海道の北端宗谷岬との海水を擁する一灣を云ふ、明治三十

八年我軍之を占領し、其後東伏見灣と改稱したれども、世人未だこの名を用ひず。

**あねがは 姉川** 近江國にあり、東淺井郡賀須山嶺に發し、南流して坂田郡に入り、草野川を合せ、琵琶湖に入る、流域十里餘、其沿岸大寄山龍鼻の地は元龜元年六月織田信長の諸將淺井長政の軍と戦ひ大に之を敗れるの地にして、今の淺井郡湯田村、坂田郡北郷里村の邊とす。

**あの一 賀名生** (穴生) 大和國吉野郡丹生川の末流にあり、菑と穴生と云ひしが、正平年中後村上天皇行在を此地に移し給ひてより今の名に改む、延元元年、後醍醐天皇、吉野より逃れて一時御營を此に駐め給ひ、次で正平三年後村上天皇亦此地に遷御せられ、其後文中二年後龜山天皇三たび此地に御幸ありてより、暫らく南朝皇居の地となる。

**あいつ 安濃津** 伊勢國津市の舊稱。

**あはしりこ 網走湖** 北見國常呂郡にあり、湖畔概ね平丘其水北に流れて網走港に注ぐ、東西一里南北三里、此地附近は本邦に於て雨量の尤も少き所とす。

**あはしりむら 網走村** 北見國網走郡網走川口にあり、網走港は東西五町、南北十一町、水深五仞乃至十二仞、函館を距る四百三哩、根室港へ百二十哩あり。

ふ、此邊鮭、鱒、昆布等の産多し。

**あびこせん 吾孫子線** 成田鐵道の支線にして、日本鐵道常磐線の吾孫子驛より、成田不動の所在地たる成田町に通じ、東北佐原に至る、延長三十七哩七鎖。

**あびこまち 我孫子町** 下總國東葛飾郡にあり、日本鐵道常磐線此地を通ず、成田鐵道への分岐點たり、警察分署、郵便電信局、區裁判所出張所等あり、附近に手賀沼あり。

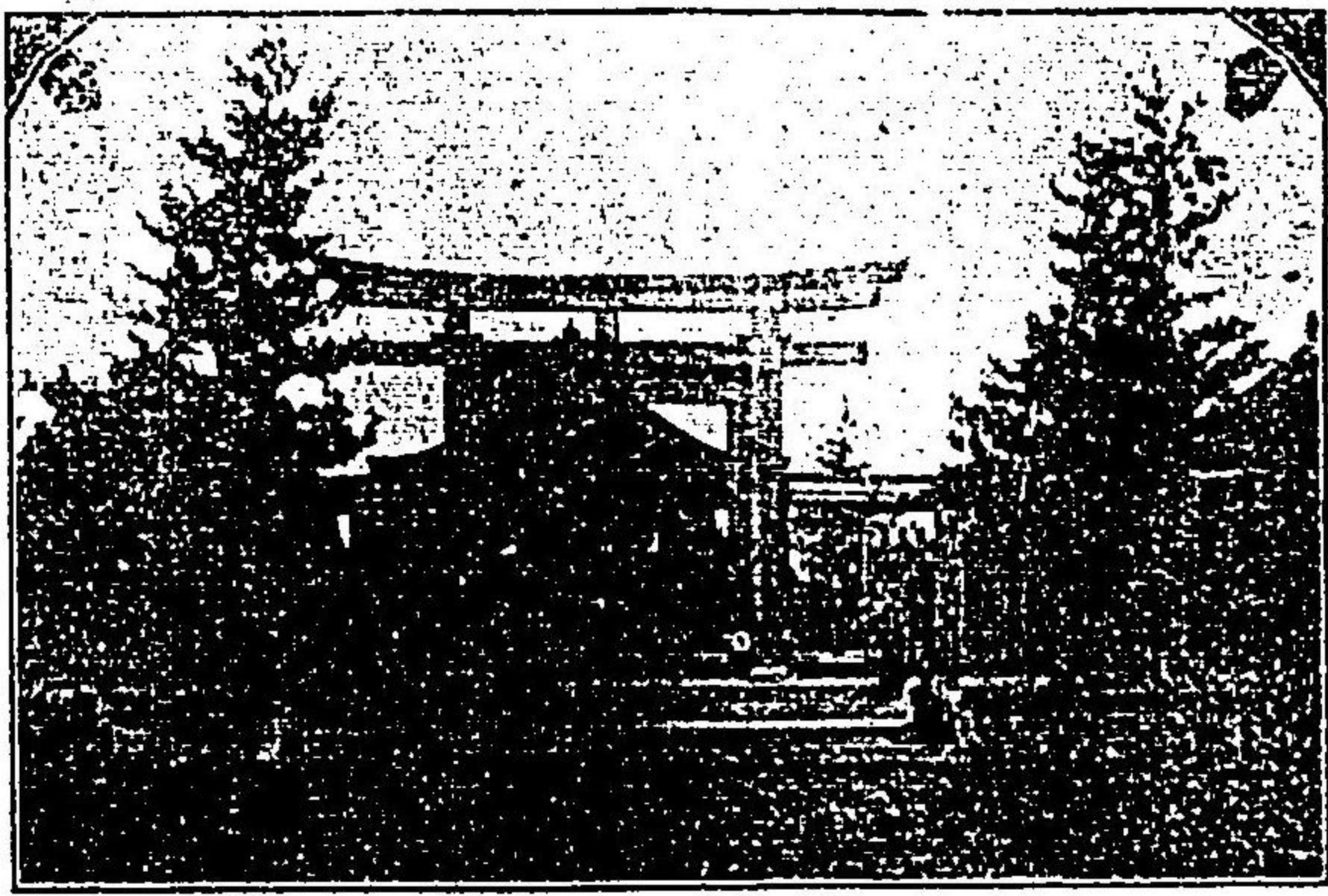
**あぶくまがは 阿武隈川** (逢隈川、大熊川、大隈川)一に阿久利川と云ふ、源を磐城國西白河郡甲子山麓大熊澤に發し、東北流して、須賀、高倉兩川を合せ、岩代に入りて安達、伊達、信夫三郡を通過し、更に磐城國伊具郡に入りて、白石川と合し、陸前の國境を東流して海に入る、流域五十八里、河口より三十五里十八町舟楫の便あり。

**あぶくまさんみく 阿武隈山脈** 樺太山系の一派にして、北上山脈の仙臺灣にて中絶したるもの、再び阿武隈川口の南に隆起し、屈曲して内地に入る、入道山、筑波山等は此脈中の高峯なり。

**あべかは 安倍川** (阿部川、安部川) 駿河國にあり、源を安倍郡の北部に發し、數多の小流を合して玉川村に至り、安倍川となりて南方に流れ、靜岡市の西方を過ぎて大里村に至り、海に入る、流域十六里余。

**あべの 阿部野**

(安部野) 攝津國東成郡天王寺以南住吉神社に至る一帯の砂丘の總稱、長三十六町幅十八町あり、延元三年五月北畠顯家、北軍の將高師直と此地に戦ひ大敗せることあり、其南東方二町許に大名塚と稱する者あり、里人北畠顯家の墓と稱し、來り吊ふ者今に多く、(然れども顯家戦死の地は、



(社 神 野 部 阿)

此地にあらず、泉州堺浦の附近石津原に於てなりとの證據あり、殊に其塚たる顯家時代の者としては頗る怪しむべき點ありと、其塚の近傍住吉村字岸野には、顯家父子の靈を祀れる別格官幣社阿部野神社あり、明治二十一年の創建なり、「あまくさじま」を見よ。

**あほしまち 網干町** 播磨國揖保郡揖保川口にあり、もと新在家、興濱、金子濱、大江島、濱山の五村合併して町制をしかれたる者にして本郡中有數の都會とす、郵便電信局、警察分署、區裁判所出張所等あり、此地の南端伊津浦は船舶碇繋所にして古は商船輻湊して殷盛を極めしも、揖保川より流下する土砂の爲め年々填充せられ、大に其交通の便を妨ぐ。

**あまがさじま 天草島** 肥後國天草灘中にあり、上下の二島に別つ、上島は東西五里十五町、南北四里五町、周囲三十七里四町、一に瀬戸上島と稱す、下島は上島の西方にありて、東西五里二十三町、南北八里二十二町、周囲七十里十一町、一に瀬戸の下島と稱す、同島の東南端なる本渡町に郡役所ありて、全群島を治む、此地寛永年間、島原とともに耶蘇一揆の起りし處にして、亂後幕府は全島の地を收めて直轄地とす、吏を宮岡町に置きて之を治めしめたり、(長崎代官の支離下にして二萬三千石の石高と稱す)。

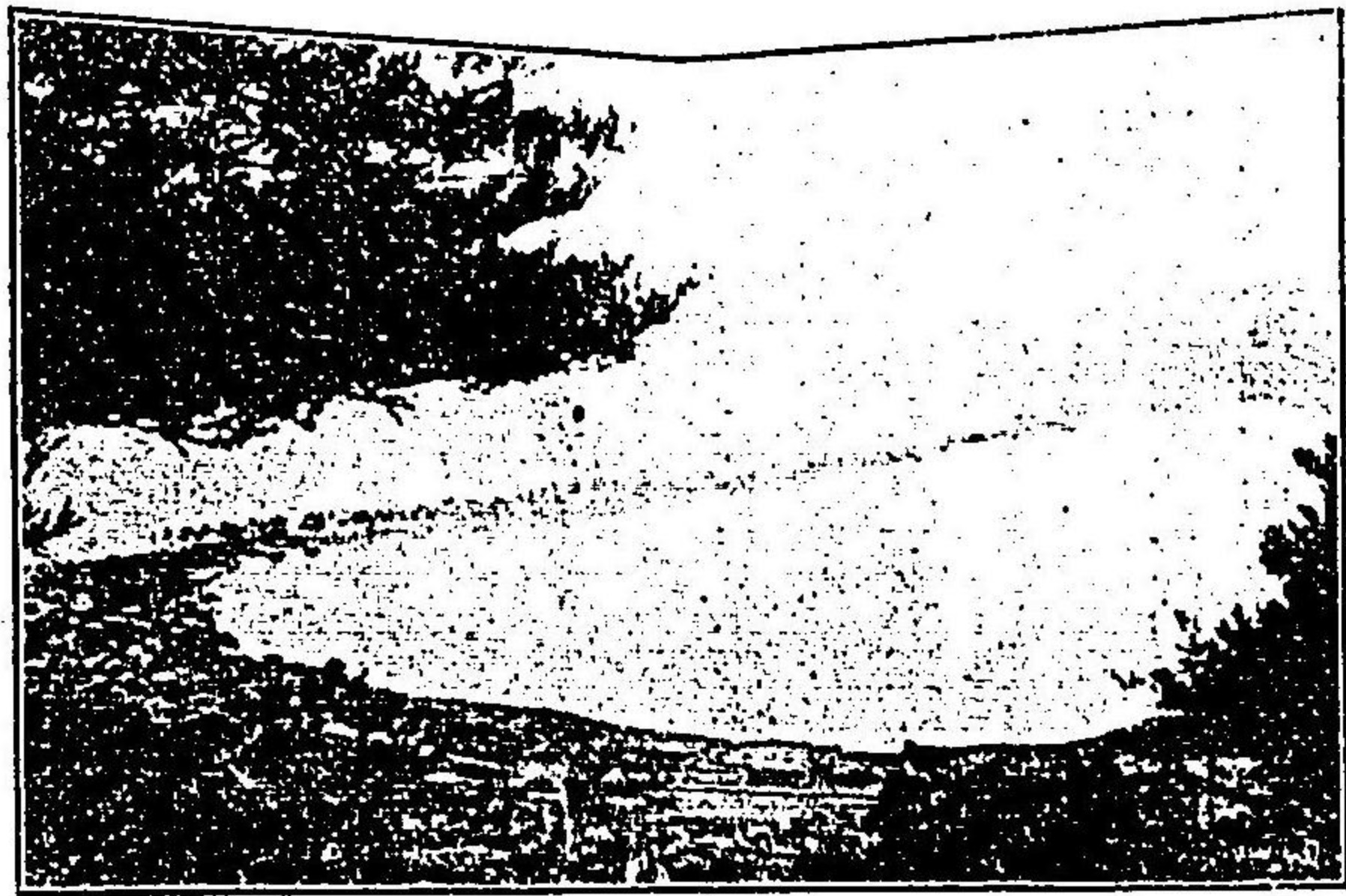
**あまがさなだ 天草灘** 肥後國の西方の海を云ふ、天草群島海中に散布す。

**あまのはしたて 天橋立** 日本三景の一にして、丹後國興謝郡宮津町の北方、宮津灣内にあり、沙洲一帯、海中に斗出すること二十七町四十間、青松其上に繁茂し、遠望長橋の觀あり、一に内外の瀆、白糸濱、萬代濱、日の岬、九世渡とも云ふ、源後頼が「浪立てる松の下枝を蜘蛛手にて、かすみ渡れる天の橋立」と詠せるは其真を寫せる者と稱せらる。

**あまのむら 天野村** 河内國南河内郡にあり、同村字天野山と稱す、山中樹林鬱蒼として天城山林の名、天下に高し。

に有名なる金剛寺あり、眞言宗に属す、聖武天皇の時僧行基の開基にして、後白河法皇の永萬年間の再興と稱す、正平八年、後村上天皇賀名生の地をのがれて此處に御遷幸あり、同十四年迄御駐蹕あらせらる、現存せる同寺内の食堂は皇居の遺跡なり。

(立橋の天)



あまはたがは 雨畑川

甲斐國南巨摩郡現島村の山中より發し、東北方に流れて、早川に合す、砂金及び硯材の産多し。

あまみぐんどー 奄美群島

大隅國の西南海中にある群島の總稱にして、同國大島郡の一部を爲す、大島、鬼界ヶ島、徳島、沖永良部、興論島及其他の小諸島より成る、風土大概琉

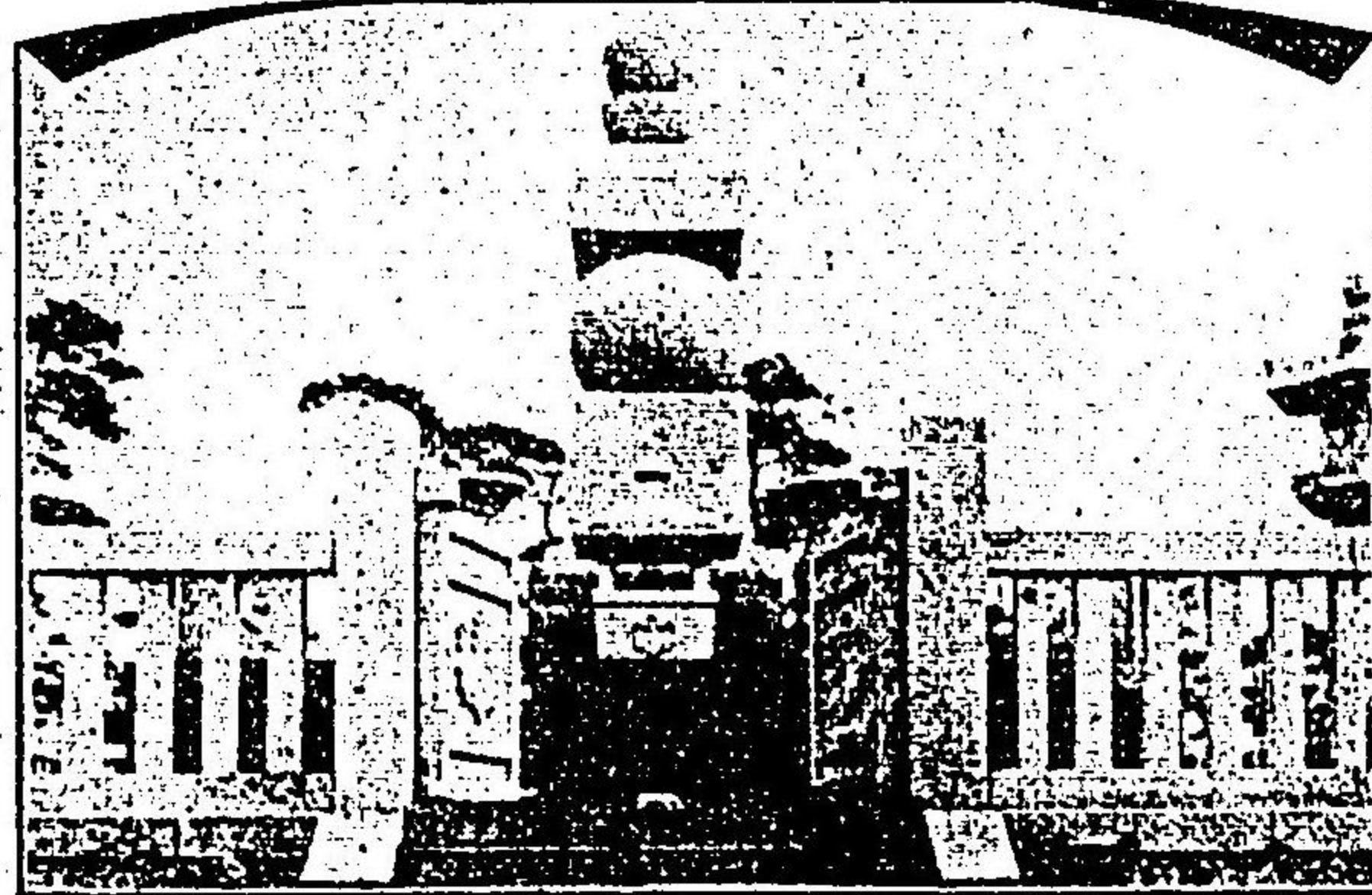
球に同じく、民俗亦敦樸、大島は即ち古の奄美の地にして琉球國所發祥の地と稱せらる、慶長年間より島津家の管内に歸し、明治維新後鹿児島縣に属す。

あみじま 網島

大阪市北區にあり、淀川、猫間川の合流する中間に突出する堤の東方一帯の總稱にして、此邊豪商紳士の別邸多し、西は淀川を隔てて造幣局に對し、南は舊大和川(猫間川)を以て大坂城と離る、北河内を横斷し山城國加茂驛に至る關西鐵道線路の發着點たる停車場あり。

あみだがいけ 阿彌陀池

大阪府西區北堀江町四丁目和光寺境内にあり、池は



(墓墳閣大豊)

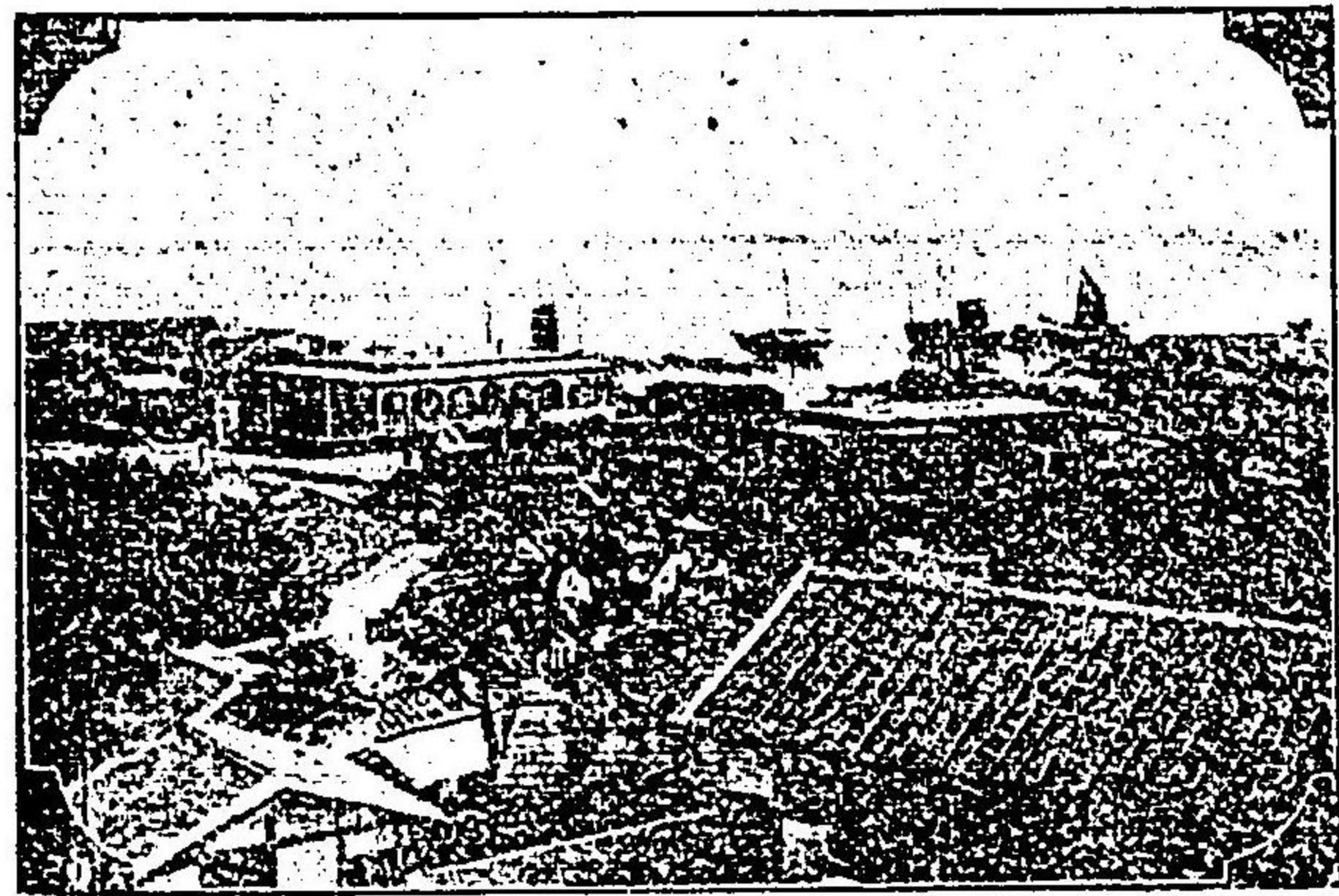
楕圓形の小池にして、蓮を生ず、古へ難波の堀江と稱し、彼の守屋大臣が、佛像を投じし處なりと云ひ傳ふ。

あみだがみね 阿彌陀峰

京都七條通の東方にあり、高さ四百尺、東山の二峯にして、頂上に豐太閤の墳墓あり、徳川時代には一時荒廢したりしも、明治廿一年公の三百年忌に當り、豊國會にて之を修繕し、大に祭典を営みたり。

あんじょーむら

安城村 三河國碧海郡にあり、東海道鐵道停車場、農事試験所支部及農林學校等あり、天文九年六月織田信秀、此地を占領して、其子信長を置きしが、同十八年今川義元の爲めに恢復せらる。



あんびん 安平 (Ameyama)

臺灣の臺南府の西南一里許にある一海港にして人口四千餘、税關、租稅検査所、警察署等あり、港は水深三仞乃至一仞なるを以て船舶は主に海岸を去る一里許の所に碇繋し、カタコランカと稱する一種の竹筏を以て往來す、此の如く交通不便なれども、東に臺南府ありを以て、百貨輻輳し、殊に南部の砂糖は皆此港より輸出せらる、港頭燈桿あり、燈光十里に達す、長崎へ八百七十哩、香港へ二百六十哩、廈門へ百三十哩。

あんよーじ 安養寺

伯耆國西伯郡五千石村大字福岡にあり、米子町の東南一里半許、後醍醐帝の皇女瓊子内親王の開基にして、境内に其御陵墓あり、當寺後醍醐天皇宸筆と稱せられし同天皇の御眞影を藏せしが、今は宮内省御用品となる、○京都市圓山にあり、傳教大師の開基にして、元天台宗なりしが、周阿上人時宗に改め、堂下に辨天社あり、圓山の辨天と稱して、子女の參詣者多し。

あんらくじ 安樂寺

京都市の東北方鹿ヶ谷にあり、淨土宗にして住蓮山と號す、法然上人の徒弟住蓮、安樂の二僧念佛執行の故跡なり、後鳥羽天皇の官女松虫、鈴虫二姫の尼となりし處として有名なり。

あんらくじゆいん 安樂壽院

眞言宗、山城國紀伊郡竹田村にあり、もと鳥羽上皇離宮の地なりしが、保安四年寺となし、遺勅によりて、御骨を葬りたりと云ふ、其附近に鳥羽、近衛の兩天皇の安樂壽院あり。

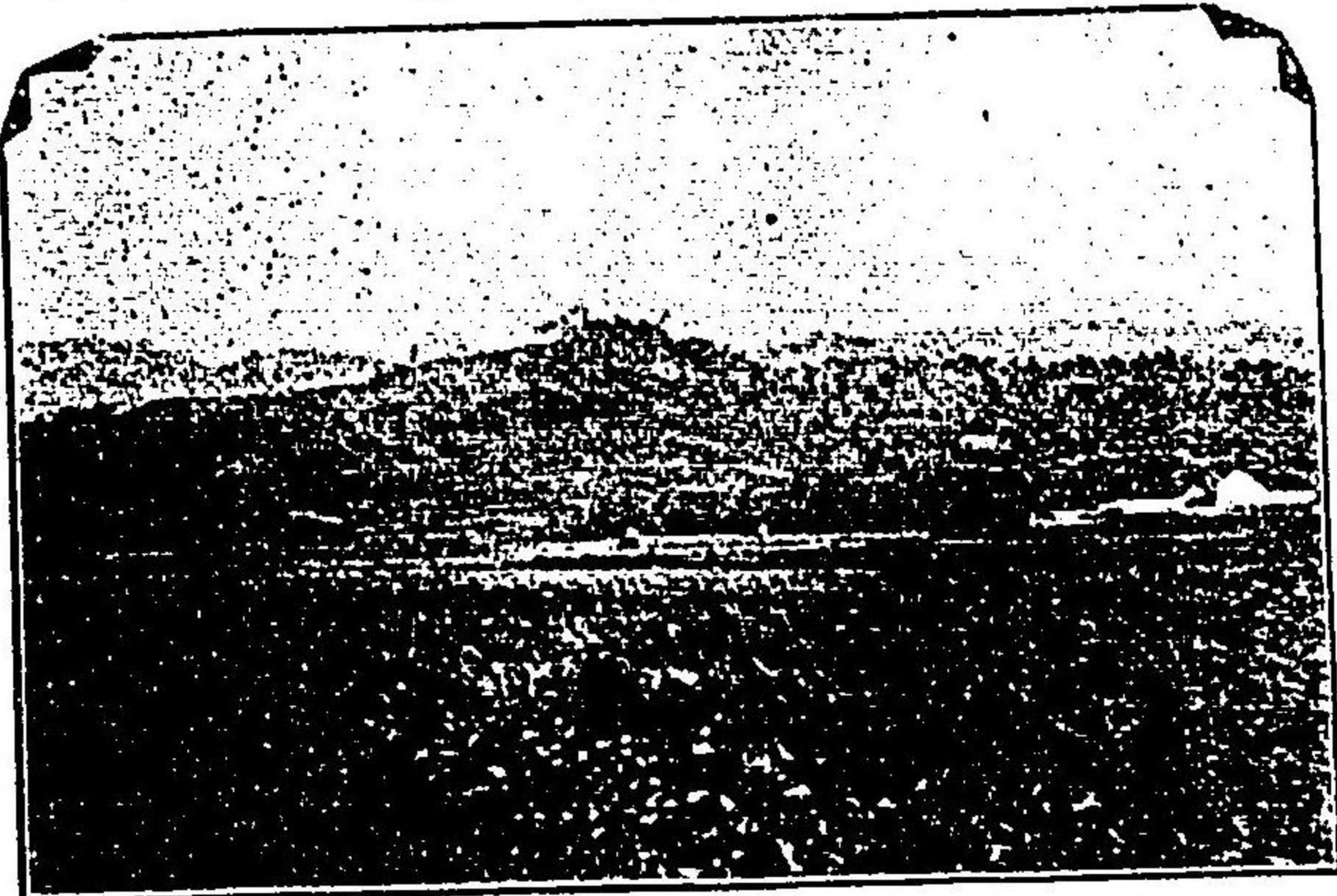
あんり

**あんり** **まち** **安立町** 攝津國東成郡にあり、古へ阿良禮と稱す、萬葉集に「あられ打阿良禮松原住の江の、おとひおとめと見れごあかぬかも」とある之れなり。

**あめのかぐやま** **天香具山** 大和三山の一にして、大和國磯城郡にあり、

高さ一千餘尺、  
山頂を天の指と  
云ふ、其麓に埴  
安池あり、古へ

(山久香の天)



等にして天香久山山中の土を採らしめたまへること古記

一に戸無瀬山とも云ふ、相傳ふ龜山天皇、吉野の花を移して此地に植え給ひたる者なりと、新千載集に「あらし山これも吉野やうつしこん、櫻にかかろ瀧の白絲」(後宇多院)と詠めるあり、山上、城址あり、永正年間管領細川政元の家臣香四又六の據守せし所として知らる。

**あらしのせき** **愛發關** 大寶令制三關の一にして、今其所在を明にせざるも越前國敦賀郡愛發村大字山中邊にありたる者と思はる、古くは鈴鹿、不破と共に三關と稱して、北陸の要路を扼せしが、早くより廢れて、今は他の二關の如く、其名さへ知る者稀なり。

**あらしのせき** **愛發山** (有乳山、荒血山、荒乳山) 越前國敦賀郡にあり、近江國高島郡に亘る、文武天皇の大寶元年愛發關を設けられし舊址地たり、此地萬葉集以來の名所にして、同集に「八田乃野之淺茅色付有乳山峰之沫雪寒客良之」とある有乳は即ち此地にして其他歴代の勅撰集及諸家の家集に多く現はる。

**あらしのせき** **荒津山** 筑前國福岡市の西北、舊城附近にあり、もと沿海の一小島たりしが、今は陸地につづきて風景明媚、當市の公園地たり、山上荒津神社あり、四時遊覽の客多し。

**ありわけのらみ** **有明海** 肥前國島原半島と天草とに由り

あらし

あらし

に見ゆ。

**あやしなまち** **綾部町** 丹波國何鹿郡にあり、福知山町の東方三里半に位す、九鬼氏二萬石の舊城下にして、人口四千五百餘、郡役所、警察署、郵便電信局、區裁判所出張所、稅務署あり、綿、繭、生糸等の産多し。

**あらしのせき** **荒井關** 徳川時代に於ける東海道の一關にして、今遠江國濱名郡濱新居町に其關址を存す。

**あらかは** **荒川** 源を武藏國秩父郡西南の山中に發し、諸水を合して、大里郡に入り、元荒川を分派し、東南に走りて、入間川を合せ、武藏の平野に灌し、足立、入間の兩郡界を縫ひ、北豊島郡に入り、東京市の北部に至り、隅田川、大川等の名を得、海に注ぐ、下流東岸一里餘櫻樹を植う、所謂櫻堤の櫻にし陽春の候都下人士の杖を引く者多し。

**あらしかむら** **荒鹿村** 紀伊國南牟婁郡木ノ本町の東北にあり、此地、神武天皇東征の時、丹敷戸峠を誅したる荒坂津の趾なりと云ふ、又伊弉册尊の御陵と稱する有馬の花冠も亦此近傍にあり。

**あらしなま** **嵐山** 山城國葛野郡愛宕山の東南、大井川の南岸にあり、滿山森蔚、櫻樹多く、吉野山の櫻と共に、木那櫻花の名所たり、又紅葉多く、納涼、觀雪に宜しく、四時好景盡くることなし、近傍又千鳥ヶ淵、渡月橋、戸無瀬川等の勝あり、

て限らるる内海の總稱にして、所謂筑紫道の一部をなす、海淺くして良港に乏し、夏月暗夜、波上に熾火の發するを見る、此れ有名なる不知火にして、俗に千燈籠と稱す。

**ありわけのらみ** **有明山** (有暗山、有明峯) 信濃國北安曇郡の西部にあり、信濃富士と稱す、有明村より登路五里、山頂に小祀あり有明神社といふ。

**ありわけのらみ** **有明海** 大隅國の東南にあり、日向の都井崎と當國の大崎と相對して灣口をなす、灣内志布志、柏原、内の浦等の諸港あり、灣内浪荒く船舶の碇泊に便ならず。

**ありたまち** **有田町** 肥前國西松浦郡にあり、九州鐵道伊萬里支線の分岐點たり、人口六千餘郡郵便電信局、警察分署等あり、此地陶器有田焼の産地として有名なり、(征韓の役鍋島直茂彼地の陶工を伴ひ歸り、之をして陶窯を開かしめしに初まると云ふ、其實堅緻にして頗る良好なり。

**ありたがは** **有田川** 紀伊國にあり、源を伊都郡高野山に發し、數多の溪流を合して、西流有田郡に入り、有田港に注ぐ、此川の沿岸山地は蜜柑の産地として有名なり。

**ありまおんせん** **有馬温泉** 攝津國有馬郡有馬町にあり、此地近く京畿の間にあり、其涌出盛にして効驗亦著しきを以て其名早くより著はる、泉質鹽類泉にして多量の鹽化分を含む、鹹味あり、防腐、鮮菜、催下、制酸等に功あり、旅舎多

あらし

し、中にも奥之坊、二階坊、池之坊、御所坊、中之坊等は舊温泉寺宿坊の名残として今猶存す。

**ありまづまち 有松町** 尾張國知多郡にあり、鳴海町に隣る。此地鳴海と共に有松紋りの産地として名あり、有名なる桶狭間の大戦場は此地の南一町許にあり。

**ありまむら 有馬**

村 ●肥前國高來郡有家驛の西二里許にあり、東南海に臨み、南北兩村に分る、中世有馬氏此地に據り、勢威四隣にふるひしが、慶長十五年有馬晴信阿瑪港船を焼き、幕府の鹽貨する所となり、國除かれ、是より終に振はず、寛永年



(花の窟)

間天草の亂起るや、此地の住民耶蘇教を信する者多く、四隣相應じて亂を企てしを以て幕府の爲めに嚴酷なる處置に附せられ亂後大に衰微せり、●肥前國南牟婁郡木の本町の南一里許にあり、今井戸と合して有井村と云ふ、此地の北に花窟と稱する地あり、里俗、伊弉册尊を葬り奉りし所と稱す、高さ百七十尺、幅百八十尺許の巨巖よりなる、毎年五色の菊花を注連繩に挿み、之を巖上に飾る、故に花窟と稱すと、●有馬町攝津國有馬郡武庫山の西北にあり、古へは湯山町と稱す、海拔一千百尺の高地に位す、山中の僻邑なるも有名なる有馬温泉の所在地なるを以て、市況甚賑へり、警察署、郵便局等あり、物産は陶器、竹細工、染手拭、筆等名あり、神戸を距ること五里、住吉停車場より三里餘。

**ありまやま 有馬山** (有間山) 攝津國有馬郡にあり、一に鹽原山と稱す、古來和歌の名所たり、「しなか鳥居名野をゆけば有馬山、夕ぎり立ちぬ宿はなくして」(萬葉集)、「津の國の武庫の奥なるありまやま、有とも見えす雲のたな引」(新千載集)等何れも有名なるものとす。

**あわ 阿波國** 南海道六國の一にして、西は土佐、伊豫の兩國に界し、北讃岐に接し、東南二方は海に面す、國の西南部に劍山の高峯あり、其脉延きて西北部より北部國境に至る、吉野川は土佐より來りて、國の北部を東流す、其流域地

**あわじんじや 安房神社**

安房國安房郡の南端神戶村大字大神宮にあり、齋部氏の徒、其祖太玉命を祀りたる靈場にして、神武天皇の即位元年の創建と稱す、今は官幣大社に列せらる。

(社 神 房 安)



**あわだむら 栗田村**

山城國愛宕郡如意ヶ岳の四麓、加茂川の東方にあり、有名なる栗田背遊院御坊のある處にして、古へは皇室の歸依處からず、屢々行幸ありし處なり。

**あわだぐちまち 栗田口町** 山城國京都市の町名、東國街道の要衝にして、京都の入口にあたるを以て此名あり、保元物語を初め其他の諸書に古くより其名著はる、鎌倉幕府の

味豊肥、五穀、百果、藍、煙草等の産出多し、國を別ちて名東、勝浦、那賀、麻植、海部、名四、板野、阿波、美馬、三好の十郡となし、徳島縣の管下に屬す、此國古は粟國として知られ、忌部、海部の兩族栖息せり、壽永年間、土豪田口成能平家に屬し州守に任せられ、鎌倉幕府の時佐々本經高富國の守護に補せられ、正治二年小笠原長經之に代る、南北朝の頃細川氏果世此地に據り四隣を服せしが、天文年中三好氏の爲めに奪はれ、天正六年長曾我部元親の爲めに滅ぼさる、同十六年豊臣秀吉南征して元親を破り、蜂須賀家政を封す、關ヶ原の役家政東軍に屬し、功を以て淡路を加封し合せて二十五萬七千餘石を食む、子孫永く封をつぎ明治維新に至る。

**あわ 安房國** 東海道十五國の一にして、上總の南方に斗出せる半島國なり、國中嶺多し、清澄、富山等の諸山、國の内外に横はり、平地は僅かに海岸地方に見るのみ、地味肥瘠相半し、重に海産物により現はる、此國古は淡に作る、元正天皇の朝上總四郡を割きて之を置く、足利氏の時里見氏此地に據り、次で二總の地を略し、其勢四隣に振ひしが、豊臣秀吉小田原征伐の際二總の地を削られ、次で徳川氏の代に及び國除かれ、酒井忠國、勝山に、稻葉正明、館山に、平岡道弘、船方に封ぜられ以て王政維新に至る、廢藩後一時木更津縣に屬せしが、今は千葉縣管下に隸す。



あわた

頃、有名なる刀工藤原吉光、此地に出で其技の絶倫を以て稱せられ、世に粟田口鍛冶と稱す。

あわたのせいれんいん 粟田青蓮院 「せいれんいん」を見よ。

あわたやま 粟田山 今山城國宇治郡山科村に屬す、京都市洛東如意ヶ岳日岡峠より華頂山迄の總名ならん、喜撰法師が「粟田山越ゆともこゆと思へども、尙あふ坂ははるけかりけり」(六帖)及慈鎮和尚の「見るまに煙のみ立つ粟田山、晴れぬかなしき世をいかにせん」(拾玉集)等は此地につきて詠める歌として名ある者なり。

あわぢ 淡路國 瀬戸内海にあり、東方由良海峡を隔てて紀伊に接し、鳴門海峡を隔てて阿波に對し、北は明石海峡を隔てて播磨に面す、面積三十七方里、分て津名、三原の二郡となし、兵庫縣に屬す、地勢島内丘陵起伏し、平地少なしと雖、地味自ら肥沃にして、米穀の産出多し、沿岸に由良、州本、福良、岩屋等の諸港あり、共に繁榮なる名邑なり、物産は伊賀野焼を第一となし、五穀、生糸、製糸等多し、古くは粟路、阿波路に作る、蓋し阿波に渡る海路に當るを以てなり、古書に穗狭別島、御食津國等の名あり、鎌倉幕府の時守護を置き、建武以後細川氏の領國となる、天文の末安宅冬康由良城に據りて全州を總へ、豊臣秀吉天下統一統の後仙石久秀、脇坂安

あわぢ

治、加藤嘉明等交るゝ當國に封ぜられ、元和年間徳川氏の代となり、全國を擧げて蜂須賀氏に加封す、子孫世襲、其臣稲田氏を洲本に置きて城代とす、王政維新後名東縣に屬し、次で兵庫縣の管下となる。

あわぢしま 淡路島 「あわぢ」を見よ。

あわづがはら 粟津原 近江國大津より膳所を経て石山に至る湖邊を云ふ、近江八景の一にして、粟津の晴嵐、これなり、此地は壬申の亂の古戰場、及元暦元年木曾義仲、源範頼及義經の軍と戦ひ大敗し逃れて此地に至り遂に戦死せし地として有名なり、其附近に義仲寺及今井兼平の墓あり。

あわのなるこ 阿波鳴門 「なるとかいさよう」を見よ。

あわぶしま 粟生島 越後國岩船郡海府浦の四五里許の海上にあり、周圍三里十七町餘、一に粟島とも云ふ、中央に小柴山あり、餘脉全島に蔓延して海中に没す、故に近傍噴霧多く航海稍危險なり、近海海藻の産多し。

四時繁榮を極む。

いいたちま 飯田町 信濃國下伊那郡にあり、遠江、三河に通ずる要路たるを以て物貨輻湊し、市街稍殷盛なり、郡役所、警察署、郵便電信局、區裁判所、稅務署、測候所及中學校、高等女學校等あり、此地脇坂安元の舊城下たりしが、後堀親昌の有となり子孫世襲して明治維新に至る、城墟今猶存す、元結及陶器の産多し。

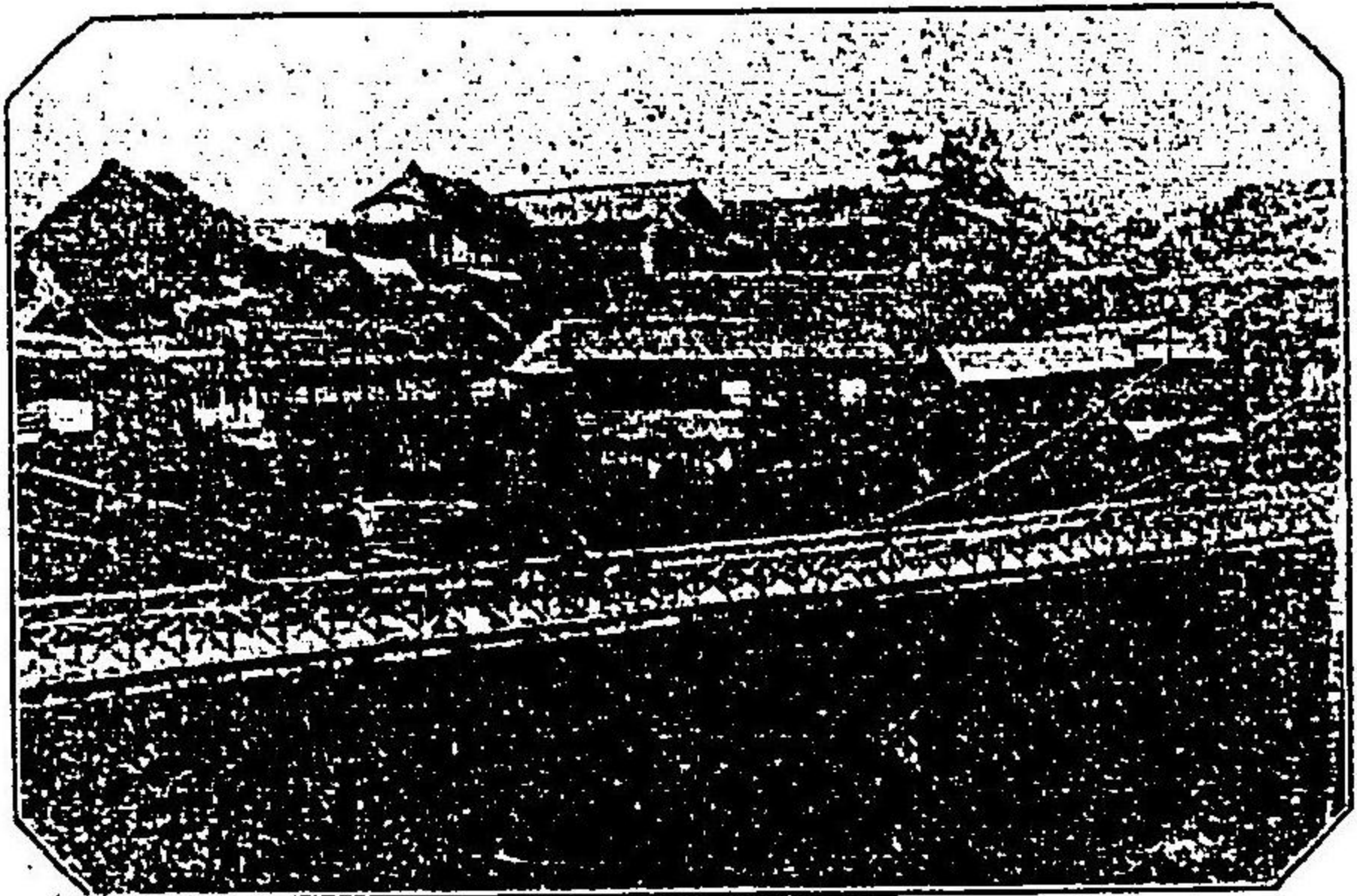
いづなさん 飯綱山 信濃國上水内郡戸隠山の東南にあり、長野市を距る北西二里半、高さ五千四百餘尺、山頂に飯綱神社の奥宮あり、延喜式内の皇足穗命神社是なり、天文、元龜の頃武田晴信大に之を尊信して若干の社領を寄附し且本宮を再築せしめたることあり。

いいでさん 飯豊山 羽前國の南境にあり、越後國北蒲原郡及岩代國耶麻郡に亘る、三國嶽、四嶽、御室山、地藏峯、帆差嶽等并立す、三國嶽其中央にありて尤も高し、高さ六千餘尺。

いののみや 井伊谷宮 官幣中社、遠江國引佐郡井伊谷村にあり、明治四年の建立にして宗良親王を祭る、親王は後醍醐天皇の皇子にして、専ら心を皇室の恢復に盡し、延元元年井伊道政等を従へ井伊谷城により、足利氏の軍を討ちしも戦利あらず、一たび逃れて吉野に赴き、後再び此地に歸つ

いさかまち 飯坂町 岩代國信夫郡にあり、福島を距る北

二里十町、摺上川を隔てて伊達郡湯野村に對す、同郡内風指の都會にして學校、警察署、郵便電信局等あり、有名なる飯坂温泉あり、泉質無色透明、痲痛、慢性痛風、關節病等に効あり、透達、波古、赤川金瀧、天王寺、鱒湖等の各處より涌出す、此地交通の便多く、山水の風致亦頗る佳なるを以て浴客常に多く、

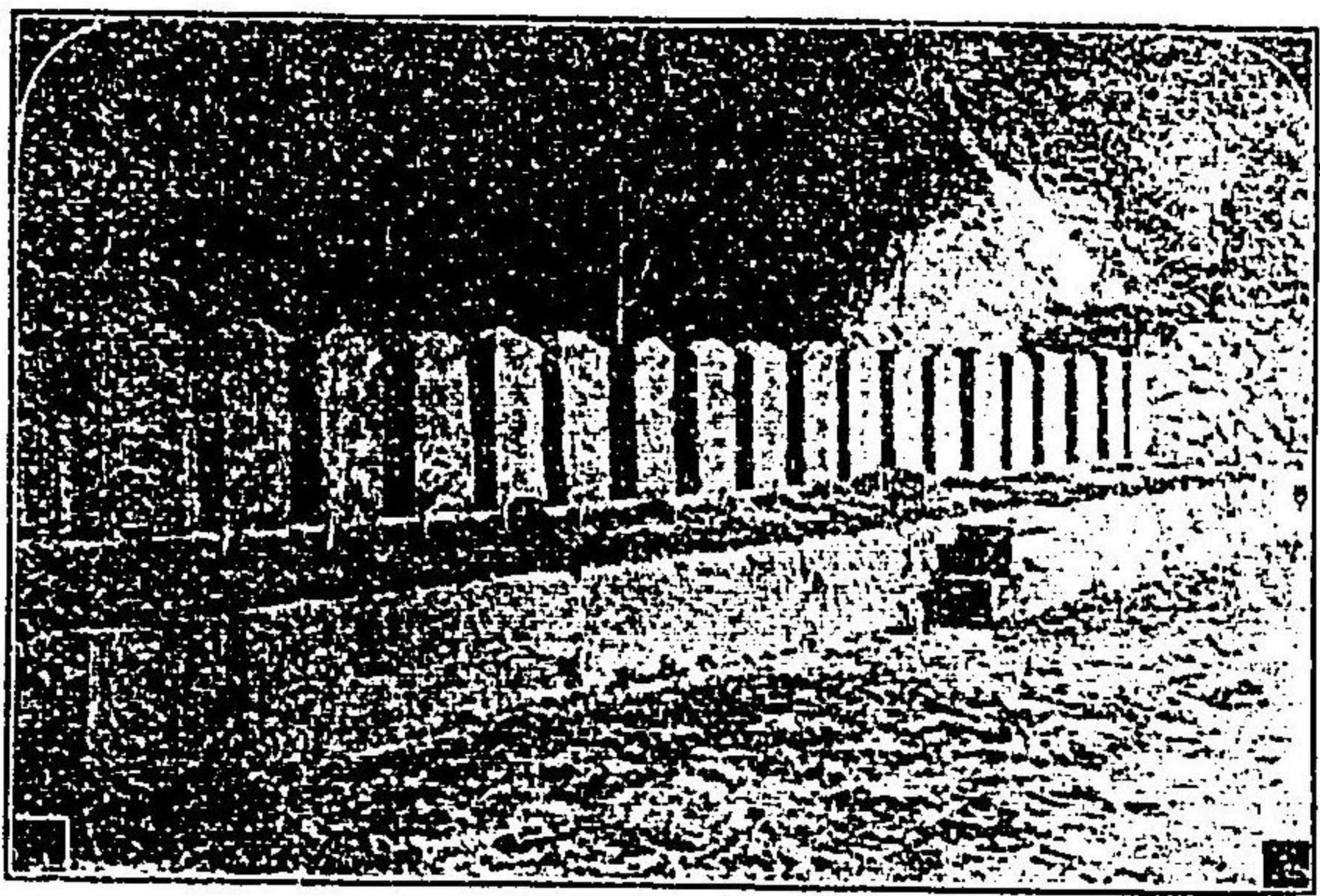


(橋綱十泉温坂飯)

て築す、御墓は神社の後ろにあり。  
**くいのちま 飯野山** 讃岐國綾歌郡の平原中に孤立せる圓錐形の息火山にして、讃岐富士、力山等の別稱あり、高さ一千四百餘尺、山上に薬師を祀る、坂出町又は丸龜市より登るを便とす。

**くいのちま 飯盛山** 河内國北河内郡四條村にあり、山頂古城址あり、建武元年、北條氏の餘黨此地に據る、楠正成攻めて之を陥る、元龜三年高田氏の將遊佐信教此地に據りしが織田信長の軍に擊破せられ、後廢城となる。◎岩代國若松市の東方

(飯盛山白虎隊の墓)



正三年長篠役の際、武田勝頼の陣地なり。

**いのが 伊賀國** 東海道十五國の一、東南伊勢大和の二國に隣り、西は山城大和に境し、北近江に接す、地勢山岳四圍に重疊して、只中央に僅少の平地あるのみ、伊賀、名張の兩川國中を貫流して山城に入りともに木津川に注ぐ、國を分て阿山、名賀二郡となし、三重縣に屬す、天武天皇の時伊勢を割きて置かれし國にして、國名は伊賀津姫之を領し賜ひしより起る、鎌倉幕府の時平賀惟義當國の守護となり、其弟朝雅子惟信相導て其職を襲ふ、南北朝の時足利氏の將仁木義長伊勢伊賀の守護となり、天正七年織田信雄此地を併せ、同十一年豊臣秀吉の將脇坂安治上野城を襲ひ之を取る、翌年簡井定次此地に封ぜられ、慶長十三年藤堂高虎、徳川氏の命を以て伊勢伊賀の兩國を兼れ治む、子孫世襲して、明治維新に至る。

**いかづちのおか 雷丘** 大和國高市郡飛鳥村にあり、昔時小子部栖輕、雄略帝の勅を奉じて雷を捕へし處なりと云ふ、萬葉集に「すめるぎは神にしませば天雲の、雷の上にいほりするかも」とあるは天武天皇嘗て此地に御遊行の際柿本人丸が詠み上げたる歌なりと、今此處に大國魂神社あり、俗に入王子と稱す。

**いかにが 雷山** 筑前國糸島郡にあり、肥前國に亘る、

にあり、維新の際白虎隊の少年戦死の地として有名なり。  
 ◎和泉國泉南郡深日村の東南にあり、同村より登り三十五町にして山嶺に達す、紀泉間の連峯の一たり、山頂廢寺址あり、飯盛寺と稱し彼の行者の開基と云ふ。

**いさやま 飯山町** 信濃國下水内郡にあり、千曲川の西岸に位し、北國要路の衝にあたり、千曲川の水利に藉りて越後の長岡方面との交通盛なり、郡役所、裁判所、警察署等あり、市街の東北端に飯山古城址あり、上杉景勝の築く所にして、徳川氏の世に至り本多氏累世の居城地たり。

**いおがしま 硫黄島** (青王ヶ島) 薩摩國南方の海中にあり、黒島の東十里に位す、周回三里、川邊郡に屬す、古來硫黄を産す、依て此名ありと、此地古くより知られ、就中僧俊寛流竄の地として其名尤も現はる。

**いおさん 硫黄山** 後志國岩内郡の東隅にあり、高さ三千六百餘尺。

**いおじ 醫王寺** 遠江國磐田郡御厨村字鎌田にあり、眞首宗新義派の中本寺にして、天平年間僧行基の創立と稱せらる。

**いおじま 伊王島** 肥前國西南方の海中、長崎市の西方にあり、周回一里十七町、燈臺あり不動白色光透十二瀬、  
**いおじやま 醫王寺山** 三河國南設樂郡長篠にあり、天

高さ二千八百餘尺、一に「カミナリヤマ」と稱し、又層々峻嶽とも稱す。有名なる神籠石此の山にあり。

**いかにが 伊香保町** 上野國前橋市の西北六里五町、群馬郡榛名山麓にあり、前橋、高崎兩市より途中澁川町まで馬車鐵道の設あり、同所より二里半人力車の便あり、此地山間に僻在するも有名なる伊香保温泉あるを以て浴客常に多く市街繁盛を極む、温泉は硫黄鐵氣を混す、頗る皮膚病に適す、此地早く文明、文藝の頃より知られ、明治の御代に及び其名愈々高く、終に温泉といへば先づ指を此地に屈せしむるに至れり。



(伊香保温泉)

**いかにが 班鳩寺** 播磨國揖保郡鶴村にあり、綱子停車

場より十五六町、元法相宗にして、大和の法隆寺に属せしが、弘治年間再興の後天台宗となる、伽藍の壯觀稀に見る處、附近聖德太子の古蹟多し。

**壹岐國** 四海道十一國の一にして、肥前の西北海中對馬の東南にあり、周圍三十五里餘、面積八方里餘、長崎縣の管下に屬し、一郡をなす、地勢、山岳起伏して平地少なしと雖、地味豊沃にして農産物多く、沿海又良港多く、鯨、鯔、鱒、鰯、海參、海藻等の産多し、此國肥前の北岸を距る十海裡餘にある孤島なるも、朝鮮航路に當るを以て古より其名著はる、鎌倉幕府の時少貳氏島事を管し、後志佐氏守護となり、次で波多氏に代る、永祿年間島民波多氏に叛き松浦氏に屬し、以て明治初年に至る、初め平戸縣に屬せしが、今長崎縣の管下となる。

**生國魂神社** 官幣大社、攝津國大坂市南區生玉町にあり、一に雄波大社と稱す、生島神、生國魂神、足國魂神を祀る、應仁天皇の朝の創建にして、もと玉造郡雄波村にありしを、慶長の頃豊臣氏之を城外に移して大に修繕を加ふ即ち今本社のある所とす、毎年七月二十八日を大祭日となす、此日ヤンシリと稱する屋台を出して奉納の踊あり。

**幾春別** (御春別) 石狩國空知郡の西部に

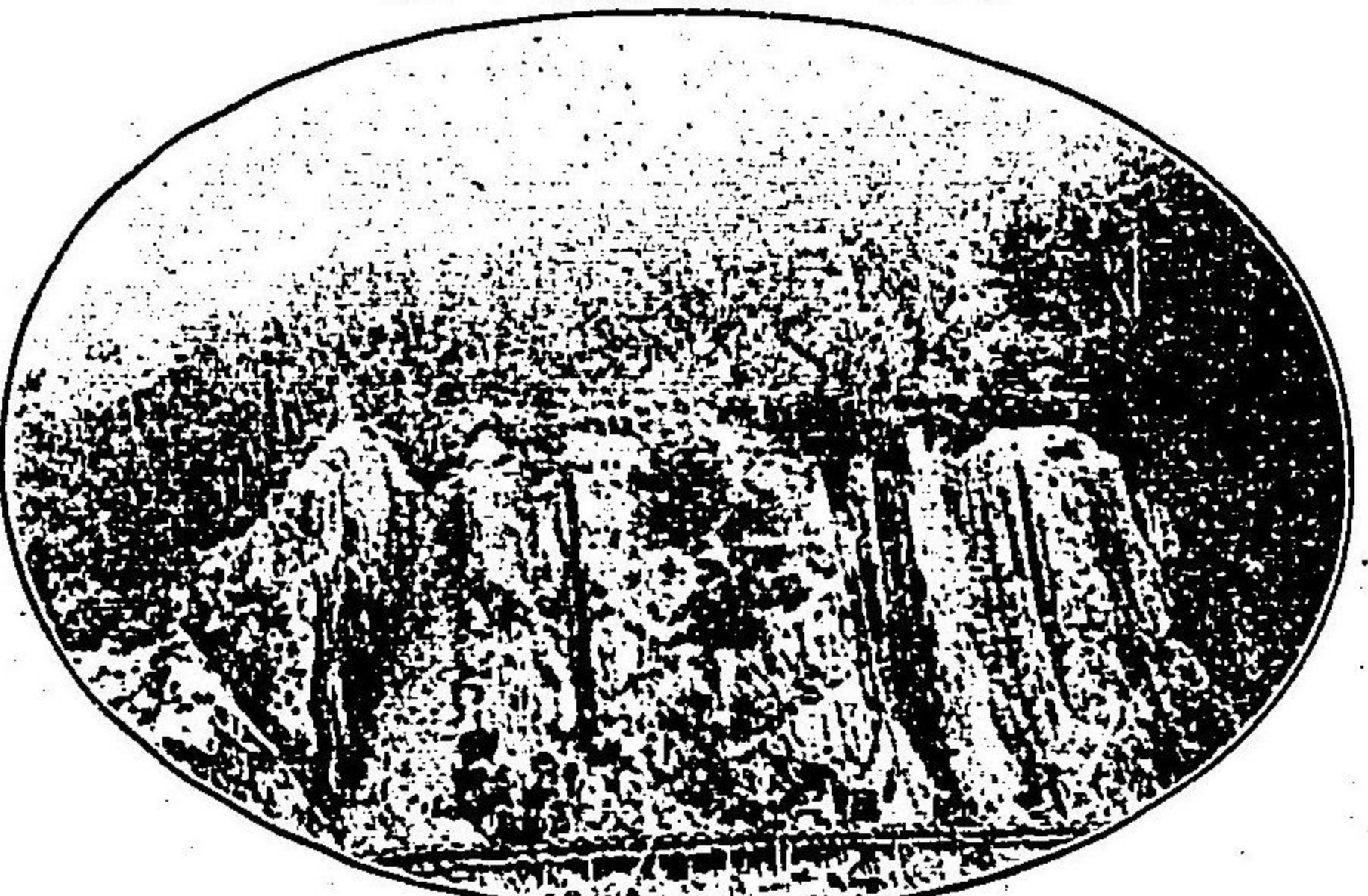
520

520

あり、有名なる炭坑のある處にして、炭礦鐵道岩見澤より分れて此地に通ず。

**生田神社** 官幣中社、攝津國神戸市下山手通りにあり、三宮停車場を去る四五町、稚日女尊を祀る、神功皇后凱旋の際、神託によりて之を奉祭せりと。

(泉の顯露炭石別春幾)



**生田森** 攝津國神戸市神戸神社の後方にあり、壽永年間源平の古戰場にして、一の谷城大手の木戸を股けし所、熊の梅、梶原井、敦盛萩等あり、此地に官幣中社生田神社あり。

**生地町** 越中國下新川郡にあり、人口五千餘、

郵便電信局あり。  
**生國玉比古神社** 能登國鹿島郡七尾町にあり、縣社にして大己貴命を祭り、素戔鳴尊、櫛稻田姫神を配祀す、孝元天皇の時の創建と稱す、建武以後武將國守の尊信篤く、もと七尾町の中央にありしを、天正十七年前田家築城の際、今の地に移せりと。

**生野** 但馬國朝來郡栗鹿山の西南にあり、海拔一千尺の高地に位す、播但鐵道播磨より來る、姫路驛より二十七哩、御料局支廳、郵便電信局、警察分署あり、此地は文久三年平野國臣の海兵せ



(所電發力動山銀野生)

し處、又有名なる銀山ありて、毎年十五萬貫以上の銀を産す、今は岩崎氏の有に歸す、此山の開始詳かならぬも延喜年間には已に採掘せるが如し、信長及秀吉時代には代官を置き、徳川氏に及び慶長三年始めて、代官を派遣せり。

**池田川** 攝津國にあり、一に猪名川とも云ふ、源を豊能郡丹波の國境に發し、小流を合して南流川邊郡を過ぎ、次で豊能郡に入り、池田町の西方を過ぎて、東南流神崎川に合す、流域十一里餘。

**池田の池** 薩摩の東南端播磨郡にあり、周圍四里二十九丁、當國第一の大湖たり。

**池田町** 攝津國豊能郡池田川(一名猪名川)の東岸にあり、大坂市の西北五里二十三町、坂鶴鐵道は伊丹より來りて西方生瀬に向ふ、此地池田河谷(多田院、能勢、細川等の諸村其中にあり)の隘路に當るを以て、貨物集散の地となり頗る繁榮を極む、殊に此地産出の酒は伊丹と相並んで美釀を以て名あり、郡役所、警察署、區裁判所、郵便電信局、中學校、稅務署等あり、此地元吳織、漢織の初て來着せし處にして、古くは吳服(かみもの)の里と稱す、附近元龜天正頃の古戰場多し、則ち文明元年大内政弘此地を圍み、天文二年細川晴

520

520

520

元此地に據り、永祿年間織田氏の兵此地を攻めて之を陥れ、後之を荒木村重に與ふ、城址、今、町の上方五月山に存す。

**いけだむら 池田村** 遠江國磐田郡天龍川の東方にあり、昔は池田宿と稱して、天龍川の西岸にありしと云ふ、平重衡捕へられて、鎌倉下向の時、長者が娘「東路のはにふの小屋のいぶせきに、ふるさとにかに戀しかるらん」と詠みしは、普く人の知る處なり。

**いけづきま 生月島** 肥前國平戸島の西北にあり、周圍六里二十六町、北松浦郡に屬す、一に生瀨島と稱す、近海捕鯨を以て名あり。

**いこまがは 生駒川** 大和國龍田川の別稱。

**いこまやま 生駒山** 大和國生駒郡にあり、河内國に亘る、奈良市の西方に屹立し高さ一千七百餘尺、山中三路あり、河内國芝村に出づるを辻子越と云ひ、牧岡に出づるを暗峠と云ひ、日下に出づるを菅根寺越と云ふ、古への孔舎衛坂は即ち此處なりと云ふ、「久かたの雲井に見えし生駒山、春はかすみふもとなりけり」(新勅撰集)の古歌を始め、其他此地につきて詠める名歌多し。

**いそなぎじんじや 伊弉諾神社** 官幣大社、淡路國津名郡多賀村にあり、伊弉諾神を祀る、一に多賀大明神とも云ふ、毎年四月二十二日大祭を行ふ、此地日本紀神代卷に「伊弉諾

尊、神功畢、靈運當選、是以擇幽宮於淡路之洲、寂然長隱者矣」とある幽宮の地と決定せられて、本社創立を見るに至れるなり。

**いぞわじよー 膽澤城** 陸中國膽澤郡水澤驛の北方、佐倉河村字八幡に其舊址あり、延暦二十一年坂上田村麿、鎮守府を多賀城より移せし時、築きたる處にして、弘仁三年城を廢して府を置き鎮守府と稱せり。

**いしおかまち 石岡町** 常陸國新治郡にあり、水戸市の南方八里、舊水戸藩支族の領地にして、もと府中と稱せり、陸羽濱街道の衝にあたり、今日本鐵道常磐

らしむ、是より朝野の名士續々、彼地に渡りて大に濫策經營する所あり、明治二年開拓使を置き、治を札幌に創りて今日に至る。



(町 岡 石)

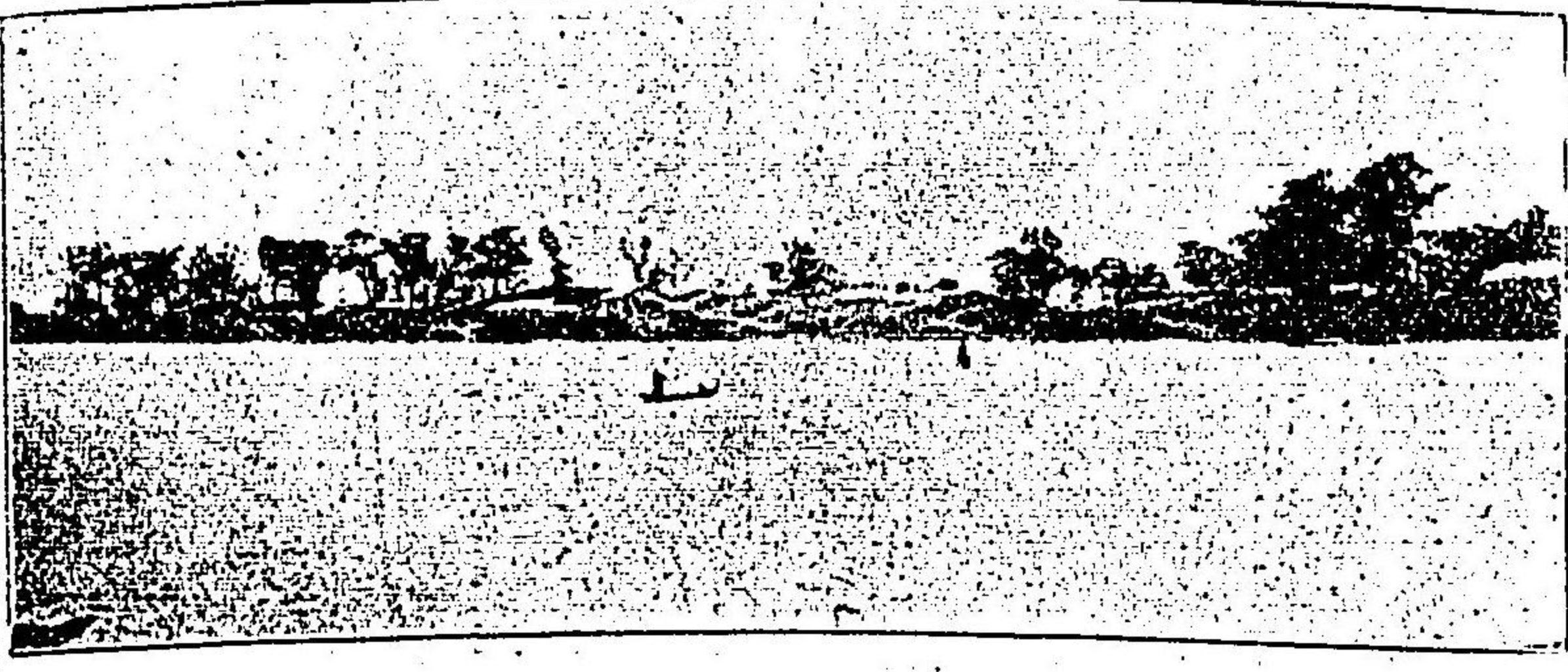
線の停車場あり、警察署、小林區署、郵便電信局等あり、此地、昔時國府を置かれたる處にして、大豫平國香以來累代の居處なり、石岡城は大豫國の築く處、今に其城址あり、清酒醬油の産出を以て名あり。

**いしがきじま 石垣島** 琉球國宮古郡の西方二十六里の海上にあり、周圍三十六里二十町、西表島と共に八重山列島とも稱す、和銅年間信覺人來朝のこと史に見ゆ、信覺は即ち本島なりと云ふ、四面悉く斷崖絶壁にして寄港に便ならず、只西北岸に川平港あるのみ、内地北部は山岳多けれども西南部は稍々開けて禾穀の産多し。

**いしかり 石狩國** 北海道十一國の一にして、東は十勝北見兩國に、南膽振に、北天鹽に接し、西海に面す、地勢國の東半部には山嶽多くして平地稀なるも、西半部は石狩川貫流して、其灌漑石狩平野をなし、將來有望の地たり、國を別ちて九郡となし、札幌區及札幌、石狩、厚田、濱益四郡は札幌支廳に屬し、空知、夕張、雨龍、樺戸四郡は空知支廳に上川一郡は上川支廳に屬す、此地徳川幕府時代に松前家の管下に歸し、屢々探險を試みられしも未だ其功を奏する能はざりき、安永天明の頃露人千島を侵す、幕府事の急なるを知り、數々吏員を派遣して、實況を視察せしめ、文化二年東西兩蝦夷を収めて直轄とし諸藩に令して兵を出して警備の任に當

**いしかりまち 石狩町**

石狩國石狩郡石狩河口にあり、天鹽街道の要衝に當り、物貨集散の中心地として頗る重要地點を占む、警察署、郵便電信局、區裁判所出張所等あり石狩港は町の前面にありて、東西一里十町、南北一里、水深一仞三尺餘、此邊鮭の漁業多く、毎年數萬圓の産額ありと云ふ、此地往古の所謂石狩濱にして其名古くより知られ、舊松前領石狩三漁場の



(石 狩 川)

場の一たり。

**いしかりがは 石狩川** 日本第二の長流にして、北海道石狩國にあり、源を石狩、十勝の兩國境たる石狩嶽に發し、西流諸水を合せ、石狩平野を貫流し、空知、札幌の兩川を入れて石狩港に注ぐ、流域九十二里、河口より二十里舟楫の便あり、河中鮭の産多し。

**いしかりだき 石狩瀑** 石狩國上川郡石狩嶽にあり、高さ百五十丈、巾六間、石狩川の水源をなす。

**いしかりだけ 石狩嶽** (ヌタブカフツシベ)石狩國上川郡の東南にあり、十勝國に亘る、高さ二千三十五米突、北海道第一の高山にして、北海道の山脉は多く此山に起る。

**いしかはけん 石川縣** 縣廳は金澤市にあり、加賀、能登一圓を管す、面積二百七十七方里七二、一市八郡十五町二百六十村より成る。

**いしかはじま 石川島** 東京市隅田川口、京橋區築地の前面にあり、京橋區に屬す、昔時は鏡島と稱す、今は造船所あり、住民多くは漁業に従事す。

**いしづ 石津** 和泉國泉北郡神石、濱寺二村の間にあり、俗に石津原と稱す、延元三年北畠顯家戦死の地たり。

**いしづちま 石槌山** 伊豫國周桑郡にあり、新居、上浮穴兩郡に亘る、高さ六千四百尺、四國第一の高峯にして、一に

北鹿郡北上川の河口にあり、船舶の碇泊地として市街繁盛商業盛なり、郡役所、警察署、區裁判所出張所、郵便電信局、測候所、税務署、小林區署、水産學校等あり。

**いしのまきみなと 石巻港** 陸前國鹽竈町の東北八里廿三町石巻町北上川口にあり、東西二丁餘、南北一里、水深五仞乃至十二仞、鹽竈港へ十七里、秋の浪港へ四里、當國中の良港たり、此地寛永年間、河村某、仙臺藩主伊達政宗の命を受け北上川口を決り開ける者にして、後小洲を河心に築き船舶碇泊地となせるなり。

**いしばしちま 石橋山** 相模國足柄下郡小田原町の西南三十町許、熱海街道に沿へり、上り十二町許の小丘にして治承四年八月源賴朝、大庭景親の爲に破られし古戰場として有名なり。

**いしへむら 石部村** 東海道の一驛にして、近江國甲賀郡にあり、草津の東方二里二十五町に位し、柘植草津間の鐵道停車場あり、此地古より名所として知られ「しちま弓石邊の山」ときはなる、いのちあらばやこひつつならん(萬葉集)「夏衣ゆくても涼し梓弓、いそへの山の松のした風」(新勅撰)等の古歌多し。

**いしんでんむら 一身田村** 伊勢國河原郡にあり、津市を距ること一里、參宮鐵道停車場あり、警察署及郵便電信局、

伊豫の高嶺と云ふ、山頂に石槌神社あり、夏日登山する者多し、靈異記に「伊與國野郡郷内に山あり石槌山と號す、是れ鎮座する石槌神の名に依る也、其山高峻、萬夫登るを得ず」とある是なり、又西行法師が「わすれては富士かと思ふ、これや此、伊與の高根の峰の白雪」(山家集)の歌も此地につきて詠めるなり。

**いしでがは 石手川** 伊豫國温泉郡湯山村の東、高繩山、三方森山の溪間に發源し、湯之町、松山市の東南をすぎ、石井川と合し直信川となる、長六里、灌溉の便あり。

**いしでじ 石手寺** 伊豫國温泉郡湯山村にあり、眞言宗の巨刹にして、神龜五年越智玉澄の創建たり、古くは安養寺と稱せしを天長八年今の名に改む、四國順拜五十一番の札所たり。

**いしごうざん 石堂山** 日向國東臼杵郡にあり、西臼杵郡及び見湯郡に亘る、高さ五千尺。

**いしのほいでん 石寶殿** 兵庫縣印南郡生石村の山腹にあり、寶殿は一は靜の窟と稱し、巾二丈三尺、高さ二丈六尺あり、生石子神社の神體となす、此石殿は古くより有名なる者にして風土記にも「池之原南、有作石、形如屋、長二丈、廣一丈五尺、高亦如之、名號大石」云々とある此なり。

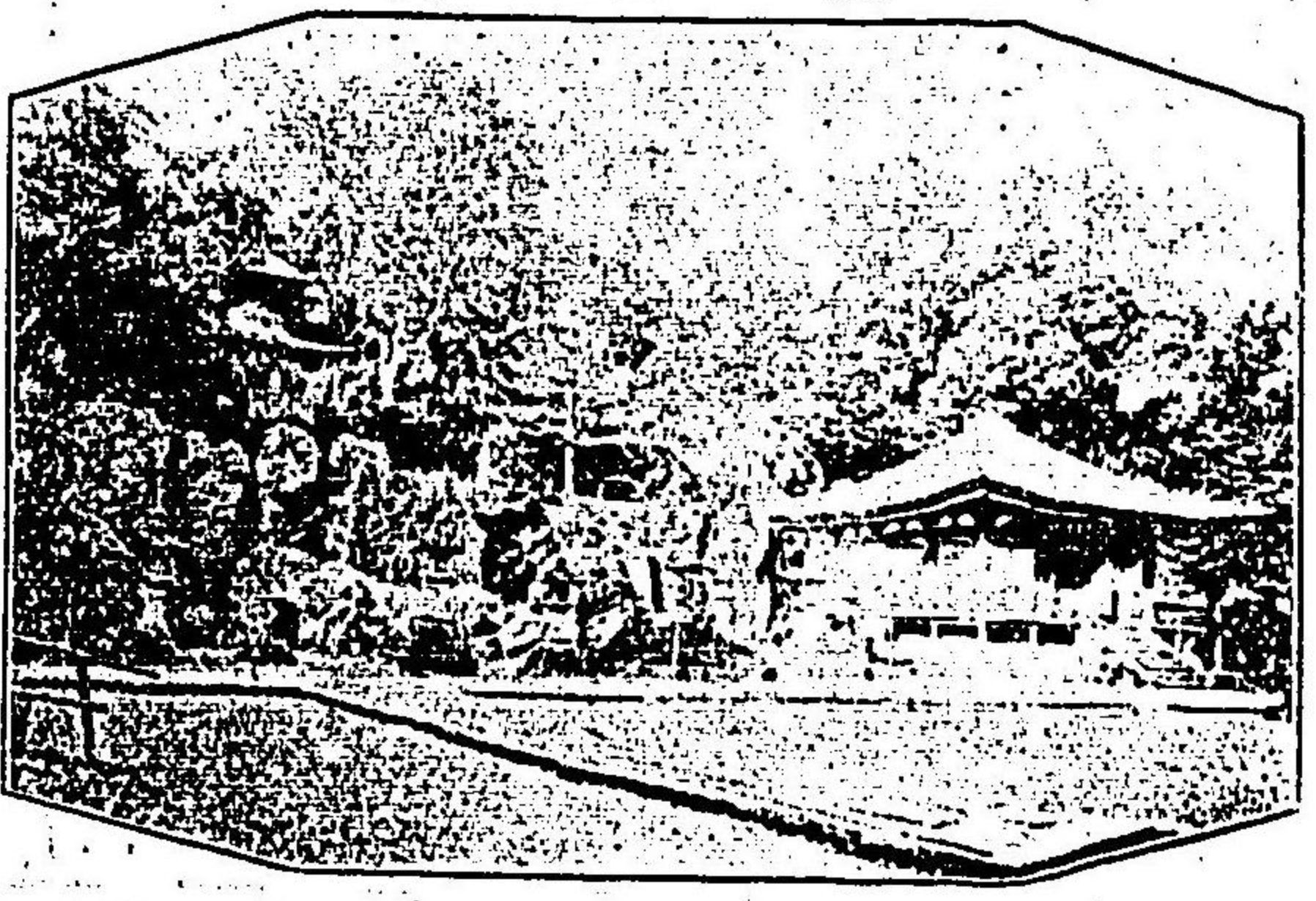
**いしのまきまち 石巻町** 陸前國鹽竈町の東北八里廿三町、

區裁判所出張所等あり、此地に眞宗高田派の木山たる専修寺あり、一に無量壽寺と稱す、元と親鸞上人が下野國芳賀郡高田を開きし者なるが、寛正六年第十世眞慈の時、此地に移したりと云ふ、本寺に附隨して門跡號を育す。

**いしやまでら 石山寺** 眞言宗にして、近江國滋賀郡石山村

石山の半腹にあり、西國三十三所第十三番の靈場にして、天平勝寶元年長辨僧正の開基と稱せらる、如意輪觀音を以て本尊となす、後承暦二年火を失し、烏有に歸したりしを、建久年中源賴朝再興し、天正の頃又荒廢せしを豊臣秀頼の母淀君大修繕を

(寺 山 石)



母淀君大修繕を

加へ舊觀に復せり、今の本堂は即ち此時に成れる者なりと。  
**いしのみむら 石山村** 近江國滋賀郡勢多川畔にあり、有名なる石山寺のある處にして、寺内に觀月堂あり、古來觀月を以て名高く、近江入景の一に數へらる、又猿狩を以て、宇治と共に雅俗の賞する處たり、**○**今の攝津國大阪城の地、戰國時代に一向宗徒此に據り織田信長と戦ひ、久しく相拮抗せしが、後遂に降る。

**いしろうさぎ 石廊崎** 伊豆國加茂郡の南端を云ふ、近江國御前崎と相對して駿河灣口をなす、燈台あり、不動赤色にして其光十海里に達す、此地に石室神社あり、伊波利命を祭る、延喜式内神社に屬す。

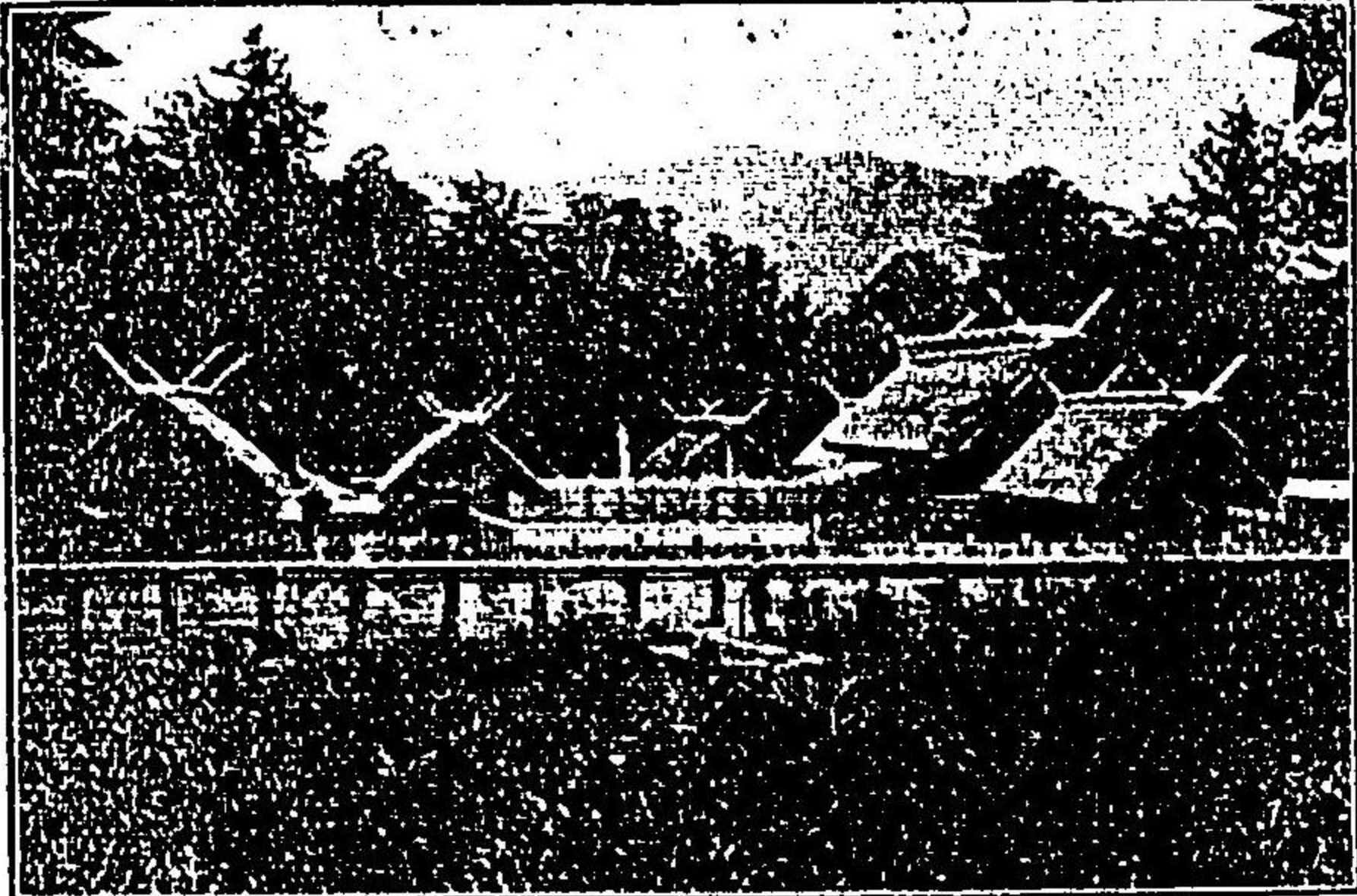
**いすずかわ 五十鈴川** 伊勢國にあり、源を度會郡神路山大床谷に發し、宇治山田町の南西を過ぎて、二見ヶ浦に注ぐ、流域三里廿町、御袋流川、宇治川の別稱あり。

**いすみがわ 夷隅川** 上總國にあり、源を安房國境、夷隅郡上野村に發し、風曲して北に流れ、大多喜町を過ぎ、二三の小流を合して、海に入る、一に大多喜川とも云ふ、流域二十里、下流舟楫の便あり。

**いするさきち 石動町** 越中國西礪波郡の北部にあり、富山市の西方九里二十五丁、北陸鐵道、加賀より通ず、郡役所、警察署、郵便電信局、稅務署、區裁判所出張所等あり、此地の

元龜の頃赤石左衛門父子之に居り、元龜元年今の名に改む、徳川氏の世に及び酒井氏此地に封ぜられ二萬石を食む。

**いせたいびよ 伊勢大廟** 皇室の宗廟にして、伊勢國度會郡宇治山田町にあり、内宮外宮の二より成る、内宮は皇太神宮と稱し、宇治町の南五十鈴の川上にあり、本朝三種の神器の一なる八咫鏡を神體として、天照太神を奉祀す、宮域六十七町神苑九千六百三十余歩、別宮九社、攝社二十五座、末社十六座あり、外宮は豊受太神宮と云ひ、山田町の南、山田の原にあり、豊受太神を祀る宮域八十一町、神苑一萬五千餘歩、四所の宮及



(宮内勢伊)

西南一里許に天田越の嶮あり加越の國境なり。

**いせ 伊勢國** 東海道十國の一、東南伊勢海に瀕し、西近江、伊賀、大和に、北美濃尾張に接す、西北南の三面、峻山連亘し地勢頗る險峻なるも、沿岸の地は平坦にして肥沃なり、國を別て、津市、四日市市、安濃、三重、桑名、員辨、鈴鹿、河養、一志、飯南、多氣、度會の二市十郡となし、三重縣の管下に屬す、神武天皇東征の時、伊勢津彥命、此國を天皇に獻す、依て國名となす、孝德天皇の時初めて國郡制を布き、分つて十二郡と爲す、爾來幾多の變遷あり、平氏の盛なるや、國を擧げて殆んど其勢力の下に服し、源賴朝、頼府を鎌倉に開くや、平賀朝雅、大内惟信相繼で當國の守護に任ぜられ、南北朝の頃北島氏此地に據りて南朝に應じ、子孫永く國の一部を保ちしが、天正年間織田信長の討滅する所となる、徳川氏の時、津、久居、桑名、神戸、龜山、長島、薦野の七藩を置き之を分治せしむ、明治維新後、伊賀、志摩及紀伊の一部とともに三重縣に屬す。

**いせのみむら 伊勢崎町** 上野國高崎市の東方六里二十八町、佐波郡にあり、小山前橋間の鐵道通過す、郡役所、警察署、郵便電信局、區裁判所出張所、染織學校等あり、此地蠶業の盛地にして、織物の産多し、殊に伊勢崎錦仙の名は全國に知らる、古へは赤石郷と稱し、三浦義澄の采邑たり、大永、

攝社十六座、末社八座あり、内宮は垂仁天皇の御代に大和國笠縫の里より遷し奉り、外宮は雄略天皇の御宇に丹波國比沼の里より遷し奉れるものとす、遷宮以來此處に一千數百年、天下第一の宗廟として上下の尊信淺からず、國家の大專ある毎に、歴代の皇帝、必ず此兩宮に奉告の式を行ひ給ふ、山家集に「何事のおはしますかは知られども、かたじけなきに涙、はれて」とあるは、よく其眞情をうがてる者とす、天武天皇御代以來毎二十一年目に遷宮の式を舉行するの定あり。

**いせのうみ 伊勢海** 伊勢の東方にある内海を云ふ、一に伊勢海とも稱す、東南に灣口あり、志摩、濃美の兩半島其口を扼す、灣内蛤、鱒、鰻の産多く、春夏の候屋氣樓の奇景あり。

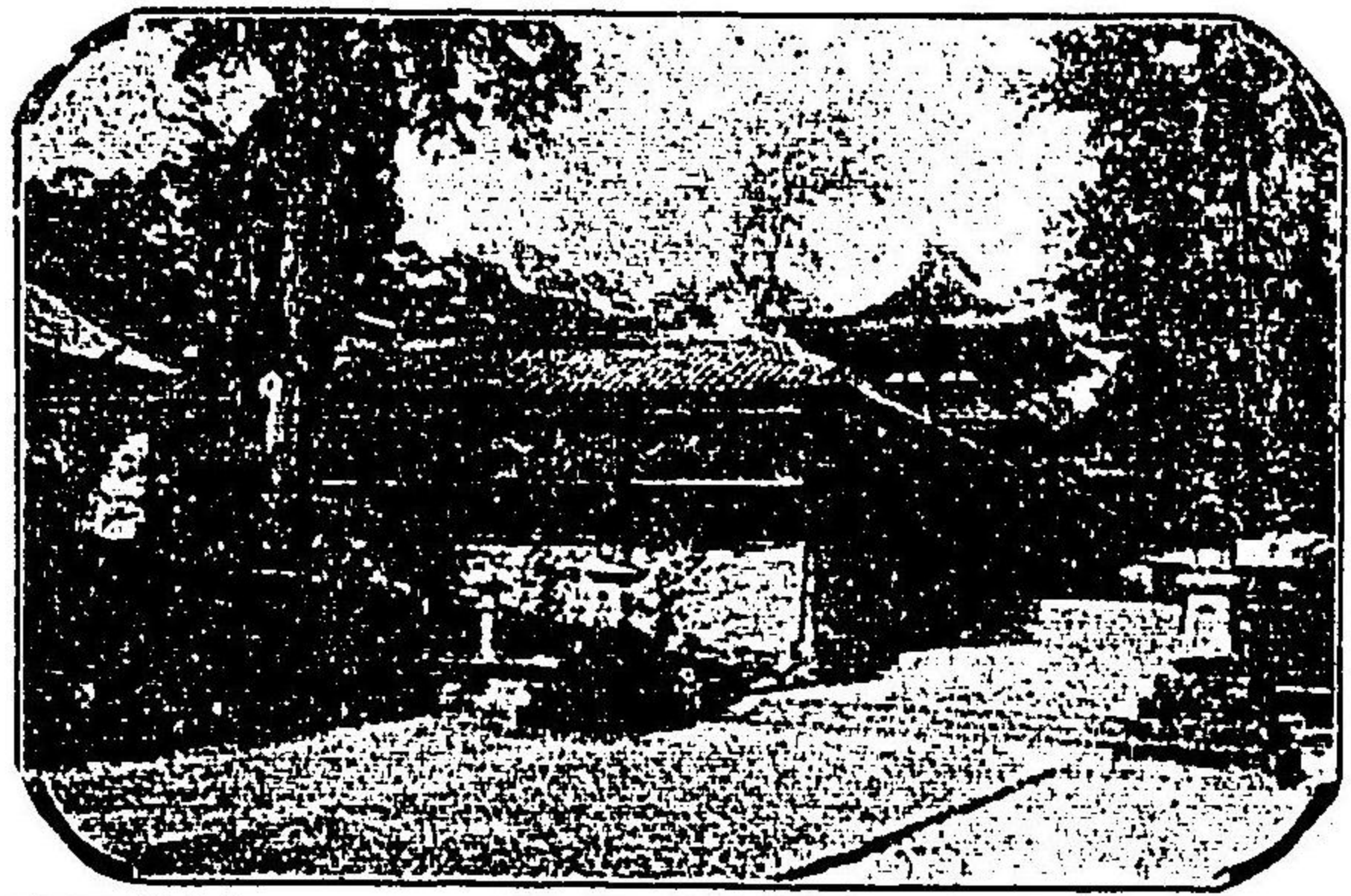
**いそのかみむら 石上神社** 官幣大社、二十二社の一にして、大和國山邊郡大字布留にあり、布都靈劍を奉祀す、崇神天皇御宇の創建にして、九月十一日を例祭となす、本社は昔時種々の神寶を收藏したる御庫なるを以て一に神府とも稱す。

**いそのかみむら 石上村** 大和國山邊郡にあり、和名抄に「山邊郡石上郷、別伊曾乃加美」とあるは之にして、大字布留には石上神社あり、又其附近には仁賢天皇の皇居たる石上廣高宮址、安廉天皇の石上穴穗宮址等あり。

磯

磯町 常陸國水戸市の東方三里、東茨城郡大洗岬にあり、川を隔てて湊町に對す、縣内第一の漁業地たり、夏期は海水浴地として、遠近より來遊する者多し、大洗神社及び、子ノ日原の勝は此近傍にあり。

(社 神 上 石)



磯部 上

野國高崎の四方碓氷郡にあり、鐵道停車場あり、有名な礦泉の湧出する處にして、浴客常に群集す、郵便電信局及警察分署等あり、礦泉は炭酸質冷泉にして、二ヶ所より湧出す。

磯邊城址

磯邊礦泉地を距る東南十町許、

郵便電信局、警察分署等あり。

市川

播磨國にあり、一に飾磨川といふ、但馬國朝來郡西粟鹿山に發し小田原川、岡部川等を合せ姫路市の東をすぎ海に入る、流域十二里。

伊治城址

陸前國栗原郡栗原村にあり、稱徳天皇の神護景雲元年に之を築けるものなりと。

一乗谷

越前國足羽郡一乗谷村大字城戸にあり、朝倉氏の居城にして、天正年間織田信長のために陥らる。

一條戻橋

京都市一條通り堀河に架したる橋を云ふ、三善清行に關する荒唐不稽の傳説によりて、古より有名なり。

一瀬川

日向國にあり、源を西臼杵郡市房山の北方大河内の山中に發し、南流兒湯郡に至りて、諸小流を合し、佐土原の北方を過ぎて、徳洲灣に入る。

一宮町

尾張國中島郡にあり、名古屋市を距る北五里十六町、岐阜街道の一驛にして物貨の集散繁く、市街段々なり、東海道鐵道停車場あり、此地毎月三、八の日古着市を開く、其實買取引極めて盛にして、熱田の魚市、枇杷島の青物市場と相並んで尾張の三大市場と稱せらる、

上總國長生郡にあり、一宮川の南岸に位す、千葉町を距る

東横野村大字鷲宮にあり、此地一に城山と稱し、高さ十餘丈、周回八町餘、建仁年間佐々木盛綱の築城する所と云ふ、今公園地となる。

潮來出島 常陸國行方郡潮來町の前面にあり、西北に北浦、霞ヶ浦の水を望み、南方利根川の流に接し、風景頗る佳なり、一に十六島とも云ふ。

潮來町 常陸國行方郡にあり、香取郡佐原町を距る三里二十八丁、霞浦の東南に位し、古來殷賑なる要津として知らる。

板橋町 武藏國北豊島郡にあり、昔時江戸四驛の一にして、東京市小石川區の西北一里餘、中仙道の要地たり、郡役所、警察署、郵便電信局、稅務署及品川赤羽間鐵道停車場あり。

伊丹町 攝津國川邊郡にあり、大阪市の西北四里、坂鶴鐵道は此地を経て池田に向ふ、郡中第一の都會にして、郡役所、警察署、郵便電信局、區裁判所、稅務署、中學校等あり、酒の名産地たり、此地、天文二年日蓮宗徒、一向宗徒を破り、天正六年荒木村重の據りし處として知らる。

市川町 下總國東葛飾郡國府臺の南方にあり、千葉街道の要路にして、江戸川航行の要衝なり、東京市を距る三里二十五町、總武鐵道、此地を過ぎて銚子に通ず、

十里餘、郵便電信局、警察分署、貨車賣出出張所等あり、加納氏の舊藩地にして、國幣神社玉前神社及一宮城址等あり。

一宮古戰場 三河國寶飯郡桑宮村にあり、文祿七年徳川家康此に城き本多信俊をして守らしめしが、同年五月今川氏真のために略取せらる。

一關町 陸中國盛岡市の南方十九里十一町、西磐井郡にあり、上野青森間鐵道此地を通ず、もと田村氏の舊藩地にして、磐井町とも稱す、郡役所、警察署、郵便電信局、區裁判所、稅務署、小林區署、中學校等あり、安陪貞任が嘗て據りし小松柵址は、この近傍にありと云ふ。

一谷 攝津國武庫郡須磨村鐵拐ヶ嶽の南方に



(塔 盛 敦)

あり、俗に濱須磨と稱す、界川の東、千島川の西にあり、長三十町に充たす、谷の上方には安徳天皇内裡の遺跡あり、元暦元年二月源義經此處より平軍を襲撃したる處として名あり、路傍に敦盛の塔と稱する大石塔あり、有名なる鴨越は鐵拐ヶ嶺の北面にあり。

**いちのへまち 一戸町** 陸奥國二戸郡浪打峠の南方二十町にあり、岩手縣に屬す、陸羽街道の一驛にして、福岡町を距ること二里十三町、郵便局あり、又日本鐵道青森線一ノ戸驛は、其西方島海村にあり、馬淵川町の中央を流る。

**いちのへむら 市邊村** 近江國蒲生郡八幡の南にあり、昔時來田綿(タタ)の蚊屋野の地にして、顯宗、仁賢二天皇の父、市邊押磐皇子の害せられし地なりと云ふ。

**いちのもごまち 樺本町** 大和國添上郡にあり、奈良市を距る南二里十二町、奈良櫻井間の鐵道通過す、人口五千餘、郵便局、警察署あり、此近傍に檜神社及在原寺、柿本寺等あり。

**いちばたやくし 一畑薬師** 出雲國簸川郡一畑山にあり、醫王山一畑寺と稱す、本尊は藥師如來なり、宇多天皇の寛平六年の創建にして、初めは天台宗なりしが、後臨濟宗に改む中國四國より眼を病む者參詣す、賽客の多き實に山陰道第一たり。

**いちぶさん 市房山** 肥後日向の國境にあり、高さ五千四百

中に散布し、兩岸の風景極めて佳なり。

**いづしま 嚴島**

日本三景の一にして、一に宮島と稱す、又恩賀島とも云ふ、安藝廣島市の西南海中、廣島灣内にあり、東西三十町、南北二里半、周囲七里三十一町、島中彌山、岩船山の二山あり、嚴島町

(五) 串 溪



及び國幣中社嚴島神社あり、殿舎海に面し、大小の廊宇海上にありて、潮満つれば殿廊水上に浮ぶの壯觀あり、陸岸との間を大野の瀬戸と稱し、相距る僅かに數町、日々數回の汽船往復あり、以て交通に便す、弘治元年毛利元就此に城き、同五年出でて陶晴賢の軍を迎へて之を討滅せしは、嚴島の磯

百餘尺あり。  
**いちぶりむら 市振村** 越後國西頸城郡の西北海岸にあり、同國の名邑にして、承久三年北條朝時が、宮崎定範と戦ひし古戰場なり。

**いづ 伊豆國** 東海道十五國の一、相模駿河の南方に斗出したる半島國にして、中央には山脈縱斷し、一も平地と目すべき地なし、國を別て田方加茂の二郡となし、伊豆七島を附屬す、田方加茂の二郡は靜岡縣に屬し、伊豆七島は東京府に屬す、天武天皇の九年駿河國を分て伊豆國を建て、其後國府を田方郡に置きて之を治む、降て鎌倉幕府に至り山名義範當國の守護となる、足利氏の世、管領足利基氏の執事上杉憲顯守護となり、長祿元年將軍義政の弟政知、山内、扇谷兩上杉の援助により當國北條那須越の館に居りて關東を治めしが、其没後内亂起り、北條長氏、北條山より起て全國を併せ子孫相繼で氏政に至りしが遂に豊臣氏のために討滅せらる、徳川氏の世、内藤氏は非山に、戸田氏は下田にありて、各分治せしが、後其封を收め州人江川氏代官となり、全國を管す、明治維新の後韭山縣に屬し、次で足柄縣下となり、明治九年以後靜岡縣の管内に歸す。

**いづくしのたき 嚴美瀧** 五串とも書す、陸中の一ノ關より二里半、人車の便あり、瀧は大小三段ありて、奇石怪岩溪

戰と稱して有名なる事實なり。

**いづくしまじんじや 嚴島神社** 安藝國佐伯郡の東南海中、嚴島にあり、國幣中社にして、市杵島姫命及び田心姫、滿津姫を合祀す、推古天皇御宇の創建たり、社殿は平清盛の建つる處、左右に百八の廻廊長さ五十間、崖により水に架し、満潮の時は水上に浮び極めて壯觀なり、境内廣潤、風景絶佳、名所古跡少からず。

**いづくしまち 嚴島町** 安藝國佐伯郡嚴島の北岸にあり、市街清潔にして、風景亦絶佳、郵便電信局、警察分署、水上警察署等あり、此地有名なる嚴島神社の所在地にして、參詣の徒常に群集し、爲に市況盛なり、此處に宮島細工の名産あり。

**いづさんむら 伊豆山村** 伊豆國田方郡の東北、熱海町の北十八町の海岸にあり、一小村なれども、温泉あるを以て、甚だ賑へり、人車鐵道小田原より來りて熱海に至る。

**いづしまち 出石町** 但馬國出石郡にあり、豊岡町の南方三里、郡役所、警察署、郵便電信局、區裁判所出張所、稅務署等あり、此地仙石氏三萬石の舊城下にして、陶器出石燒の產地として名あり、出石城址は町の東北にあり、天正年間山名祐豐の築く處、今古城山と稱す、天正八年豊臣秀吉の爲めに陥られ山名氏滅び、後豊臣秀長、前野長泰、小山秀政、松平忠

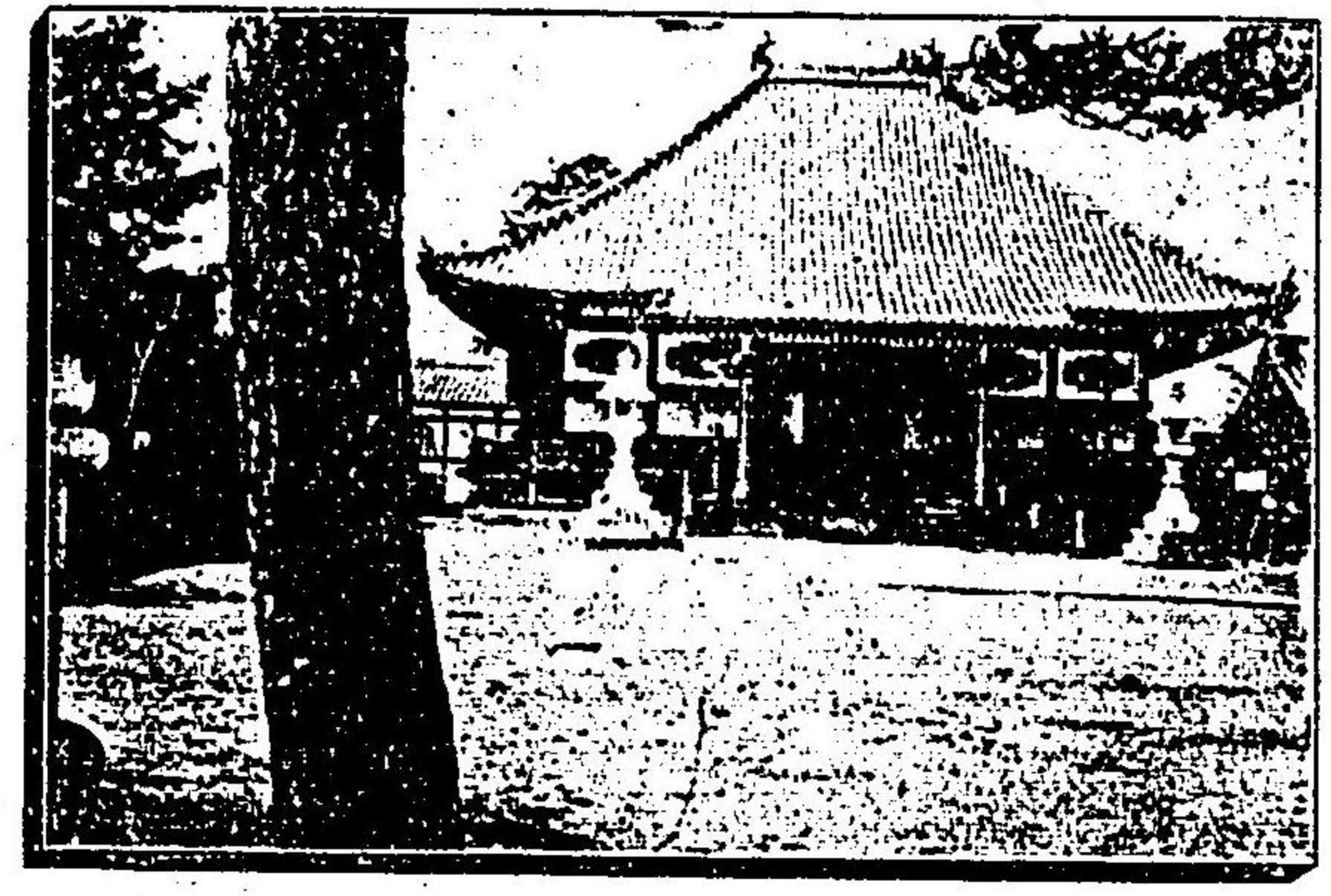


徳等相次で此地に封ぜられしが、寛永三年仙名政明之に代るに及び子孫相襲で明治維新に至る。

**いづしちどー伊豆七島** 伊豆國の東南太平洋中に散布せる島嶼即大島、利島、新島、神津島、三宅島、御倉島、八丈島を云ふ。今東京府の管轄に屬す、委しくは各條を見よ。

**いしんじ心**

寺 攝津國大阪市天王寺石鳥居の下、茶白山の西北にあり、淨土宗に屬す、文治元年二月の創建にして僧源空開基たり、後一旦荒廢せしが慶長年間、參州の僧存岸之を再興せり、大師二十五ヶ所蒞蹟の一として有名な、大阪冬の役



(寺 心 一)

には徳川家康の本營となれることあり。

**いづぬきがば 糸貫川** (伊都貫川) 美濃國にあり、木葉郡の山間より發し、諸流を合して長柄川に入る、流域三里半、上流を根尾川と云ふ。

**いづのはらまち 嚴原町** 對馬國第一の都會にして、舊名府中、下縣郡の東海岸にあり、もと宗氏の舊城下にして、今は島嶼及警察署、郵便電信局、區裁判所、税關支署、稅務署、小林区署、測候所、警備隊等あり。

**いづのはらみなと 嚴原港** 開港場の一にして、對馬國下縣郡嚴原町の前面にあり、東西六町、南北十町、水深二十仞、此地我が長崎港を距る百八海里、朝鮮釜山浦へ六十海里、兩者の間に介在して、古來貿易の要地として知らる。

**いづばんどー伊豆半島** 相模駿河の南端に突出したる伊豆國を云ふ、海中に突出すこと二十餘里、以て此名あり、伊豆は「出づ」の意なりと、「いづ」を見よ。

**いづみ 和泉國** 畿内五國の一、東河内に、西大阪灣、南紀伊、北攝津に接す、地勢東南には山嶽多きも、西北は平坦にして、耕作に適せり、國を分て泉南泉北の二郡となし大阪府の管下に屬す、此國古は茅渚と稱す、後河内國に屬せしが、元正天皇の靈龜二年河内三郡を割て和泉監を置き、聖武帝の時河内に合し、孝謙帝の天平寶字年間復分たる、鎌倉

幕府の時佐原義連當國の守護に任ぜられ、建武中興の際捕

正成此が守護を兼ね、足利時代には山名氏清、大内義弘、細川滿元等相繼ぎ守護となる、豊臣氏の代に及び秀吉の弟秀長全國を領す、徳川氏の代岸和田、伯太の兩藩あり、廢藩後堺縣を置き、次で大阪府に併す。

**いづも 出雲國**

山陰道入ヶ國の一にして、東南伯耆、備後に、西石見に、北は日本海に面す、地勢東西南の三方山嶺相重れるも、北方の一面、殊に矢道湖沿岸の地は平坦なり、國を松江府及入東、仁多、能義、飯石、大原、簸川の六郡となし、島根縣の管下たり、此國は天孫降臨以前、大己貴尊、少彥名神等の經營せられし地にして出雲大社、簸川等の史跡多し、鎌倉時代には鹽谷氏、足利時代には佐々木氏當國の守護となり、後尼子氏之を領し、大内氏と争ひ、尋て毛利氏の爲めに滅ぼさる、徳川氏の世堀尾、京極の兩氏相襲で此地に封ぜられしが、寛永十五年越前家の支藩松平直政入つて十八萬六千石を領し、子孫相傳へて明治維新に至る。

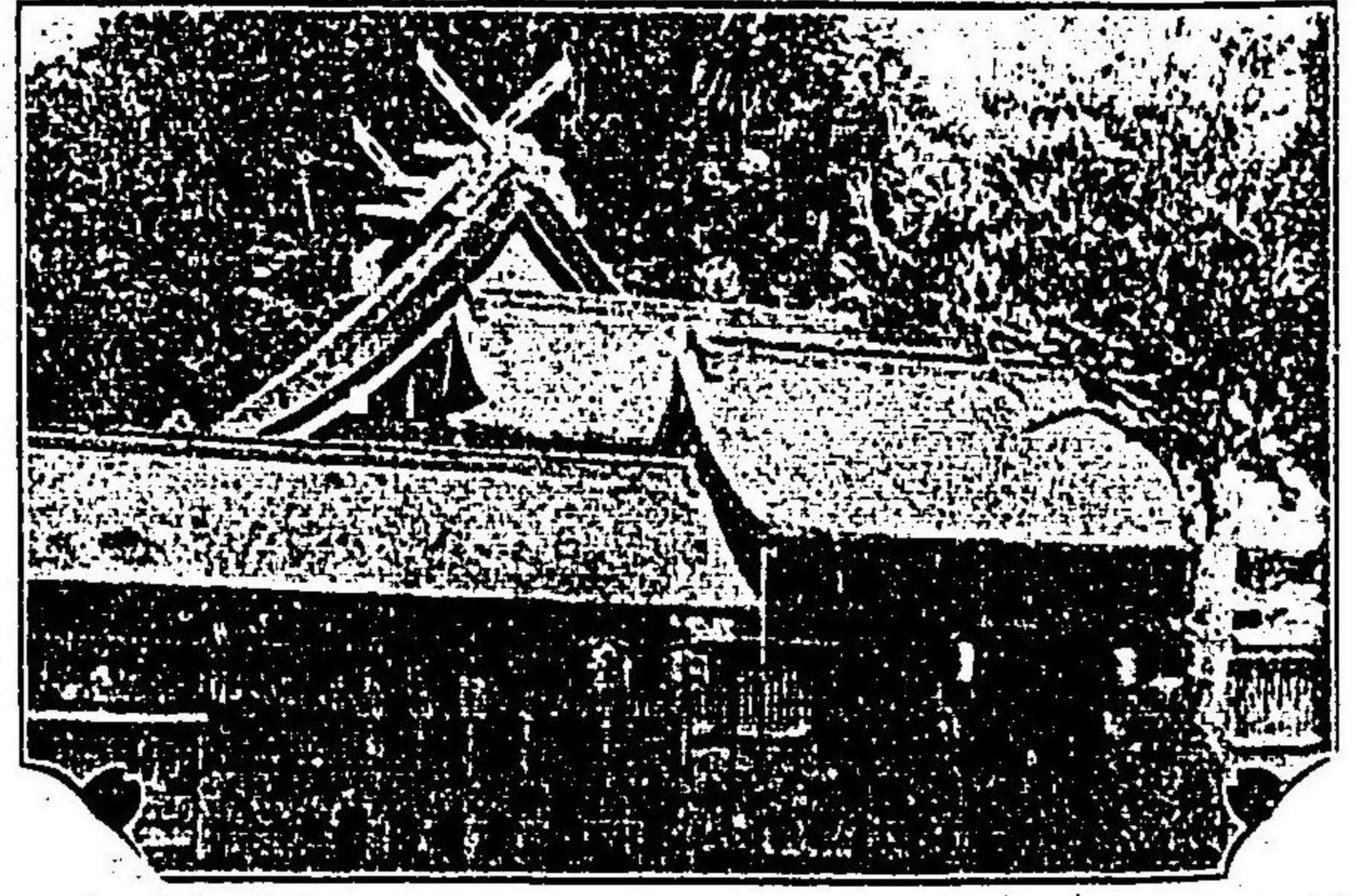
**いづもたいしゃ 出雲大社**

官幣大社、出雲國簸川郡杵築町にあり、大國主神を祀る、一に杵築大社とも云ふ、天穗日命の子孫代々此社に奉仕す、所謂出雲國造にして、今の千家、北島二氏之れなり、傳へ云ふ、此地は大國主命、天照太神の命を奉じ國土を献上せるの後、退隱せる所にして、一に天日

隅宮とも云ふ、

垂仁天皇の御代に大に之を改築し、爾來六十年目毎に修繕を加ふる制規なりしが、世漸く亂れて修理意の如くならず、豊臣氏の頃は社殿衰頹荒廢其極に達せしが、松平直政入つて出雲の大守となるに及び大に力を盡して之を恢復せり、

(社 大 雲 出)



現存の社殿は明治七年の改築とす。

**いづるざん 出流山**

下野國安蘇郡葛生の北方下都賀郡の境にあり、直立二百餘尺、石灰石より成り、鍾乳洞の奇觀あり、山頂大悲閣あり、長八尺餘の十一面觀世音を安置し、寺を千手院滿願寺と號す、阪東順禮第十七番の札所なり、枹

木町を距る西北四里三十町。

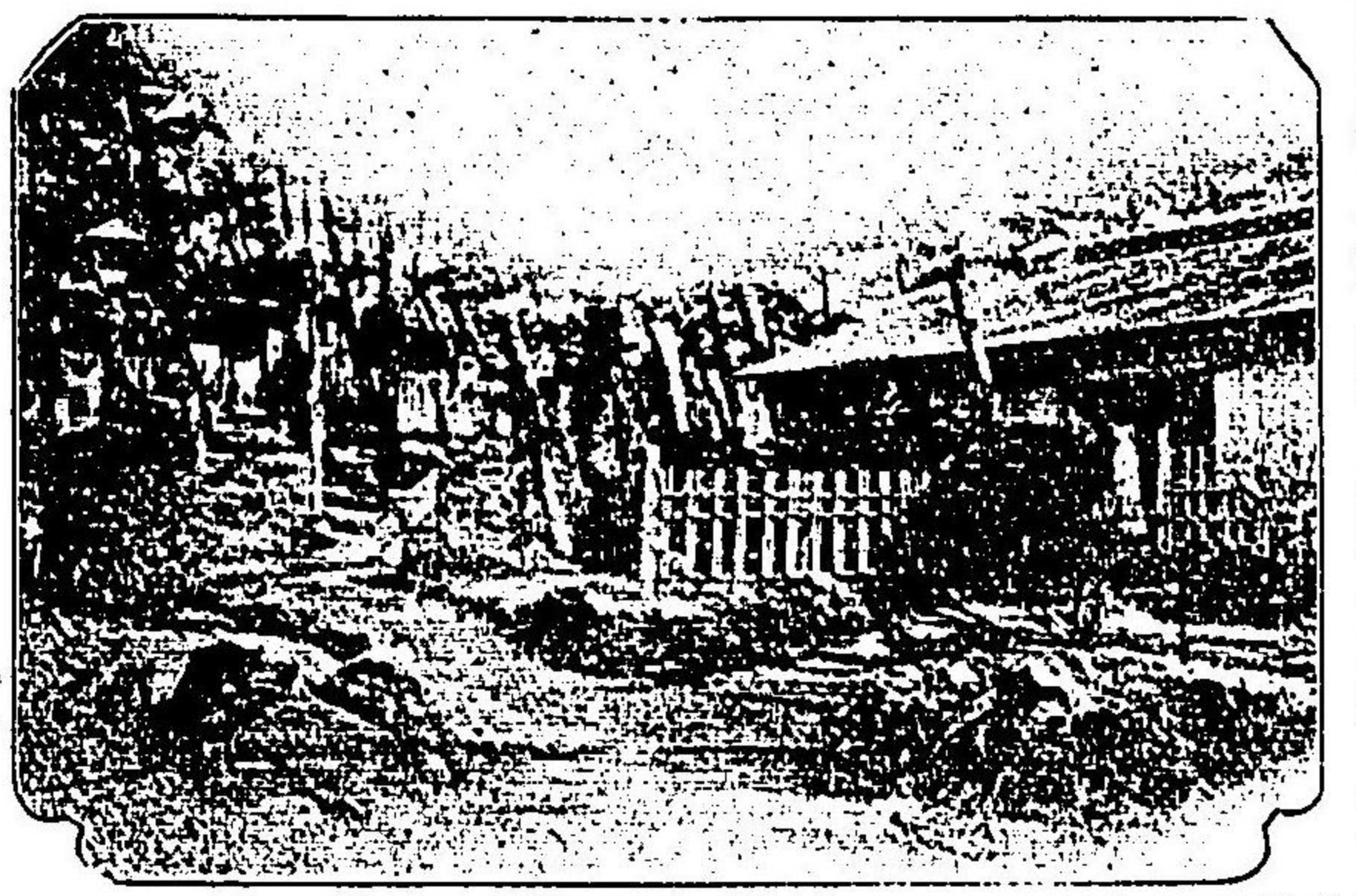
**いさむら 怡土村** 筑前國糸島郡にあり、此郡に舊怡土、志摩の二郡を合したるものにして、怡土は古へ伊都縣主の本據の地、怡土村大字高祖に怡土城趾あり、怡土城は吉備眞備が太宰大貳たりし時、築きし處、太宰府の前衛たり、鎌倉幕府の時原田種直、此地に居り、二十餘世を経て、信種に至り豊臣秀吉の爲めに攻め滅さる、其後黒田長政の四男政冬此地に封ぜられ城を修めて高祖城と改稱せしが、徳川氏の世に及び終に廢城となる。

**いそ 伊東** 伊豆國田方郡の東海岸にあり、西南北の三面山を繞らし、東方一面海に臨み、松川其中央を流れ、風景頗る佳、伊東氏、累世居住地にして、永曆の頃源頼朝、此地に來り伊東祐親に寄る、祐親の墓(宇地蔵原にあり)、伊東城址(宇和田の山上にあり)、河津祐泰の墓(對島村にあり)、及其他の名跡多し、今は温泉地及海水浴場として有名なり、温泉はもと三源泉なりしが今は二十餘湯に及ぶ、其中猪戸湯、出來湯、和田湯等名あり、泉質何れも大同少異にして、鹽類泉にして、少しく硫氣を帯ぶる者とす、假麻質、疥癬、打傷、金瘡等に功あり。

**いそがはま 糸魚川町** 越後國西頸城郡姫川の河口にあり、直江津の西南十三里に位す、松平氏の舊城下にして、

**いなば 因幡國**

これなり。  
山陰道八國の一にして、東但馬に、四伯耆に、南播磨美作に接し北日本海に面す、地勢三面に山を負ひ交通極めて不便なるも、千代川の流域稍平野をなして、地味豊沃所謂因幡米の産地たり、海岸一帯平沙にして港灣少く碇泊に便ならず、國を分て鳥取市及岩美、八頭、氣高の三郡とす、鳥取縣に屬す、此國古くは稻羽に作り、又略して因州とも云ふ、鎌倉幕府の頃佐々木高綱當國の守護に任ぜられ、建武中興の際伯耆守名和長年守護を兼ね、足利氏の世山名氏累世當國にあり伯耆を兼ね治む、豊臣氏の世、宮部、



(浴 水 海 毛 稻)

少く碇泊に便ならず、國を分て鳥取市及岩美、八頭、氣高の三郡とす、鳥取縣に屬す、此國古くは稻羽に作り、又略して因州とも云ふ、鎌倉幕府の頃佐々木高綱當國の守護に任ぜられ、建武中興の際伯耆守名和長年守護を兼ね、足利氏の世山名氏累世當國にあり伯耆を兼ね治む、豊臣氏の世、宮部、

昔北海の魚鹽を信濃方面に輸送するに悉く此地よりせしを以て頗る繁盛を極めしも、今は其業多く直江津に移りて市街稍衰微の色あり。郡役所、警察署、郵便電信局、區裁判所、稅務署等あり。

**いささきみなと 絲崎港** 我國開港場の一にして、備後國御調郡にあり、瀬戸内海航行の要津にして、且山陽鐵道停車場所在地たるを以て海陸運輸の便を得、近年大に繁昌せり。

**いなま 伊那町** 信濃國上伊那郡高遠町西方二里にあり、甲州街道の要衝にして、天龍川の流域たり、郡役所、警察署、郵便電信局、區裁判所、稅務署等あり。

**いながは 猪名川** 攝津國池田川の別稱。

**いなげ 稻毛** 下總國千葉郡千葉町の東、幕張町の東海岸にあり、東京灣を見せらして、風景頗る佳、近年海水浴場の設けありて、浴客頗る多し、千葉町を去る一里強、總武鐵道停車場あり。

**いなさやま 伊那佐山** 大和國宇陀郡山路村の上方にあり、一に山路山とも云ふ、神武天皇東征の時「橋なめて伊那佐の山の云云」と御製ありし處なりと、山中伊那佐瀬あり、高さ二丈餘。

**いな の 猪名野** 攝津國武庫郡神崎川畔の平野を云ふ、古歌に「有馬山猪名のささ原風吹けば云々」などあるもの即ち

龜井の兩氏之を分治す、元和三年池田光政當國及伯耆に封ぜられしが寛永年間備前に移り、其從弟光仲代り領して三十二萬五千石を食み、子孫世襲して明治維新に至る。

**いながは 因幡川** 因幡國鳥取市中を流るる袋川の上流にして、一に國府川と云ふ、源を岩美郡雨澤に發し、西北に流れて千代川に合す、河中鮎の産多し。

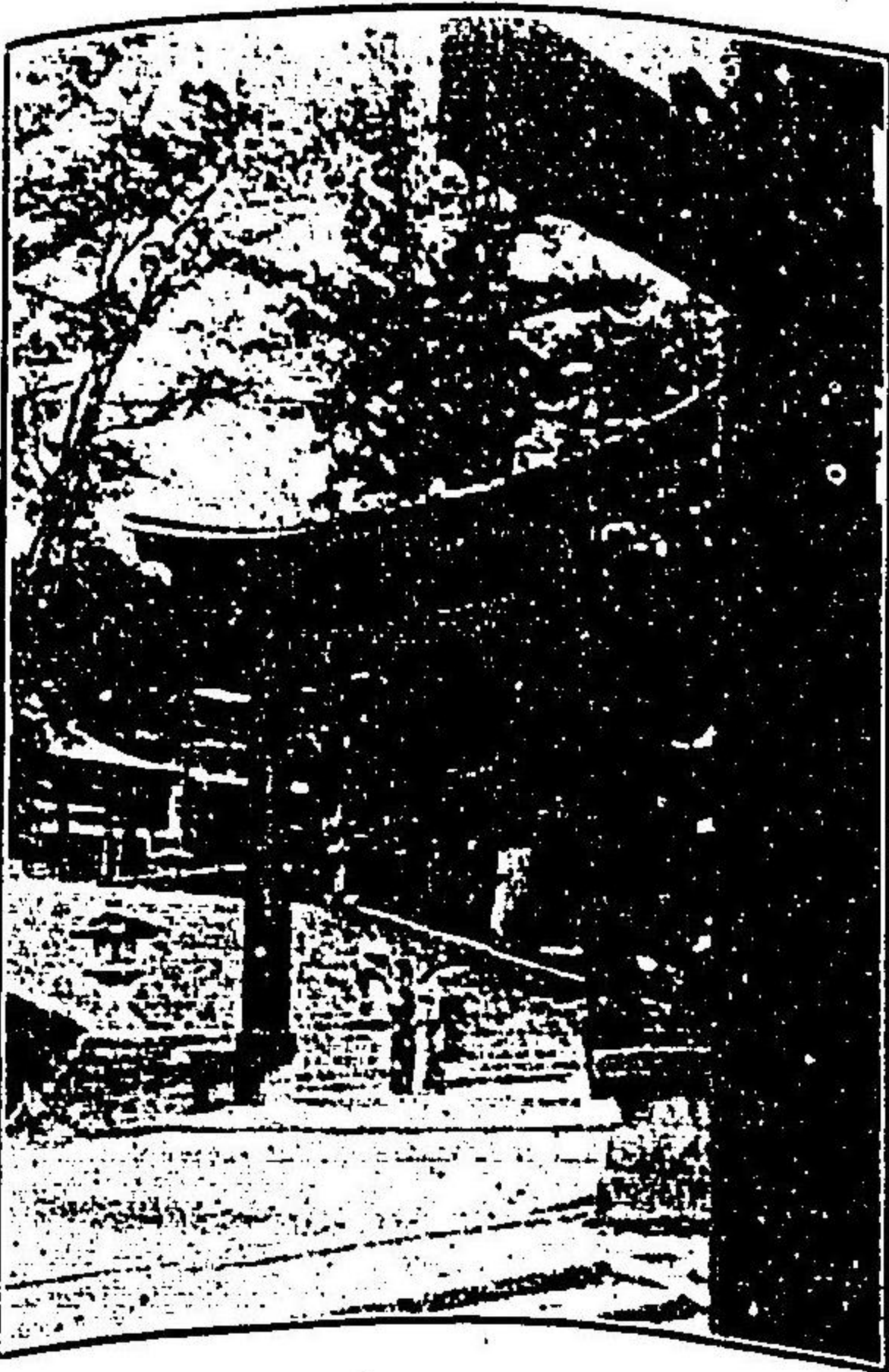
**いなばやくし 因幡藥師** 京都市下京區松原通烏丸の東にあり、眞言宗にして平等寺と稱す、天徳年間、橘行平因幡國に下りける時、靈夢によりて海底より得たりと稱する藥師佛を本尊となす、承安年間、勅願寺となり、勅額を賜ふ、其後、後白河院の行幸もありたりと。

**いなばやま 因幡山(稻葉山、伊奈波山)** 因幡國鳥取市の東南、岩美郡國府村にあり、一に宇倍山と稱す、國幣中社宇倍神社其山上にあり、昔時在原行平が此國に國司として下りける時「立ち別れ因幡の山の峯に生ふる云々」と詠せしは即ち此山なり、**いなばやま 稻葉山**、美濃國岐阜市の東方、稻葉郡にあり、一に金華山又岐阜山と稱す、山腹に伊奈波神社あり、美野國造神社を奉祀す、山上古城址あり、織田氏の居城とす。

**いなむら 稲村崎** 相模國鎌倉の海濱、由井ヶ濱と七里濱との中間に岩角斗出せる處を云ふ、今は極樂寺村に屬せり、元弘三年新田義貞が鎌倉打入りの時、劔を投じて海

神に祈りしてふ故事によりて有名なり、此地鎌倉の西口に當り、頗る要害の地たり。

**くならじんじゃ 稻荷神社** 官幣大社、二十二社の一にして、山城國紀伊郡深草村にあり、倉稻魂神、佐田彦神、大宮女神を祀る、此神は稻穀を播き、福德を授け給ふ神なりとて古



(社神荷稻)

來世の尊信太だ厚く、賽詣の盛なる事諸社に冠たり、伏見街道にあるを以て一に伏見稻荷とも云ふ、醍醐天皇延喜八年の創建たり、天慶八年正一位に進めらる、毎年五月七日例祭を執行す、儀式頗る嚴肅、社前東海道鐵道稻荷停車場あり、京都七條驛を距る一哩六十三鎮。

**くならやま 稻荷山** 山城國紀伊郡深草村深草山の西方伏

し、「いぬかみの」とこの山なるいやざ川、いざとこたへよ名もらすな」(古今集)及「いざや川今や氷も敷妙の、この山風寒く吹くらし」(續千載集)。

**いぬなきさん 犬鳴山** 和泉國泉南郡にあり、紀泉の國境たる、葛城山脈中の一峯にして、高さ五千百餘尺、山頂を燈明嶽と稱す、山中飛瀑多し、就中犬鳴山の七瀧の名遠近に聞ゆ。

**いぬぶしまち 犬伏町** 下野國安蘇郡にあり、同郡佐野町と相接す、栃木町を距る四里二十一町、慶長五年眞田昌幸父子、徳川家康の上杉征討軍に加はらんがため此地に至り、石田三成の徳川氏追討の牒狀に接し向背を議せし地として知らる。

**いぬぼりさき 犬吠岬** 下總國海上郡銚子港の東南端にあリ、一に石切の岬と稱す、海水浴場あり、夏時浴客多し、岬端には有名なる旋轉白色の燈臺あり、其燈光、十九瀬に遠す。

**いぬやままち 犬山町** 尾張國丹羽郡の北隅、名古屋市の北方七里六町にあり、古くは稻置町と稱す、國內風指の名邑にして、郵便電信局、區裁判所出張所、警察分署等あり、物産は陶器糸忍冬酒等多く、殊に犬山焼の名著はる、此地は犬山城のありし處にして、城は町の北方、木曾川畔にあり、天

見町の東北にあり、山頂を三個峯といふ、應仁の亂、僧道源、山名氏を迎へて陣を張りたる苗蹟地たり、山麓宇藤尾に官幣大社稻荷神社あり。

**いなりやままち 稻荷山町** 信濃國更級郡にあり、長野市の南方に位す、其南八幡村大字八幡に入幡宮あり、武水別神社と稱す、又町の北方敷町、鹽崎村字長谷に長谷寺あり、眞言宗に屬し、舒明天皇の御代に白助翁の開基と稱す。

**いなわしろこ 猪苗代湖** 岩代國にあり、耶麻安祇北會津の三郡に跨る、湖は山間にありて、風光絶佳、湖中翁島あり、山北は火山多く、吾妻山磐梯山の如き世人の記憶する所なり、湖水西北に流出して阿賀川となり、越後に入りて日本海に注ぐ、東西三里十一町、南北二里五丁、周囲十六里二十一町、湖上常に汽船の往復あり、以て交通の便を助く、磐梯、會津湖、安祇沼、耶麻井等の別名あり。

**いなわしろまち 猪苗代町** 岩代國耶麻郡にあり、若松市の東方五里二十五町、猪苗代湖畔に位す、耶山若松間の鐵道停車場、郵便電信局及警察分署あり、明治元年、會津征伐の際、白河口の官軍此地より進んで若松城を圍む。

**いぬかみがわ 犬上川** 近江國犬上郡三國嶽に發し、諸流を合せ西流して高宮驛の南を経て琵琶湖に注ぐ、流域六里許、一に高宮川、名取川、伊佐川、不知也川とも稱す、古歌多

正十二年長湫の役、豊臣秀吉此處に陣して家康に對す、慶長五年家康、其子忠吉の傳、平岩親吉に此城を興ふ、其後名古屋藩の附家老成瀬正成の領となり、世襲して明治維新に及ぶ。

**いのなたい 猪鼻嶽** 下總國千葉町の東南に横はれる小丘にして、千葉氏累世の舊城址たり

眺望極めて佳にして千葉町第一の遊覽場とす。

**いのながだけ 猪鼻嶽** 相模國足柄上郡に屹立し、駿河國境に亘る、一に金時山と稱す。

**いばらきけん 茨城縣** 縣廳は水戸市にあり、常陸國一圓と下總の北相馬、結城、猿島三郡とを管す、面積三百八十五方



(街の猪)

里、一市十四郡四十二町三百三十五村より成る。

**すばらきまち 茨木町** 攝津國三島郡にあり、東海道鐵道通過す、郡役所、警察署、郵便電信局、區裁判所、稅務署、中學校等あり、此地は元龜元年に松永久秀の屯して一向宗徒に備へ、天正六年には中川清秀之に據り、慶長十九年には片桐且元の連れし處たり。

**すびがは 揖斐川** (揖尾川)美濃國にあり、源を揖斐郡徳山谷に發し、南流して安八郡に入り、大樽川を合せ、海津郡を経て伊勢に入り香取の東にて木曾川と合し、桑名を過ぎ海に入る、長凡廿五里、一に杭瀬川、呂久川、澤渡川とも云ふ、其木曾川に合する地は永祿二年柴田勝家、長島の一向宗徒と戦ひし處なり。

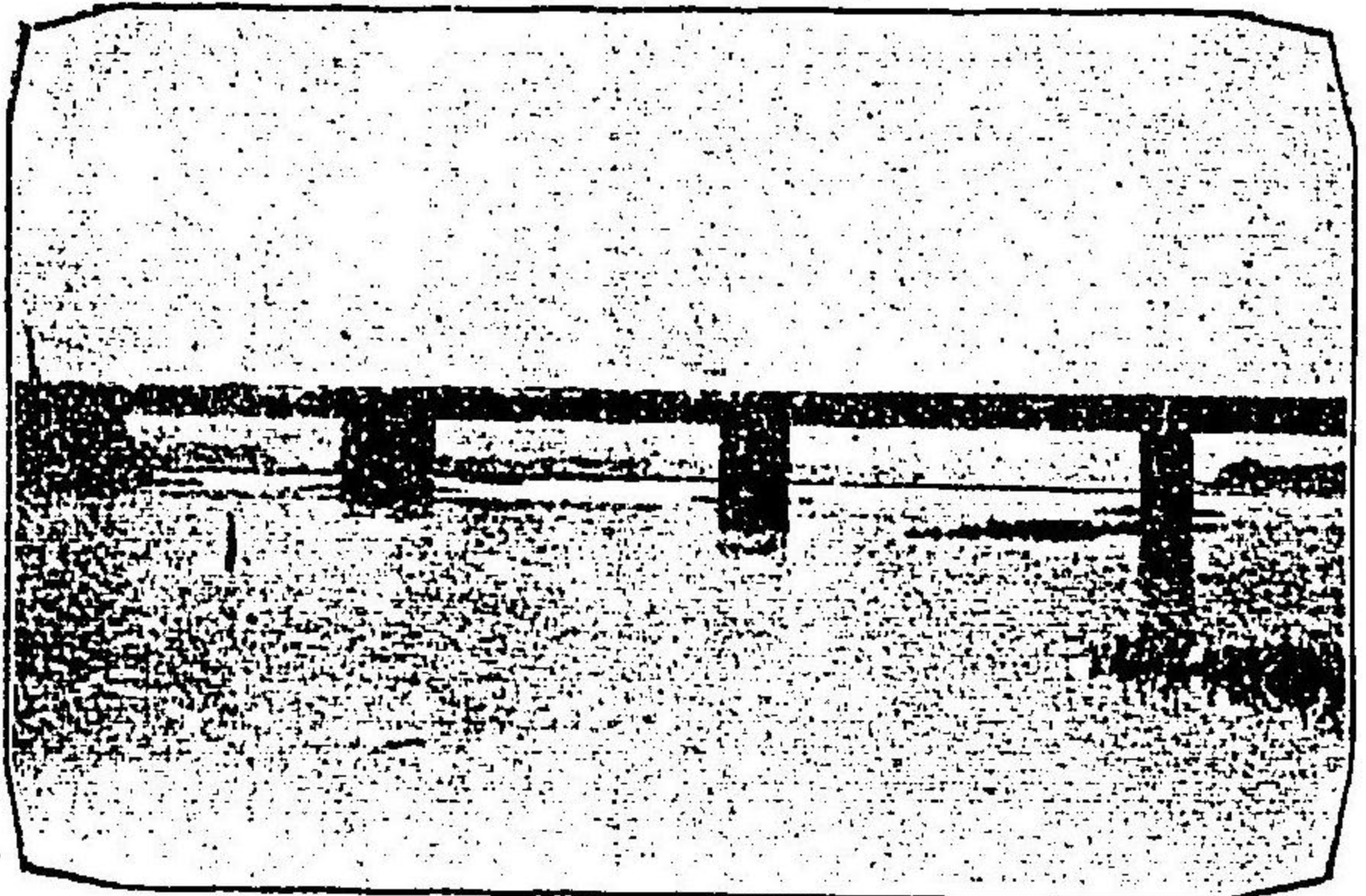
**すびまち 揖斐町** 美濃國揖斐郡にあり、もと三輪町と稱し、岐阜市の西北五里許にあり、郡内第一の市邑にして、郡役所、警察署、郵便電信局、稅務署、區裁判所出張所等あり。

**すさぎやま 伊吹山** 濃飛高原に屬し、近江國琵琶湖の北方、美濃國境にあり、當國第一の高山にして、高さ四千五百餘尺、昔時日本武尊、東征の歸途妖神退治の爲此山に登り給ひしことは有名なる史話たり、平安朝時代には本邦七高山の一に數へられ、江北の鎮山として神社佛閣の設あり、山腹の上平城址は京極氏の築く所にして、一に江北殿と稱し、子を隔て、市街相接す、奈良市の南方五里二十四町、敵傍中學校ありて、木綿織物、煙草等の産多し。

**すまがた 今江潟** 加賀國能美郡の西隅にあり、湖水流出して梯川となり安宅港に注ぐ。

**すまおきち 今尾町** 美濃國海津郡にあり、揖斐川の流域に位し、舟掛の便あり、岐阜市を距ること七里、大垣町へ三里、竹腰氏三萬石の舊城下にして、慶長五年關ヶ原の役、市橋長勝四軍を扼せるの地として知らる。

**すまね 今切** 遠江國濱名郡口を云ふ、後柏原天皇永正七年大海嘯により、浪



孫三百年間の治所たり、古歌多し、綴古今集の「冬ふかく野はなりにけりあふみなる、伊吹の外山雪ふりぬらし」、夫木集の「吹すてて風は伊吹の山のはな、さそひていつるせきの藤川」、山家集の「おぼつかない吹おろしの風さきに、あさ妻舟のあひやしめらん」、等は何れも有名なるものとす。

**すゐり 膽振國** 北海道十一國の一にして、東日高に、北石狩に、西後志に接し、南は渡島及海洋に面す、地勢狹長、西北山嶽連綿せるも、海岸は一帶に平坦なり、國を八郡に別ち、山越一郡は龜田支廳に、室蘭、有珠、虻田、幌別、白老、勇拂六郡は室蘭支廳に屬す、此地、徳川氏の初松前藩に屬せしが寛政年間箱館奉行に屬し、文政四年松前藩に復し、安政二年再び箱館奉行に歸し、明治二年初めて膽振國を置き分つて八郡となし、治所を室蘭に置く。

**すまいまち 今市町** 出雲國鏡川郡鏡川の支流高瀬川畔にあり、松江市を距ること八里十町、國道の衝に當り、西出雲に於ける物貨の集散場たるを以て商業盛なり、郡役所、警察署、郵便電信局、區裁判所、稅務署、小林區署、中學校等あり。○下野國上都賀郡にあり、宇都宮市を距ること七里二町、日光町へ二里、日本鐵道日光線停車場あり。警察分署、區裁判出張所、郵便電信局等あり。

**すまいまち 今井町** 大和國高市郡にあり、八木町と飛鳥川名湖畔の驛路中斷して、今切となる、明治十四年濱名郡新居より舞坂に至るまで一長橋を架す左右より築き出したる土堤を合せて長さ二千六百三十八間、濱名橋と稱す、東海道鐵道の開通するや、之と並びて一長鐵橋を架せり。

**すまご 今戸** 東京市淺草公園の東北にあり、隅田川を隔てて向島に對す、陶器今戸焼の名産地たり、又鮎の雀燒、紫蘇卷等の名物あり、此附近は舊地にして、今戸橋の北方一町許りの今戸八幡は源賴朝、義家の勸請する處、北方橋場は舊く石濱と稱し、千葉常胤の居城たり、橋場の名は源賴朝征奥の時、此處に橋場を組みけるに因ると、又千葉氏の墳墓ある總泉寺、業平の碑ある橋場渡等皆此附近にあり。

**すまはるまち 今治町** 伊豫國越智郡高繩半島の東海岸にあり、松江市を距ること十二里、郡役所、警察署、郵便電信局、區裁判所、稅務署、小林區署、中學校等あり、此地古くは今張と書し、久松氏三萬五千石の舊城下にして、城址は現今吹揚神社の境内となる。

**すまやんじん 今宮神社** 山城國愛宕郡紫野にあり、事代主命、大己貴命、稻田姫を祀る、元一條天皇の御宇正暦五年六月舟岡山の上に祀りけるを、長保二年今の地に移さる、毎年四月十日にヤスラヒ花の神事あり、里民異様に扮装して鉦鼓を鳴らし、此社を廻る、一奇觀たり。○大阪府南區

難波新地より住吉に至る街道に當る、俗に今宮戎と稱す、毎月十日は其縁日にして賽者多く、殊に一月十日は南地五花街より寶惠駕を出し、参詣人非常に雑沓す。

**いまりがわ 伊萬里川** 肥前國東松浦郡大川内山に發し、西流して伊萬里灣に注ぐ、長さ三里許。

**いまりまち 伊萬里町** 肥前國西松浦郡にあり、伊萬里鐵道は有田より此地に至る、唐津の西南七里、佐賀市を距る十二里四丁、郡中第一の都會にして、郡役所、警察署、郵便電信局、稅務署、區裁判所、小林區署等あり、陶器伊萬里燒の産を以て著はる。

**いまりみなと 伊萬里港** 肥前國西松浦郡伊萬里町の前面にあり、東西八町、南北二十町、水深三仞、一に伊萬里の入江とも稱す。

**いまりわん 伊萬里灣** 肥前國下松浦洋の東南の大灣、伊萬里灣、志佐灣の二口に分る、北に大小の數島ありて灣口を扼す、故によく風波を防ぐ、伊萬里港は灣の東南隅十二三涇の奥にあり。

**いみづがわ 射水川** 越中國にあり、源を飛騨國に發し、白川となりて、越中に入り、東瀨波郡の南境より水無嶺の麓に沿ひ、東北流して小矢部川を合せ、北流して富山灣内新港に注ぐ、流域二十一里、一に莊川とも云ふ、下流は一面の平野

島高嶺此地に於て、櫻樹を削り、天冥空句踐、時非無范蠡、云々の句を背し、以て赤誠を表はしたりと稱せらるる處なり、此地に作樂神社あり、帝及高徳を祀る。

**いんばぬま 印旛沼** 下總國印旛郡佐倉の北方にあり、東西二里、南北七里、周回十二里、其水北流して利根川に注ぐ。

**いんべむら 伊部村** 備前國和氣郡和氣の南方にあり、陶器伊部燒の産地として有名なり、伊部は忌部にて古代忌部氏の部民ありて祭器を作りたる處か。

**いんべじんじや 忌部神社** 阿波國徳島市富田浦町にあり、國幣中社にして、忌部氏の祖天富命の命によりて、此國に下り、農業を奨励せしめられし、天日鷲命を奉祀す。

**いんよてつとー 陰陽鐵道** (官設) 伯耆國境港より起り、因幡國鳥取市を経て、姫路に聯絡する豫定線路にして、今境、青谷間落成して運轉營業を行ふ。

**いもせりま 妹背山** 大和國吉野郡上市町の東方五町にあり、吉野川を狭んで上市の方即北岸にあるを妹山と云ひ、川を隔てて相對するを背山と云ふ、古今集に「流れては妹背の山の中に落つる、吉野の川のよしや世の中」とある、これなり、其他此山につき詠せる古歌多し、妹山山上に大名持神社あり。

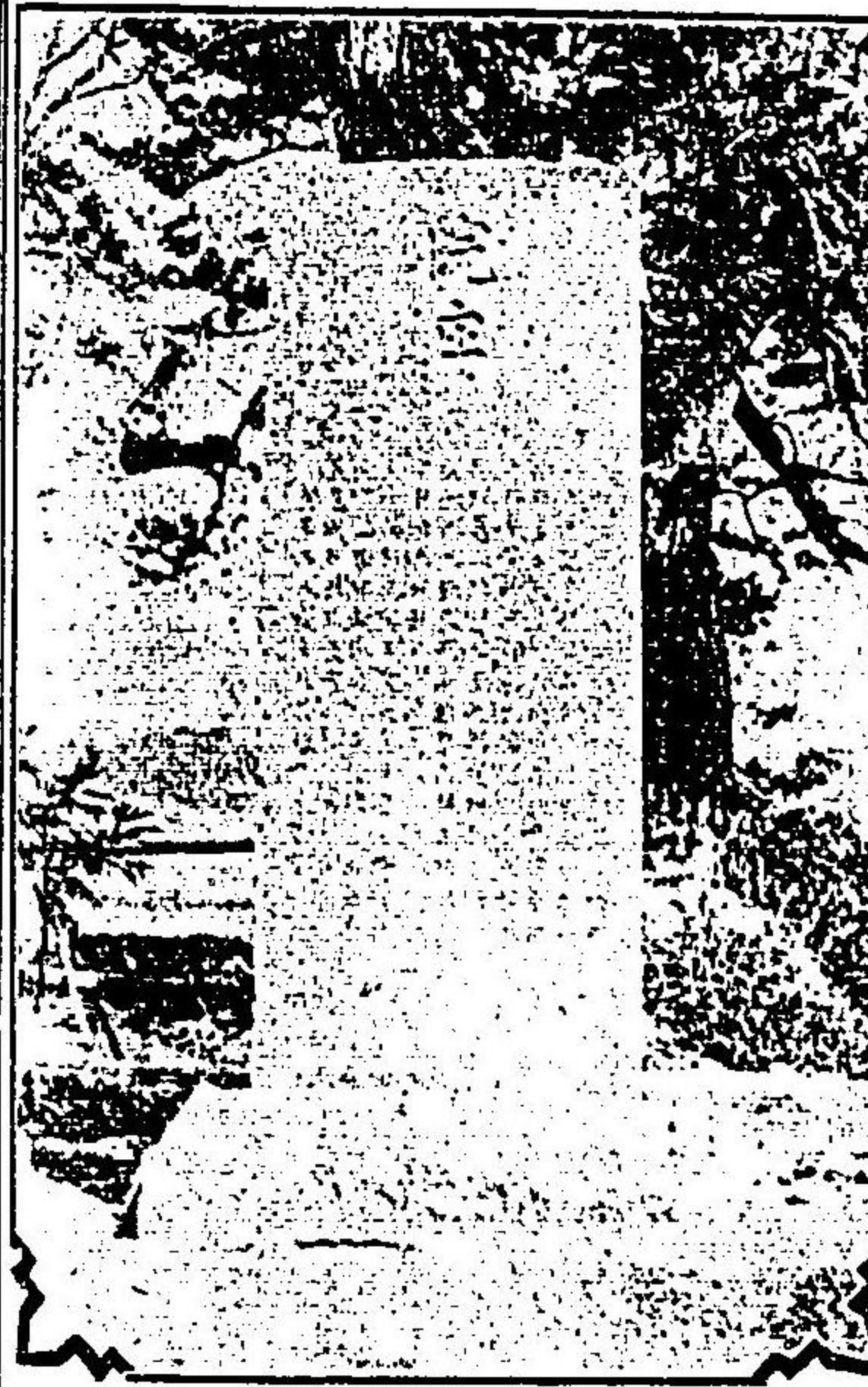
**いもつか 芋塚** 石見國大森附近より國境迄一町毎に石塚あり。

にして所謂越中米の産地たり。

**いんないまち 院内町** 羽後國雄勝郡の西南隅、御物川の上流にあり、横手町を距る八里三十二丁、湯澤町へ四里十二町、此地に有名なる院内銀山あり、金銀の産額多し。

**いんのしま 因島 (院の島)** 備後國西南方の海中にあり、南北二里、東西一里、周回十里十町、御調郡に屬す、本島は伊豫三島と相連接するを以て、中世越智河野の餘族たる海賊に略守せられ、其根據地となり、因島村上黨と號し、海上の一雄族たりき。

**いんのしよー 院庄** 美作國苦田郡にあり、津山の西方一里半に位す、元弘二年後醍醐天皇、隱岐に遷され給ふや、見



(碑の内社神樂作庄の院)

あり、昔時此地の代官井戸某、官金を以て芋を購ひて飢民を救ひ、且つ其培養法を教へて自殺す、里人其徳を慕ひて塚を建て、毎年寺々にて芋供養なる法會をなす、又一奇風なり。

**いながわ 祖谷川** 阿波國美馬郡祖谷村にあり、源を祖谷山中に發し、山間の諸流を合して、吉野川に入る、川は絶壁の間を流る、里人藁橋を架して往來に便す。

**いやすん 祖谷山** 阿波國美馬郡池田町の東南山中祖谷川の流域にあり、其地東西十三里南北七里、數十の村落ありて、殆ど他と交通を絶つて別に一區域をなす、住民何れも壽永の際、八島に没落せる平國盛の後裔なりと稱す。

**いよ 伊豫國** 南海道六國の一にして、東阿波讃岐に、南土佐に接し、西北二面海洋に面す、地勢東西に長く南北に短かく、土佐に接するの地は四國山系各處に峰起し、山嶺皆險峻なり、海岸一帯に港灣の出入多く、島嶼の點在又極めて多し、國を別ちて松山市、宇摩、新居、周桑、越智、温泉、上浮穴、伊豫、喜多、東宇和、四宇和、南宇和、北宇和の一市十二郡となし、愛媛縣に屬す、古は伊余に作る、此れ古事記の伊余の二名島より出づ、元は四國の總名なりしを、後に一國となせり、此國、平安朝末期の頃迄河野氏一族の勢力範圍内に歸し、其後幾多の變遷ありしが、天正年間長曾我部氏の爲めに滅ぼされ、次で豊臣氏の併す所となり、小早川隆景入つて封

を受く、其後福島、加藤(嘉明)、戸田、藤堂等の諸將相次で此地に封ぜられしが、徳川氏の世に及び、松山(久松氏十五万石)宇和島(伊達氏十萬石)、西條、今治、大洲、吉田、小松の七藩ありて之を分治せり、王政維新後松山、宇和島兩縣を置きしが、明治六年二縣を併せて愛媛縣となす。

**いよてつごー 伊豫鐵道** 伊豫國松山市より起り、高濱、森松、郡中、道後等に通ずる輕便鐵道なり、道後に行くを道後鐵道と云ひ、南方に行くを南豫鐵道と云ふ。

**いよふじ 伊豫富士** 興居島の別稱、同島の山、其形富士山に似たるを以て此稱あり。

**いづるかた 伊良胡岬** 三河國渥美半島の西端を云ふ、尾張の師崎と對して三河灣を擁し、志摩國と相對して、伊勢海口を扼す、風光明媚傍に磯嶽あり、山石と稱す、航海者の驚怖する所なり。

**いりおもてしま 西表島** (入表島) 琉球國石垣島の西方六里にあり、周圍二十九里、分て入表、古見の二となす、内地は凡て山岳連亘し、平原沃野の耕地少なし、海岸又嶮岸峭立して投錨に便ならず、北東に古見、鰐川の二小港あれども大船の碇泊不便なり。

**いるまがはまち 入間川町** 武藏國入間郡にあり、人口四千餘、區裁判所出張所、郵便電信局あり、川越鐵道此地を通

過して川越町に通ず。

**いろーろ 石廊崎** 伊豆國の南端、海中に突出すること七町、一に伊豆岬と稱す、不動赤色の燈台あり、其光十裡に達す、崎の岩窟に石室神社あり、伊波列命を祭る、式内に列す。

**いはおんせん 岩井温泉** 因幡國岩美郡の東北にあり、島取市を去る三里半當國有名の温泉にして、鹽分を含み、貧血症、疝氣、梅毒等に効あり、近國のもの來り浴し、春時最も賑ふ、岩井八景は、國人の常に賞揚する所なり。

**いわいまち 祝町** 常陸國水戸市の東方磯濱町にあり、那珂川をへだてて港町御殿山に相對す、水戸の遊廓地として名あり。

**いわき 磐城國** 東山道十二國の一にして、東太平洋に面し、西下野岩代に、南常陸に、北陸前羽前に接す、地勢一般に山多く、沿海の地及阿武隈川沿岸の北は稍平坦なりとす、中部は所謂阿武隈山脈南北に貫通し當國の分水山脈たり、旭嶽、甲子山を初め其他の高山多し、國を分つて東白河、西白河、田村、石城、相馬、雙葉、石川、菟田、伊具、亘理の十郡とす、其中亘理、菟田、伊具の三郡は宮城縣に屬し他は福島縣の管下につく、此國古は陸奥の一部にして養老二年磐城岩背二州を置きしも後復陸奥に合し、明治元年五月、陸奥を割て五國となすに及び、遂に現今の國をなせり、戰國の際に

は群雄割據、戰亂の巻となり、伊達氏の勢力漸く強く、相馬、磐城、田村の諸氏之に次ぐ、徳川氏の世に及び、中村、榑倉、三春、泉、湯長谷、磐城平、守山、白河等の諸藩ありて各之を分治す、明治維新後、角田、平、磐前等の諸縣を置きしが明治九年初めて福島縣に合す。

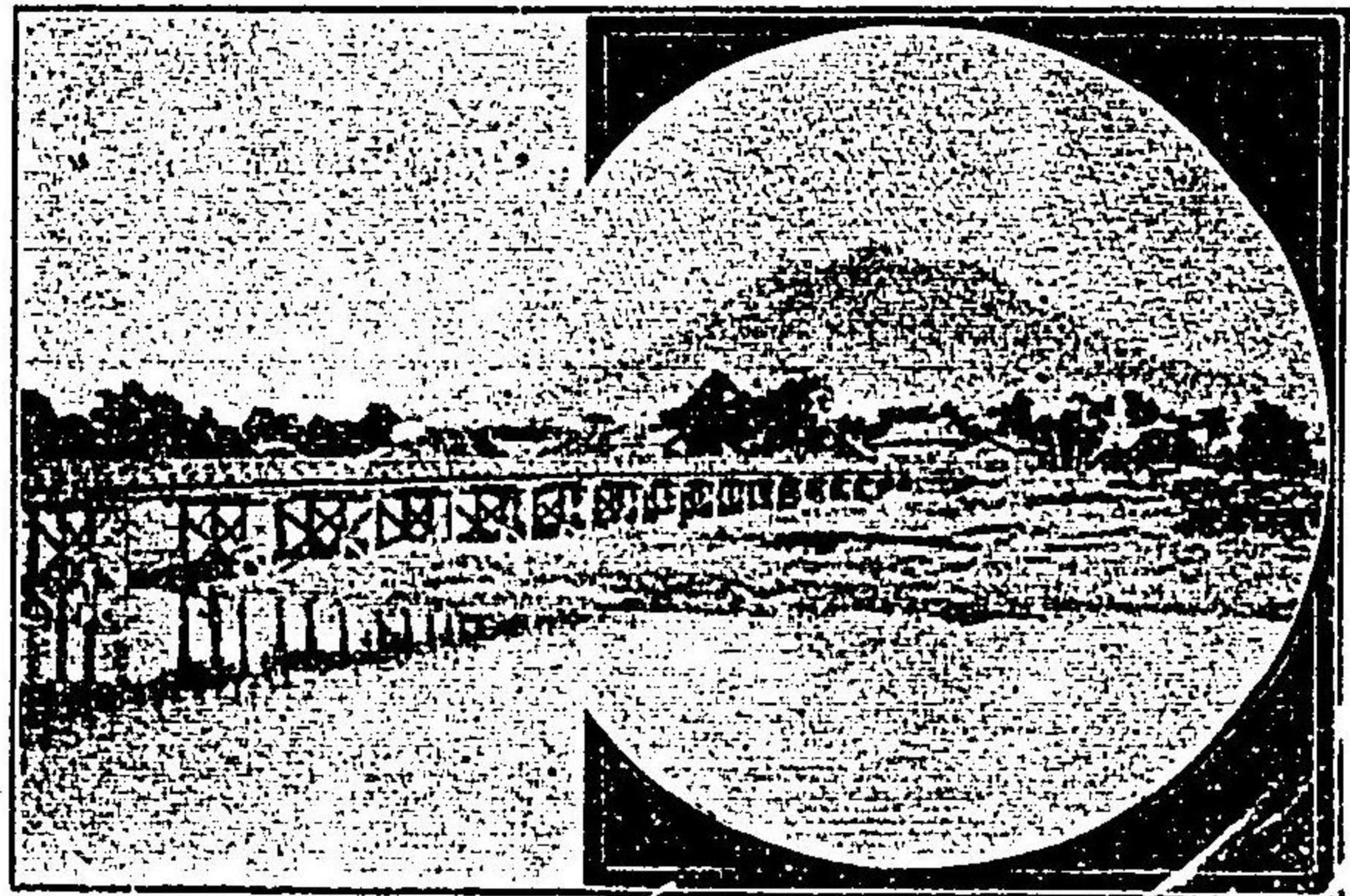
**いわきがわ 岩木川** (磐城川) 陸奥國にあり、源を中津輕郡の南隅泊岳の連山なる突坂、暗門澤等の山間より發し諸水流を合して西北に流れ、弘前市の附近を過ぎて淺瀬、石川、平田の諸川を合し、北津輕、南津輕の郡境を北流して、十三瀉に注ぐ、長二十五里、其流域概ね平坦にして、津輕米の産あり、川口より十里餘舟楫の便あり、一に弘前川とも云ふ。

**いわき 岩木火山脈** 出羽山脈の別稱。

**いばきたひら 磐城平** 磐城國石城郡の東方夏井川畔にあり、委しくは(たいらまち)を見よ。

**いばき 岩木山** (岩城山) 陸奥國弘前市の西方三里に

534



あり、高さ五千二百餘尺、山頂常に白雪を戴き、眺望甚だ佳なり、奥富士、津輕富士の別稱あり、其東麓に岩木山神社あり、國幣小社にして、顯國魂神、多都比毘賣命等を祭る。

**いわくにがわ 岩國川** 周防國にあり、一に錦川、玖珂川とも云ふ、源を都濃郡石見の國境に發し、諸小流を合して北流玖珂郡を過ぎ、東南流岩國町を過ぎて海に入る、流域二十四里。

**いわくにまち 岩國町** 周防國玖珂郡錦川の左岸にあり、廣島市を距る十二里廿二丁、山口町へ二十一里、郡役所、警察署、郵便電信局、區裁判所、小林區署、中學校等あり、吉川氏の舊城下にして城址は川の右岸横山にあり、稻糠、生糸、牛紙等の産出を以て名あり、有名なる錦帶橋は此地より横山村に亘り錦川上に架せるものにして長二十五間。

**いわくらむら 岩倉村** 山城國愛宕郡にあり、鞍馬山と京都市との中央に位す、此地に圓融天皇の勅願所たる天台宗實

535

相院あり、古くは建武二年藤原藤房此地に遷世し、近くは文久二年岩倉具視此地に遷す、此外古跡多し。

**いわくらじそーいん 岩倉實相院** 山城國愛宕郡北岩倉にあり、四融天皇の御代に戸部納言文範をして造營せしめ給へるものにして智辨僧正の開基とす、初め岩藏山大雲寺と號せしが、實相院發尊之を再興してより今の名に改む。

**いはくらまち 岩倉町** 尾張國丹羽郡にあり、小牧町を距ること一里二十丁、文祿二年七月織田信長、從祖父信安と合戦せる古戰場たり。

**いわしみづはちまんぐー 石清水八幡宮** 男山八幡宮の別稱。

**いわしろ 岩代國** 東山道十三國の一にして、東南磐城、下野、上野の三國に、西越後に、北羽前に隣る、地勢山嶽重疊平地甚だ少なけれども、東部即ち阿武隈川沿岸の地は地味稍豊沃にして、農産物の産出多し、國を別ちて安積、岩瀬、安達、伊達、信夫、南會津、北會津、河沼、耶麻の十郡となし、福島縣の管下たり、古くは陸奥の一部にして、明治元年五月陸奥を割きて五國となせる際初めて岩代國を置かる、此國は磐城國とともに陸奥の關門として南方北漸の衝に當り、源賴朝の奥州征伐の遺跡を初め其他史上有名なる者多し、戰國の末、上杉、伊達、峯名等の諸氏尤も勢力を振ひ、徳川氏の

世に及び、會津、二本松、福島之三藩を置きて各々之を分治せしむ、明治維新後、白河、福島、若松の三縣を置き、其後改めて、二本松(後福島に改む)、若松の二縣とせしが明治九年終に磐城の各郡を併せて全部福島縣に屬す。

**いわすげやま 岩菅山** 信濃國下高井郡島甲山の西南方にあり、高さ七千五百餘尺。

**いわつしまち 岩槻町** 武藏國南埼玉郡にあり、浦和町を距る北三里十五町、粕壁驛へ二里十一丁、岩槻街道の衝に當り、人口六千餘、郡役所、警察署、郵便電信局、區裁判所出張所あり、城址あり、もと太田資持の築く所と稱す、豊臣氏の代高力清長此地に封せられ二萬石を食みしが、徳川氏の中世大岡氏の有となり、世襲して明治維新に及ぶ。

**いわてけん 岩手縣** 縣廳は盛岡市にあり、陸前の内氣仙郡、陸中の内磁手、紫波、和賀、稗貫、東磐井、西磐井、膽澤、江刺、九戸、上閉伊、下閉伊の十一郡及陸奥の二戸郡を管す、面積、八百九十九方里一九、一市十三郡二十二町二百十八村より成る。

**いわとやま 岩戸山** 筑後國八女郡高良山の南方福島町に至る途中吉田村にあり、瓢形の大古墳にして、石人あり、筑紫の國造磐井が墓ならんと云ふ、但し今は石棺も開掘せられて存せず。

**いわとのやま 岩殿山** 甲斐國北都留郡橋本驛の西方にあり、頂上に岩殿城趾あり、武田氏の部將小山田信茂の據りし處なり。

**いわないまち 岩内町** 後志國岩内郡の西海岸にあり、支廳及警察署、郵便電信局、稅務署、區裁判所等あり、港は東西八町南北七町、水深四十尺、兩館、小樽間往復の汽船日々寄港して交通の便を助く、此地の北方三里茅沼川の上流に岩内炭山あり。

**いわないだけ 岩内嶽** 後志國岩内郡の東部にあり、有名なる炭山にして、毎年三百萬斤内外の採掘あり、岩



(岩内町鳴神の瀧)

内川口迄、鐵道を設けて石炭運搬に供す。

**いわねまち 岩沼町** 陸前國名取郡阿武隈川の北岸に在り、陸羽街道と濱街道との接續點にして、今は日本鐵道奥州線と常磐線との交叉點たり、警察署、區裁判所出張所、郵便電信局等あり、此地は元武隈の地にして、多賀城に移る以前迄、陸奥の國府のありし處なり、又此地に有名なる武駒神社(武隈とも云ふ)あり、承久九年の創建と稱し、沼澤明神を祭る。

**いわねやま 岩根山** 伊勢國鈴鹿郡鈴鹿山の東にあり、一に筆槍山と稱す、傳へ云ふ、昔狩野元信此地に來り山景を畫かんとして成らず筆を捨てて去る、因つて此名ありと。

**いわねまち 岩船町** 越後國岩船郡三面川の兩岸にあり、新潟市の東北十三里餘、村上一里半、昔時岩船櫓を置きて蝦夷に備へし遺址なり。

**いわみ 石見國** 山陰道入國の一にして、東備後出雲に、西長門に、南安藝に接し、北日本海に瀕す、地勢東西に長く、南北に短かく、山峯重連三方に回り、北方僅かに平坦なるのみ、國を邑智、瀬原、安濃、那賀、美濃、鹿足の六郡となし、島根縣に屬す、鎌倉幕府時代に藤原國香當國の守護に任ぜられてより子孫永く此地にあり、益田、三隅、福屋等の諸族に分れ各一方に據りしが、大永の初、大内氏の討滅する所とな

り、次で毛利氏の征服する所となる、徳川氏の世に及び、津和野、濱田の二藩を置き、龜井氏津和野に、松平氏濱田にありて之を治む、王政維新後兩藩を廢して濱田縣に併せ、今は島根縣の管轄に屬す。

**いんがわ 石見川** 江の川の別稱「こい」の川を見よ。

**いんがわ 岩見澤村** 石狩國空知郡の西南部石狩原野の中央に位す、空知支廳の所在地にして、郡内第一の農村とす、警察署、郵便電信局、學校、病院及各種の農産物製造場等あり、炭礦鐵道此地より砂川線及幌内郡春別線を分岐す。

**いんがわ 岩村町** 美濃國惠那郡にあり、岐阜市の東方二十一里七町、郡内第一の都會にして、警察分署、郵便局、區裁判所出張所等あり、此地は鎌倉時代の末、加藤景廉の據りし處、徳川時代松平家乘二萬石に封ぜられ、後三萬石となり、世襲して維新に及ぶ、城址今猶存す。

**いんがわ 岩屋町** 淡路國津名郡の北端にあり、明石海峡を隔てて、播磨國に面す、岩屋港は其前面にありて播磨明石に對す、相距る僅かに二十八丁、此間を岩屋海峡とも稱す、港は水淺くして碇泊に便ならず。

う

**うさぎまち 植木町** 肥後國鹿本郡にあり、一に味取新町と稱す、鹿本市を距ること二里廿九町九州鐵道停車場あり、明治十年役の古戰場として名あり、植木の名は此地の附近に植木森といふ茂りたる丘あるを以て名けたるなりと。

**うただまち 上田町** 信濃國小縣郡にあり、長野市の東南十里五町、もと松平氏五萬三千石の藩城下たり、高崎直江津間の鐵道通過す、此地街道の衝に當り、國中長野市に亞ぐ都會とす、郡役所、警察署、郵便電信局、稅務署、區裁判所、小林区署、中學校等あり、養蠶の盛地にして、絹織物の産多く、殊に上田袖の名著はる。

**うのこいん 上野公園** 東京市下谷區にあり、元東叡山寛永寺の境内にして、忍が岡とも云ふ、明治六年始て公園地となす、面積十六萬九千六百坪、宮内省の直轄にして、園内博物館、動物園、圖書館、美術學校、音樂學校、商品陳列場、及び清水觀音堂、大佛、東照宮、寛永寺、兩大師、徳川氏廟、彰義隊碑、西郷隆盛銅像等あり、東都櫻花の名所にして、陽春の候都下數萬の士女、花間に宴を張り、語ひ興する者日々群稱す、此地舊幕時代には徳川將軍家の菩提所たる寛永寺の

所在地たりしを以て七堂伽藍の入目を驚かすに足るものありしが、明治元年彰義隊此に據り官軍と苦戦せし際遂に兵燹にかかりて大半烏有に歸せり。



(像銅の盛隆郷四内園公野上)

**うのこいん 上野町** 伊賀國阿山郡にあり、藤堂氏の舊藩地にして、國中第一の都會たり、關西鐵道此地を通過す、郡役所、警察署、郵便電信局、區裁判所、稅務署、小林區署、中學校等あり、有名なる月瀬梅林を距ること三里餘人車の便あり、町に傘を産す、城側健屋の辻は寛永年間渡邊數馬の仇討せし處なりと。

**うおしまち 魚津町** 越中國下新川郡にあり、富山市の東方六里七町に位す、國道の衝に當り、商業頗る盛にして、

郡役所、區裁判所、警察署、郵便電信局、稅務署、中學校等あり、漆器、珊瑚、蝦等の産出を以て名あり。

**うきしまち 浮島沼** 富士八湖の一にして、駿河國富士郡元吉原村にあり、一に富士沼とも云ひ、古くは須戸の湖とも稱せり、東西三十五町、南北二十四町、周囲三里餘、其水西に流出し、澗川に會して海に注ぐ。

**うご 羽後國** 東山道十三國の一にして、東陸中に、南羽前に、北陸奥に接し、西日本海に臨む、地勢三面山嶽重疊たるも、其南北に御物能代の二大川ありて、其流域田野多く米穀の産多し、國を分つて秋田市、飽海、河邊、雄勝、平鹿、仙北、南秋田、北秋田、山本、山利の一市九郡とし、飽海一郡は山形縣に他は秋田縣に屬す、昔は羽前と共に出羽國と稱し、和銅年間、陸奥、越後を分つて置かれたるものとす、天平寶字中秋田城を築き、秋田城介を置きて之を守らしむ、前九年、後三年の役、源賴義、義家父子の遠征あり、鎌倉時代に安邊景盛秋田城介に任ぜらしが孫泰盛に至りて滅ぶ、其後應永年間安東庶季秋田城に居り四隣を服す、此れ則ち後の秋田氏にして子孫永く此地にあり、小野、六郷氏等とともに覇を一方に稱せしが、徳川氏天下を一統するに及び、諸地を収めて佐竹氏を秋田に封す、松嶺、木庄、矢島の諸藩とともに全國を分領し以て明治維新に至れり、明治元年十二月出羽を割



て羽前羽後の二國とす。

**うしなじんじや 宇佐神社** 官幣大社、豊前國宇佐郡宇佐町にあり、八幡大神を祭り比賣神及大帯姫を祀す、元明天皇和銅五年の創建たり、一に宇佐八幡宮とも云ふ、天下有数の大社にして、和氣清原の故事を以て其名史上に名高し。

**うしなまち 宇佐町** 豊前國宇佐郡にあり、九州鐵道豊州線停車場あり、御許山の北麓、驛館川の東に位す、小倉市を距ること約十八里、此地に有名なる官幣大社宇佐神社あり。

**うしおさき 潮岬** 紀伊國西牟婁郡の東南端にあり、半島斗出すること約一里餘、熊野灘紀州灘を境す、岬端に燈台あり、此近海潮流急にして、波濤暴く航海者の大に危険とする處なり。

**うしおやま 牛尾山** 肥前國小城郡にあり、小城、松浦兩郡の境に變ゆる天山の別嶺にして、天文年間千葉胤頼、此地に城を築けること史に見ゆ。

**うしくぬま 牛久沼** 常陸國稻敷郡西境にあり、周圍六里六丁、魚類の産多し。

**うしつまち 牛津町** 肥前國小城郡にあり、佐賀市の西方二里十七町、九鐵長崎線通過す、警察分署、郵便電信局、區裁判所出張所等あり、明治七年佐賀の亂に官軍長崎より上陸し、此地にて初めて敵に會せり。

町、今は波止場によりて宇品町に接続せり、島上觀音堂あり、島南に海水浴場あり。

**うしはしむら 牛橋村** 三河國碧海郡矢作川の南方にあり、燕子花の名所として有名なる八つ橋の古蹟ある處たり。

**うしづかまち 牛深町** 肥後國天草郡天草下島の北端にあり、長崎港へ六十里、本島第一の港にして、水深九仞餘、東西四町南北六町あり。

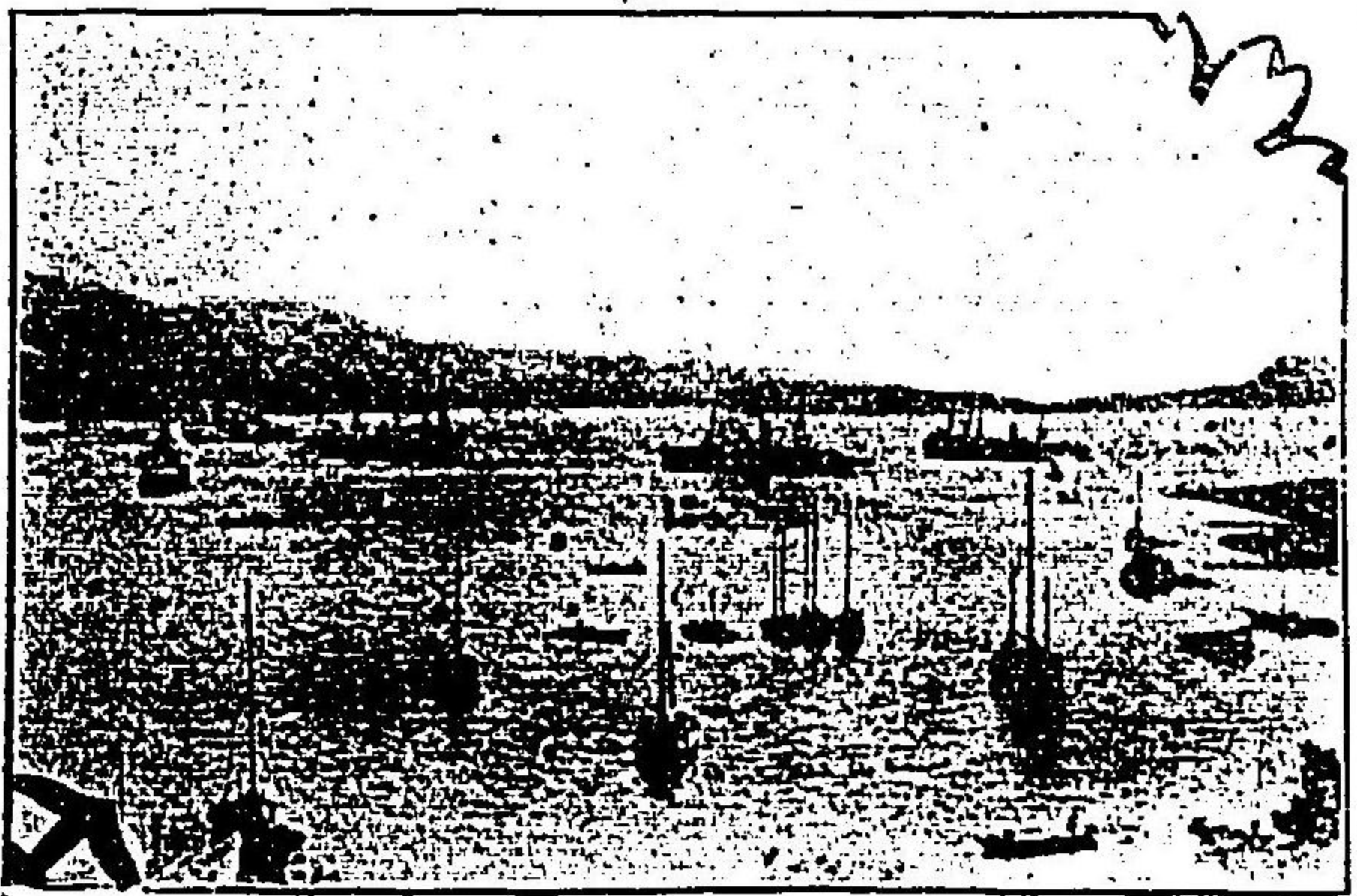
**うすいどーげ 碓氷峠** (白井嶽) 一に笛吹嶽とも云ふ、上野國碓氷郡より、信濃國輕井澤に出づる處にあり、中仙道中の險路にして、昔時日本武尊の橘姫を追懐して「吾妻はや」の嘆をもらし給ひし處なりと云ふ、今は山下に二十六の隧道を穿ち、鐵道を布設し、アプト式によりて汽車を進行せしむ。

**うすかわん 薄香灣** 肥前國平戸町の西、生月瀬戸の東側にあり、港にして、灣口狭きも船舶の出入に支障なく、港内水深く、好錨地と稱せらる、灣の南側に薄香浦と稱する、小村落あり。

**うすまぢ 白杵町** 豊後國北海郡白杵灣頭にあり、稻葉氏五萬六千石の舊城下にして、大分町を距る六里、郡役所、警察署、郵便電信局、區裁判所、稅務署、小林區署、中學校等あり、白杵港は東西十三町、南北十町、水深一仞一尺、白杵灣

うしなみなと 宇品港 安藝國廣島市の南方にあり、一に小

深港とも云ひ、明治十七年起工し同二十二年竣工せる築港にして、當時の出費三十餘萬圓と稱す、港内水深く大船巨船の碇泊に便なり、明治二十七八年の日清戰役及三十七八年の日露戰役に於て我數萬の軍兵此地より出軍せり、爾來宇品の名は漸く高く、新市街の勃興驚くべく、殆んど日進月歩の觀あり、今や山陽道中風指の要津として、船客貨物の集散頗る盛なり、大阪港へ一七六里、下關港へ一二三里。



**うしなしま 宇品島** 安藝國宇品港の西にあり、周圍二十七頭に位す。

**うすまわん 白杵灣** 豊後國北海郡佐賀關の西南にあり、楠屋崎南方に斗出して灣口をなし、津久見島其前面にあり、灣内白杵町及白杵港あり。

**うすだけ 有珠岳** (白嶽) 膽振國有珠郡にあり、活火山にして、高さ三千四百餘尺、慶長以後再三噴火す、山上三箇の小池あり、噴火口なりと云ふ。

**うしつまち 宇出津町** 能登國鳳至郡にあり、人口約六千郵便電信局、區裁判所出張所、水産講習所等あり、物産は鯨、鯨等多し。

**うぜん 羽前國** 東山道十三國の一にして、東陸前に接し、西日本海に面し、南岩代、越後に界し、北越後に連なる、地勢西南部は平原多けれども、他の三面は山嶽起伏して平地少し、最上川殆んど國の中部を貫流し其流域平野肥饒高低多し、國を分つて山形市、米澤市、東村山、西村山、南村山、北村山、東田川、西田川、東置賜、西置賜、南置賜、最上の二十市郡となし、山形縣に屬す、此地古くは羽後國とともに出羽と稱せしが明治元年十二月分つて二國となる、足利氏の末には伊達(置賜方面に)、最上(最上村山方面に)、武藤(庄内方面に)の三氏各其地方に割據して互に討伐を事とせしが、豊臣氏の世伊達氏を移して上杉氏を封じ、武藤氏は最上

氏の爲めに滅ぼされ、次で上杉氏の併す所となる、徳川氏の世、最上氏の地を削りて、島居忠政を山形に封じ、次で酒井忠勝を庄内鶴岡に封す、其後幾多の變遷あり、王政維新の際には、米澤、山形、鶴岡、上山、新庄、長瀬、天童、松山の諸藩ありき、明治四年藩を廢して縣を置き、山形、置賜、酒田の三縣ありしが、同九年之を廢して山形縣下に屬す。

うそりやま 宇會利山 陸奥國恐山の別稱。

うたのなかやま 歌中山 京都清水の山中にあり、寺あり清閑寺と云ふ、往昔當寺の僧眞燕、門前に美女の居るを見て煩悩を發す、女其和歌を以て之を戒む、依て此名起れりとのこと當寺縁起に見ゆ。

うちうらわん 内浦灣 渡島、膽振の二國によりて包まらるる海灣にして、一に噴火灣と稱す。

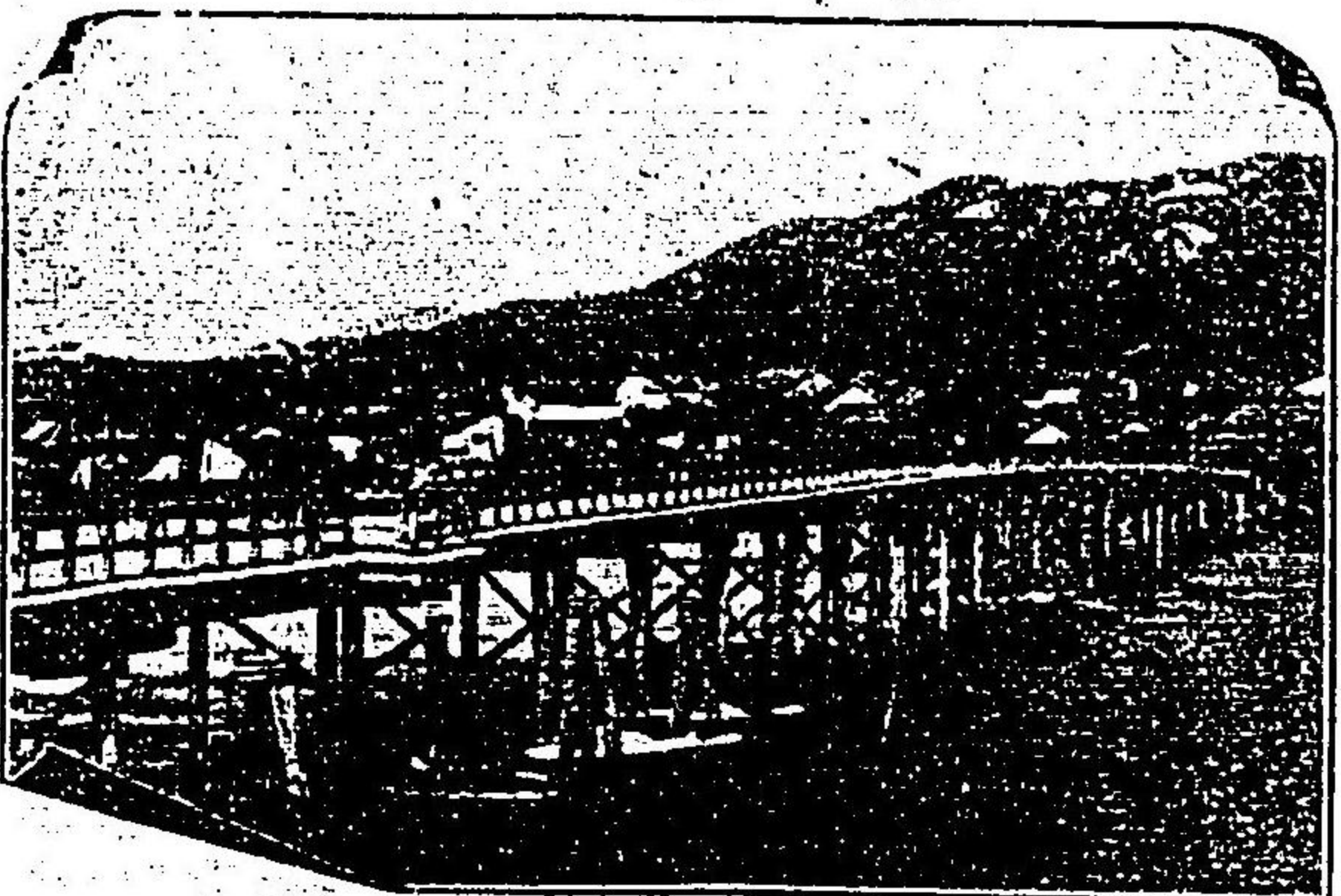
うぢがわ 宇治川 山城四大河の一、近江の勢田川の下流なり、山城に入り宇治、久世、綴喜の三郡界を過ぎ、西北流伏見町を経て西南に轉じ、淀町に至りて淀川に會す、川岸は有名なる古戦場にして、就中元暦元年木曾義仲征討の際、賴朝の部將佐々木高綱梶原景季互に先登を争ひしは史上著名なる事蹟なり。

うちでのばま 打出濱 近江の古名所にして、滋賀郡大津町松本石場の附近を云ふ。

うぢぼし 宇治橋 山城國久世郡宇治町にあり

宇治川に架す、長さ十三間餘、孝徳帝の大化二年僧道昭初て之を架せり、これを本邦架橋の初めなりと云ふ、新古今集に「年經ぬる宇治の橋守」とはん、幾世になりぬ河のみな上」との詠歌あり。

(宇治の橋)



うぢまち 宇治町 ●山城國久世郡宇治川畔にあり、京都より四里十二町、京都奈良間の鐵道通過す、茶の名産地として名あり、此地は史上有名なる所にして、治暦四年藤原頼通此に退隱す、治承四年源頼政平等院に戰歿す、元暦元年源義經此處に陣す、有名なる宇治川の先陣争は此時の事なり、平等

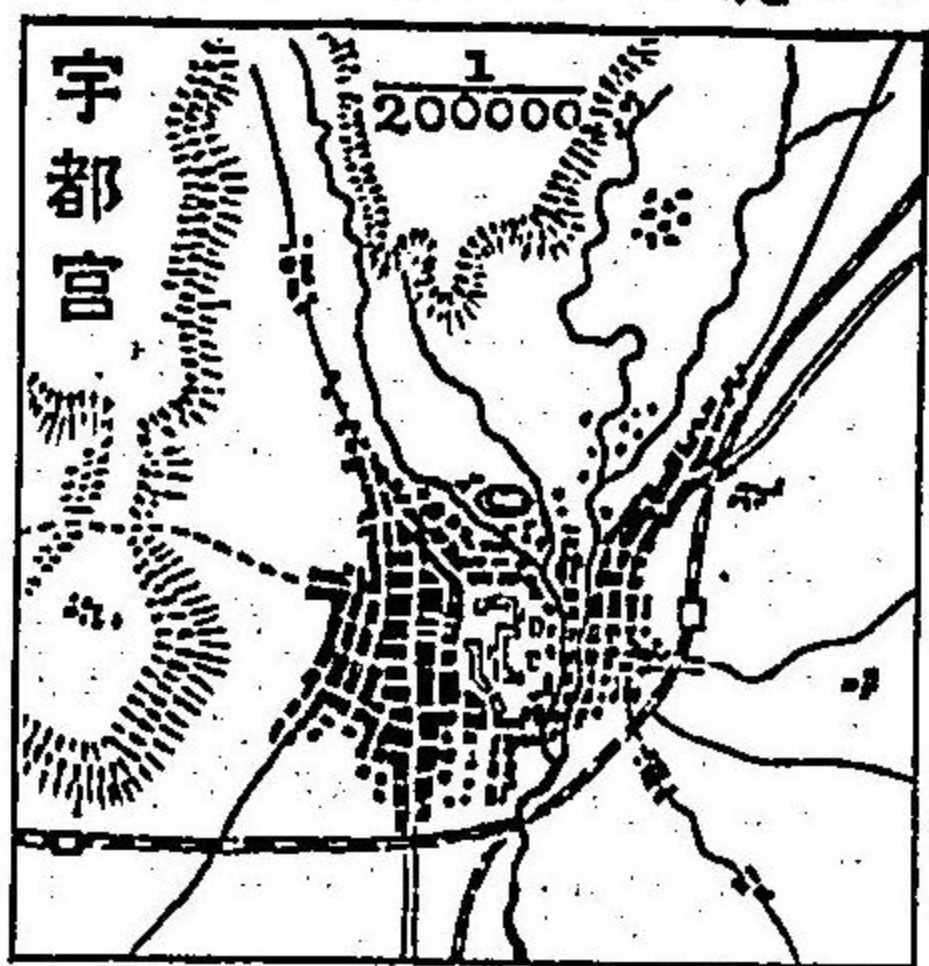
院、橋姫社、宇治橋等の名蹟多し、川畔の風景太佳、殊に新緑螢火の頃を尤も宜しとす、附近宇治村は同國宇治郡宇治川畔にあり、川を隔てて宇治町に對す一帶の地茶を産すること多く、其産額全國第一に位す、此地古來よりの名邑にして其附近皇后中宮の陵及び、平安朝時代の舊蹟多し、●伊勢國宇治山田町を見よ。



(宇治の茶摘)

うちまたまち 宇治山田町 伊勢國度會郡宮川の沿岸にあり、津市を去る南方十里十町、參宮鐵道此地に達す、町の中央に浦田坂あり、其東南を宇治町と云ひ、西北を山田町

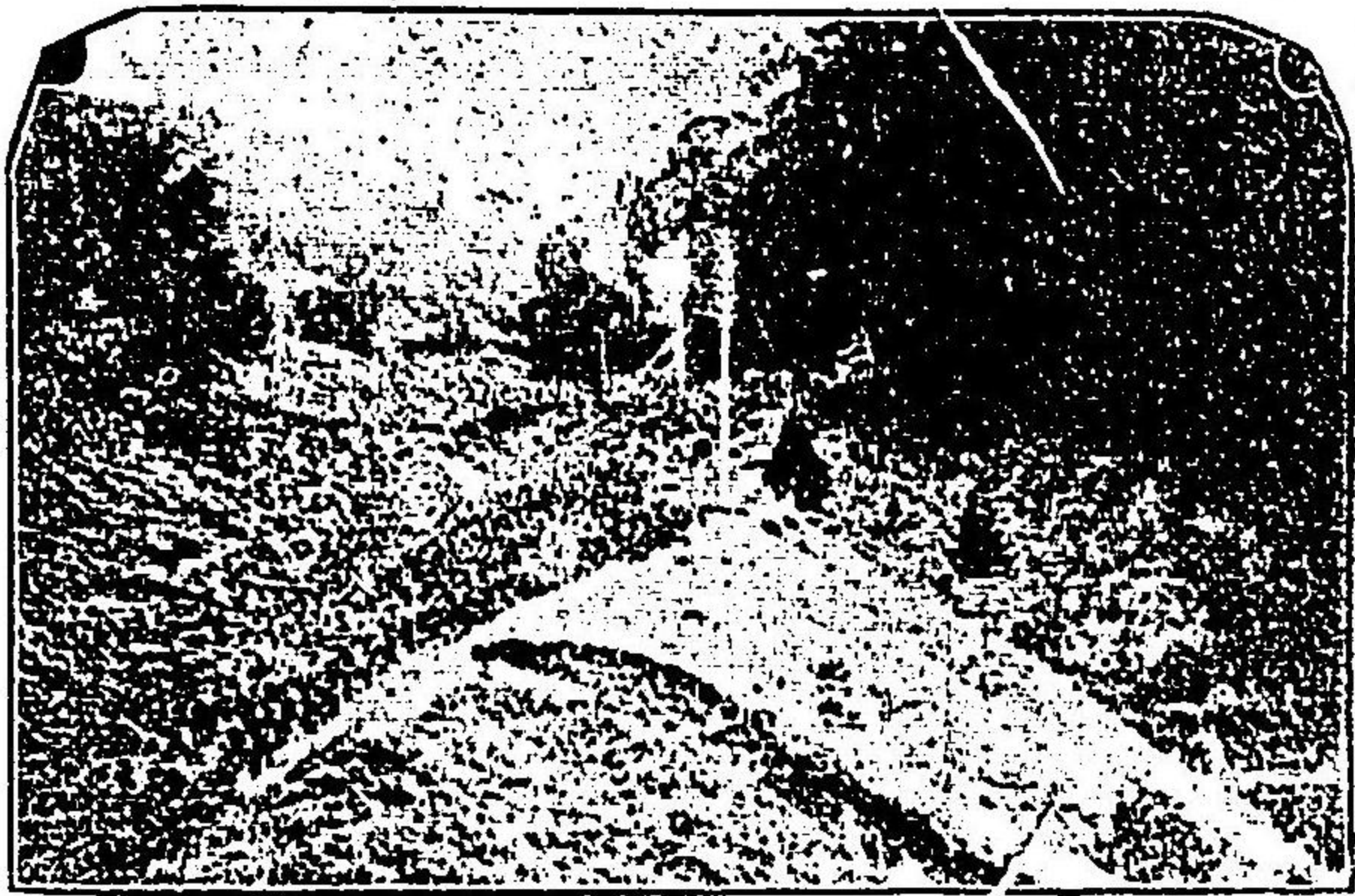
と云ふ、もと二町なりしが明治廿二年合併して今の名に改む、神宮支廳、神宮皇學館、神宮奉齋會、御料局事務所、郡役所、警察署、郵便電信局、區裁判所、稅務署、中學校等あり、漆器、紙葺入、茶、傘等の産多し、宇治には皇太神宮あり、山田には豊受太神宮あり、爲に市街甚だ賑へり。



うつのみやし 宇都宮市 下野國河内郡にあり、奥羽街道の要地にして、日本鐵道奥州線此地を通過す、東京を去る二十七里、栃木縣廳此地にあり、戸田氏七萬石餘の舊城下にして、縣廳、市役所、警察署、地方裁判所、區裁判所、郵便電信局、稅務署、聯隊區司令部、測候所、御料局事務所、師範學校、中學校、高等女學校、病院、監獄等あり、此地もと宇都宮氏累世の居城地にして城址は市の南部にあり、今は公園地となる、地方の人は單に宮と稱す。

うつのやとげ 宇津谷峠 (宇都谷嶺、宇津山) 駿河國安倍郡と志太郡との間にあり、國道は此峠を越え、鐵道は此下を通過す。

(近附道 壘峠谷津宇)



宇津谷峠と云ふ伊勢物語に「駿河なるうつの山への現にも、夢にも人に逢はぬなりけり」とあるうつの山これなり。

うづみまち内海

町 尾張國知多郡の西南岸にあり、警察分署、郵便電信局、區裁判所出張所等あり、平治元年源義朝此地に逃れ

長田忠致に投ず、天正十一年四月織田信孝此に自刃す、其墓今野間村大字野間にあり、義朝の墓と相ならぶ。

うづみまち宇土町

肥後國宇土郡の海岸にあり、九州鐵道は此地より支線を三角港に派す、熊本市を距る三里三十三町、郡役所、警察分署、郵便電信局、稅務署、小林區署、區裁判

判所出張所等あり、此地もと細川氏の支族三萬石の城下にして、此邊の海岸を俗に宇土の長濱と稱す、町内に小西行長の居城址あり。

うづみまち鶴戸崎

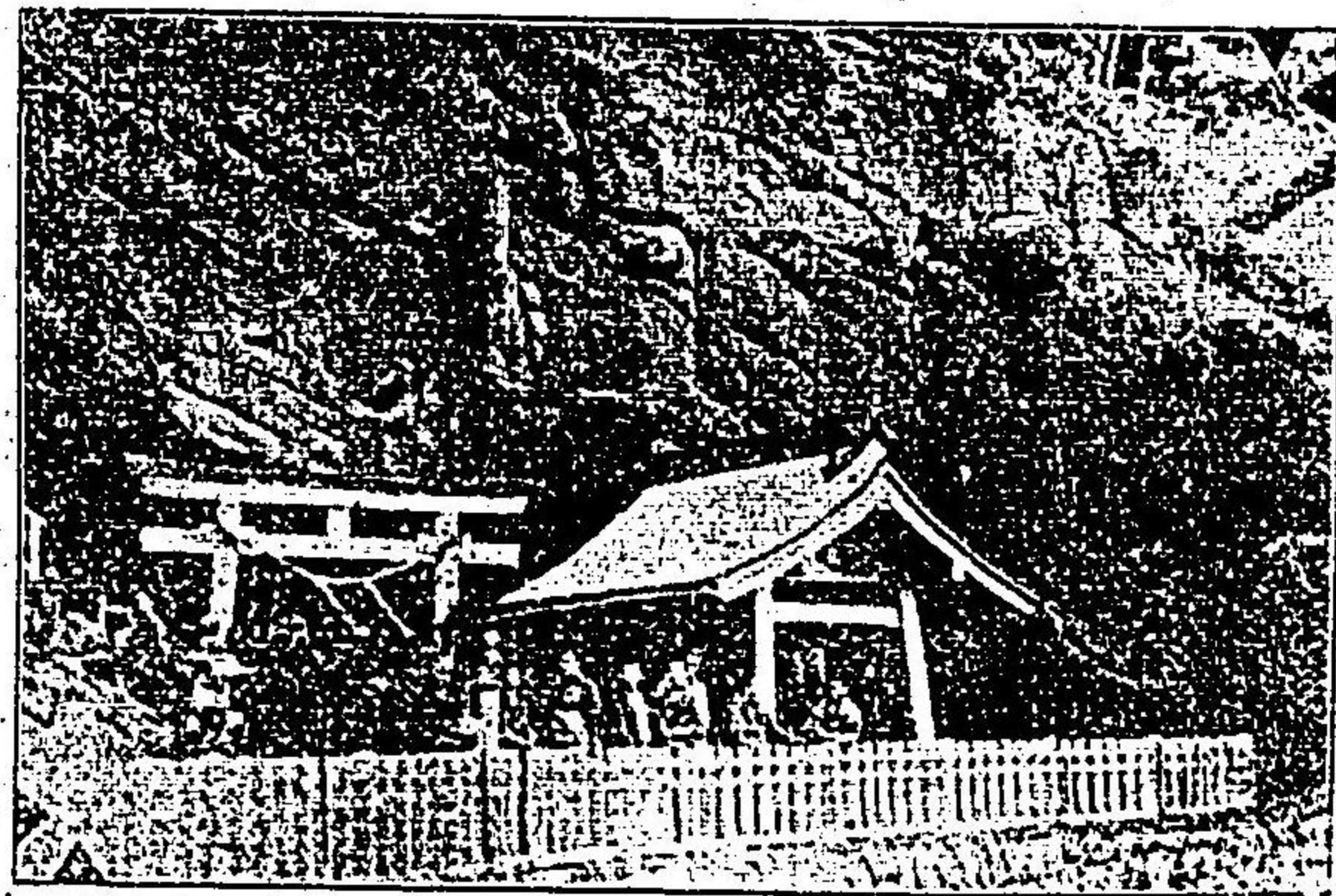
日向國南那賀郡の北部にあり、奇岩峙ちて岩窟あり、鶴戸窟と稱す、此地に官幣大社鶴殿神社あり。

うづみまち鶴戸神宮

官幣大社、日向國南那賀郡鶴戸村にあり、鶴鳴草葦不合尊を祭る一に鶴戸神社とも云ふ、崇神天皇御宇の創建たり、境内に廢窟あり、土人、鶴戸窟と稱して、尊の生れ給ひし處なりと云ふ。

うづみまち有渡

濱 駿河國安倍



(宮・神・戸・鶴)

郡、三保、久能、大谷三村に亘る海濱の總稱にして、駿河風土記には久能浦より御穂神社に至る迄をいふとあり、白砂青松五里に亘り、風光極めて佳なり。

うづみまち宇土半島

肥後國の西方筑紫海中に斗出して、宇土郡をなす、網田、三角、板倉等の諸港其沿岸にあり、殊に三角港は特別輸出港として有名なり。

うづみまち波上宮

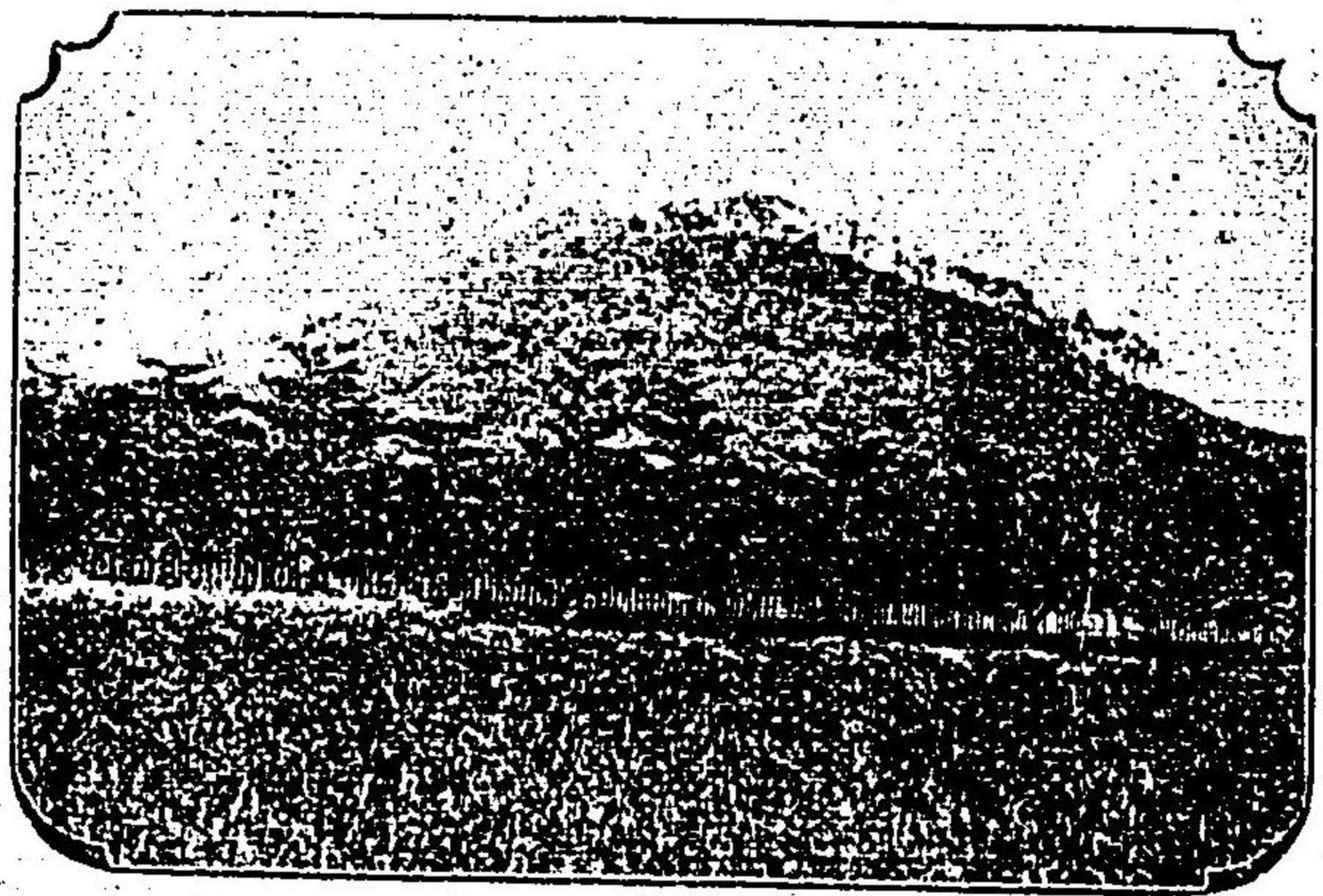
琉球國那覇若狹町にあり、官幣小社にして、速玉男神、伊弉册神、妻解男神を奉祀す。

うづみまち有年川

播磨國にあり、源を栗原郡千種村に發し、佐用郡の小流を入れて、赤穂郡を貫流し、赤穂町の東方を経て海に入る、流域十五里、一に千種川又中村川、啼川の別稱あり。

うづみまち畝傍山

大和三山の一にして、大和國高市郡今井町の南方にあり、平野の間に孤立し、山姿雄麗にして、其東南麓は昔時神武天皇の皇居を建て給ひし處、明治二十三年官幣大社橿原神宮を建つ、周圍



うんせんがだけ 温泉嶽

(雲仙ヶ嶽) 肥前國南高來郡島原

に神武、綏靖、安寧、懿德等諸天皇の山陵あり。

うづみまち宇島港

豊前國築上郡の北海岸宇の島町にあり、東西四町、南北七町、水深二仞一尺、汽船の定期寄港あり、商業盛なり、中津町を距る二里十九町。

うづみまち祖母嶽

(廻ヶ嶽) 豊後國直入郡にあり、日向肥後の國境に亘る、高さ三千二百六十四尺、一に「ソボガタケ」と稱す、満山老樹蒼蒼として、良材の産あり、山頂に一小石祠あり、豊玉姫命を祭る。

うづみまち宇倍神社

因幡國島取市の東南因幡山にあり、同國一の宮にして、武内宿禰を奉祀す、國幣中社なり、現今流通の五圓紙幣に印したるは即ち當社の眞景なりとす。

うづみまち梅宮神社

官幣中社、二十二社の一にして、山城國葛野郡梅津村にあり、酒解神、大若子神、小若子神、酒解子神を奉祀す、世人出産加護の神として大に尊奉す。

半島の中央に起りて半島の全部に蟠る、噴火山にして、高さ四千三百餘尺、山麓數ヶ所に温泉あり。

**うんてんこー 運天港** 琉球國沖繩島西北灣内國頭今歸仁間切にあり、東四七町、南北十七町、水深四仟乃至九仟、東面に沖郡、屋加の二島あり、那覇、場天、阿護、舟浮の四港を併せて中山五港と稱す。

**うんりん 雲林** 薩摩中縣斗天街の別名、もと清光緒十四年に此地方に置かれたる縣名なりしが、後縣廳所在地たる斗六街をかく呼ぶに至れるなり。

**うやむやのせき 有耶無耶關** 羽前國山形市より東山を経て陸前街道に通ずる沿道に此關趾あり、一に無耶々關と云ふ、古歌に「越しやせん越さやあらんこれやこの」とやうやむやの關とある、これなりと、其他此地につきて詠める古歌多し。

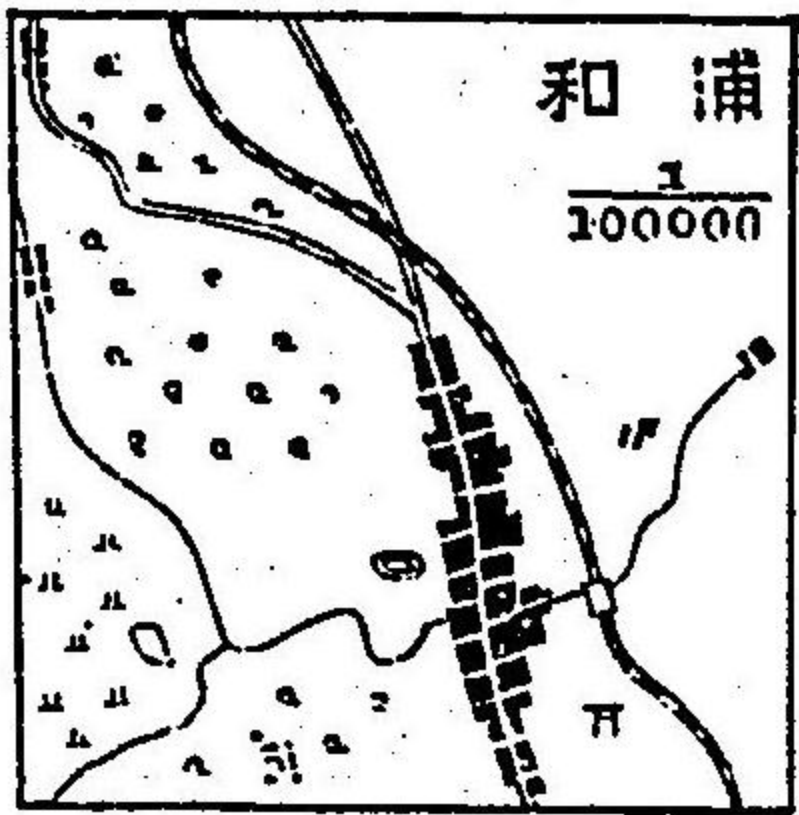
**うらがみなど 浦賀港** 相模國三浦半島觀音岬の西南にあり、横須賀を距る南一里三十二町、横濱へ海路十九里、慶長の頃此地を開きて貿易場となし、享保五年には下田奉行を此地に移し、監船所を置き諸廻船の検査をなさしめたり、其後嘉永六年米國使節ヘルリ此地に來航して互市を乞ふ、其上陸紀念碑は近傍久里濱にあり。

**うらごわん 浦戸灣** 土佐國吾川郡の東海岸にあり、東北に

の陥没して海となれる所多く、大山多きを以て地層錯雜す、冬季は雨雪殊に多し。

**うらみだき 裏見瀑** 下野國上都賀郡日光山中字荒澤にあり、日光神橋より西南一里十五丁、高さ十丈、幅三間、流れて大谷川に入る、一に阿含瀑、荒澤瀑と稱す、瀑の背面に降りて之を眺むるを得るを以て裏見の稱ありと。

**うらわまち 浦和町** 武蔵國北足立郡にあり、埼玉縣廳の所在地にして、東京を去る六里餘、日本鐵道の一驛にして、縣廳及郡役所、警察署、地方區裁判所、監獄署、郵便電信局、稅務署、小林區署、師範學校、中學校等あり。

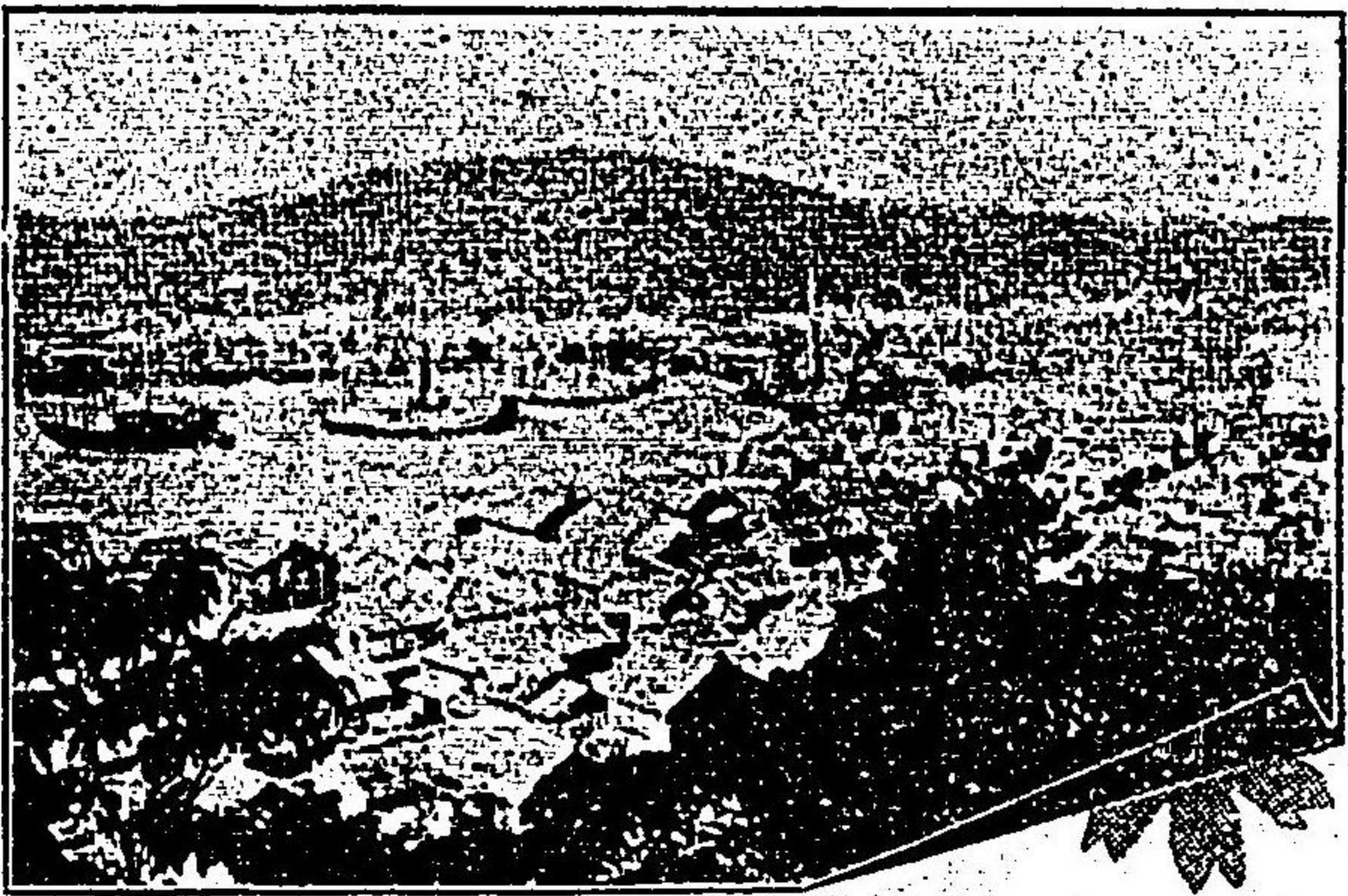


**うりふの 瓜生野** 攝津國東成郡墨江村にあり、遠里小野(ヲリオノ)とも云ふ、正平二年十一月楠正行、細川顯氏、山名時氏の率ある大軍を此地に遊撃せること太平記に見ゆ。

**うりーがわ 雨龍川** 石狩國雨龍郡にあり、石狩天鹽兩國の國境「シトシメ」嶽に發し、暗流を合せて南下し、雨龍太に至つて石狩川に合す、長さ約四十里。

種崎、西に龍頭崎ありて灣口を扼す、龍頭崎上に燈台あり、後山は長曾我部氏の曾て、城壁を築ける所とす、

灣内鏡川、飾田川の河口に浦戸港あり、東西二十町、南北一里二十二町、水深四仟餘、當國中の要津たり、神戶港を距る、凡五百五十里高知市街は港の北口より、西北凡二里にあり、浦戸の外洋に面する海濱を一に桂濱と稱し、白沙遠く連なり、風光極めて佳なりと。



(浦 賀 灣)

**うらにほん 裏日本** 日本海に面せる部分にして、海岸線は凹凸少く、從て良港に乏し、潮汐昇降の差甚だ少く、土地

**うらぶじま 得撫島** 千島群島の一にして、擇捉島の東北にあり、島に得撫港あり、東西五町、南北三町、東南に面す、本島は得撫の一郡をなし、根室支廳に屬す。

**うらまのわたり 宇留間渡** 美濃國稻葉郡鵜沼村にあり、承久の役、官軍の一隊此地を渡りて鎌倉軍を討つ。

**うらじままち 宇和島町** 伊豫國北宇和郡の西海岸にあり、郡役所、警察署、郵便電信局、區裁判所、稅務署、小林區署、中學校等あり、此地は伊達氏十萬石の舊城下にして、舊城今に存す、當城は昔板島町城と稱し、西園寺宜長此に據る、慶長九年伊達政宗の長男秀宗此地に封ぜられ、子孫相次で明治維新に至れり。

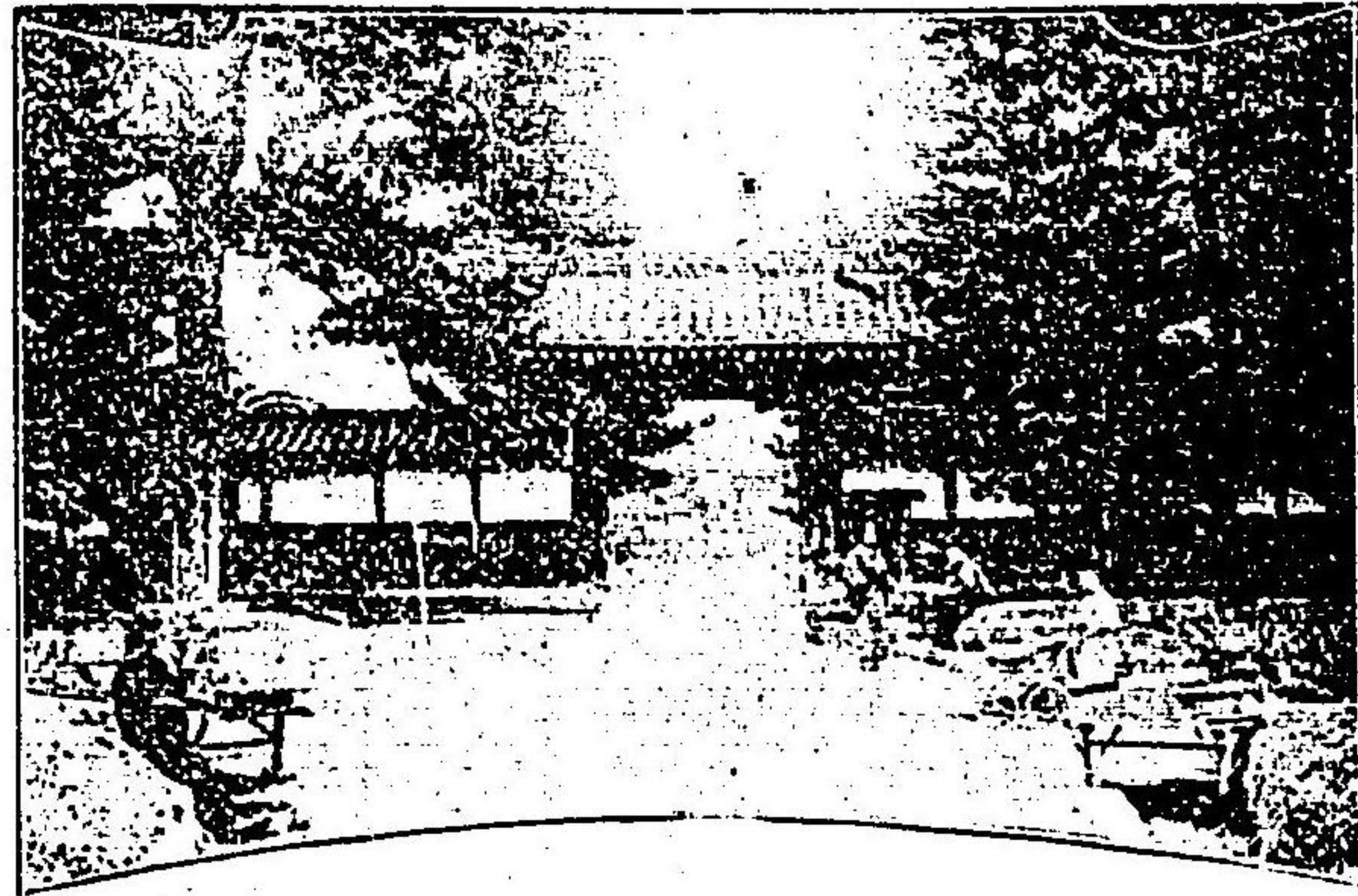
**うらじまみなど 宇和島港** 伊豫國北宇和郡宇和島町の南海岸にあり、東西二十町、南北十二町、水深一仟五尺、前面に九島ありて風波を遮る、本郡第一の良港とす。

**うらまち 宇和町** 伊豫國東宇和郡にあり、大洲町を距る五里十五町、郡役所、警察署、郵便電信局、稅務署、區裁判所出張所等あり、一に卯の町と稱し、舊稱を松葉町と稱す。

え

**えいくわんご** 永観堂 京都市南禪寺の北方にあり、聖衆來迎山禪林寺と號す、淨土宗西山派にして、本尊を願勝本尊と云ふ、初めは眞言宗にして清和天皇の勅願建立なりしが、文永年中改宗す、境内に鶯池あり、池邊に櫻楓多く、春秋都下人士の杖を引く者多し。

**えいげんじ** 永源寺 臨濟派の本山にして、近江國愛知郡愛知川の上流にあり、康安元年寂室禪



(堂 觀 永)

を列となす、境内橋千陸の墳及鼠小僧次郎吉の墓あり、又毎年二期の勤進大相撲の興行あり。

**えさし** 江差 (江刺、江指) ①渡島國檜山郡の西海岸にあり、國館を距る十九里十五町、同國西方海岸に於ける物貨集散地にして市街稍殷盛なり、支廳、警察署、郵便電信局、區裁判所、稅務署等あり、古へ蝦夷館の在りし處、明治元年榎本武揚此の地に軍す、②枝幸村、北見國枝幸郡の東海岸にあり、附近砂金の産地たり、枝幸港は東西十二町南北五町、水深三仞二尺、鮭の好漁場たり。

**えさしみなと** 江刺港 渡島國江差町にあり、前面に鷗島を控ゆ、東西二十町南北十三町、水深七仞二尺、鮭漁期船舶の出入頗る多し、國館港へ八十一漕。

**えさん** 惠山 渡島國茅部郡尻内村の東南惠山崎上に聳ゆ、噴火山にして、高さ二千餘尺、山中數ヶ所に温泉あり、何れも硫黄泉にして、皮膚病に効あり。

**えさんざき** 惠山崎 渡島國茅部郡惠山の東、渡島國の最東端に突出せる一角にして、陸奥國尻矢崎と相對す。

**えじりまち** 江尻町 駿河國庵原郡にあり、靜岡の西方二里二十六町、駿河灣に臨む、往時東海道五十三驛の一にして今は東海道鐵道の一驛たり、郡役所、警察署、郵便電信局、稅務署、區裁判所出張所等あり。

えさし

師の創立と稱す、歴代皇室の尊信篤く、濟家無比の名院と稱せらる、滿山楓樹多く風色頗る佳にして山城の高雄、攝津の箕面と相伯仲す。

**えいひこさん** 英彦山 豊後筑前兩國境にあり、田川下毛朝倉三郡に亘る、高さ四千餘尺、一に彦山とも云ふ、山上に官幣中社英彦山神社あり、天忍骨尊を祭る。

**えいへいじ** 永平寺 曹洞宗の總本山にして、越前國吉田郡南志比谷村にあり、福井市の東方四里、九頭龍川畔に位す、寛仁二年の創建にして、道元禪師の開基たり、創立當時大佛寺と稱せしが、後今の名に改む、元和元年徳川幕府より永平寺法度を襲げ曹洞宗總本山の規模を立つ。

**えぐち** 江口 攝津國西成郡澁川の分流神崎川の東岸江口村にあり、今は中島村に屬す、此地古への難波の江口にして、船舶の往來せし處、古今集に江口の君など見えたるは即ち此地の遊女なり、天文十八年三好宗三、江口の中島に據り、三好長慶の軍と戦ひ敗北す。

**えこーいん** 回向院 東京市本所區兩國橋の東橋詰にあり、無縁山と號す、徳川幕府明暦三年の大火に焼死せし十萬八千人の遺骸を葬り、自信上人をして一字を建立せしむ、これ即ち回向院なり、此地元稱念上人不斷念佛道場にして、古來諸國靈佛の開帳を都下に於て行ふ時は多く此寺を以てする

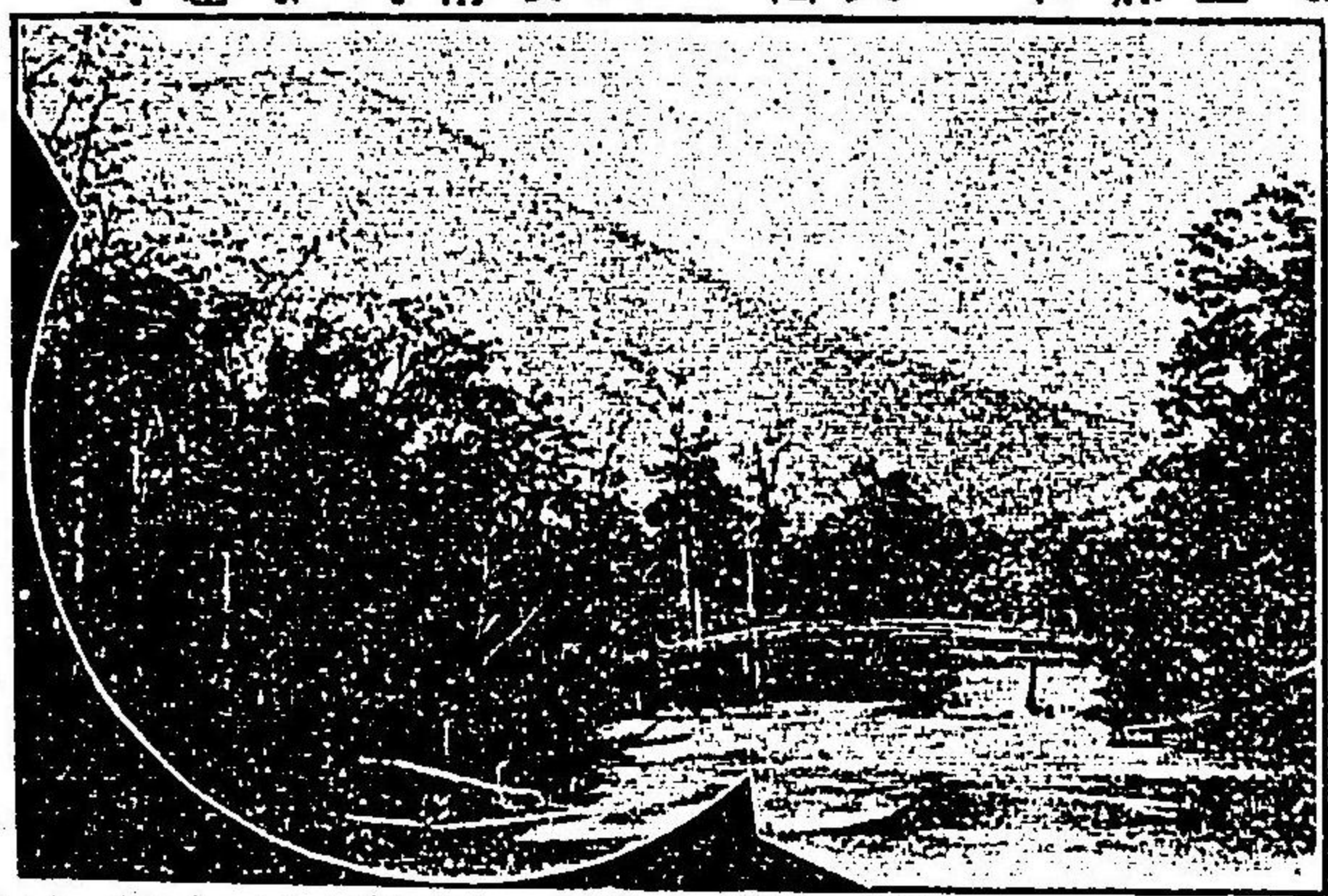
**えぞ** 蝦夷 北海道の總稱、明治二年八月此稱を廢し、渡島、後志、石狩、天鹽、北見、膽振、日高、十勝、釧路、根室、樺太の十一國となし、北海道と改む、後ち八年五月露國と樺太千島を交換す。(北海道参照)

**えぞさんみく** 蝦夷山脈 北海道の北端宗谷岬に起りて東北山脈となり、中央部に至りて、日高山脉を起し襟裳岬に達す。

**えぞふじ** 蝦夷富士 後志國後志山の別稱。

**えたじま** 江田島 (江多島) 安藝國廣島市の南方海中にあり、西南一地峽によりて能美島に連る周圍八里余、安藝郡に屬す。

**えたじ**



(士 宮 夷 蝦)

えたじ

えちが

此地海軍兵學校の所在地として有名なり。

えちがは 愛知川 (惠智川) 近江國にあり、源を神崎郡釋迦ヶ岳の山谷より發し、山間の小流を合して四方に流れ、愛知村を過ぎて琵琶湖に入る、流域十里餘。

えちご 越後國 北陸道七國の一にして、東岩代に、西南越中に隣り、南信濃上野の兩國に界し、北は羽前に接し西北一帯日本海に臨む、地勢は中部米山山脈によりて東西二部に別たる、其國境は何れも峻岳を以て圍繞せるも、屈指の大國たるを以て、國內には平野相續き、河流能く通じて灌漑に便し、米穀の産額夥し、殊に東部にありては、信濃川の流域一大平野をなし、地味豊沃所謂越後米の産多し、國をば新潟市及岩船、北蒲原、中蒲原、南蒲原、東蒲原、西蒲原、古志、三島、刈羽、南魚沼、中魚沼、北魚沼、東頸城、中頸城、西頸城の一市十五郡に分ち、新潟縣に屬す、此地は昔時越の國と稱せし處、足利氏の頃より上杉氏の勢力漸く強く、殊に天文の頃には有名なる輝虎(謙信)出で、西征東伐、一たび關東管領に任ぜられ、武威四隣に輝きしが、其歿後内亂起り、義子景勝自立して國を治む、豊臣氏の世となり景勝を會津に移して、堀、溝口、村上等の諸將を各地に分封し、徳川氏の世、推谷、清崎、與板、黒川、三日市、高田、長岡、三根山、村上、新發田、村松等の諸藩を置きて分治せしむ、王政維新

えちせ

後、新潟府、越後府、柏崎縣等を置きしが、後悉く合併して新潟縣となす。

えちごのななしぎ 越後の七不思議 越後國にて昔より奇異なりと云ひ傳へたる七處の不思議にて名稱及所在は左の如し、①吳水、岩船郡黒川村及蒲原郡柄目木村にあり、②火井、蒲原郡柄目木村にあり、③入房梅、蒲原郡小島村にあり、④三度栗、蒲原郡安田村にあり、⑤逆竹、蒲原郡島屋村にあり、⑥即身佛、三島郡野積村最上寺にあり、⑦燃土、三島郡柿崎郡にあり。

えちぜん 越前國 北陸道七國の一にして、東南美濃飛騨に接し、東北加賀に界し、西北日本海に臨み、西南、若狹、近江二國に隣る、地勢山嶽相重りて平地少なければども、足羽川、九頭龍川、日野川流域は平野にして、地味肥沃、所謂越前米の産あり、國を福井市及敦賀、南條、丹生、今立、足羽、大野、吉田、坂井の一市八郡となし、福井縣に屬す、建武中興の後足利氏の族高經當國にあり、延元年間新田義貞の軍を敗りてより遂に北陸諸國を定め、子孫長く當國を領し、其後家室朝倉氏代て之を治む、天正年間織田信長の滅す所となり、織田氏の部將、柴田、佐々、前田等の諸氏代り治む、次で豊臣氏の代となり、全國を擧げて丹羽長秀を封す、次で其封を收めて、堀、大谷、長谷川、青山、織田等の諸將を分封せり、關ヶ

原の役後徳川家康其第二子秀康を北莊(後福井と改む)に封じ七十五萬石を食ましむ、其子忠直罪あり、二子忠昌代りしが、其封大に減縮せられ、三十二萬石となり、鯖江、丸岡、勝山、大野、敦賀等の諸藩とともに、全國を分治するに至れり。王政維新後廢藩して、敦賀足羽の二縣を置きしが、明治九年合して福井縣と改む。

えちぜんぼり 越前堀 東京市京橋區靈岸島の南部にあり、昔越前侯の邸地たりしを以て此名あり、今此地より、房州、總州及横濱、横須賀、浦賀へ汽船の往復あり。

えちご 越中國 北陸道七國の一にして、東信濃越後の兩國に境し、西加賀、能登に隣り、南飛騨に接し、北は日本海に瀕す、地勢西南東の三面山に圍繞せらるるも、西北一帯は一大平野をなし、神通川、射水川其間を灌漑す、國を別て富山市及上新川、中新川、婦負、下新川、射水、氷見、東礪波、西礪波の一市八郡となし、富山縣の管下に屬す、足利氏の末年國の豪族推名、神保、鈴木等の諸氏四方に割據して越後の上杉氏に應じ、後上杉氏の臣長尾爲景其主房能を弑して自立するに及び、此れと争ひ紛亂絶えざりしが爲景の子輝虎の來り攻むるに及び、大半其略する所となる、輝虎の歿後織田氏の部將佐々成政來りて當國を治む、豊臣氏時代以後前田氏の領となり、加賀の支藩として十萬石を食み治所を

富山に置く、王政維新廢藩後新川縣下に屬せしが、次で富山縣と改め其治下につく。

えと 江戸 東京市の舊稱、古くは荏戸と云ふ、此地は元江戸莊或は江戸郷と云ひて、鎌倉時代江戸氏の居りし處、城は後花園天皇の朝、關東管領上杉定正の老臣太田道灌品川に住し、康正二年此地に築く、即ち今の本丸、これなり、其後徳川家康此地に移りて、城塙を改築し、地を千代田と改稱して、幕府を開くに及び、諸侯の藩邸總て城邊に圍集し、附近には千貫萬兩軒々里餘に列なり、數年ならずして、竟に全國一の大都會とはなりぬ、徳川氏累世此地にあり天下の政權を握ること十五代二百七十餘年、我邦文物の中心たりしが、明治元年車駕東京幸ありて、王政ここに復古し、初て詔を發して東京と改め、永く本邦の帝都と定めらる。(東京市の條參照)

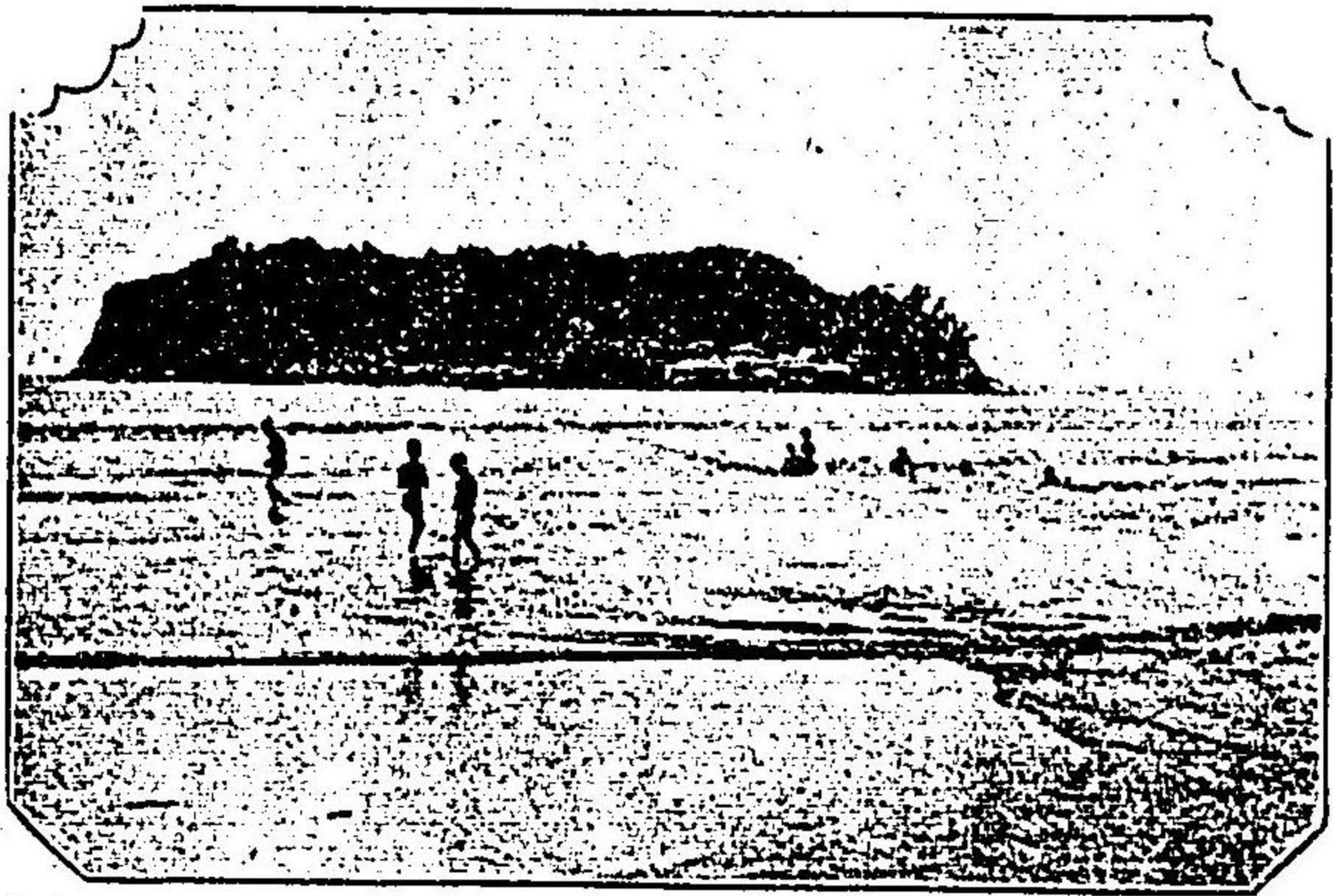
えとごまき 繪鞆岬 (江巳岬) 膽振國室蘭郡室蘭港の南方にあり、渡島國に對して内浦灣口を扼す。  
えとごふかいき 擇捉海峡 千島國擇捉島と得撫島の間凡十一哩の海峡を云ふ。  
えとごふじま 擇捉島 千島國第一の大島にして、國後島の東北二十哩にあり、周圍百五十里、別つて擇捉、振別、紗那、釧路の四郡となし、郡衙を紗那に置き全島を治む、本島はもと國後島とともに蝦夷の舊地にして松前藩の領地に屬せし

が、中御門天皇の正徳の頃より露人南下して千島を侵せし  
を以て幕府遂に吏を派して其地を探見せしめ、天明年間に  
は最上徳内一たび本島に渡り露人と談じ、次で寛政十二年  
近藤重藏此地に至り、本島奪取の一角

「ムイワツカナイ」の高丘に「大日本地  
名アトイヤ」の木標を立て、以て我國  
の領土たるを明かにせり。

**えなさん 惠那山** 美濃國惠那郡にあ  
り、信濃の國境に登ゆ、高さ七千三百  
餘尺、一に覆舟山といひ、又胞山に作  
る、山中惠那神社あり、式内郷社にし  
て、伊弉諾伊弉册の兩尊及天照太神以  
下の數神を祭る、毎年九月二十九日例  
祭を行ふ。

**えのたけ 可愛嶽** 日向國東臼杵郡に  
あり、延岡町の直北二里に位す、其形  
奇偉なるを以て地方の鎮山と稱せら  
る、山麓に古陵あり、瓊々杵尊の御陵  
と稱するも、此れ誤れるが如し、神代  
紀に見ゆる日向可愛山も亦此山にあらず、明治十年の役、賊  
軍此地に據り官軍を防ぎしが、戦敗れて鹿兒島にのがる。



(島 の 江)

**えのうら 江浦** 伊豆國田方郡の西方、大瀬崎より北方狩野  
川を隔て駿河國沼津附近に至る流瀆を云ふ、風景明媚、夏期  
都下人士の來遊する者多し。

**えのしま 江島** 相模國鎌倉郡の海中  
にあり、片瀬を去る十町、鎌倉雪の下  
に至る二里餘、今は棧橋を架して往來  
に便す、島の周圍二十町三十八間、面  
積十八町三十三歩、中に江島神社あり  
市杵島姫を奉祀す、旅館數軒あり、詣  
者遊覽者常に群集す、貝細工及螺等の  
産あり。

**えのしまじんじや 江島神社** (江島  
辨財天) 相模國江の島の頂上にあり、  
多紀理毘古、多寸津毘古、市寸島比賣  
の三神を奉祀す、古くは辨天社と稱  
す、明治に至りて今の名に改め、國幣  
中社に列せらる。

**えびすまち 夷町** 佐渡國佐渡郡の東  
北海岸にあり、加茂湖口に位す、郵便  
電信局、税關支局等あり、相川町を去る六里二十九町、夷港  
其前面にあり、東西三町、南北九町餘、商船常に輻湊す。

**えひめけん 愛媛縣** 縣廳は松山市にあり、伊豫一圓を管  
す、面積三百四十一方里一七、一市十二郡十六町二百八十三  
村より成る。

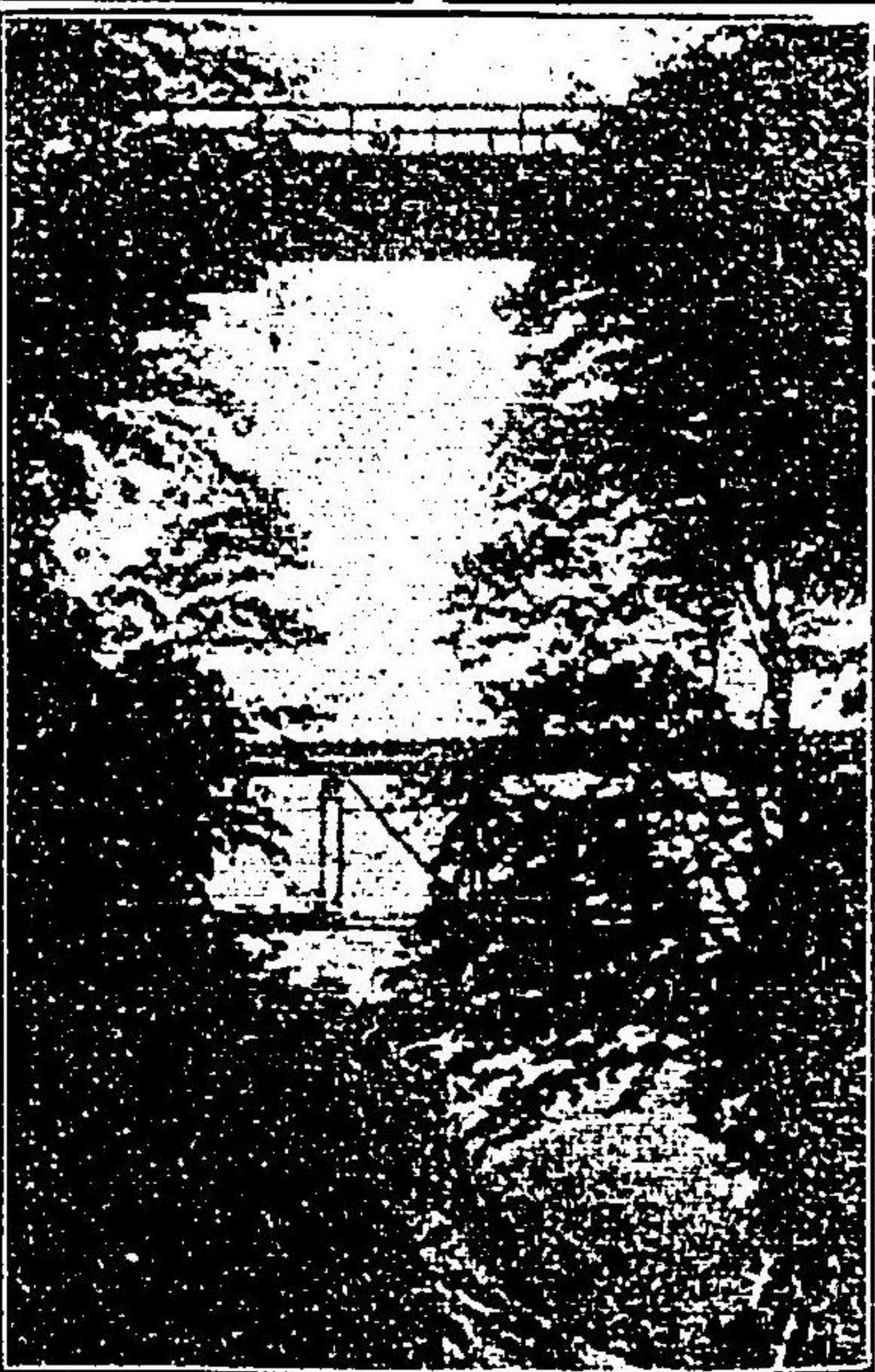
**えぼしだけ 烏帽子岳** 信濃國北安曇郡の南隅にあり、  
越中國境に至る、高さ七千八百餘尺、石材の産多し、信濃  
國小縣郡の東北部にあり、隆奥國上北、東津輕の兩郡界に  
あり、越後國北蒲原郡大日岳の四方にあり、高さ四千餘  
尺。

**えぼしちま 烏帽子山** 伊豆國加茂郡の西南子浦港の北  
方に登ゆ、高さ一千八百尺、御嶽、淺間山等の別稱あり、上  
野國大烏帽子、小烏帽子二山の總稱、備後美古登山の別  
稱、阿波國麻植郡にあり。

**えみにわだけ 惠庭岳** 膽振國にあり、活火山にして高さ四  
千二百餘尺、國中第一の峻山とす。

**えんかくじ 圓覺寺** 鎌倉五山の一にして、禪宗圓覺寺派の  
大本山たり、鎌倉の西北方山之内にあり、弘安五年十二月  
北條時宗の建立にして宋の佛光禪師開基たり、城内幽邃に  
して、堂宇宏大、禪を修する僧俗多く集まり、佛教界の一大  
靈場として知らる、境内に北條時宗の廟あり。

**えんきよーえき 猿橋驛** 甲斐國北都留郡にあり、甲州街道  
の要路にして、烏澤驛の近傍二十四町に位す、官設中央線の



(橋 猿)

鐵道此地を通過す、此地に有名な猿橋あり、長さ十七間幅  
三間、桂川に架す、頗る奇觀を呈す。

**えんしゅーなだ 遠州洋** 志摩、伊豆の間海上凡七十五津間  
の海洋の名にして遠江國の南面に當るを以て此稱あり、風  
波常に荒く難航路として知らる。

**えんすいこー 鹽水港** 臺灣臺南府の北方十里十二町の所  
に位する一海港にして、鹽水港廳の所在地たり、警察署、郵  
便電信局、憲兵屯署等あり、總督府へ七十九里五町、清政府  
時代には巡檢署を置き守備兵を配置せり。

**えんゆーいん 圓融院** 山城國愛宕郡勝林院村にあり、天台  
宗に屬す、もと天台庵主の持職せし寺にして、梶井門主又梨

本坊とも云へり、初め江州坂本にありしが、後各地に轉々して遂に今の地に遷れり。

**えんりやくじ 延暦寺** 天台宗の本山にして、近江國滋賀郡上坂本比叡山にあり、延暦七年僧最澄勅を奉じて創建す、爾來皇室の尊信淺からず、屢々行幸啓あり、爰に於て當寺大に勢力を得、寺坊三千、殿堂伽藍の莊嚴結構を極む、一に山門と稱し、僧徒を山法師と云ふ、元龜年間織田信長の爲に一度鳥有に歸せしも、今尙巨剎たるを失はず、東塔には根本中堂戒壇堂、文珠樓、淨土院、大學林等あり、西塔には法華堂、釋迦堂、椿堂、寶幢院、青龍寺等數堂あり。

**えらぶじま 永良部島** 大隅國南方の海中にあり、口、沖の二島あり、日本永良部島は屋久島の西北にありて、周回六里十八町、熊毛郡に屬す、沖永良部島は沖繩群島東北海中にある孤島にして、周回三里十四町、大島郡に屬す、**琉球國宮古群島**宮古島の西方にあり、周回六里十二町、一に奥永良部島と稱し、牛馬の牧養を以て有名なる處なり。

**えりもぎ 襟裳岬** (江里茂崎、選藻崎) 日高國樺島郡の南端にあり、幌泉村の南方に突出すること殆んど四里、其脈遠く海中に出没して舟行尤も危嶮なり。

**えりんじ 惠林寺** 甲斐國東山梨郡鹽山の西北、松里村にあり、臨濟宗の巨剎にして後醍醐天皇の元徳二年二階堂道

菴の創立にして夢窓國師此れが開山たり、天正十年織田氏の爲めに焼かれ一山鳥有に歸せしが、後徳川家康僧瑞持をして之を再興せしめ、七堂伽藍悉く備はり輪奐其美を極め、寺寶亦多かりしが、明治三十八年二月十一日、過まり火を失して全山悉く鳥有に歸し、今僅かに山門鐘樓等を殘すのみ、境内に武田信玄の墓あり。

た

**おあかんだけ 雄阿寒岳** (男阿寒嶽) 釧路國阿寒郡の北方にあり、上川郡に亘る噴火山にして高さ四千五百餘尺、山形圓錐狀をなし、傾斜頗る急なり。

**おーあらいさき 大洗岬** 常陸國東茨城郡磯濱町の南にあり、海中に斗出すること三町許、老松林をなして遠く連なり風光明媚、海水浴の好適地として知らる。

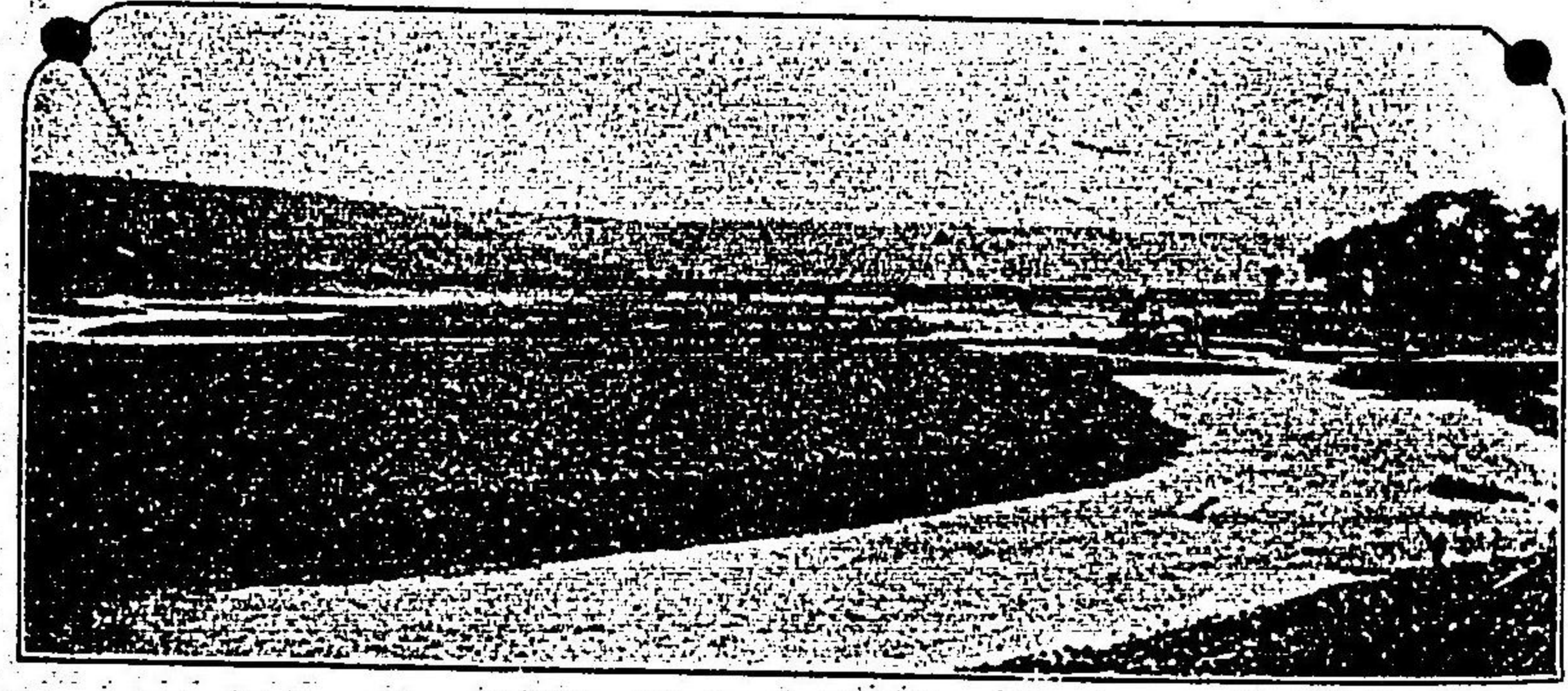
**おーあらいそまきしんじや 大洗磯前神社** 常陸國水戸市の東方三里、東茨城郡磯濱町に接せる、大洗岬にあり、國幣中社にして、大己貴命、少彦名命を祀る、文徳天皇齊衡三年の創立と稱す、社背の平地を子の日原といふ、徳川齊昭が詠せる「萬代を松に契りて今日までは、子の日の松にひかれ來にけり」の歌を刻せる石碑あり。

**おーいがわ 大井川** (大堰河) 山城四大河の一にして、丹波國保津川の下流なり、山城に入りて高雄川を合せ、東南流嵐山の麓を過ぎて桂川となる、葛野川、戸羅瀬川の別稱あり、延喜七年宇多天皇此川に、詠歌奏樂の御催あり、慶長年間角倉了意此川を開鑿せり。

**おーいがわ 大井川** 駿河國にあり、源を甲斐國白根山に

發し、南流、駿遠國境に入り、諸水を合して、駿河灣に注ぐ、流域四十六里餘、平時は水少く徒歩して渉るべしと雖も強雨一たび至れば河水汎濫の憂頗る多し、其流急にして橋を架する能はず、依て維新前迄は遊蓋にて旅人を渡したり。

**おーいそまち 大磯町** 相模國中郡平塚町の西三十町の處にあり、東海道驛路の名邑にして其名早くより著る、今は東海道鐵道停車場あり此地海濱にあるを以て風光明媚、貴顯の



(橋 鐵 の 川 井 大)



おころのもり 老曾森 (老蘇森) 近江國の古き名所にして、蒲生郡にあり、今の老蘇村は即ち其舊址なるべし、後拾遺集に「東路のおもひ出にせん時鳥、おひその森の夜半の一聲」とあるは此地につきて詠めるなり、附近に近江源氏の居城観音寺城の舊址あり。

おいたけん 大分縣 縣廳は大分町にあり、豊後一圓及豊前の内下毛宇佐二郡を管す、面積四百二方里七三、十二郡二百五十六町二百五十村よりなる。



おいたまち 大分町 大分縣廳の所在地にして、東京を去る三百七十里、豊後國大分郡大分川畔にあり、人口一萬四千餘、大給氏二萬一千石の舊城下にして、古くは府内と稱し、もと國府のありたる地なり、縣廳、郡役所、警署、郵便電信局、地方區裁判所、稅務署、小林區署、測候所等あり、舊城は慶長年中福原直高の築く所と稱す。

おいのさか 老坂 山城國乙訓郡大枝村より、丹波國に至る、一に大枝越とも云ふ、海拔約四千尺、其北方に新古の二路あり。

おーうせん 奥羽線 (官設日本鐵道奥州線福島驛より起り、北行、羽前の山形、羽後の秋田、陸奥の弘前を経て、青森市に於て日鐵奥州線に會す、延長三百二哩三鎮、明治三十八年全部完成す。

おーえぼしだけ 大烏帽子岳 越後國南魚沼郡にあり、上野國利根郡に亘る、高さ六千六百餘尺。

おーえやま 大江山 丹後國加佐郡にあり、丹波天田郡に亘る、高さ二千五百尺、山腹に巖窟あり、土人鬼の窟と稱す、昔時源賴光が鬼退治の地として普く世に知られたり、然れども、此奇話によりて傳へられたる大江山は、山城、丹波の境にある今の大枝越 (又云ふ老の坂、古くは大江山と稱す) なり、然るに後世此地大に開けて、鬼の住むべくも思はれざるに至りしより、後世の作者、同名なる丹波、丹後間の大江山に附會したるなるべし、(おいのさか参照)。

おーがきまち 大垣町 美濃國安八郡にあり、岐阜市を距る西方四里、縣下第二の都會にして、郡役所、警署、郵便電信局、區裁判所、稅務署、中學校、女學校等あり、戸田氏の舊藩地にして、東海道鐵道の要驛たり、此地揖斐川の流域にあるを以て伊勢方面に向つて舟楫の便多し、舊城址は町の西北隅にあり、今公園となる。

おがらだけ 御神樂嶽 越後國東蒲原郡の南境にあり、

り、古へは此山に大江關を置かる、彼の源賴光が鬼退治を以て有名なる大江山は蓋し此山なるべしと云ふ。

おいわけえき 追分驛 信濃國北佐久郡、碓氷嶺の西方三里にあり、官設鐵道信越線の一驛にして、又中仙道、善光寺街道の分るる處なり。

おーう 奥羽 陸奥、出羽の總稱、即ち今の磐城、岩代、陸前、陸中、陸奥、羽前、羽後の七ヶ國を云ふ、別て福島、宮城、岩手、青森、秋田、山形の六縣となし、七十四郡、八市、百三十六町、一千三百六十一村に別つ、面積四千二百五十方里。

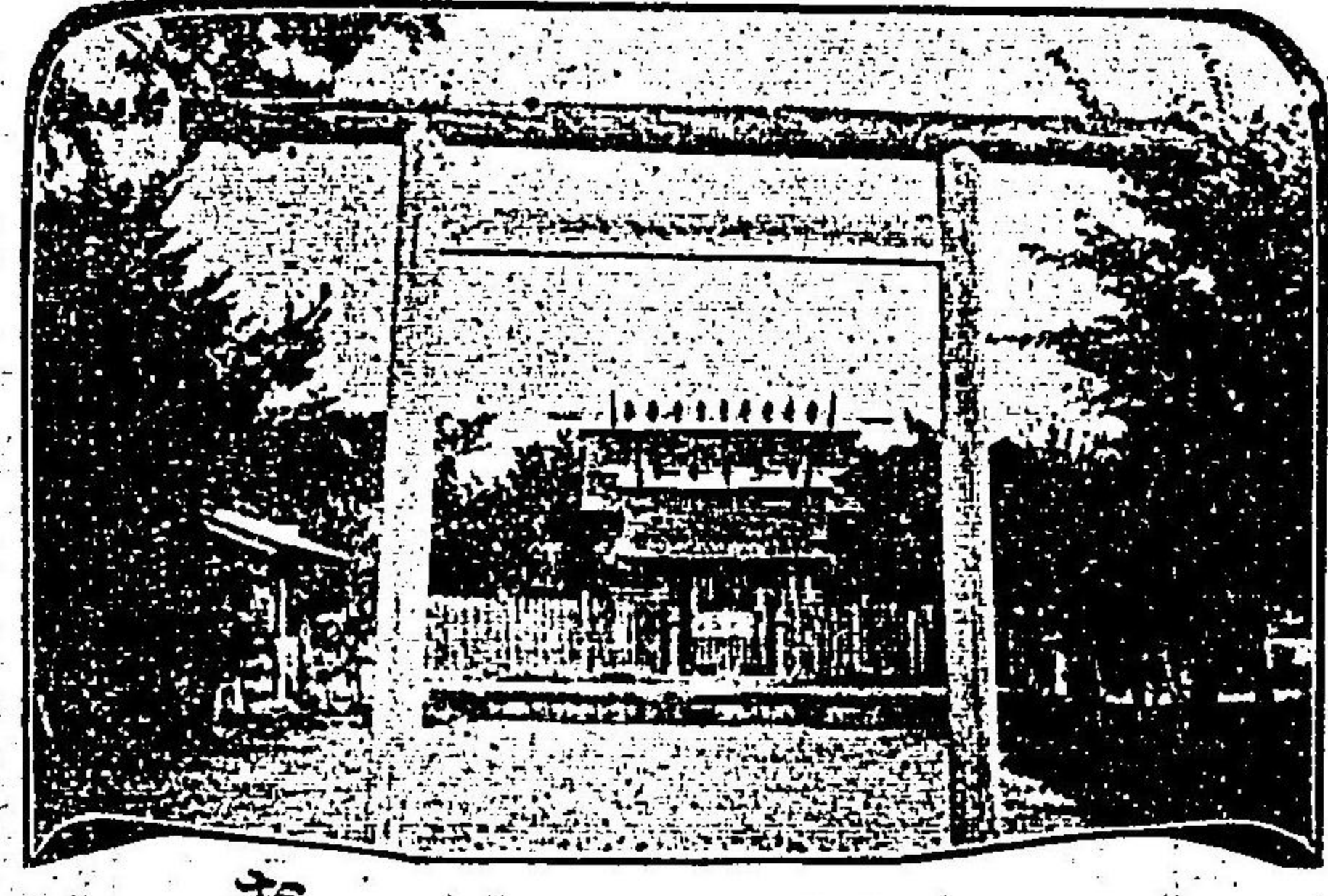
おーうのさんぐん 奥羽三關 古へ陸奥出羽に入る三道を擁したる三處の關所を云ふ、即ち東山道より入る白河關、濱街道より入る勿來關、北陸道より入る念珠關これなり、詳しくは各條に註す。

おーうさんみやく 奥羽山脈 本州北半の縱軸線を成す山脈にして、陸奥北半島の恐山に起り、青森灣を横渡し、入甲田山と成り、陸中、羽後の境を走り右は森吉山、左は岩手山となり、進みて駒岳と成り、羽前、陸前の境上を駛り羽前の藏王山を起し、岩代に入り、山脈頓に猛を逞うして、西吾妻山、大磐梯山の如き火山質高峯十餘を起し、下野の那須山、高原山より、幽峻なる日光山巖に連り、上野の赤城、榛名、妙義の諸山より淺間岳を経て信濃に入る。

岩代國大沼郡に跨る、高さ三千五百餘尺。

おがきまち 岡崎町 三河國額田郡大平川の東岸にあり、徳川氏創業の地にして、東海道鐵道は此地を経て尾張に入る、矢作、太平兩河の流域によりて水陸運輸の便多し、郡役所、警署、郵便電信局、區裁判所、稅務署、師範學校、中學校、病院、銀行、諸會社等あり、此地は徳川氏居住の地なりしが關ヶ原役後、本多康重に賜ひてより、世襲して明治維新に及ぶ、廢藩後額田縣廳を置かれしが、今は愛知縣に屬す。

おがらだけ 小笠原島 遠く太平洋中に羅列する群島にして



(岡崎城内東照宮)

おがは

て、伊豆國に附し、東京府の管轄に屬す、八丈島を去る事百八十里、大小九十四の島嶼よりなり、父島、母島、蟹島の三群島に分つ、外人之をボーン島と呼ぶ、蓋し無人島の轉訛なり、島中山嶽多く、土地礫礫なり、椰子、檳榔、檳榔子、鳳梨、大蠟蟻、信夫翁、蠟蟻等熱帯性の動植物多し、此島は文祿二年小笠原貞頼の發見せし所、依て小笠原島の稱あり、貞頼之に柘植を試みしも果せず、久しく無人のままなりしかば、亦た無人島の名あり、天保年中英米人の來り住するものありしが、之を放逐す、嘉永六年米國の水師提督ヘルリ是に上陸し、其所屬と稱せり、文久中幕府官吏を置き、八丈島の民を移住せしめしも、間もなく中絶し、明治八年以來再び移住を奨励し、今や四千五百餘の人口を有するに至れり。

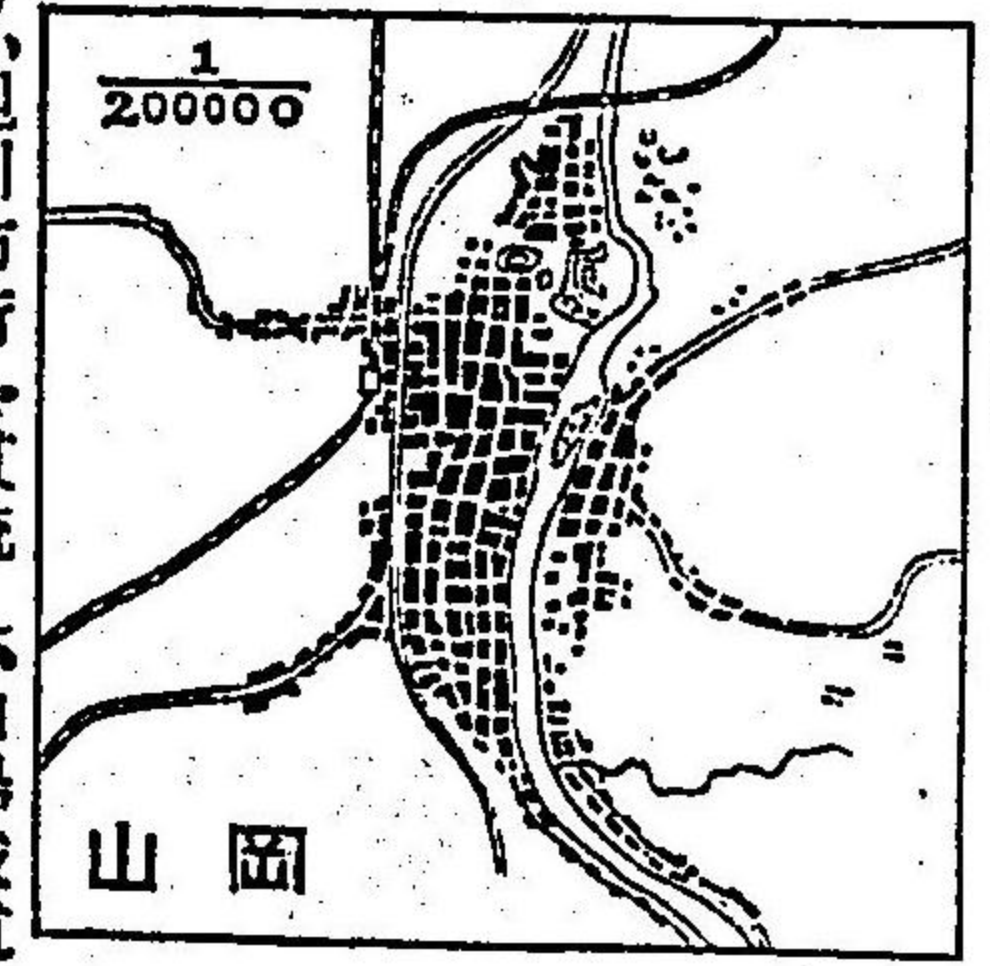
**おがはんどー男鹿半島** 羽後國南秋田郡の西方海中に斗出したる處を云ふ、此地南秋田郡に屬するも實は北方山本郡に連なり半島となる、東西七里餘、南北五里、西南北の三面海に瀕し、東方八郎潟に面す、中央丘阜連亘して寒風山其間に聳ゆ、其西北端に入道岬あり、南部に船川港ありて、汽船の往來あり、半島至る所風光明輝を以て知らる。

**おがへまち岡部町** 駿河國志太郡にあり、静岡市の西南三里二十六町、東海道五十三次の一驛にして、宇津谷嶽の西方半里許に位す。

おがや

**おがへむら岡部村** 武藏國大里郡熊谷町の西北にあり、岡部六彌太苗字の地にして、安倍氏の三河に移る迄此地に居城したりと、其附近の原野を岡部の原と稱す、宗祇法師が「なきを訪ふ岡部の原の古墳に、秋のしるしの松風ぞ吹く」の歌は、嘗て此地を過ぎし際詠める者なりと。

**おがみやま大神山** 伯耆國大山の別稱。岡山山にあり、備前、備中、美作一圓を管す、面積四百二十方里九八、一市十九郡二十一町四百三十二村より成る。



**おがやまし岡山市** 岡山縣廳の所在地にして、東京を去る百八十六里備前國にあり、旭川市街を貫流し、山陽鐵道は此地にて中國鐵道を分岐す、市街繁盛にして、山陽道中廣島につぐ大都會とす、縣廳、市役所、地方區裁判所、郵便電信局、警察署、測候所、税務署、師範學校、中學校、女學校、大小林區署、第六高等學校、醫學專門學校等あり、此地は池田氏三十一萬千石の舊城下にして、救蓮、熊野染、彌笠、洋燈心等を産す、城址は市の東北旭川の西岸にあり、一に鳥城と

稱し、元龜中浮田直家の修築する處、慶長八年池田忠繼之に居り、光仲に至りて、島取藩主池田光政と交替し、世襲して維新に及ぶ、城の北方に有名なる後樂園あり、日本三公園の一と稱せらる。

**おき隠岐國** 山陰道入ヶ國の一にして、伯耆出雲の北方海中にあり、伯耆國境港を去る五十二里、西島、知夫里島、中島、大島の四島より成り、西島、知夫里島、中島を島前と云ひ、大島を島後と云ふ、面積二十二方里、別つて、周吉、穩地、海士、知夫の四郡となし、島根縣の管下に屬す、古くは倭伎、淤岐に作る、沖の義にして、海中に遠く隔りたる島の義なり、承久三年には後鳥羽上皇、元弘二年には後醍醐天皇、北條氏の爲めに相次で此島に遷され給ひしは史上名高き事實にして、後鳥羽天皇の如きは此人里遠き僻遠の地に幽閉せられ給ふこと十數年、英魂、空しく此地に崩じ給ひぬ、足利氏の末土藏隱岐氏守護代となり久しく此地を統治せしが、毛利氏興るに及び繼に其討滅する所となる、徳川氏の初、堀尾、京極の兩氏相次で領有せしが、後松江藩の管下に歸し、王政維新に至る、廢藩後隱岐縣を置きしが後廢せられて島根縣下に屬す。

**おきまち小城町** 肥前國小城郡にあり、佐賀市を距る西北三里二十九町、鍋島氏の支族七萬三千石の舊城下にして、唐

津長崎街道の要驛たり、郡役所、警察署、郵便電信局、區裁判所、税務署、中學校等あり。

**おきがやつ扇谷** 相模國鎌倉の西方龜ヶ谷内英勝寺の地を云ふ、山麓に扇の井あり、地名も、これより出しか、其後管領上杉氏此地に住して、扇谷殿と稱せられしより、其名漸く世に知らるるに至れり。

**おきつまち興津町** 駿河國庵原郡清水灣頭にあり、東海道五十三次の一驛にして、東海道鐵道通過す、其海岸を清見潟と云ふ、風景大佳、近年海水浴場を設く、浴客常に多し、近海鯛の産多く所謂興津鯛是なり。

**おきなわぐんどー沖繩群島** 琉球國第一の群島にして、薩摩の鹿兒島を去る西南、三百八十里にあり、十餘島より成る、其中沖繩島尤も大にして、他は小さく主に島の西北部に散在す、「おきなわとー」を見よ。

**おきなわけん沖繩縣** 琉球國沖繩島島尻郡那覇區にあり、三部二區二島廳を管す、面積百五十六方里九二、明治十二年藩を廢して沖繩縣を置く、尙ほ「りゅうきゅう」を見よ。

**おきなわじま沖繩島** 琉球諸島中の大島にして、其東北端にあり、形狹長東北より西南に亘り、其長さ四十里、巾廣き處八九里、狹き處は一里餘、周回百十里、全島を別て國頭、中頭、島尻とし、國頭を山北、中頭を中山、島尻を山南と稱す、

従来此國には間切と稱するものありて、土地を區分し、國頭に九、中頭に十一、島尻に十一間切あり總て三十九間切に分つ、恰も本洲の庄郡に相當す、其地勢北方は山多く、海岸を除くの外平地なれども、中山、山南地方は平地多く、人口亦稠密なり、海岸は其風潮多く港灣少なからずと雖、暗礁多く舟行に便ならず、産物は飛白綿尤も有名にして、甘蔗、砂糖、鹽等あり、明治二十九年郡區編制の勅令出で那覇、首里を區に、國頭、中頭、島尻を郡に編制し、區に區長、郡に郡長を置き、之を治む。

**おきなわじんしゅ** 沖繩人種 恐くは大和民族の一派なるべしと云ふ、土地遊遠、久しく王化に潤はず、従て言語風俗習慣を異にするも、沖繩縣の郡股以來、次第に我に同化し、久しからずして、彼我の區別なきに至るべし。

**おきのえらぶしま** 沖永良部島 大隅國永其部島の別稱、「えらぶしま」を見よ。

**おきのせん** 扇山 因幡國岩美郡の東境にそばだら、但馬



(沖繩婦人)

國美方郡にまたがりて、兩國の境をなす、高さ四千餘尺、其西北の麓、龍村に雨澤あり、高さ十三丈、袋川の水源をなすなり。

**おきのほま** 荻の濱 陸前國牡鹿郡牡鹿半島の南方にあり、荻の濱港は有名なる瓦港にして石の巻港へ入港、釜石港へ八十三里、日々汽船の往復あり、且横濱、函館間往復汽船の寄港地として知らる。

**おきな** 奥蝦夷 北海道日高國標葉崎以東の總稱。

**おきりじま** 奥尻島 後志國の西南海中にあり、久遠郡の四折岬岬を距る海上五里、周囲十三里二十五町、面積七方里四分三、奥尻の一郡をなす、釣懸、赤石、藥師、寄苗の四村に分る、全島

概ね山岳にして平野少く、神威嶽、釣掛山、勝間山等の高山、島の殆んど中部に横はる、沿岸漁獲の利多し、本島は享徳三年松前氏の祖武田信廣若狭より初めて來りて其居を定めたる處とす、島の主邑を釣掛村と云ふ、東海岸にあり。

**おきのたまじんじや** 大國魂神社 武藏國北多摩郡府中

にあり、官幣小社にして大國魂命を奉祀す、其祭禮尤も盛なり、社傳によれば景行天皇の四十一年の創立にして、康平年間には源雅義、治承年間には源頼朝の參拜あり、徳川氏の世社領五百石を寄附し、次で大に神殿を修理せりと、現今の社字は寛文七年の再築にかゝる。

**おきのふじ** 奥の富士 岩木山の別稱、一に南部富士とも云ふ。

**おきのほむら** 大久保村 東京府下豊多摩郡にあり、内藤新宿の西北に位す、東都脚躑の名所にして、初夏の候都下人士の遊覽する者多く、爲に甲武鐵道は花時中臨時列車を發す。

**おきまむら** 小熊村 美濃國羽島郡にあり、養和元年三月平維盛、重衡等源行家の軍を此地に破る。

**おきまがは** 逢隈川 「あぶくまがわ」を見よ。

**おきのいけ** 巨掠池 山城國久世郡の北方にあり、一に大池とも稱す、南北四十町、東西五十町、周囲四里十一町、下流淀川に通ず、昔時淀川の水此池に入りて、一灣形をなしたり、依て巨掠の入江とも稱したりしを、豊太閤の時堤坊を築きて、大和街道を通じたりと云ふ。

**おきのやま** 小倉山 (小掠山、小蔵山) 山城國葛野郡にあり、大井川を隔てて嵐山に對す、山上楓樹多く、京都紅葉の

名所たり、昔時歌人定家の閑居せし處、山に二尊院あり、西行法師の舊蹟及伊藤仁齋の墓あり、附近に小倉の陵(後龜山天皇御陵)、小倉殿址(御龜山天皇御潛居の遺跡)等あり。

**おきのこ** 小栗 常陸國眞壁郡にあり、此地に小栗城の舊蹟あり、足利時代小栗氏の居城たり。

**おきのこ** 小栗栖 山城國宇治郡にあり、今の醍醐村に當る、天正十年六月、明智光秀山崎の戦に敗れ逃れて此地に來り、土兵に襲殺せらる。

**おきのこ** 桶狭間 尾張國知多郡鳴海町の東南共和村附近、國道の南凡一町許にあり、地甚だ高からざるも丘陵起伏し四塞狹隘の中にあり、永祿三年五月織田信長、今川義元を襲撃して遂に其首級を取り、初て英名を擧げし處なり、明和八年鳴海の人下郷氏此地に標石を立て當時の戦場を偲ばしむ。

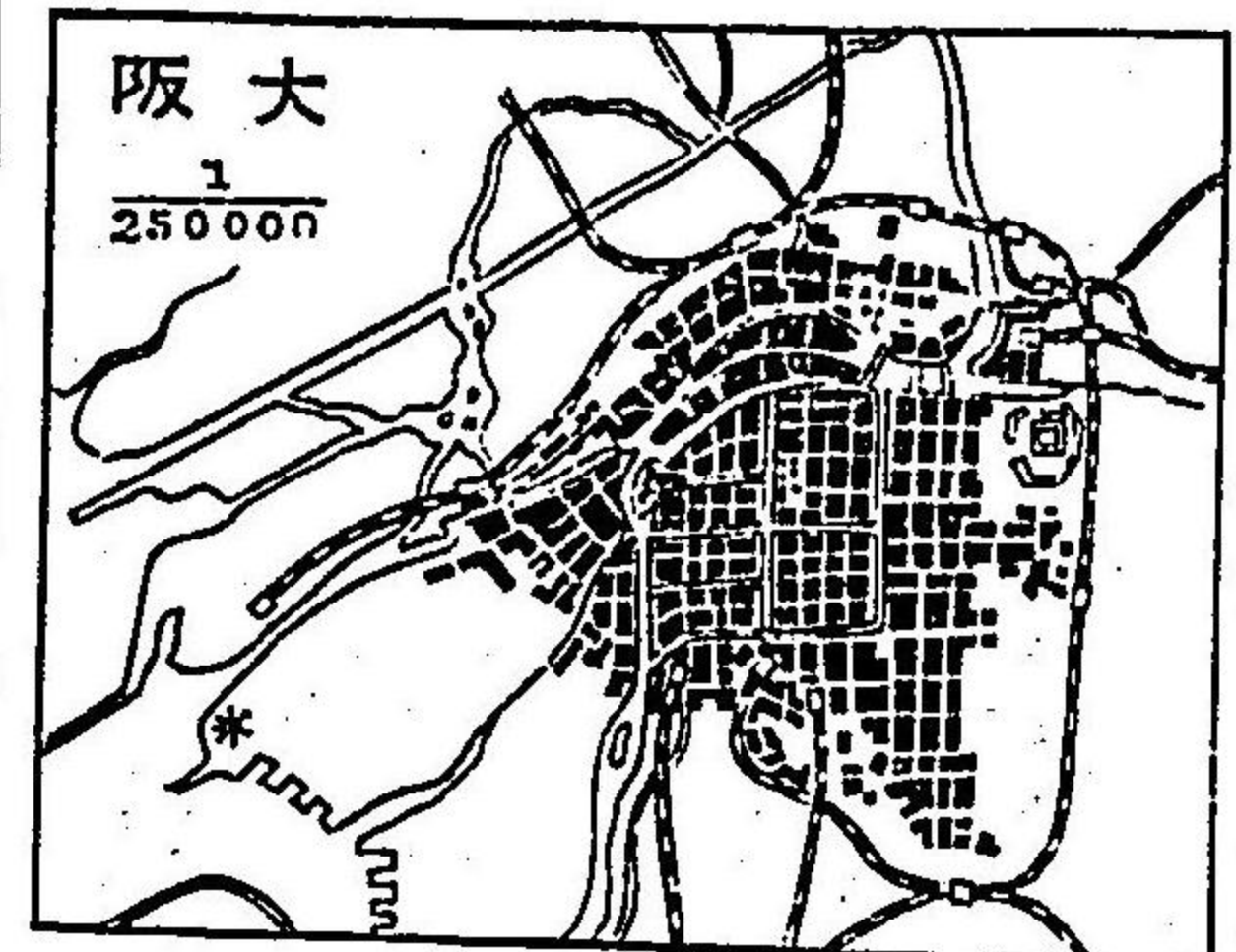
**おきのこ** 岡豊村 土佐國長岡郡にあり、長岡國府の略稱にして、岡府より轉訛せるならんか、長曾我部氏創業の地として史上有名なり、今岡豊村大字八幡に其遺墟を存す。

**おきのこ** 相坂川 (大坂川) 一に六戸川、奥入瀬川とも云ふ、源を陸奥國上北郡の南隅十和田湖に發し、十和田山中より下れる諸小流を合し、東流して、三戸郡に入りて市川と合し、三本木野の南を過ぎ白石村に至て海に入る、流域十

二里、下流舟楫の便あり。

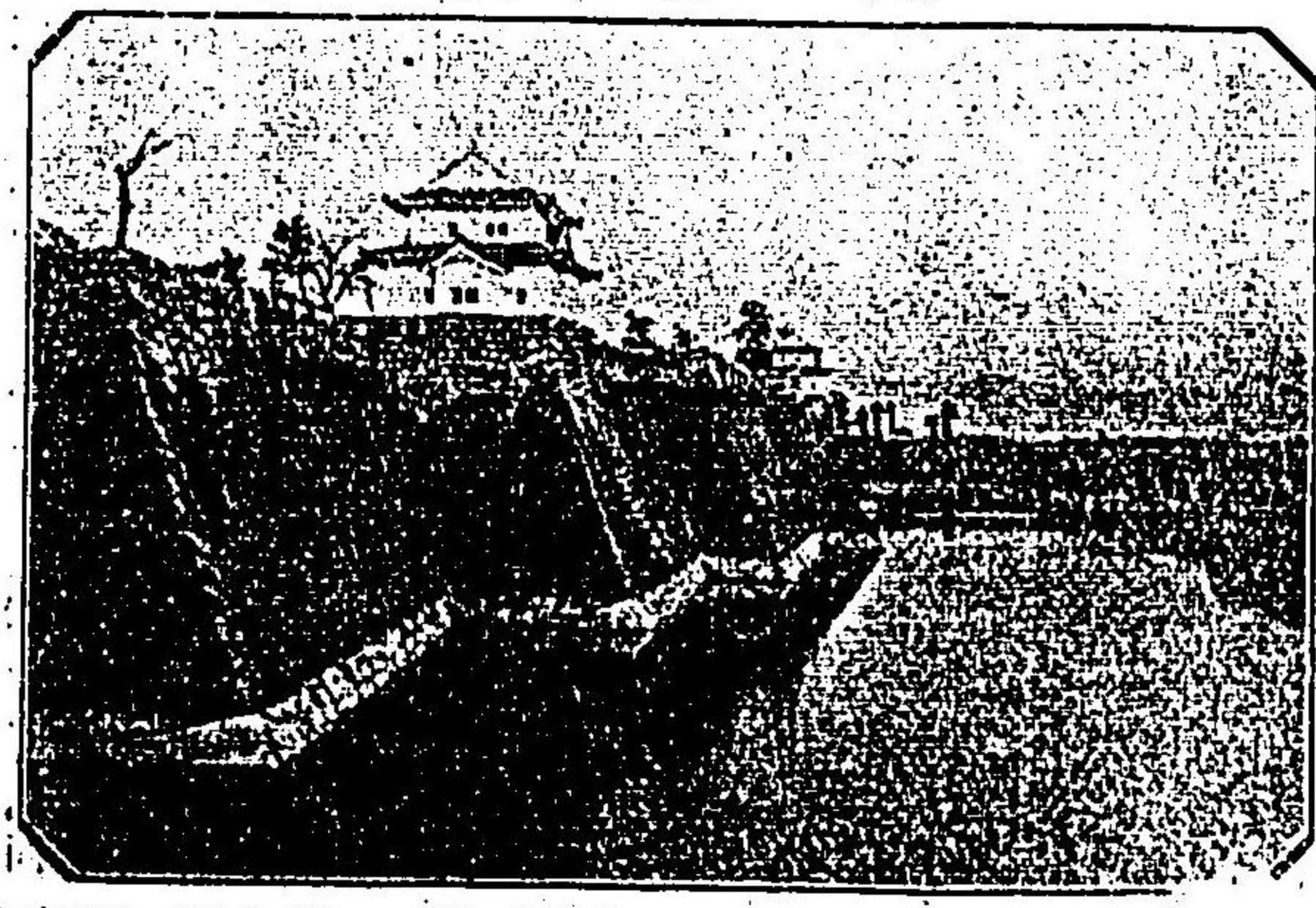
**おーさかさんだいきよー 大阪三大橋** 大阪市内に架せる天満、天神、浪花の三橋を云ふ、何れも鐵橋にして、規模宏壯同市の一大偉觀たり、各條を見よ。

**おーさかし 大阪市** 攝津國の東南部大阪灣頭にあり、我國第二の都會にして、東京市を去る百四十一里、淀川の支流、安治、木津の兩大川市中を貫流し、多くの運河其間に連なりて舟楫に供す、鐵道は五線ありて、市の周圍を圍り、延いて四方に通じ川口よりは汽船九州、四國、中國等に往來するもの日々幾十艘なるを知らず、實に我邦商業の中心地にして、其盛大なる全國第一たり、町は東西一里十二町、南北二里十二町、別つて東西南北の四區となす、府廳以下各官衙、各學校、銀行、會社等あり、此地は元難波津、難波灣或は浪速なと稱し、仁徳天皇及孝徳天皇の都せられし處、其後天正十一年豊臣秀吉此地に府を開くに至り、諸國の大名參觀し、商賈また先を争ふて此に集まり、百貨輻輳、交易市場の中心地となり、漸次隆盛に赴



き、元和以降は堺の商權全く此地に移り、遂に全國第一の商業地とはなりぬ、殊に近年天保山外に築港の興あり、次で明治三十六年には第五回内閣勸業博覽會の舉行あり、市の繁榮日を追ふて盛なるに至れり。

**おーさかし 大阪城** 日本第一の名城にして一に金城とも稱す、大坂市東區法圓町にあり、本丸、二丸、三丸(外郭)に分れ、周圍一里餘、天正十一年豊臣秀吉の築く處にして、西門を大手門とし、東に青屋口、西南に玉造口、北に京橋口の諸門を設けて、巍然たる一城郭たりしが慶長十九年大坂冬役終はりて、



徳川氏其外濠を埋め、元和元年夏役に於て又大牛焼亡し、今は漸く内城の一部を存するのみ、夏役以後徳川氏松平忠明を封じ十萬石を給し大に其地を修築せしめしが間もなく之を他に徙し其地を収めて、城代を置き勤番の諸侯をして之を守らしめしが、維新後之を廢して、今は第四師團司令部を置かる。

**おーさかのせき 逢坂關** (相坂の關) 近江國滋賀郡大津市の西南逢坂山に其舊趾あり、延暦年間初て之を設け、東海北陸兩道より京に入るの咽喉を扼せしめしが間もなく廢せらる、清少納言が詠める「夜をこめて鳥のそら音は計るとも、夜にあふ坂の關はゆるさず」及拾遺集にある「あふ坂の關のしみづに影見えて、今や引らんもち月のこま」等は此地につきて詠める古歌の中の有名なるものとす。

**おーさかふ 大阪府** 府廳は大阪市西區にあり、河内和泉一圓及攝津の内大阪市、西成、東成、三島、豊能の四郡を管す、面積百十五方里七二、二市九郡十一町二百九十三村より成る。

**おーさかへいや 大阪平野** 攝津國大阪市附近の平野を云ふ、淀川其中央を貫流し、其支流數派に別れて、運輸灌溉に便あり、汽車は大阪を中心として四通八達以て交通に遺憾あるなし、地味又豊饒にして農産物少なからず。

**おーさかみなど 大阪港** 我國開港場の一にして、攝津國大阪市西區安治川口にあり、目下築港工事中なれど、竣工の後は大に便益を得ることなるべし。

**おーさかやま 逢坂山** (相坂山、合坂山) 近江國滋賀郡大津市の西南方にあり、山城國と境す、昔時山上に逢坂關あり、今は墜道を穿つて、東海道鐵道其下を通過す、此地古來有名なる所にして、古歌多し、萬葉集の「なとめらに相坂山に手向草ゆき取おきて」云々を初め三條右大臣の「名にしおはば相坂山のさわかづら、人にしられてくるよしもがな」及千載集の「もみぢ葉を關守神に手向置きて、あふさか山をすぐるこがらし」等は何れも有名なるものなり。

**おーさかわん 大阪灣** 攝津國の南海を云ふ、昔時茅渚海或は難波の海、難波灣南波江なと稱せり、西南に淡路島横はり由良、明石の二海峡其灣口をなし、砲臺の設けありて内海を警備す。

**おーさかみしま 大崎上島** 安藝國東南方の海中にあり、伊豫大三島の西に位し、周圍十二里十一町、豊田郡に屬す。

**おーさかしもじま 大崎下島** 安藝國東南方の海中、大崎上島の西南にあり、周圍五里二十七町、豊田郡に屬す。

**おーさかむら 尾去澤村** 陸中國鹿角郡能代川の上流に

あり、秋田縣に屬す、此地に有名なる銅山あり、其産額毎年十二萬貫以上に及ぶと云ふ。

**おしまのいけ 大澤池** 山城國葛野郡大澤にあり、廣澤池の西北五町許に位す、元嵯峨天皇の離宮の境内に屬したる處、池中に島あり、菊島と云ひ、島の西北端に庭湖石あり。

**おしまの忍町** 武藏國北埼玉郡にあり、郡内第一の都邑にして、人口約一萬、郡役所、區裁判所出張所、郵便電信局、警察署、稅務署等あり、當地は櫻樹の名所にして、花時の候遊覽の客頗る多し、紅葉亦有名なり、もと松平氏の舊藩地にして、忍城趾あり、天正十八年行田氏長此城により、以て豊臣氏の先鋒に抗せり。

**おしおがわ 大鹽川** 播磨國にあり、源を同國神崎郡と但馬の國境より發し、諸水を合して南流、姫路市の東部を過ぎ播磨洋に注ぐ。

**おしなやま 小鹽山** 山城國乙訓郡大原野村にあり、一に大原山と云ふ、山に天台宗十輪寺あり、寺の西三十町、行平が奥州鹽竈の景を移したる鹽竈の舊蹟あり。

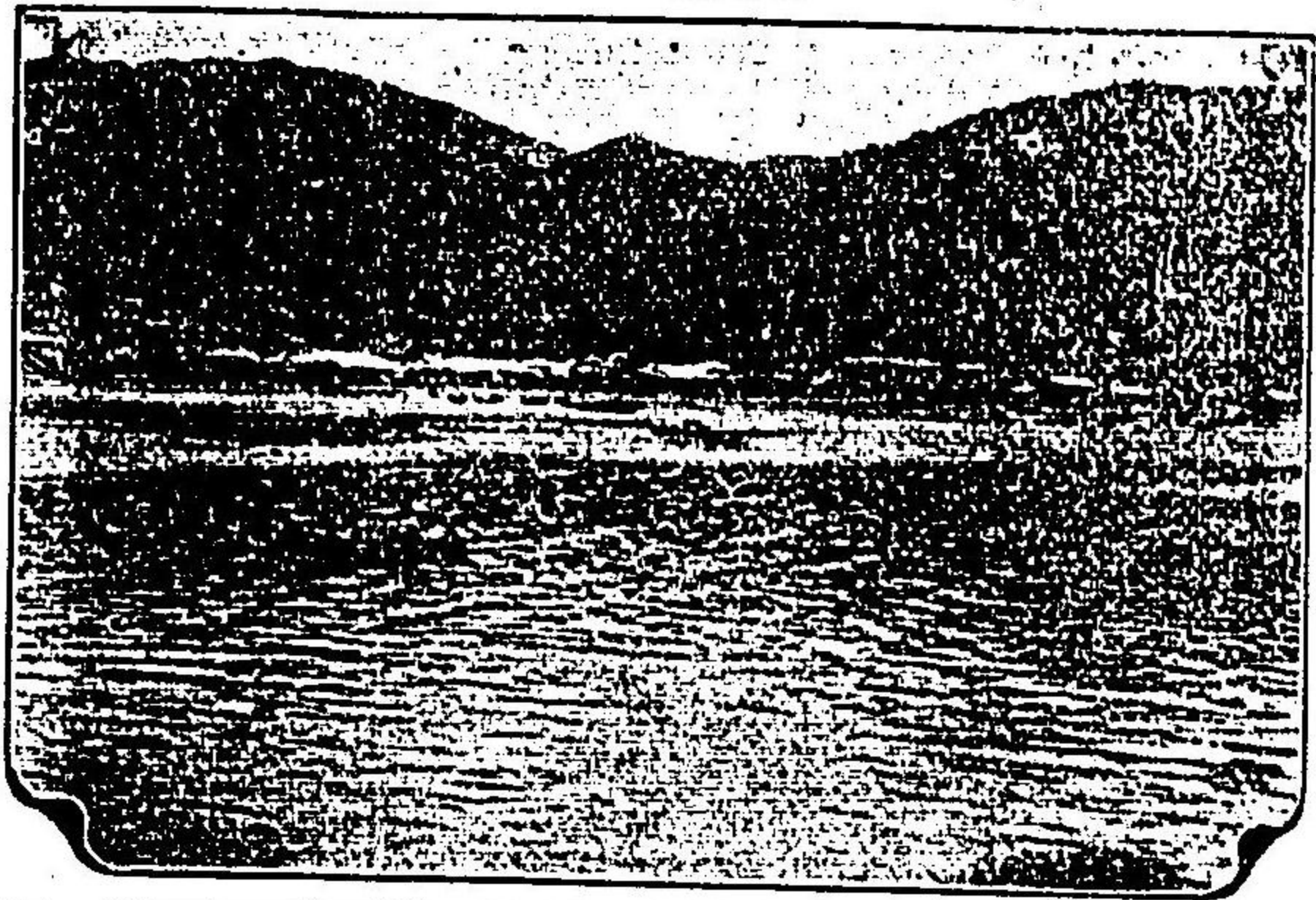
**おしかはんど 牡鹿半島** 陸前國桃生郡の東南に突出したる牡鹿郡を云ふ、東西十三里、南北六里、海岸屈曲港灣多く、群島四周にありて、風景頗る佳なり、半島の最極端、海中に金華山あり、古來有名なる獵場として知らる。

北松浦郡に屬す。

**おしまぐん 大島郡**

周防國玖珂郡の東南海中に點在し、大島及笠佐島、平群島、浮島、柱島等殆んど二十餘島よりなる、別に一郡をなし、十二村に分る、大島は面積方七里許、中央に加納山(二千百尺)聳ゆ、北岸に久賀村あり、郡内第一の都邑にして郡役所ありて、以て全群島を治む、本島は其名早くより知られ、古事記にも「大島亦名、謂大多麻流別」などあり、其他古記録に散見する所多し。

(大 隅 大 島)



**おしまかいきょ 大島海峡** 周防國玖珂郡の東南端と、

おし

**おしま 渡島國** 北海道十一國の一、後志、膽振の南方に斗出したる半島國にして、其南端は津輕海峡を隔てて陸奥國に對す、地勢山嶽多く、平野少し、海岸線頗る長く木道第一の稱あり、國を別ちて一區六郡となし、箱館區は支廳に屬し、龜田、上磯、茅部三郡は龜田支廳に屬し、松前郡は、松前支廳に、檜山、爾志二郡は檜山支廳に屬す、此國もと渡島蝦夷の一部落にして、其名早くより知らる、戰國の初より此地方一般に松前氏の勢力の下に歸せり、徳川氏の世、松前藩を置く、其後幕府屢々干渉を試みしも、松前藩の勢力は猶依然たりき、維新後函館府を置き、次で開拓使の下に屬せしが、今は北海道廳の管下に歸せり。

**おしま 大島** 伊豆七島の二にして、伊豆國下田港を距る十三里の海中にあり、七島中尤も大なるものにして、周圍十里二十六町餘、島民多く漁業に従事す、島中に三原の噴火山あり、海岸頗る風致に富み波浮港及び秋の濱、大代濱、井の濱等の勝あり、大隅國の西南海、大島群島中の大島にして、屋久島の西南百二十七里にあり、東西四十九里十八町、南北五里、周圍七十三里三十一町あり、十五村より成る、一に小琉球島、阿麻彌島と稱し、大島郡に屬す、肥前國西方の海中、松島の東北方にあり、周圍七里、四彼杵郡に屬す、肥前國西北方の海中、度島の東北にあり、周圍八里十七町、

大島との間の海を云ふ、一に大島の瀬戸、島大鳴門、大島海峡とも稱す、廣島より柳井津を経て馬關航行の要衝たり。

**おしましよと 大島諸島** 大隅國西南方の海洋、沖繩群島の東北にあり、大小十餘島より成る、其中大島尤も大なり。

**おしまかいきょ 奥州街道** 江戸五街道の一、東京千住より北行、越ヶ谷、粕壁、幸手を經て、下總に入り、古河を過ぎて下野の小山に出で、宇都宮、氏家、矢板より那須を経て磐城に入り、白河を經て岩代國に入り、郡山、本宮、二本松を經て福島に入り、二派に別る、一は東北行して、磐城に入りて濱街道に合し、一は西行して羽前米澤に出で、北に折れて、山形市に入り、楯岡、尾花澤、新庄、反位に至りて、羽後國に入り、尙北行して、院内、横手、大曲を過ぎ、荒川に至りて西行東行して秋田市に入り、更に北行、土崎、大久保、入郡湯の東岸を經て鶴形に至り、能代川に沿ふて東行し、大館に至りて、北行陸奥に入り、弘前、藤崎を經て、青森市に達す、此間二百〇四里、一は福島より陸前國岩沼に至りて濱街道に合し、仙臺、荒谷、有壁より陸中に入り、一の關、水澤、金ヶ崎より、北上川に沿ひて北行、花巻、盛岡より陸奥に入り、小向、三本木、七戸を經て野邊地に至り、日本鐵道青森線に沿ひ、西行して青森市に達す、其距離百九十二里、福島以北前

おし

者を米澤街道と云ひ、後者を陸奥街道と云ふ。

**おーじょいん 往生院** 河内國中河内郡池島村大字六萬寺にあり、淨土宗に屬す、楠正成由緒の寺にして、觀應年中高師直の爲めに焼かる、今の堂塔は天和の末、僧淨泉の再興と稱す、境内に楠木正成の供養塔あり。

**おーすまぢ 大洲町** 伊豫國喜多郡肱川の南岸にあり、加藤氏六萬石の舊城下にして、松山市を距る十四里十五町、宇和島町へ五里四町、郡内第一の大邑とす、郡役所、警察署、郵便電信局、區裁判所、稅務署、中學校等あり、此地に大洲城址あり、宇都宮氏の修築する所、後加藤氏累世の治所たりしが明治維新後廢城となる。

**おーすみ 大隅國** 西海道十一國の一にして、東北日向に隣り、西北薩摩に接し、西南一帯海に臨む、地勢東北方は山岳連亘して、其餘派内地に及べり、然れども西北部及海岸附近稍々平坦にして地味膏腴農産物に適せり、國を肝屬、嘯啖、始良、大島、熊毛の五郡に別ち、鹿兒島縣の管轄に屬す、古くは襲國又嘯啖國と云ひ、日向國に屬せしが、元明天皇の和銅六年日向國を割き此國を置く。

**おそれやま 恐山** 陸奥國下北郡、斗南半島の殆んど中央にあり、高さ二千六百餘尺、土俗宇曾利山と稱す、千島火山系に屬する活火山にして、多量に硫黄を産し、温泉の涌出多

し、山中奇景に富み、地獄谷、極樂濱、賽の河原など稱する處あり。

**おそれやまのおんせん 恐山温泉** 陸奥國下北郡恐山の麓にあり、冷拔、業師、花染、瀧、新瀧、諸湯の總稱なり、泉質硫黄、溫度百六十度、皮膚病諸病に効驗ありと云ふ。

**おーたまぢ 太田町** 常陸國久慈郡にあり、水戸市の北方五里、太田鐵道此地に停車す、郡内第一の都邑にして、郡役所、區裁判所、警察署、稅務署、小林區署、郵便電信局、中學校等あり、近傍淨光寺には佐竹氏累代の墳墓あり、石材、木材、薪炭、煙草、綿物等の産物あり、此地もと佐竹氏累世の居城地たりしが慶長年間、秋田に移封せられてより、遂に徳川氏の手に歸し、寶永年間水戸藩の傳相中山信敏の領となりしが、享和三年廢城となる、上野國新田郡にあり、高崎市の東方九里二十六町、郡役所、警察署、郵便電信局、區裁判所出張所、稅務署、中學校等あり、町の北方に金山あり、一に新田山と稱し、古來名所として知らる、古歌多し山上に古城址あり、新田氏累世の居城地にして、新田郡の名は蓋し之より起れり、其傍に新田神社あり、新田義貞を祀る、山麓宇高山に、高山神社あり、幕末の志士として知られたる高山彦九郎を祭る、縣社に列す。

おーだいがはらやま 大臺原山 紀伊山脈に屬す、大和國

吉野郡にあり、伊勢、紀伊兩國に亘る、高さ五千餘尺、一に三國嶽とも稱す、山容高臺の如し、依て臺ヶ原の名ありと。

**おだかまち 小高町** 磐城國相馬郡にあり、日本鐵道常磐線の停車場あり、原町驛を去る三里二十一町、昔時相馬氏伊達政宗の銳鋒を避けし處にして今猶其舊跡あり。

**おーたがは 太田川** 安藝國にあり、源を佐伯郡吉松及山縣郡八幡原の山中に發し、月河内にて二水合して東南流數多の小流を合し、高宮、沼田兩郡界を北流し、安藝郡に入りて二派に別れ、東派は廣島市の東部を二派に別れて海に入り、西派は廣島市中島町の北に至りて、本川、本安川の二派となりて海に入る、一に入木川、可部川とも云ふ。

**おーたきまち 大多喜町** 上總國夷隅郡にあり、千葉町を距る十一里二十三町、郡役所、警察署、郵便電信局、稅務署、區裁判所出張所、小林區署、中學校等あり、城址は町の西端にあり、足利氏の末年、正木大善之に據り、名けて根小屋と云ふ、徳川時代本多忠朝此地に封ぜられ五萬石を食む、後暫く幕府の直轄地となり居りしが、元祿十五年稻垣氏の領となり、維新の當時大河内正久之を管す。

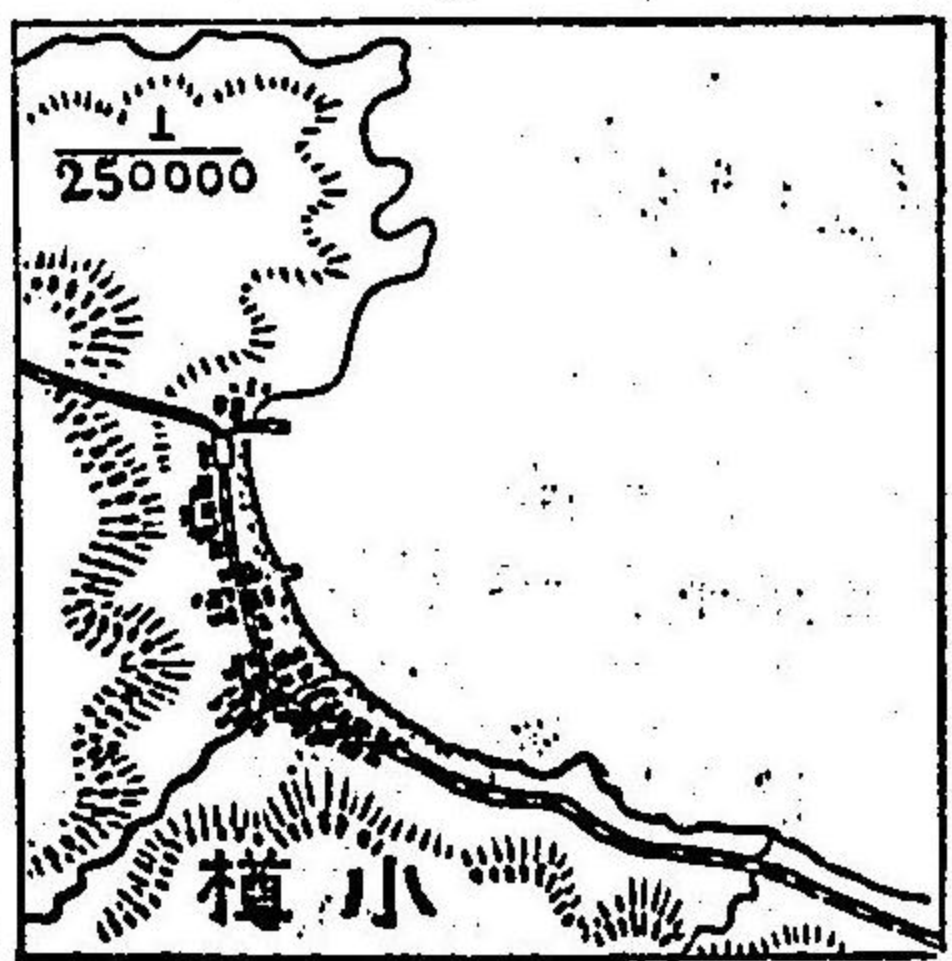
**おーたてつご 太田鐵道** (私設) 常陸國水戸市より起り、北の方太田町に通す、一に水戸鐵道とも云ふ、延長十三哩十一鐵あり。

**おだにやま 小谷山** 近江國東淺井郡伊吹山の西北小谷村にあり、淺井長政居城の地にして、天正元年織田信長の爲に滅ぼされ次で廢城となる。

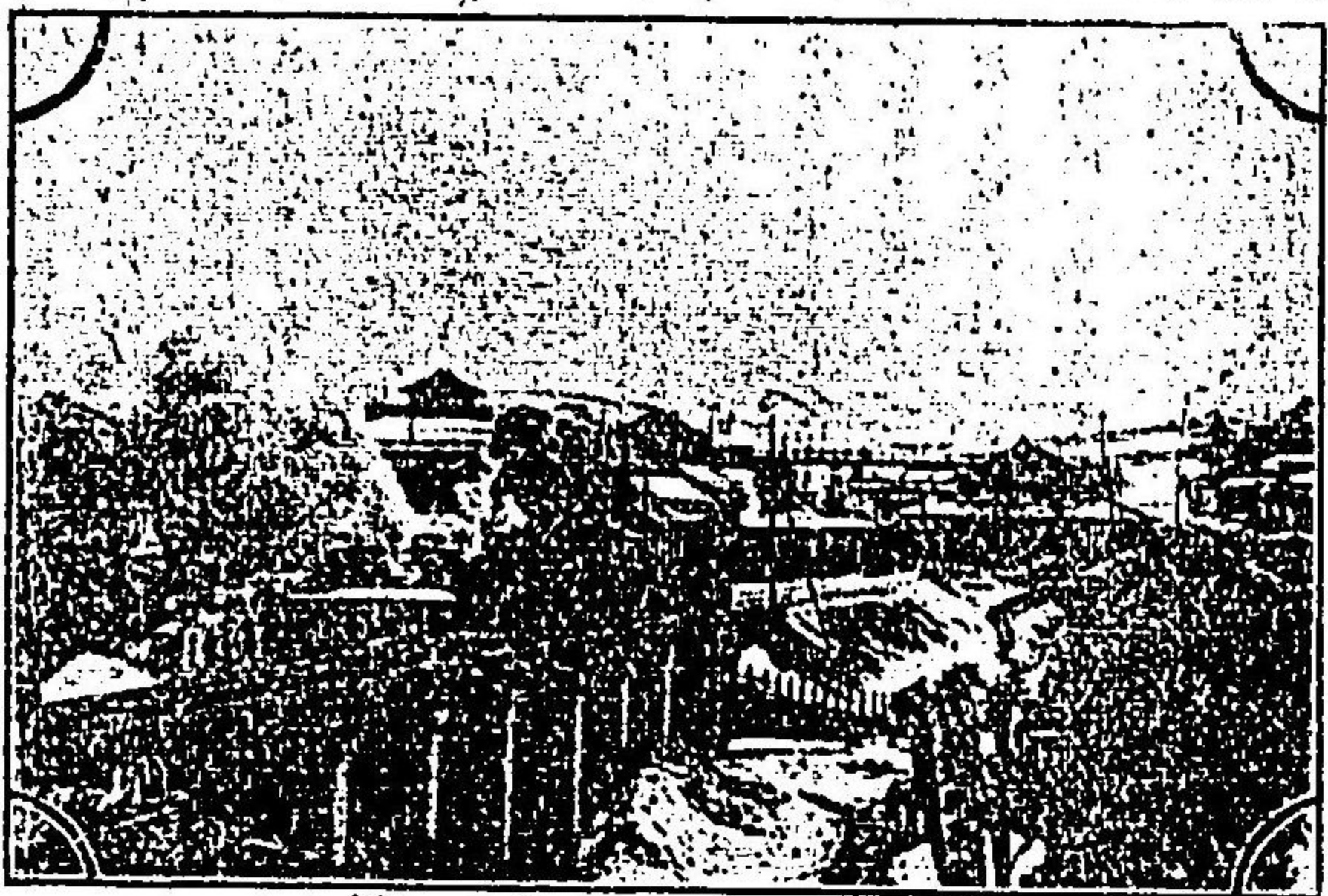
**おだるく 小樽區** 後志國小樽郡の海岸にあり、炭鐵鐵道通過す、支廳及警察署、郵便電信局、區裁判所、稅關支署、港務局、中學校等あり、札幌平野を通じて物産の集散地なり、此地維新前迄は微々たる漁村に過ぎざりしが、明治二年開拓使の設置以來札幌市街の發達に伴ひ、其關門として通商貿易、物貨集散の樞點となり、昔年ならずして一大市街をなすに至れり。

**おだるみなと 小樽港** 我國特別輸出港の一にして、後志國小樽郡小樽灣頭にあり、東西十町、南北十五町、水深三例乃至八例、北海道西北海岸に於ける唯一の良港にして船舶常に輻輳し商業極めて活潑なり。

**おだわらまち 小田原町** 相模國足柄下郡、箱根の東北海岸にあり、國府津より電氣鐵道の軌あり、城は町の北部にあり、西北は國根の峻嶺を繞らし、東南海濱に接し、天險の地た



り築城の初め詳  
がならず、明應  
三年北條早雲此  
地を得るに及び  
子孫相傳へて此  
に居城し、大に  
關東に威を振ひ  
たりしが其滅亡  
と共に町もいた  
く衰へたり、徳  
川時代に至り、  
大久保忠隣此地  
に封ぜられてよ  
り、世襲して維  
新に及ぶ、現今  
舊城は皇室の御  
崩邸となり、郡役所、警察署、郵便電信局、區裁判所、稅務署、  
中學校其他銀行、請會社等あり。

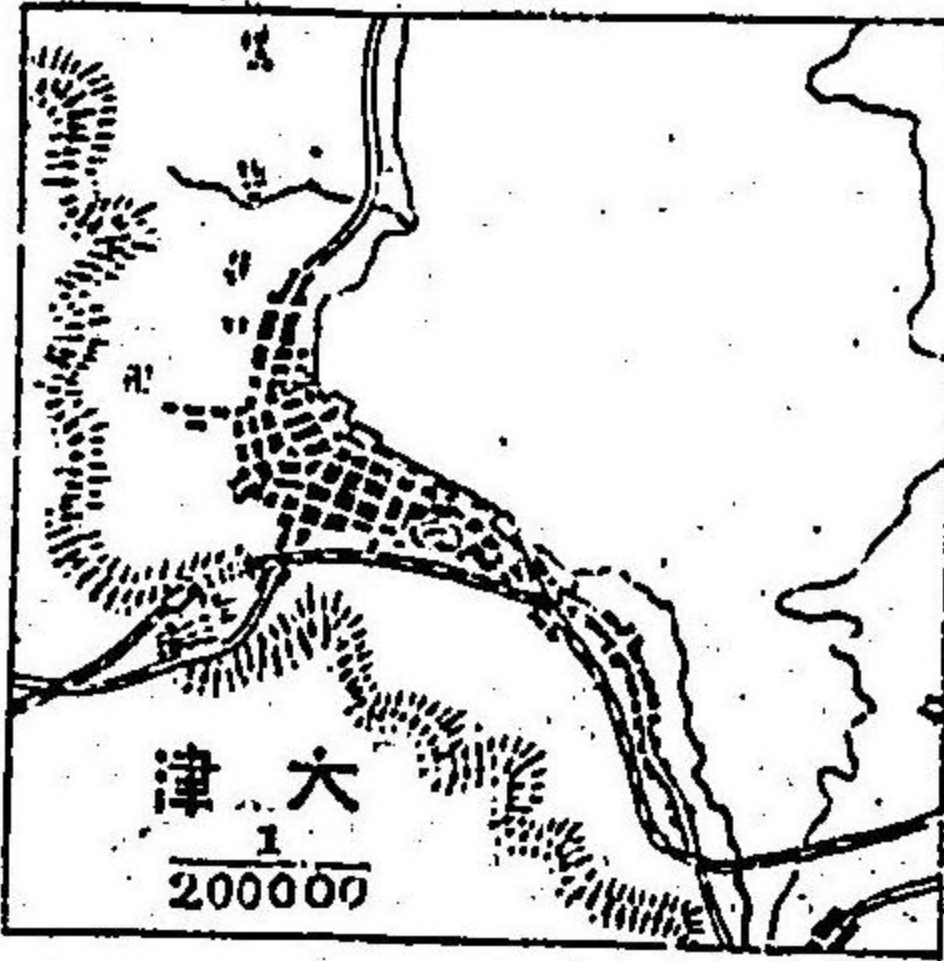


(場車停頓小)

**おさかまち 小千谷町** 越後國北魚沼郡信濃川の四岸にあ  
り、新潟市を距る二十一里餘、郡役所、警察署、郵便電信局、  
區裁判所出張所、稅務署等あり、越後藩の産地として有名な

り、此邊火井あり竹筒を以て燈火に代ふ。  
**おつきやま 御月山** 越後、上野兩國の境入海山の南方にあ  
り、高さ七千百餘尺。

**おいつし 大津市** 近江國滋賀郡比叡山麓、琵琶湖畔にあ  
り、滋賀縣廳所在地にして、東京を去ること百二十八里、東  
海道鐵道は南方馬場に停車す、東海、北陸交通の要衝に當  
り、市街極めて殷盛、縣廳及市役所、地方裁判所、區裁判所、  
郵便電信局、小林區署、稅務署、及師範學校、中學校、女學校、  
商業學校、歩兵第九聯隊、其他病院、銀行、會社等あり、此地  
は東山北陸道に對し、京都  
の要所にして、嘗て天智天  
皇の都せられし處、其跡南  
滋賀にあり、爾來史上に著  
名なる事蹟を傳へたる處な  
り、城址は湖岸にあり、天正  
中豊臣氏坂本城を此地に移  
し、尋で京極高次を置く、關  
ヶ原役後、月田左門に與へ、城を膳所に移さしめ、此地には  
代官を置きて監守せしむ。

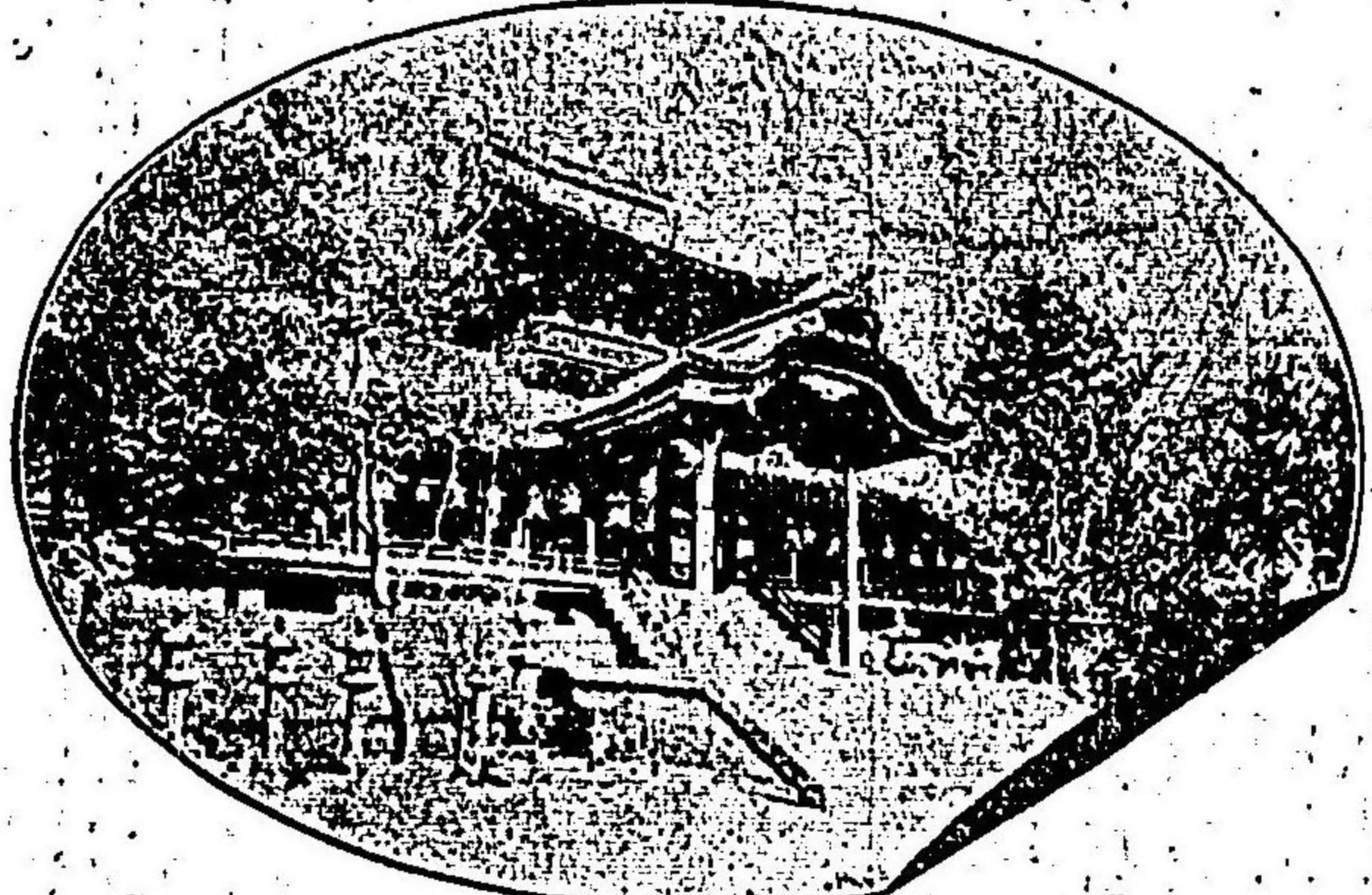


**おごえき 乙供驛** 陸奥國上北郡にあり、日本鐵道青森線  
此地を通ず、近傍に坪村あり、靈の碑の所在地となす、碑は

坂上田村麿の建てたるものなりと云ふ。

**おごくら 乙訓寺** 山城國乙訓郡にあり、眞言宗にして  
推古天皇の朝、聖德太子の草創と稱せらる、其後弘法大師來  
りて眞言を修す、嘗て宇多法皇住み給  
ひしことあるを以て、一に法皇寺と號  
す、延暦四年廢太子早良親王を乙訓寺  
に幽閉せしめ給ひしこと水鏡に見ゆ。

**おごさき 男山** (雄徳山、丈夫山)  
山城國綴喜郡木津川の南岸にあり、一  
は雄花山、鳩峯、八幡山、香爐山とも云  
ふ、天王山と水を隔てて相對し京師の  
關門をなす、山上に官幣大社男山八幡  
宮あり、此地南北朝以來、屢々戰亂の  
地となり、元弘六年、官軍赤松則村、此  
地及山崎を略して北軍に對し、延元三  
年北畠顯信、此地に築城して足利氏の  
軍を拒ぎ、正平七年後村上天皇親しく  
諸軍を督して此地に臨み給ひしは、と  
もに史上に有名なり。



(宮 八 山 男)

**おごさき 男山八幡宮** 官幣大社、山城國  
綴喜郡八幡町男山の鳩峯にあり、譽田別尊、神功皇后、比賣

明神とも云ふ、元和の初、兵火に罹り燬失し、寛文中再興  
せしが、明治三十八年の初夏、過まらて火を失し、社宇、大

神を祀る、一に石清水八幡と云ふ、清和天皇貞觀二年大和  
安寺の僧、行教、宇佐八幡の神託により、神許を得て此地に  
勧請し奉れりと云ふ、歴代皇室の尊信篤く、天下の大事ある  
毎に必ず此處に告祭式を行ふ、殊に源  
家の氏神として武家累代の歸依深し、  
今の社殿は元祿年中徳川五代將軍綱  
吉の修理する所にして、近年特別保護  
建築物と認定せらる。

**おごなしがわ 音無川** 紀伊國熊野川  
の別稱。  
**おごなしのたき 音無瀧** 山城國愛宕  
郡大原、魚山三千坊の東方にあり、高  
さ六丈、幅一丈七尺あり、流れ除るに  
下りて、其聲極めて微なり、故に此名  
ありと、其水流れて高野川に入る。  
**おごりじんじや 大鳥神社** 官幣大  
社、和泉國泉北郡風村大字大鳥にあり  
和泉國の一宮にして大鳥連祖神を祀  
る、創建年月詳かならず、一に大鳥大

半島有に歸せり。

**おのわのたき 音羽瀑** 山城國愛宕郡比叡山の山腹にあり、高さ二丈一尺、幅一間、下流高野川に入る。

**おのがじーさん 鬼城山** 安藝國佐伯郡にあり、周防國玖珂郡に亘る、長門國豊浦郡の西南部にあり、伊豫國北宇和郡にあり。

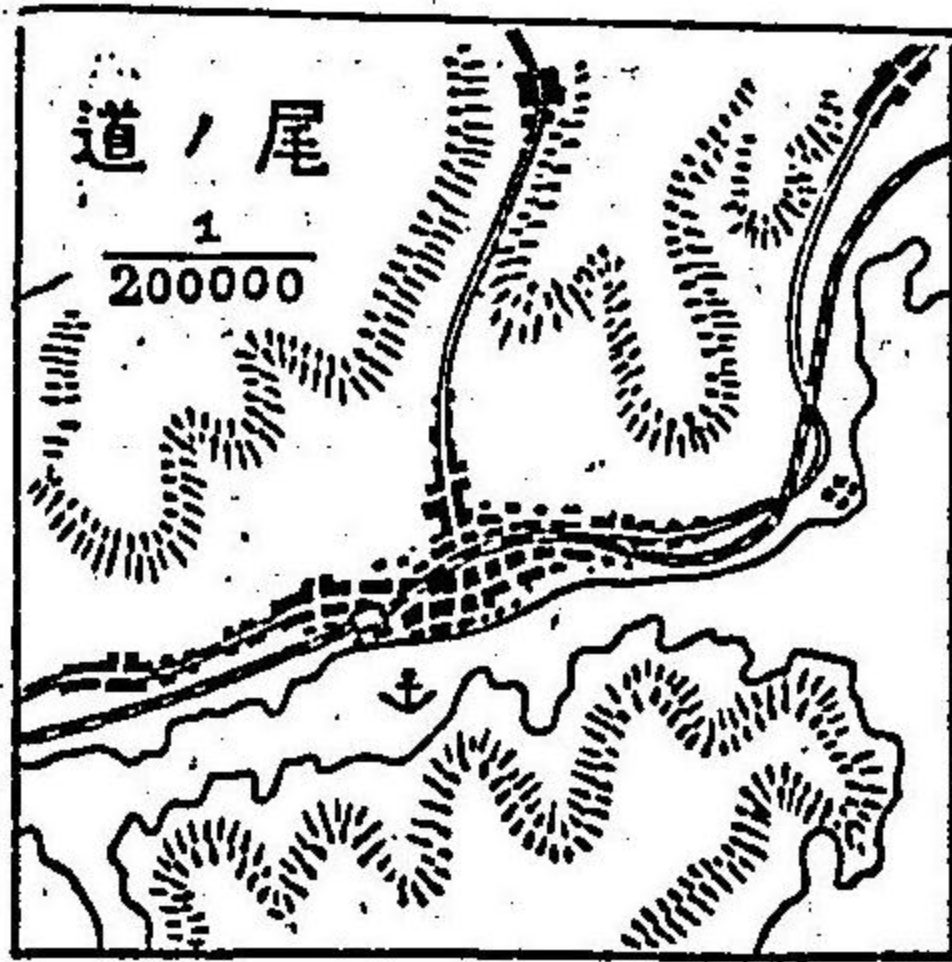
**おのこへおんせん 鬼首温泉** 陸前國玉造郡鬼首村にあり、仙臺を距る西北二十一里、四邊連山起伏し、土地僻遠にして交通不便なるも、山水明媚なると噴出泉の湧出するありとを以て浴客稍多し、寒風澤、神瀧、轟、吹上、荒雄の五湯あり、其中吹上温泉は岩層の間より熱湯を吹き上ぐるものにして二穴あり、一を弘法と云ひ、一を不動と云ふ、弘法の噴泉は高さ一丈餘、不動の噴泉は高さ三四丈、交互に噴出し其聲遠雷の如く、或は噴き或は止むこと晝間六回、時により多少の増減あり、何れも瀧類泉にして少しく硫氣を含む、溫度九十四度、桶を以て浴室に導く。

**おのえむら 尾上村** 播磨國加古郡加古停車場より南一里餘の處にあり、村に尾上神社あり、境内千餘年前の古鐘及び相老の松あり、これを尾上の松と稱し、高砂、曾根の松などと共に古來有名なるものとす。

おのささがわ 男里川、和泉國泉南郡東信達村葛畑に發し、

西流金熊寺川と稱し、山中、木堰の兩川を合せ尾崎、雄信邊村の間に至り海に入る、長四里許。

**おのみちかききー 尾道海峡** 備後國尾道港と向島との間を云ふ、此間六町十三間あり。



**おのみちし 尾道市** 備後國御調郡の東南海濱にあり、備後國第一の都市にして廣島市を去ること二十四里、山陽鐵道此地を通過す、市役所、警察署、郵便電信局、區裁判所、税務署、小林区署、商業學校、中學校等あり、酒酢、鹽表等の産あり、尾道港は其南面にあり、水津三河乃至十二河、當國中の良港にして、又瀬戸内海の要津たり、近時港の兩側に堤防を築き、港底を浚渫し、大に其面目を改め、商業頗る活潑なり。

**おのがわ 大野川** 豐後國にあり、岩戸川緒方川の合流にして、大野郡に至りて此名あり、北流して鶴崎港に注ぐ、一に白瀧川、舟岡川とも云ふ。

**おののまち 大野町** 越前國大野郡、福井市の東南方九里にあり、土井氏四萬石の舊城下に於て、人口九千五百餘、

起れりと、委しくは大和物語にあり、古今集の「我心なぐさめかれつ更科や、娘捨山に照る月を見て」の歌は古來人口に膾炙せる者とす。

**おばままち 小濱町** 若狹國遠敷郡の北端、小濱灣頭にあり、酒井氏十萬三千五百餘石の舊城下に於て、福井市を距ること二十八里六町、國內第一の都會とす、人口九千餘、郡役所、郵便電信局、警察署、區裁判所、中學校等あり、魚類、漆器、素麵等の産多し、舊城は一に雲濱城といひ、南北兩川の海に注ぐ邊にあり、慶長年間京極氏の築く所、後酒井氏累世の居城たり、今は廢して僅に城構、石垣等を存す、港は東西四里、南北二里、水深二十仞、南船常に幅濶す、敦賀港を距る三十四里。

**おばまおんせん 小濱温泉** 肥前國南高來郡小濱村にあり、温泉嶽の山麓に於て海濱に臨む、鹽類泉にして、浴舎數軒浴客多し。

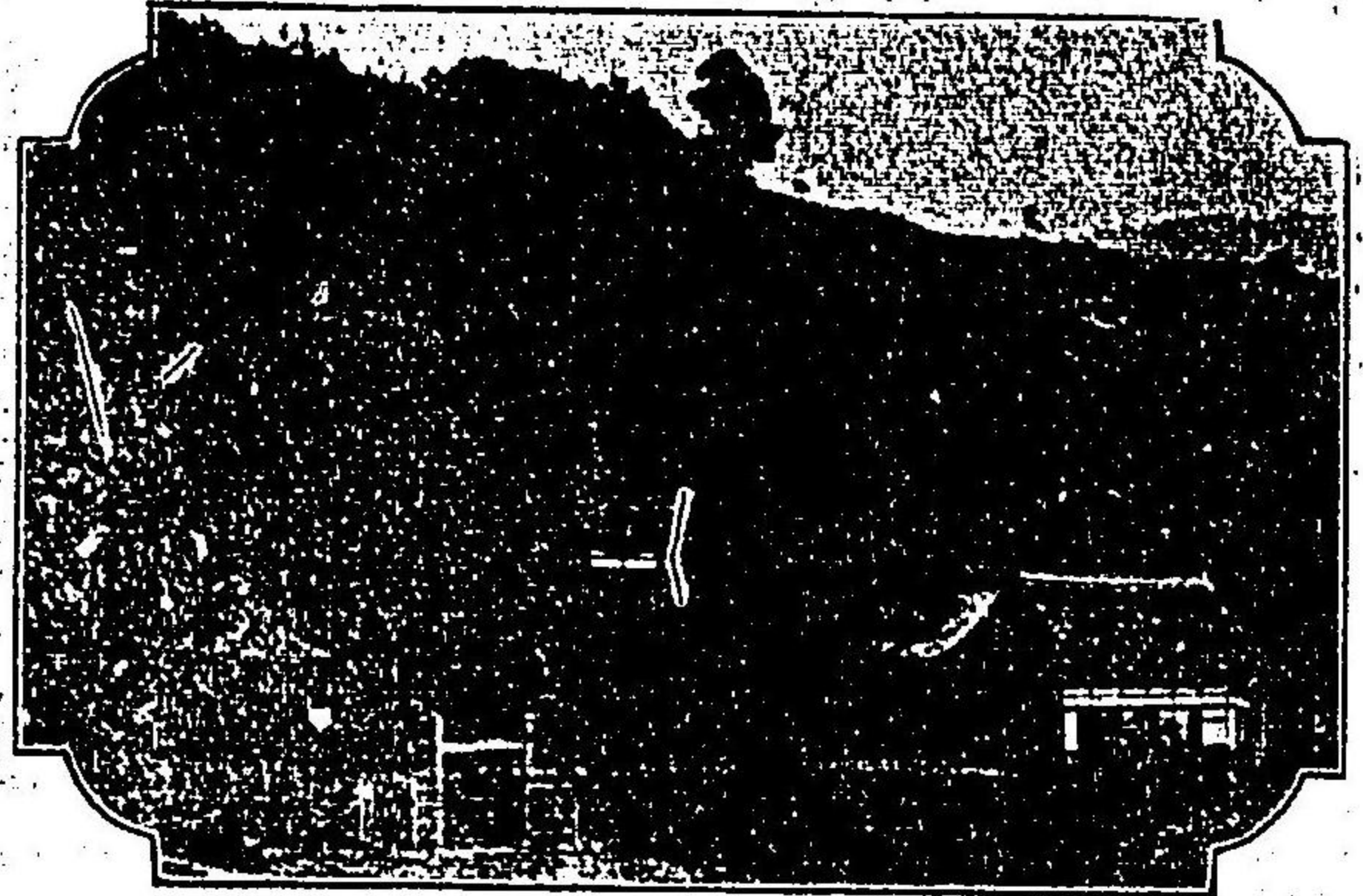
**おばまわん 小濱灣** 若狹國遠敷、大飯兩郡の北方にあり、一に奇戸の入江と云ひ、又若狹の浦と云ふ、松崎、苦栗崎東西に斗出して灣口をなす、灣内小濱の良港あり。

**おーはままち 大濱町** 三河國碧海郡にあり、衣ヶ浦に臨み、風景絶佳の地として知らる、人口六千餘、郵便電信局、警察分署等あり、大濱港其前面にあり、武豊港と相對し、船

郡役所、警察署、郵便電信局、區裁判所、税務署、中學校等あり、生糸の名産地として知らる。尾張國知多郡、名古屋市の南方八里十一町、常滑町の北一里三十七町にあり、伊勢灣を隔てて四日市港と相對し、同港及熱山へ日々汽船の往復あり、人口二千餘、警察署、郵便電信局、區裁判所出張所あり、常滑と共に好海水浴場として有名なり。

**おばすてやま 姨**

**捨山** 信濃國更科郡にあり、千曲川を隔てて鏡臺山と相對す、直江津線坂城停車場を距る二里、觀月の名勝地として世に知らる、傳云、昔何某とか云へる人、姨を此山上に捨てたるより其名



(山 捨 姨)



船の往來頗る頻繁なり、此地夏時は海水浴場の設けありて浴客常に群集す。

**おーはらむら 大原村** 山城國愛宕郡大原川の西岸にあり、舊大原庄といひ、今大原、小出石の二大字に分る、村に三千院、勝林院等の名所あり、勝林院の門前、實光坊境内の法華堂の背後に後鳥羽天皇の御陵あり。

**おーはらのむら 大原野村** 山城國乙訓郡大枝村の南、大原山(小鹽山)の東にあり、此地に官幣中社大原野神社及淳和天皇の大原野四嶺上陵あり。

**おーはらのじんじや 大原野神社** 官幣中社、二十二社の一にして、山城國乙訓郡大原野村にあり、建御雷神、磐主神、天兒屋根命、比賣神を祀る、文徳天皇仁壽元年、春日神社の皇居に違きを以て、皇太后勅して此處に鎮座せしめ給ひしなりと、又神祇正宗には嘉祥三年左大臣藤原冬嗣皇城鎮護として之を勧請したりとのこと見ゆ。

**おひまぢ 大仁** 日向國南都郡にあり、伊東氏五萬石の舊城下にして、宮崎町の南方十一里四町に位す、人口七千餘、郡役所、警察署、郵便電信局、區裁判所、小林區署、稅務署等あり、舊城址は町の西北隅にあり、天正十五年伊東氏此地に封せられてより累世相傳へて明治維新に至る。

**おーひと 大仁** 伊豆國田方郡にあり、豆相鐵道、三島より

電信局、稅務署等あり。

**おーまき 大間岬** 陸奥國斗南半島下北郡の西北端にあり、本州の極北となす。

**おーみ 近江國** 東山道十三國の一にして、東伊勢美濃に、西丹波、山城に、南伊賀に、北越前に接す、地勢連山四面を圍繞し、中央に琵琶湖ありて國の大半を占む、沿岸地味肥沃にして、米穀の産多し、國を分つて滋賀、甲賀、東淺井、高島、野洲、伊香、栗太、蒲生、神崎、愛知、大山、坂田の十二郡となし、滋賀縣之を管す、古へは湖水あるを以て淡海と稱し、遠江に對して、「ちかつあはうみ」と云ひ、後約りて近江と云へり、成務、天智の兩天皇都を當國滋賀郡に定め給ひたることあり、鎌倉幕府の創立以來佐々木氏の勢力當國に普く、子孫相襲で足利氏の末に至りしが、元龜、天正の頃織田氏の興るや、遂に其討滅する所となる、其後幾多の變遷を経て徳川氏の代となり、先づ彦根城を起して井伊氏を封じ、以て京畿を控制せしめ、次で三上、膳所、宮川、大溝、水口、山上、四大路の七藩を置きて全國を分治せしむ。

**おーみしま 大三島** 伊豫國高繩半島の北海中にあり、安藝の大崎上島と相對す、周圍十四里三十一町、越智郡に屬す、島中、宮浦、宗方、盛等の名邑あり。

**おーみてつごー 近江鐵道** (私設)、近江國彦根町より起

起りて、此地に達す、修禪寺温泉を距ること一里許、馬車、人車の便あり。

**おーひらがわ 大平川** 三河國にあり、源を寶飯郡本宮山に發し、岡崎町の南方を流れて矢作川に入る、流域七里十八町、一に男川、大屋川とも云ふ。

**おーひらさん 大平山** 羽後國南秋田郡の東南部にあり、高さ四千餘尺、秋田山、蛇峰の別稱あり、山下、山谷村より頂上迄四里十八町、山頂に太平山神社あり、大己貴神、少名彥命を祀る、此山もと三本ヶ嶽と稱せしが佐竹氏の入國以來今の名に改む。下野國下都賀郡の南部にあり、直立千餘尺、麓より登り十一町にして山嶺に達す、太平山神社あり、此地今は公園となる、元治元年五月水戸浪士藤田小四郎等の屯せし處なり。

**おーふ 大府** 尾張國知多郡の北隅にあり、東海道鐵道停車場あり、武豊鐵道此地より分岐して武豊に達す。

**おまえんぎ 御前崎** 遠江國藤原郡の南端にあり、伊豆の石廊崎と相對して駿河灣をなす、斗出二里餘、旋轉白色の燈臺あり、光線十九裡に達す。

**おーまがりまぢ 大曲町** 後國仙北郡にあり、秋田市を去る東南十四里、陸羽街道の要路に當り、今は官設奥羽鐵道此地を通過す、人口八千餘、郡役所、警察署、區裁判所、郵便

り、資生川に至る、延長二十六哩あり。

**おーみなと 大港** 陸奥國斗南半島中、下北郡にあり、野邊地灣に面す、當國の名邑にして郵便電信局及水雷團の設けあり。

**おーみねさん 大峯山** 大和國吉野郡金峯山の最高峯にして、一に大仙山と稱し、高さ六千二百餘尺、山上に藏王堂あり、役の行者の開きたる處と稱せらる、修驗者の大峯巡りと稱して、巡拜する靈場たり、殊に夏時は諸國の信徒白衣を着て登山する者多し、之を行者詣、又峰入と云ふ。

**おーみはつけー 近江八景** 近江國琵琶湖畔に散在せる八勝景を云ふ、其名稱は支那の瀟湘八景にかたごりたるものなりと、即ち左の如し。

比良暮雪 矢橋歸帆 石山秋月 三井晚鐘  
勢多夕照 堅田落雁 粟津晴嵐 唐崎夜雨

**おーみふじ 近江富士** 近江國三上山の別稱。  
**おーみやごー 大宮郷** 武藏國秩父郡にあり、國內屈指の名邑にして、郡役所、郵便電信局、稅務署、小林區署等あり、此地は古へ國府を置かれたる地と稱せらる、綿糸、生糸等の産あり。

**おーみやまぢ 大宮町** 武藏國北足立郡にあり、浦和を去る壹里半、日本鐵道の鐵工場、郵便電信局、區裁判所出張所あり。



(社神川氷園公宮大)

り、鐵道交通の要路に當り、日に繁盛に赴く、中仙道の一驛にして、古は無邪志府を置けり、此地に武藏の一の宮なる氷川神社あり、即ち地名の起因なり、境内氷川公園あり。●駿河國富士郡、富士山の西南方裾野にあり、富士登山の要路たり、沼津町へ六里二十九町、鈴川驛へ馬車鐵道の便あり、警察分署、郵便電信局、區裁判所出張所等あり、國幣中社淺間神社並に製紙會社あり、洋紙の製出高は實に本邦第一に位す。

**おんじたまち 大牟田町** 筑後國三池郡の西隅にあり、九州鐵道は此地を経て肥後に入る、警察署、郵便電信局、集治

監等あり、其港亦其好にして船舶の出入多し、三池産の石炭は多く此地より輸出す。

**おんじたまち 大村町** 肥前國東彼杵郡にあり、大村灣に臨む、長崎市を距ること九里十町、大村藩二萬八千石の舊城下にして、郡役所、警察署、郵便電信局、區裁判所、稅務署、中學校、第二十三旅團司令部、歩兵第四十六聯隊、小林區署等あり。

**おんじたまち 大村灣** 肥前國彼杵灣の別稱、一に綱浦と稱す。

**おんじたまち 遠賀川** 筑前國にあり、源を嘉穂郡宮野村に發し、西北流庄内川其他の小流を合し、西流して遠賀郡菅屋港に注ぐ、流域十四里十三町、一に嘉麻川、淺茅川、直方川、木屋瀬川の別稱あり、此流域地方は石炭の産出地として有名なり。

**おんじたまち 園城寺** 近江國にあり、一に三井寺と云ふ、此寺元大友皇子の莊園たりしを以て此名ありと、尙ほ「みるでら」を見よ。

**おんじたまち 御嶽** 飛騨山脈に屬す、信濃國四筑摩郡の西北隅飛騨、美濃兩國の境に跨る、高さ一萬〇七百餘尺、山頂四時雪を戴く山頂に御嶽神社あり、夏日行者の登山する者多し。

**おんじたまち 音戸瀬戸** (音度海峽、瀬戸瀬門、程度海峽)

安藝國安藝郡合橋島と鍋ヶ岬との間を云ふ此間一町より廣き處二町、潮流急激にして舟楫甚だ困難なり、海峽の人口、瀬戸村の濱に御塔と稱するものあり、俗に平清盛の塔と云ふも、明かならず、但し音戸(御塔)の名は全く是より出でしならんと思はる。

**おんじたまち 恩禰古丹島** 千島群島の一にして、幌筵島の西南にあり、長さ二十四里、巾五里、占守郡に屬す。

**おんじたまち 青梅鐵道** (私設)輕便鐵道、越武鐵道の立川驛より起り、四方青梅を経て日向和田に至る、延長十三哩あり。

**おんじたまち 青梅町** 武藏國四多摩郡にあり、東京を去る十二里廿三町四多摩の北岸に位す、青梅鐵道此地を通じて日向和田に至る、人口約六千、郡役所、警察署、郵便電信局、稅務署、區裁判所出張所等あり、此地織物業の盛地にして、木綿、絹糸等の産額多し。

**おんじたまち 表日本** 大平洋に面せる部分を云ふ、其特徴は海岸線の屈曲多く良港に富み、潮汐昇降の差甚しく、土地一般に隆起する所多く、火山少きが爲め地層整然たり、夏季に於ては雨量多し。

**おんじたまち 御物川** 羽後國にあり、源を雄勝郡東安嶽に發し、東北流して、役内川を合せ、北方に轉じて岩崎川と合し、

平鹿郡角間村に至りて横手川と合し、仙北郡花館村に至りて生保内川を合し、西流して秋田市の西南を過ぎて土崎港に入る、流域三十里、戸島川の別稱あり、其流域には秋田米の産多し。

**おんじたまち 大森町** 武藏國荏原郡品川町の南方にあり、東海道鐵道大森驛の所在地にして、西丘八景園の勝あり、梅樹を以て名高し。

**おんじたまち 親不知** 越後國四頸城郡市振村附近の海濱にあり、海邊一帶灘所に於て、怒濤岸を打つの間、其隙を見て通行す、故に親を顧みる暇なしとて此名あり、今は新道



(知 不 親)

の設けありて、危険を過ぐる必要なし。

**おろま** **小山町** 下野國下都賀郡にあり、宇都宮市の南方七里二十町、日本鐵道奥羽線及び兩毛線の水戸に連絡する交點地たり、物貨の集散多く、市街日に繁盛を加ふ、郵便電信局、警察分署、區裁判所出張所等あり、市の西端に小山城址あり、保元平治年間、下野大掾小四郎政光の築く所となす、子孫永く此地に居る、慶長五年徳川家康、上杉氏を征せんがため此地に至り、偶々石田三成の兵を與ぐるを聞き、庶子結城秀康を留め、上杉氏に備へしめて西歸せり。

**おろま** **大山** 相模國の中部、中、愛甲兩郡境にあり、平塚驛より大山町まで三里餘、山道一里三十町、國中有數の高山にして、海拔三千八百六十尺、山頂に阿夫利神社あり、大山祇神を祀る、古くは石尊大權現と云ふ、中腹には大山不動ありて、參詣の道者常に多し、殊に六月廿七日より七月十七日迄は大山詣と稱して、白衣の賽者、登山する者夥し。

**おろま** **大山町** 羽前國西田川郡にあり、鶴岡の西方二里に位す、人口約六千、郵便電信局、警察分署、區裁判所出張所等あり、有名なる大山酒の産地として知らる、近年其販賣の途を失ひ稍々衰微の傾あり。

**おろま** **小弓御所** 下總國千葉郡蘇我町の近傍生實は其舊蹟なりと云ふ、幽東公方足利義明、古河より此地に移り、小弓御所と稱す、後、里見義弘と共に、相模の北條氏と國府臺に戦ひ敗れて、遂に廢址となる。

**おろま** **大淀川** 日向國にあり、源を西諸縣郡の北隅及び西部兩所の山間に發し、岩瀬川、橋野川となりて、東諸縣郡に入り、兩流合して東流し、野尻川、綾川等を合せ、宮崎町を経て海に入る、長さ二十五里、一に赤江川の稱あり。

**おろま** **尾鷲町** 紀伊國北牟婁郡の東海岸にあり、三重縣に屬す、伊勢津市を距ること三十里三十町、新宮町へ十四里二十町、人口約八千、郡役所、警察署、郵便電信局、區裁判所出張所、小林區署等あり、港は東西一里、南北十九町、水深十七仞、近國の物貨此處に集まり、大坂、四日市等に定期の航海あり、商業稍々盛なり。

**おろま** **尾張國** 東海道十五國の一、東三河に、西北伊勢美濃に、南内海に接す、地勢概ね平坦にして、地味肥沃なり、國を分て名古屋市愛知、西春日井、東春日井、知多、海東、海西、丹羽、葉栗、中島の一市九郡となし、愛知縣之を統治す、古人は尾治田と稱す、蓋し知多半島の南方に延びて、尾を張りたる状をなすによりて此名あり、足利氏の時土岐氏此國を領有せしが後斯波氏の領となり、其臣織田氏守護代として之を治む、天文年間に織田信長清洲より起り、西征東伐四隣を征服し、將に天下を一統せんとして、其臣下に就

か

れ其志を果す能はずして止む、其子信雄、信孝ともに父に同ぐの明なく遂に豊臣氏の爲めに制せられて滅ぶ、徳川氏の世、將軍家康の子孫直、封を此地に享け、慶長十五年名古屋に築きて之に遷り子孫相襲て明治維新に至る、廢藩後、名古屋、稻置の二縣を置しが後之を名古屋縣に併せ尋で愛知縣と改む。

**かい** **甲斐國** 東海道十五國の一、富士山北麓の高原地にして、四方山を以て圍まれ、其中央甲府附近にや、平地を見るのみ、國を分つて四郡留、北郡留、東八代、西八代、東山梨、西山梨、南巨摩、中巨摩、北巨摩の九郡となし、山梨縣之を管す、古くは歌斐に作る、古語に山間を峽と云ふより其名ありと、景行天皇の御代に已に國造を置かれたる古國なり、中世源義光の子孫此に居り甲斐源氏の祖となる、鎌倉幕府の初、武田信義、當國に封ぜられ、子孫永く其地を治む、享祿、天文の頃、武田晴信(信玄)出で、しきりに兵を出して四隣を併吞し、其威東國に並ぶものなかりしが、其子勝頼暗愚にして終に織田氏の討滅する所となる、徳川氏の代、加藤、淺野の兩氏先づ此地に封ぜられ、次で三代將軍の弟忠長、四代將軍の弟綱重相次で封を受けしも罪ありて除かれ、後柳澤氏の領となりしが、間もなく幕府の直轄地に歸し、城番を置きて之を治めしむ、維新後山梨縣を甲府に置きて全國を治む。

**かい** **海晏寺** 武藏國荏原郡品川町の西南にあり、補陀洛山と號す、曹洞宗に屬す、北條時頼の草創にして、大

豊禪師の開基たり、此附近紅葉多く、東都紅葉の名所として名あり、境内に北條時頼及岩倉具視の墓あり。

**かいづ 海津** 近江國高島郡琵琶湖畔にあり、越前街道の要路に當る、前面に海津港あり、湖北の要港にして、汽船常に往來す、城址あり、海津政元の築く所と稱す。

**かいふのうら 海府浦** 越後國岩船郡三面川の河口より北方殆ど十里に至る海岸を云ふ、此沿岸礫石横はりて風景太佳、土俗陸前の松島に次ぐと稱す。

**かいはんだけ 開開嶽** (校開嶽) 陸奥國掛谿郡の南方にあり、東西南の三方海に面し、山頭分れて三峯をなす、直立三千餘尺、形、富士に似たるを以て、薩摩富士と稱す、此山は昔時屢々噴火し、附近の地大に災害を蒙れりと云ふ。

**かが 加賀國** 北陸道七國の一にして、東は越中、飛騨に接し南は越前に隣り、北は能登に境し、西一帶日本海に臨む、地勢、東南に峻山連亘して能登に至



石川縣となす。 **かがおんせん 峨々温泉** 陸前國柴田郡川崎村の山中にあ

り、内に白山の高峰あり、西北方漸く低下して、河流其方面に注ぐ、國を石川、河北、能美、江沼の四郡となし、石川縣に因す、此國は弘仁年中越前の二郡を割きて置かれたる國にして、一條天皇の永延の初め、富樫忠賴加賀介に任じてより子孫世襲し石川郡野々市にありて、全國を治む、建武中興の際、大納言師基加賀國守に任じ河北郡に治す、後富樫氏再び當國の守護に任ぜられしが、長享年間本願寺宗徒の亂あり、富樫政親兵を出して此れと争ひ、終に其討滅する所となる、其後上杉輝茂、朝倉義景等相次で來り侵せしが、天正年間織田信長全國を一統して諸將に分與せり、豊臣氏の代に前田利家此地に封ぜられ、丹羽、溝口等の諸氏と共に分治せしが、關ヶ原の役後、全國を給せられ、子孫世々金澤に治し、能登、越中を兼領して王政維新に至る、廢藩後、金澤縣を置かれしが、後改めて

り、背根温泉を距る西一里半、道路峻嶮にして馬車の便なきも、幽邃閑靜の地にして恰も仙郷に遊ぶが如し、泉質アルカリ性にして皮膚病、消化器病等に宜し、有名なる藏王山の絶頂迄僅かに一里半許り、半日の散策に適す、此地山を越ゆれば羽前國、小流を越ゆれば磐城國たり、温泉は竹内某の獨力苦心經營せる所、設備よく整ひ浴客頗る多し。

**かがみがわ 鏡川** 土佐國にあり、土佐郡の山間より發し、西に流れ南に折れ二派となり、高知市の南北を過ぎて汲江海に注ぐ。

**かがみやま 鏡山** 近江國蒲生郡鏡山村の南にあり、三上山の東に位す、野洲、甲賀の二郡に跨る、當國の名所にして彼の古今集に「鏡山いさ立よりて見て行かん、年へゆる身は老やしむると」とあるは即ち此山なり。

**かがわけん 香川縣** 縣廳は高松市にあり、讃岐一圓を管す、面積百十三方里五四、二市七郡四町百七十六村より成る。

**かき 嘉義** 臺灣の南部にあり臺南府の北方十五里に位す、嘉義縣の所在地にして、國語傳習所、公立學校、郵便電信局、憲兵屯所、警察署等あり、市街は城壁を以て、圍繞せらる、附近の地は肥沃にして農産物に富む、總督府へ六十五里十七町、此地初め諸羅と稱せしが、清の乾隆五十二年今の名に改む、明治二十八年臺灣征討の際、賊の大軍此地に據りて王

師に抗せしを以て我が近衛師團奮戦して之を陥れたる所とす。

**かきじま 牡蠣島** 劍路國厚岸郡厚岸灣内大黒島の南方にあり、沿岸牡蠣多く、全島殆ど牡蠣殻より成ると稱せらる。

**かぐえんじ 鱒淵寺** 川雲

國籾川郡鱒淵村にあり、天台宗の古刹にして、推古天皇二年の創建と稱す、本尊は藥師如來、僧智春を開基となす、境内廣く、風光の美を以て鳴る、寺寶多し。

**かくだまち 角田町** 磐城國伊具郡にあり、郡中第一の郡邑にして、郡役所、警察署、郵便局、中學校等あり、西南に角



(場市外門北義嘉)

かけが

田沼あり、一に大沼と稱す、仙臺市を距る九里三十四町、福島へ十二里。

かけがわまち 掛川町 遠江國小笠郡にあり、東海道五十里の一にして、濱松を距る東方七里三十町、東海道鐵道此地を通ず、太田氏五萬石の舊城下にして人口七千餘、郡役所、警察署、郵便電信局、區裁判所、稅務署、中學校等あり、此地もと今川氏の據りし處、徳川氏の初、久松氏に賜ひしが、延享三年太田資俊の領となり、世襲して維新に及ぶ、城址、驛の北端にあり。

かけはしがわ 梯川 加賀國にあり、江沼郡鈴嶽に發し、北流して小松町を過ぎ、今江沼の水を合せ安宅港に注ぐ、一に安宅川とも稱す。

かこがわ 加古川 (賀古川、鹿古川) 播磨國第一の大河にして其上流二あり、篠山川と云ひ、佐治川と云ふ、ともに丹波に發し、播磨に入りて兩流合し、荒田川、有田川、美野川を併せ、加古川町の西方を過ぎ分れて二流となり、海に入る、流域十九里、一に印南川、氷河、瀧野川等の別稱あり。

かこがわまち 加古川町 播磨國加古郡、加古川の東岸にあり、明石の西方五里二十町、中國街道の一驛にして、今は山陽鐵道通過す、郡役所、警察署、郵便電信局、稅務署、區裁判所出張所等あり。

かこしまてつどー 鹿兒島鐵道 (官設) 薩摩國鹿兒島市より起り、東北鹿兒島灣に沿ひて、大隅國に入り、加治木、國分を経て吉松驛に達す、延長三十一哩八釐。  
かこしまわん 鹿兒島灣 薩摩大隅兩國間に海入り、薩摩國揖宿郡の東端、大隅の音崎と相對して灣口をなす、一に櫻島灣と稱す、灣内に櫻島あり、其西對岸に鹿兒島港あり。

かさおかまち 笠岡町 備中國小田郡の西南にあり、山陽鐵道通過す、備後の福山町を距る四里二町、郡役所、警察署、郵便電信局、區裁判所、稅務署等あり、笠岡港は其南面にあり、港口廣けれど、大船碇泊の便なし、此地もと備後福山藩の所領なりしが、元祿年間幕府の直轄に歸し、倉敷代官出張陣屋を設けり。  
かさかだけ 笠岳 飛騨國吉城郡の東北、鎗ヶ嶽の西方に變ゆ、高さ七千餘尺。

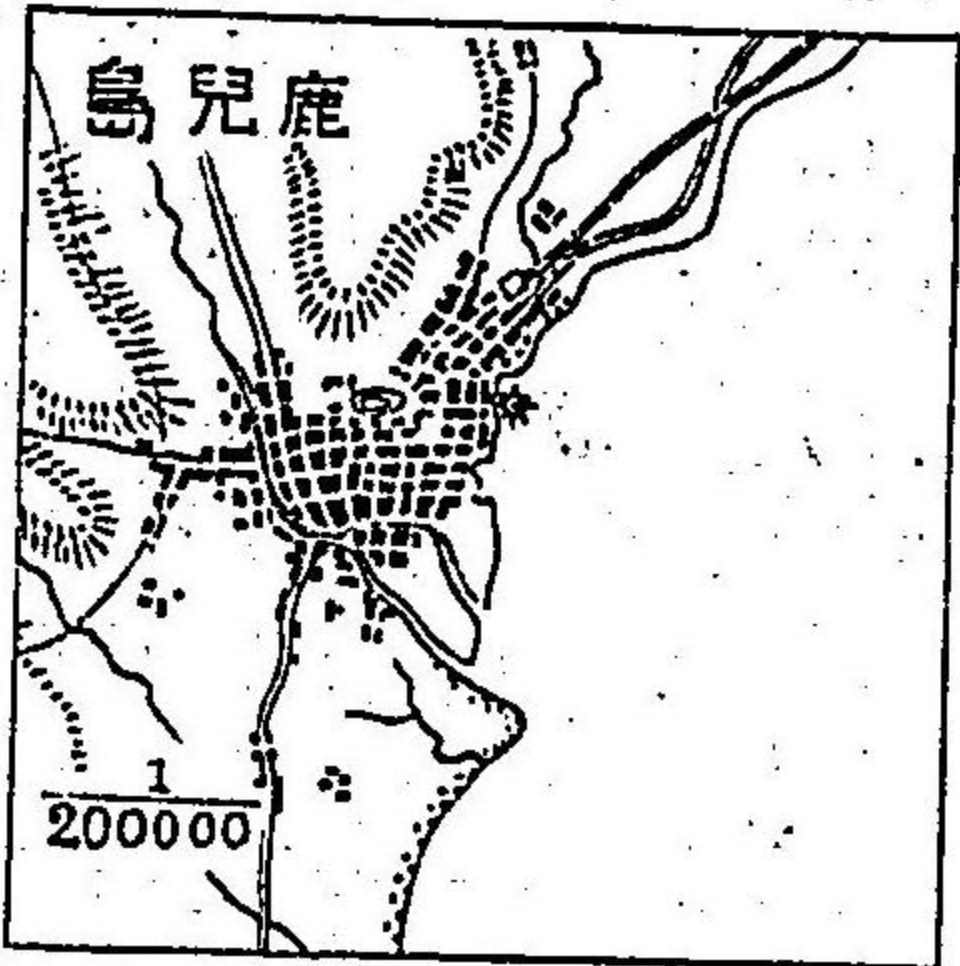
かこ

かさかたやま 笠形山 播磨第一の高山にして、神崎、多可、

かこ

かこしまけん 鹿兒島縣 縣廳は鹿兒島にあり、大隅、薩摩一圓を管し、面積六百二方里、一市十二郡三百八十村より成る。

かこしまし 鹿兒島市 薩摩國鹿兒島郡鹿兒島灣沿岸にあり、鹿兒島縣廳の所在地にして、東京を去る三百八十一里、島津氏七十七萬石の舊城下にして、山に倚り海に臨み、汽車、汽船の便あり、九州南部に於ける唯一の大都會とす、縣廳、郡役所、地方區裁判所、警察署、大小林區署、稅務署、港務部、稅關、測候所、歩兵第四十九聯隊、第七高等學校、師範學校、中學校、女學校、商業學校等あり、舊城址は市の北方鶴丸山一名城山の山麓にあり、もと上山城と稱せり、島津家累代の居城にして要害の地として知らる。  
かこしまじんぐー 鹿兒島神宮 官幣大社、大隅國始良郡西國分村にあり、彦火々出見尊を祀る、神武天皇御宇の創建と稱す、一に大隅正入幡宮又國分八幡とも云ふ、毎年八月十五日其例祭を行ひ、儀式極めて盛なり。



(笠置山紀念碑)

加西三郡に亘り、高さ三千餘尺、一に播磨富士と稱す。  
かささんみやく 笠置山脈 紀伊山脈の支脈にして、大和に入り笠置山脈の名を得、其中笠置山尤も有名なり。  
かさざら 笠置寺 山城國相樂郡笠置山上にあり、眞言宗にて、天武天皇の勅建と稱す、初め修驗道の行場として極めて盛なりしが、後漸く衰へ、鎌倉幕府の初年に解脫上人入山して之を再興し、大伽藍となせり、元弘年間後醍醐天皇、行在を茲に定め給ひしを以て遂に戦亂の巻と化し去り、一山悉く焚燬し、翠で再興ありしも舊觀に復する能はず、近年津藩藤堂氏の領に歸し少く舊觀を改めしが、今は僅に毘沙門堂、福壽院等を残すのみ。  
かさおら 笠置村 山城國相樂郡笠置山麓、木津川の兩岸にあり、南岸なるを南笠置と云ひ、北岸にあるを北笠置と云ふ、名古屋大阪間の鐵道通過す、有名なる笠置山其南方に變ゆ、近傍元弘建武頃の遺蹟多し。

かさおら 笠置山 山城國相樂郡笠置村大字南笠置にあ

かさ

り、溪深く峰聳え、高さ約六百餘尺、滿山樹木蒼鬱として、峻  
巖至る所に屹立し、木津川其麓を流れ、頗る峻要の地たり、  
山上笠置寺あり、眞言宗に屬す、山中後醍醐天皇行在の蹟を  
初め、元弘當時に關する遺蹟多し、又藥師、彌勒、虚空藏など  
稱する巨石は何れも高さ數十尺乃至數百尺あり。

**かさごしま笠戸島** 周防國南方海中にあり、都濃郡に屬す、  
長二里、横半里、周圍九里許本島と大島との間の海灣を笠戸  
浦と稱す、好錨地として知らる、下關を去る東方四十五里。

**かさごしまち笠間町** 常陸國水戸市の西方六里、西茨城郡佐  
伯山下にあり、牧野氏入萬石の舊城下にして、郡役所、稅務  
署、警察署、小林區署、郵便電信局等あり、佐伯山上に笠間城  
址あり、藤原時朝の築く處と稱す。

**かしのむら香椎村** 筑前國粕屋郡箱崎町の北方、立花山下  
にありて香椎灣に臨む、九州鐵道及博多灣鐵道通過す、此地  
はもと仲哀天皇熊襲征討當時の行在所、「檀日の宮」の所在  
地にして、今官幣大社香椎宮あり、附近名勝多し。

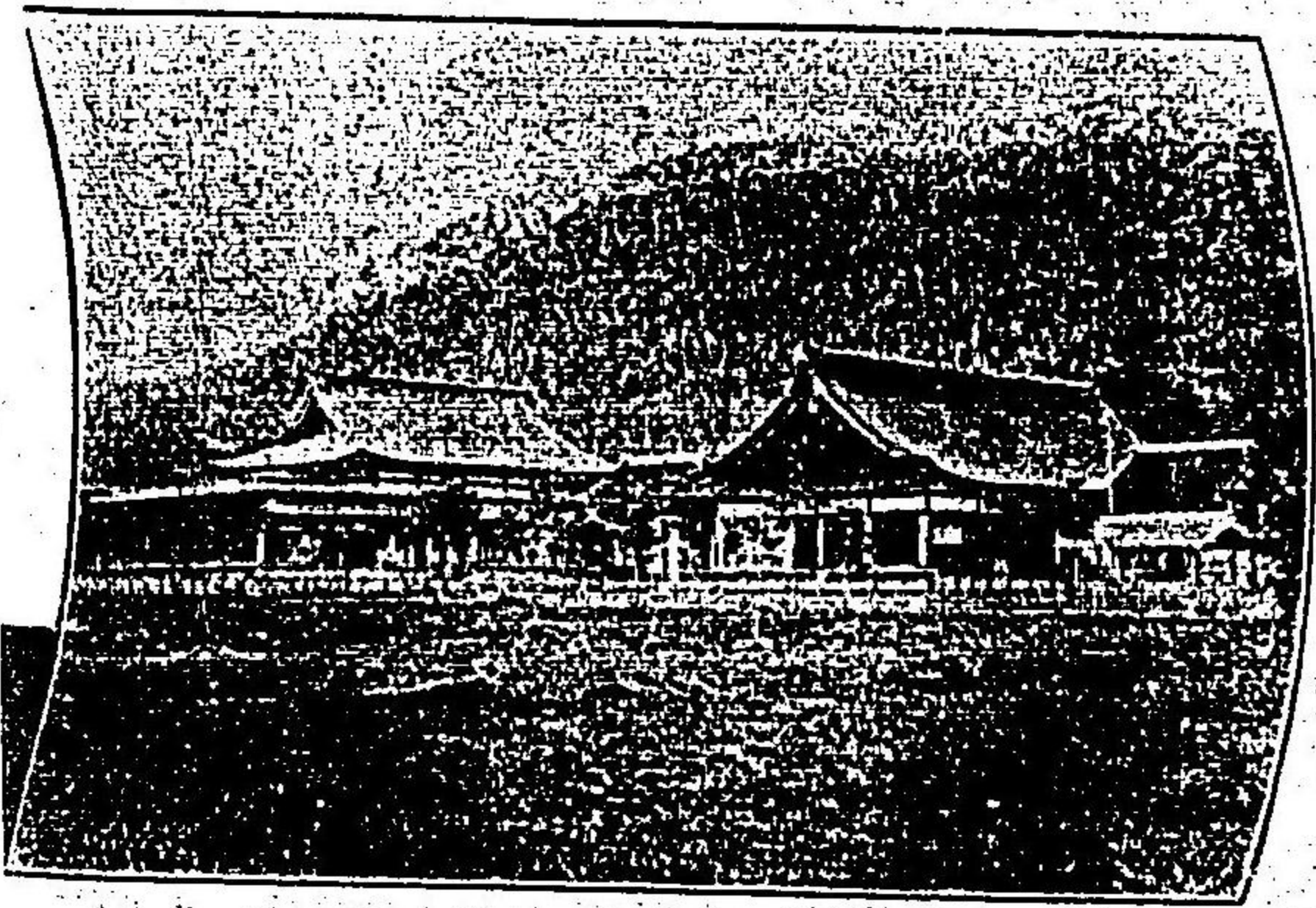
**かしのみや香椎宮** 官幣大社、筑前國粕屋郡香椎村にあ  
り、香椎停車場を距る僅かに五町、神功皇后を祀る、古來、  
伊勢、石清水、氣比の三社と共に四所の宗廟として歴代の尊  
信殊に篤かりき、毎年二月、十月、十二月の三回大祭を行ひ  
勅使の参向あり。

**かじかざりまち鯨澤町** 甲斐國南巨摩郡にあり、甲府市の  
西南四里二十五町、富士川の河畔に位す、駿河岡岩淵迄十八

里舟行の便あり、人口五千餘、郡役所、警察署、郵便電信局、  
區裁判所、稅務署等あり、近代此處に關門を置き水陸の行人  
を監視せることあり。

**かしばらじんぐー檀原神宮** 官幣大社、大和國高市郡白  
檀村にあり、畝傍山の西南に當る、神武天皇、五十餘姫命を  
祀る、此地は  
紀元元年神武  
天皇即位の式  
を上げ給ひし  
「檀原の宮」の  
ありし處にし  
て、神社は明  
治二十三年、  
京都宮城の神  
嘉殿及内侍所  
を移して建立  
せられたるも  
のとす。

(宮 神 原 檀)



**かしまじんじや鹿島神社**  
茨城縣常陸國  
鹿島郡鹿島  
にあり、官幣

きこと、四御藤の花によりて年の吉凶をさとすこと、五海の  
音によりて晴雨を知ること、六根上り松の芽を出すこと、七  
松の箸脂出でざること、元より無稽の傳説たりと雖も、其中  
要石は尤も有名なり。

**かしまち鹿島町** 常陸國鹿島郡にあり、水戸市の東南十  
四里、人口二千餘、警察分署、郵便電信局、區裁判所出張所等  
あり、有名なる鹿島神社の所在地なり。

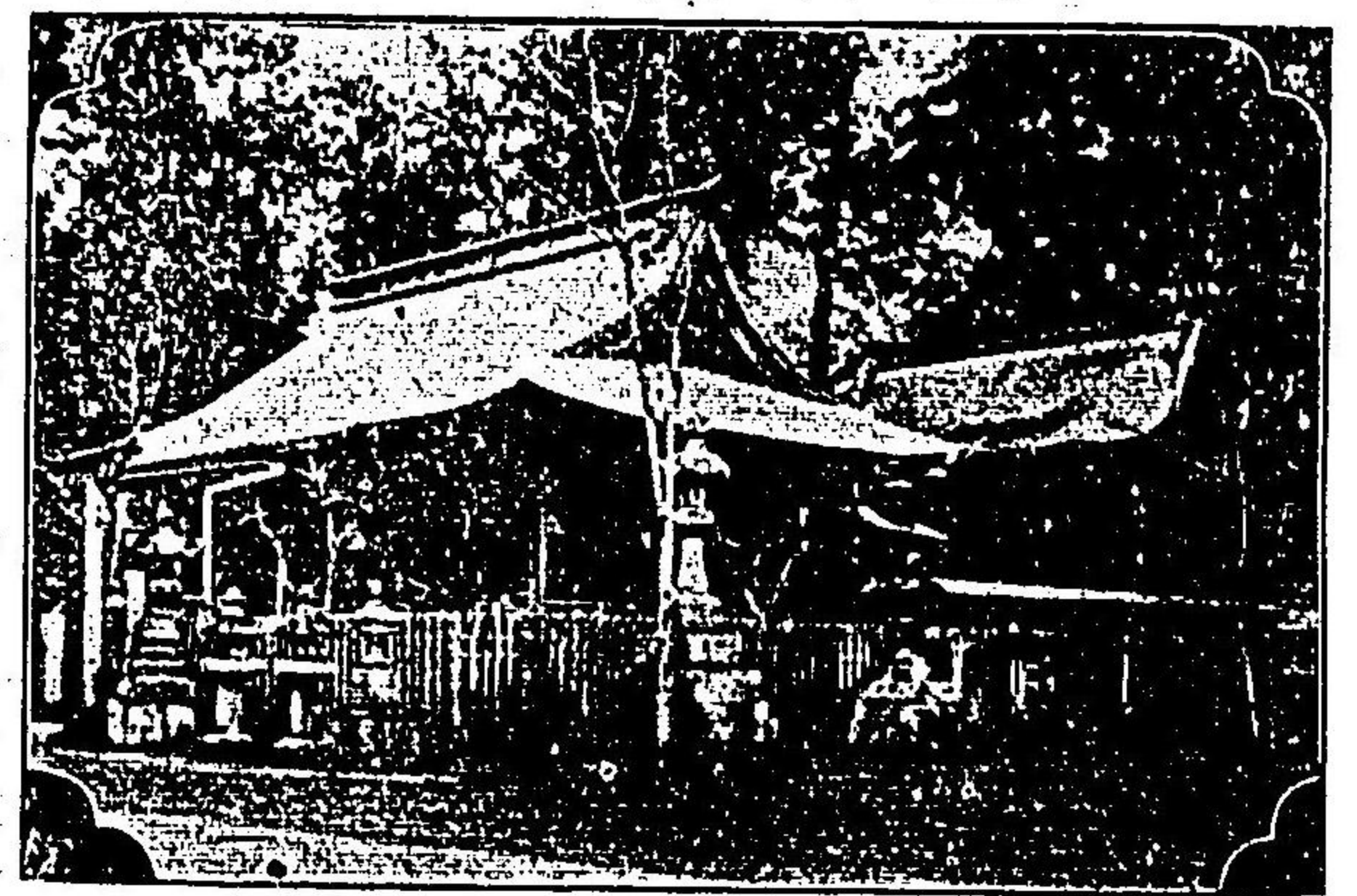
**かしのむらち拍崎町** 越後國刈羽郡の海岸にあり、直江  
津の東北七里三十二町に位す、北越鐵道停車場あり、人口八  
千餘、郡役所、警察署、區裁判所、郵便電信局、稅務署、聯隊區  
司令部、中學校等あり、近傍香積寺には拍崎勝長の碑あり、  
明治二年拍崎縣の置かれたる所とす、商業稍盛なり。

**かしのむらち柏島** 土佐國西南方の海中にあり、周圍二十八  
町、備前郡に屬す、近海珊瑚の産多し。

**かしのむらち柏原町** 丹波國水上郡にあり、織田氏二萬  
石の舊城下にして、福知山を距る六里十七町、阪鶴鐵道此地  
を通過す、人口五千餘、郡役所、警察署、郵便電信局、區裁判  
所、稅務署、中學校等あり。

**かすがじんじや春日神社** 官幣大社、二十二社の一にし  
て、大和國奈良市にあり、春日山下に位す、藤原氏代々の氏  
神にして、其祖先たる天兒屋根命及建御雷神、齋主神、比賣

(社 神 島 鹿)



**かしまなだ鹿島洋** 常陸國鹿島郡の東方一帯の海洋を云ふ、一に鹿島  
浦と稱す、鱈の漁獲頗る多し。

**かしまのななふしぎ鹿島七不思議** 常陸國鹿島郡鹿島  
町にあり、一、要石の根底知れざること、二、御手洗水の深さ  
人の大小によらず、乳をすさざること、三、末無川の下流な

かすが

神を祀る、元明天皇の和銅二年藤原不比等鹿島の神を氏神と定め、ここに遷し春日明神と稱せる者とす、境内三十萬坪、正殿四宇、樓門、廻廊、瑞龍及



(春日神社の樓門)

かすがの春日野

大和國奈良市、東大寺の南方より春日山

燈籠多く列せられ、其數約二千、毎年節分の夜、全燈に點燈し頗る美觀なりと。

其の祠宇境内に充つ、藤原氏の盛なるや祭祀の日に天皇、皇后の行幸啓あり、又齊女を置

き神封を寄附せる事多し、春日若宮は其南にありて四面す、天押靈命を祀る、二の鳥居より本社

かすが

麓に至る間の地を云ふ、今は畑地となりたるも昔時は一面の野原にして、大宮人の遊び場處として、有名なる所とす、古歌多し、古今集の「春日野の雲間を分て生出る、草の葉つかに見えし君かもし」及「春日野のとぶ火の野守出て見よ、今幾日ありてお菜つみてん」等は尤も有名なるものとす。

かすがの春日山 ●大和國奈良市の東方にあり、北に嫩草山、南に高圓山を控ゆ、其山形笠を伏せたるが如くなるより三笠山の別名あり、山に三峯あり、本宮峯(又名浮雲)水屋峯(又名羽賀)高峯(又名香山)と云ふ、共に松杉蒼蒼として奈良市の一偉觀たり、今同市公園内に編入せらる、●越後國中頸城郡高田町の西北にあり、山上に城址あり、足利氏の季世に上杉氏の築く所、春日山城と稱す、享祿、天文の頃、長尾輝成(謙信)此地に據りて、武威を四隣に輝かせし所たり、其麓に林泉寺あり、謙信の儼を藏す。

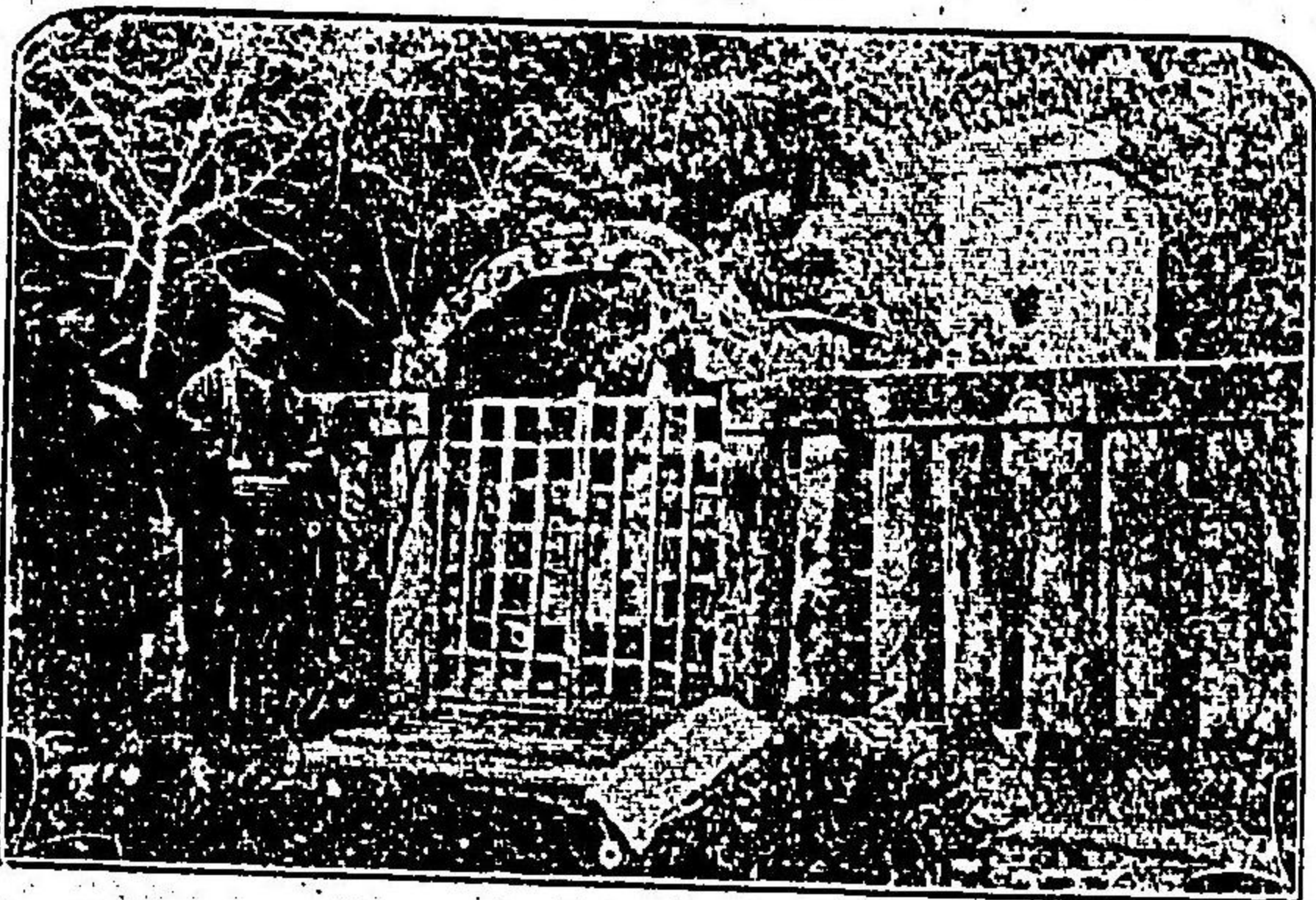
かすがの霧浦 常陸國稻敷、新治、行方、及下總國香取郡の四郡に瀾る、本邦第二の大湖にして、周囲三十六里、其水南流して利根川に入る、蝦の漁獲夥多し、湖畔風景絶佳「霧ヶ浦の勝景」天下に鳴る。

かすがの糟屋川 筑前國にあり源を嘉穂郡の山間に發し、西流粕屋郡に入り、箱崎町の東部を過ぎて海に入る、一に多々良川と云ふ、河口は菊地、足利兩氏の古戰場なり。

かぜだ 加世田

施阿多の西南なる大邑にして阿多灣の南方に位す、鹿兒島市を距る西南十里、郡役所の所在地たり、此地の野間岬は上古の所謂吾田の笠沙岬にして天孫降臨の靈蹟と稱す、少田村にある別府城址は一に加世田城と稱し、別府氏累世の居城地たりしが、應永年間其勢衰へ、遂に島津氏の領となり、天文年間島津忠良此地を併せ四隣を服し威勢遠近に振ふ。

(島津忠良の墓)



薩摩國川邊郡にあり、今三村に分る、田布

かだまち 加太町

紀伊國海草郡にあり、和歌市を距る、

かぜだ

と三里二十三町、淡路國と相對し、相去る約四瀧、大阪灣の南口を扼す、山長海峽の要害ありて防備嚴なり、此地に加太神社あり、一に淡島神社と稱し、古來有名なるものとす。

かたせ 片瀬 相模國鎌倉の西方、駿越の西北にあり、日蓮宗の巨剎龍口寺あるを以て名高し、同地にて製ぐ片瀬饅頭は名物の一に數へらる、今は電氣鐵道

藤澤より來り此地を過ぎて鎌倉に通ず。

かただ 堅田

近江國滋賀郡大津市の北方琵琶湖畔にあり、此地に浮御堂あり、一



(堅田の浮見堂)

隆天皇の朝、惠心僧都の創建にして、古くは千體佛堂又海門

かただ

山満月寺と稱す、湖上に斗出すること十四間、近江八景の一たり。

かたんすいがわ下淡水河 壺淵南方の一大河にして、源を東北の山中に發し淡水溪を合し、赤山溪を容れ西南流して、東港に至り海に入る、灌溉の利大なり。

かちままち 加知山町 安房國安房郡にあり、もと勝山と稱し、酒井氏一萬二千石の菰城下にして房州西海岸に於ける一要地なり、東京館山間往復汽船日々寄港し、交通の便あり。

かつらまち 勝浦町 上總國夷隅郡の南海岸、勝浦灣内にあり大多喜町を距る五里十六町、上總第一の良港となす、植村氏の菰藩地にして人口五千餘、警察分署、區裁判所出張所、水産試験場等あり、鰯及其他魚介の漁獲頗る多し、陸路の交通不便なるも、東京より日々汽船の往復あり。

かつらまち 勝尾寺 攝津國三島郡豊川村にあり、茨木藩



(岸海浦勝總上)

を距る約二里半、勝尾山中にあり、西國巡禮二十三番の札所にして應頂山と號し、神龜年間の創立と稱せられ、初め彌勒寺と稱せり、壽永年間兵燹にかり焼失せしを源賴朝之を再建せりと、境内に光明天皇勝尾寺陵あり、同天皇御讓位の後、當山に入り境内の草庵に於て崩御あらせられたるなりと。

かつぎ 上總國 東海道十五國の一にして、東は太平洋に、西は東京灣に臨み、南は安房に、北は下總に接す、地勢南部は山嶺多けれど、北部は稍平坦なり、國を分つて、山武、市原、夷隅、長生、君津の五郡となし、千葉縣に屬す、古は下總と共に「總の國」と稱せしが、孝德天皇大化年間に上總下總の二國に分れ、淳和天皇の朝に常陸、上野の兩國とともに親王任國と定めらる、源賴朝の兵を擧ぐるや、上總介平忠常一萬騎を率ゐて之を接け、功を以て其領を保つ、足利氏の末眞里谷氏當國に據りしが里見氏の興るに及び其封滅する所となる、豊臣氏

の代、里見氏の罪を責めて其封を削る、徳川氏の世、飯野、久留里、清西、佐貫、太田喜、鶴牧、一の宮の七藩を置きて之を分領せしむ、明治初年廢藩後水更津縣を置きしが、後之を廢して千葉縣を置く。

がきん 月山 出羽三山の一にして羽前國東田川郡の東境に變え、四村山郡に跨る、一に臥牛山とも稱す、高さ六千五百餘尺、山上に月山神社あり、官幣中社にして、月讀命を祀る、毎年七月十五日を以て例祭を行ふ、夏時登山者多し。

かっしやま 甲子山 岩代國西白河郡西郷村に屬し、岩代國岩瀬、南會津の二郡に跨る、高さ四千八百餘尺、四郷村大字龜生の甲子温泉より登り七里にして山頂に達す、山中瀑布多く八十八瀧の稱あり、消夏的好適地として知らる、甲子温泉其山中にあり、白河町を距る四二里五十七町、鹽類泉にして胃腸病、痔疾、痲瘋、腺病等に功ありと。

かつめまち 勝沼町 甲斐國東山梨郡にあり、甲府市の東南四里、駒飼の西北一里十七町に位す、警察署、郵便電信局、區裁判所出張所等あり、甲州街道の要路にして、葡萄の産多し。

かつめまち 勝本町 豊岐國豊岐郡の西北海岸にあり、當國第一の繁榮地にして、前面に港あり、東四五町南北三町、水深四四四尺、灣内狹隘にして、暗礁多く大船の碇泊に適せ

す、古來朝鮮航路の要地として名あり、對馬國嚴原港を去る四十里。

かつやま 勝山町 越前國大野郡にあり、大野町の北方二里二十町、福井市を距る七里八町、小笠原氏二萬二千石の菰城下にして、人口七千餘、警察分署、郵便電信局、區裁判所出張所等あり、生絲の名産地として知らる、海外輸出額頗る多し。

かつらがわ 桂川 山城國にあり、大井川の下流にして、葛野郡を東南に流れ、紀伊郡に入りて、加茂川に合す、一に四川とも云ふ。甲斐國にあり、南都留郡山中湖に發し、北流して征子川と合し、東北に流れ猿橋驛を過ぎ龜島驛を経て相模に入り津久井に至りて、道志川と合し、相模川となりて、相模灘に入る。勝浦川、阿波國にあり、勝浦郡西部の山間に發し、二三の小流を合して、東北に流れ、那賀郡の境に至りて海に注ぐ、長十二里餘。

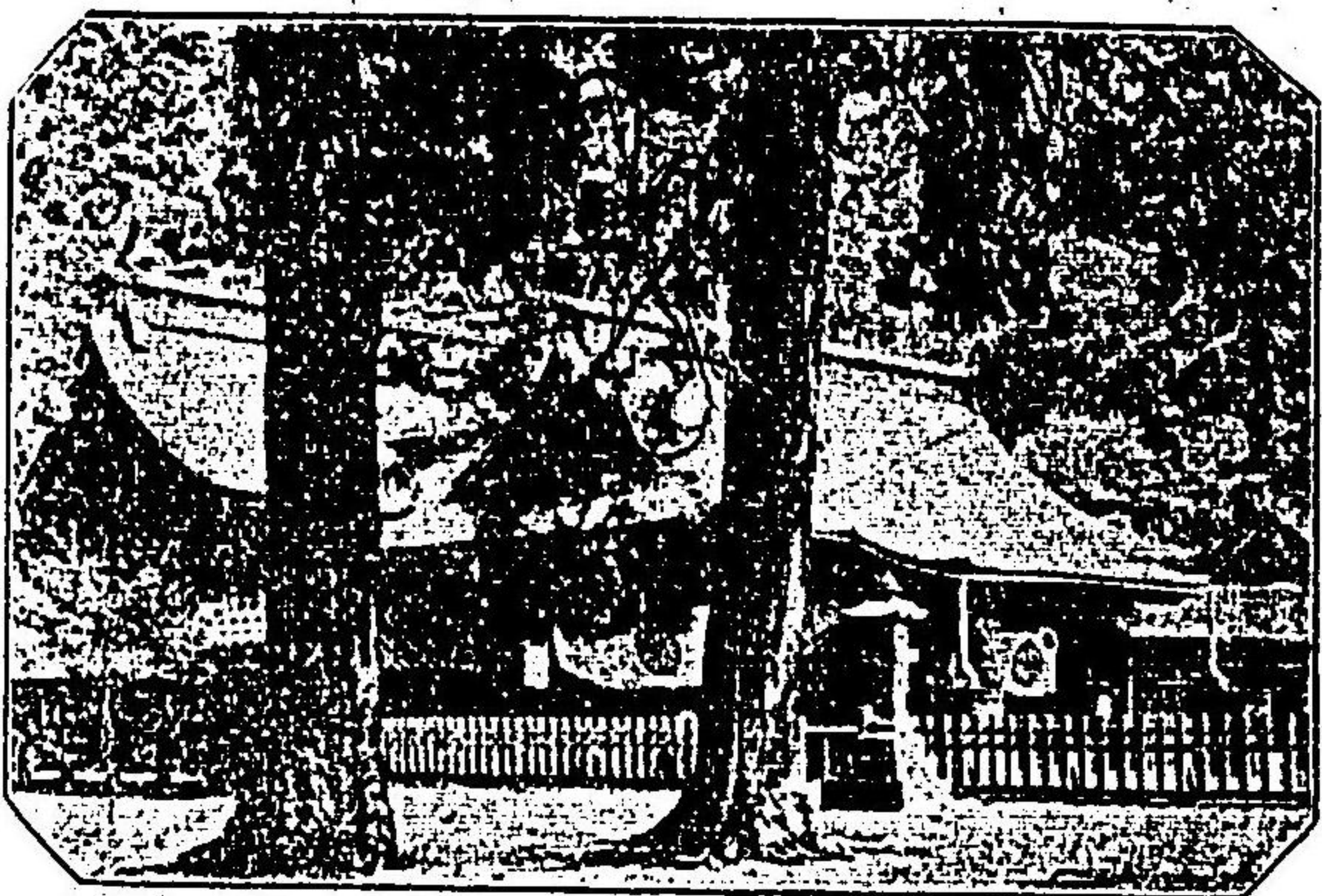
かつらぎがわ 葛城川 大和國廣瀬川の別稱。  
かつらきん 葛城山 大和國南葛城郡にあり、河内國南河内郡に亘る、高さ三千二百餘尺、金剛山の北方に變え、片麻岩より成る、古は附近の山脈を込めて葛城山と稱せしが、今金剛、葛城兩者の區別成る、行者修法の靈地にして、嘗て役の行者が三十年間苦行せし處として知らる、山中に奇岩



多く、岩橋、胎内竇、鉾立岩、鍋釜石等の名あり、古歌に「紀  
貫之」玉かつら葛城山の紅葉ばは、佛にのみ見えわたるか  
な」。(經信)「葛城の山の高根に住む人は、谷の底にや雲を  
見るらん」などあり。

**かつらぎの山みづく 葛城山脈** 紀伊山脈の支脈にして河  
内和泉兩國の  
境を走る、金  
剛、葛城の兩  
山最も有名な  
り。

**かごの葛野**  
今山城國の郡  
名なり、京都  
市の西、愛宕  
郡の西北に當  
り西は丹波に  
境す、古くは  
葛野臣、葛野  
縣主等の居所  
にして、其地  
威今の愛宕、



(社 神 取 香)

乙訓、紀伊等の諸郡を兼ねたるものなりき、嵯峨野、嵐山を  
初め其他の名蹟極めて多し。

**かごのじんじや 香取神社** 下總國香取郡佐原町の東方、香  
取村にあり、建國の功神經津主神を祀る、官幣大社にして、  
上下の尊崇古來他に異なり、鹿島神社と並び稱せらる、其創  
建年代は詳かならざるも遠く崇神、垂仁の御代以前にあり  
たるや明かなり、社殿の宏壯、蓋し稀に見る所、攝社に側高  
神社以下二十三社あり、本祠は佐原驛の東方一里、湖水を經  
てて鹿島と相對し、相距る三里、社地高燥にして松柏生ひ  
茂り、三方山を繞らし一面江渚に臨み風光極めて佳なり。

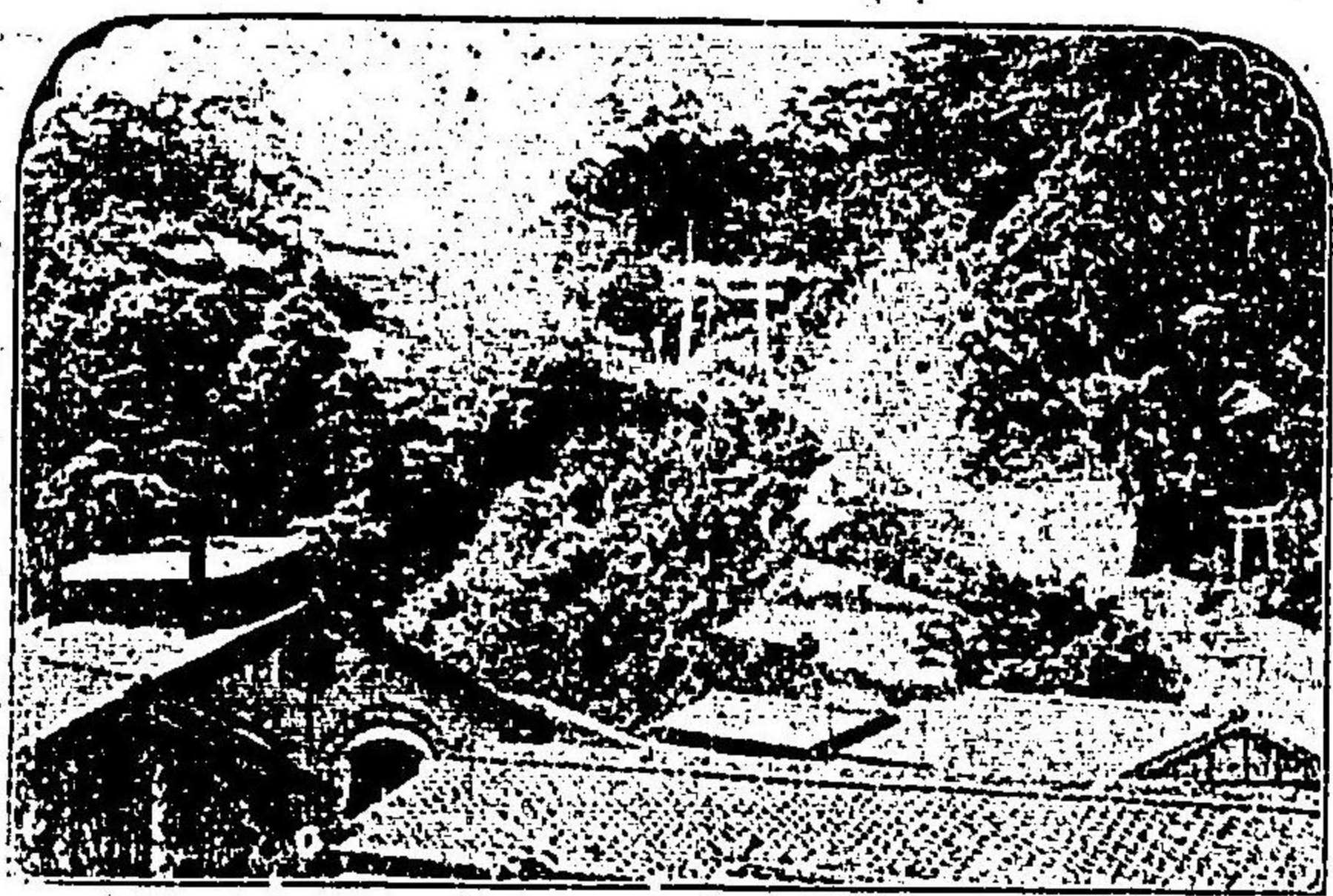
**かごのむら 香取村** 下總國香取郡佐原町の東方、小丘上  
にあり、一小村なれども、官幣大社香取神宮あるを以て、稍  
繁盛なり、人口三千餘、郵便電信局あり。

**かないざわのひ 金井澤碑** 上野三古碑の一にして、多野  
郡八幡村大字根古屋の金井澤にあり、聖武天皇神龜三年の  
建立にして、高三三尺餘、文字磨滅せるも熟視すれば「上野  
國群馬郡下登郷高田里三家子孫爲七世……神龜三丙  
寅二月廿九日」云々の數十字を刻せるを知る。

**かないわまち 金石町** 加賀國石川郡にあり、金澤市の西北  
一里三十四町餘、犀川の河口に位す、人口七千餘、警察署、郵  
便電信局、區裁判所出張所等あり、醬油を産出す、前面金石

港あり、犀川口、木町口の二に別れ、其東北河北海流口を庄  
町口と云ふ、何れも海底淺く大船を繋ぎ難きも、風波を避く  
るに足る。

**かながさき 金崎** 越前國敦賀郡敦賀町の東北、笹川の河口  
にあり、延元元年新田義貞、其子義顯、恒貞親王及尊貞親王



(宮 崎 金)

を奉じて據守  
せし處にして  
金崎砦の舊址  
あり、此地に  
官幣中社金崎  
宮あり、尊貞  
親王及恒貞親  
王を祀る、明  
治廿六年の創  
建とす。  
**かながはかいご**  
一 **神奈川**  
街道 東京  
より品川、大  
森、龜見、川崎  
を経て、神奈

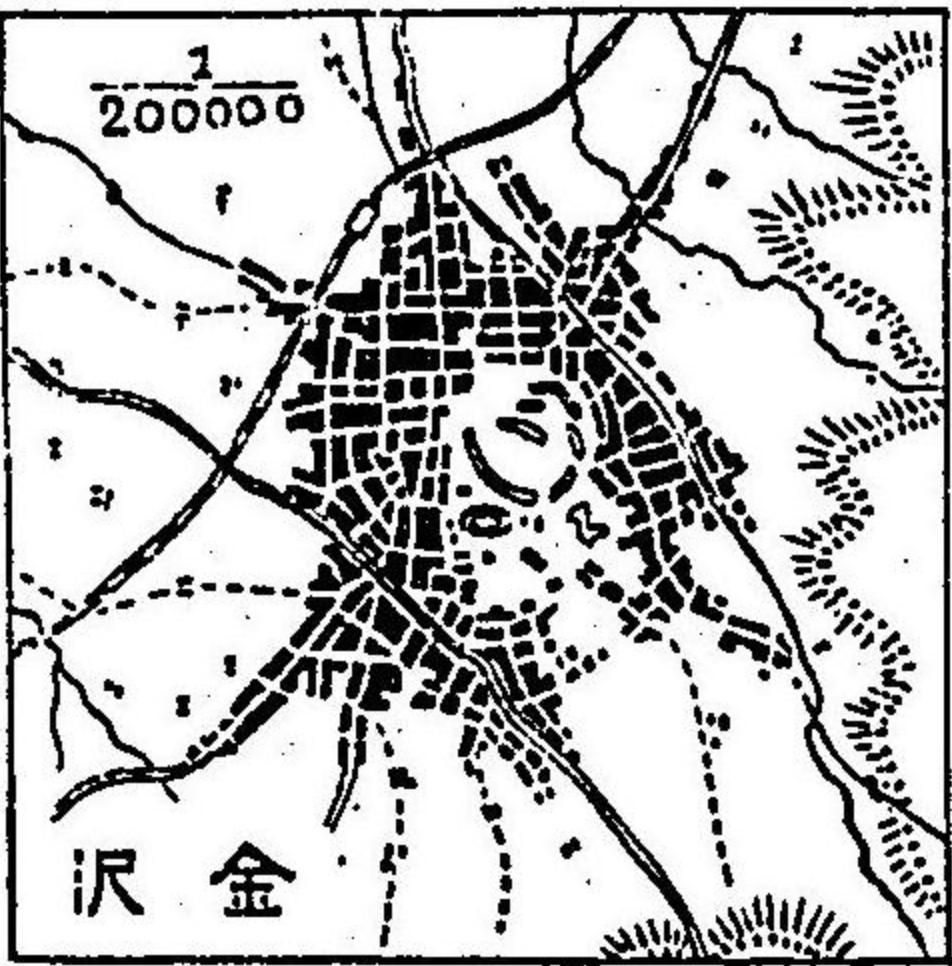
川に至る街道を云ふ、此間七里餘、東海道の宿驛たり。  
**かながわけん 神奈川縣** 縣廳は横浜市本町にあり、相模  
一圓に武藏國横濱市及橋樹、久良岐、都築の三郡を管す、面  
積百五十五方里六七、一市十一郡二十二町二百六村より成  
る。

**かながわまち 神奈川町** 武藏國橋樹郡にあり、横濱市を  
距る東北半里、舊東海道第三の驛次にして、今は東海道鐵道  
及京濱電氣鐵道停車場あり、安政五年六月幕吏井上信濃守  
等米國使節と假條約を此地に結ぶ、神奈川港は横濱に連接  
す、水深八切乃至十切、海岸に砲臺の設けあり、郡役所、警察  
署、稅務署、區裁判所出張所、郵便電信局等あり。

**かなざなじんじや 金鑽神社** 武藏國兒玉郡青柳村にあり、  
官幣中社にして、天照大神、素盞鳴尊を合祀す、昔日本武尊  
東征の時、之を奉祀し、御靈代として火打金を一丘の地中に  
埋めらる、今尙之を神體とし祀り、別に本殿を設けず。

**かなざわし 金澤市** 加賀國石川郡の東北、犀川の河畔にあ  
り、石川縣廳の所在地にして、東京を距ること百二十五里  
(長野高田を経て)、前田氏百二十萬石の舊城下にして、北國  
第一の大都會たり、縣廳、郵便電信局、地方、區裁判所、稅關、  
稅務署、第四高等學校、醫學專門學校、師範學校、中學校、工  
業學校、高等女學校、第九師團司令部及此に伴ふ諸兵營、警

察署、大小林區署、病院、其他銀行諸會社等あり、九谷燒、絹布、漆器等の産多し、城址は市の中央にあり、一に尾山城と云ふ、文明中一向宗徒の築く處、天正三年佐久間盛政封せられ、其の歿後、豊臣秀吉之を前田利家に賜ふ、爾來世襲して王政維新に及ぶ、明治十年火災に罹り、悉く灰燼に歸し、今は唯石川門の一構を残すのみ、城址と並びて兼六公園あり、白河樂翁公の命名せる所、日本三公園の一たり。



かなざわはちまんぐー 金澤八幡宮 羽後國仙北郡金澤村金澤橋址にあり、寛治年中源義家の創建する所と稱す、豊田別命、息長足姫命、玉依姫等を祀る。

かなざわはけい 金澤八景 相模國金澤附近の八勝景を云ふ、名稱は支那瀟湘の八景にかたどりたるものなり、即ち

- 洲崎崎風
- 瀬戸秋雨
- 小泉夜雨
- 乙鯉蹄帆
- 稱名晚鐘
- 平潟落雁
- 野島夕照
- 内川暮雪



かなざわぶんこ 金澤文庫 武蔵國久良岐郡金澤稱名寺境内に其故址あり、文庫は花園天皇の承和五年北條顯時の建てたるものにして、備佛の存籍を納め、亦ら子弟を教育せしが、後戦亂によりて頽廢し、室町時代に上杉憲實之を再興せしも、戦國時代に至りて遂に荒廢せり。

かなざわむら 金澤村 武蔵國久良岐郡横濱市の南三里許にあり、鎌倉時代北條(金澤)顯時の領せし處にして、有名な

る金澤文庫及び稱名寺あり、又頗る風景に富み、金澤八景の名風に名高し、其近傍雄捨山の勝地あり、委しくは各條を見よ。

かなみつじんじや 金光神社 備中國淺口郡大谷村にあり、金神即ち金光教會の本部にして、繁盛鳴尊を祀る、京阪地方の信徒群集し、賽者常に多し。

かなんてつごー 河南鐵道 (私設)河内國柏原驛より富田村を経て長野に通ず、延長十里二十二鎮。

かなやまち 金谷町 遠江國樽原郡大井川の西岸にあり、東海道五十三驛の一にして、今は東海道鐵道の一驛たり、人口七千餘、警察分署、郵便電信局、區裁判所出張所等あり、東に大井川の鐵橋ありて長さ三千三百三十九尺。

かなやまみさき 鈴山岬 紀伊國西牟婁郡田邊町の西南に斗出したる處を云ふ、一に瀬戸崎或は湯崎とも云ふ、近傍に湯崎温泉あるを以てなり。

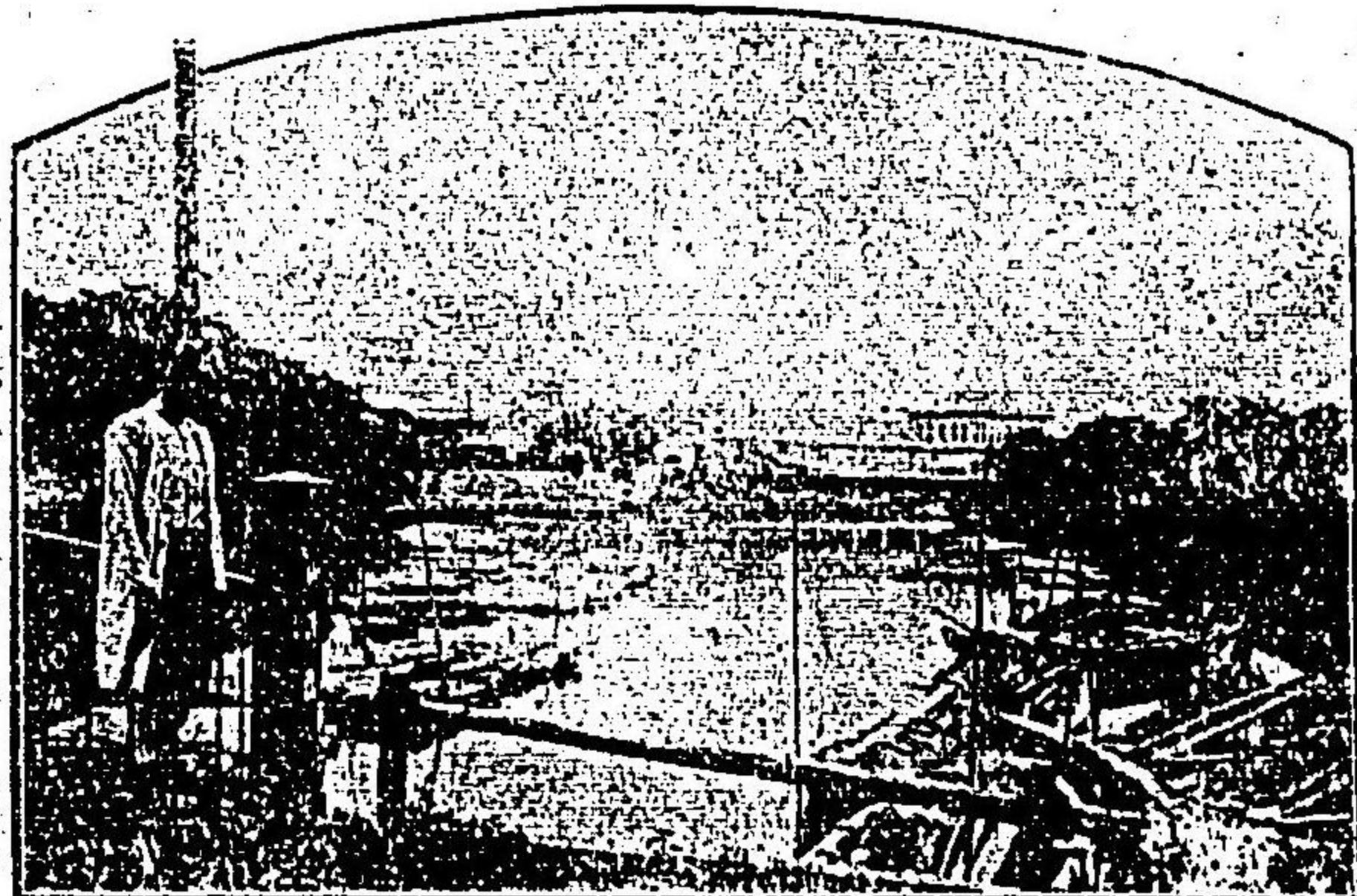
かじーとー 我入道 駿河國駿東郡揚原村にあり、沼津町の南二十町、狩野川河口の南岸に位す、山下に海水浴場あり、風景絶佳を以て知らる。其附近沼津御用邸を初め、資顯の別墅多し。

かじえまち 蟹江町 尾張國海東郡にあり、名古屋市を距ること西南四里半、關西鐵道停車場あり、水陸の便極めて多

し、天正年間瀧川一益此地に據り織田信雄のために聚破せらる、城址今猶存す。

かじまてら 蟹満寺 眞言宗、山城國相樂郡棚倉村にあり、本尊釋迦佛は金銅八尺の坐像にして、靈驗著るしとて遠近よりの參詣者多し、此寺に蛇道心の傳説あり。

かめまち 鹿沼町 下野國上都賀郡にあり、宇都宮の西北三里餘郡内第一の都邑にして、人口一萬二千餘、郡役所、警察署、區裁判所出張所、郵便電信局、稅務署、小林區署等あり、日光鐵道此地を通過す、此邊麻



かねが

の産地にして、麻布の産殊に多し、町の西端に城址あり、壬生綱重の據りし所と云ふ。

**かねがふち 鐘淵** 武蔵國南葛飾郡向島の北方隅田川畔にあり、往時普門院と稱せし寺の鐘、この淵に沈みたるを以て此名ありと云ふ、今此地に鐘淵紡績會社ありて、盛に綿糸を製出す。

**かねのみさき 鐘岬** 筑前國宗像郡の東北隅、岬村大字鐘崎浦より斗出する岬角にして、響洋と玄津洋とを分つ、風波荒く離航路として知らる、往古三韓より、貢獻せる梵鐘、此處に沈む、故に此名ありと。

**かねやま 釜山町** 美濃國加茂郡に屬す、木曾川の南岸にして、御嵩町の西北一里半にあり、人口約二千。

**かのーさん 鹿野山** 上總國君津郡にあり、佐貫町を距る東方二里許、海拔一千七百餘尺、山上に神野寺あり、境内宏潤、鹿野山公園を控へ、房總半島中、屈指の勝地たり。

**かのーまち 加納町** 美濃國稻葉郡にあり、岐阜市の西方二十三町、永井氏三萬二千石の舊城下にして、人口五千餘、郵便電信局、農學校、師範學校等あり、傘の産出を以て名あり。

**かばさん 加波山** (加葉山、蒲山) 常陸國新治、眞壁兩郡界に位す、高さ二千六百尺、筑波山と南北相望む、筑波山、阿州

**かぶしらん 蛤仔灘** (Kapsulan) 臺灣にあり、宜蘭(きらん)を見よ。

**かぶりきやま 冠着山** 信濃國更級郡にあり、東筑摩郡に跨る、高さ三千餘尺、俗に「ちよぼ」山と稱す、更級郡更級村大字羽尾より一里にして山頂に達す。

**かべしま 加部島** 肥前國東松浦郡呼子港の北方海中にあり、周囲二里二町、東松浦郡に屬す。

**かほくがた 河北潟** 加賀國河北郡の西部、金澤市を去る東北二里許にあり、一に入田潟といふ、東西一里、南北二里十八町、周囲六里二十町。

**かまぐらまち 釜石町** 陸中國上閉伊郡の東南隅、釜石灣頭にあり、人口四千餘、警察署、郵便電信局、區裁判所出張所等あり、釜石港は其前面にあり、當國屈指の良港にして、水深六仞餘、東西二十町、南北六町あり、水深からざるも、船舶の碇繋に便なり、明治二十九年六月、三陸大海嘯の際、大被害を被りしも、爾來漸く恢復して漸次好況を呈するに至れり、釜石町の西方二里許に釜石嶺山あり、鐵の産額は日本第一にして、鐵床約七千萬立方尺に及ぶと云ふ、釜石町迄鐵路を敷設し以て運搬に便す。

**かまぐらまち 鎌倉五山** 相模國鎌倉の禪寺、建長寺、圓覺寺、壽福寺、淨智寺、淨妙寺を云ふ、各條を見よ。

かぶし

かぶし

山と共に常陸三山と稱す、明治二十年操暴の徒相謀りて三條實美公の日光山參詣の歸路を要し、爆裂彈を以て狙撃せんとせし事あり即ち加波山事件として有名なるものとす。

**かばた 蒲田** 武蔵國荏原郡大森の東南にあり、梅林及花菖蒲を以て名高し、近年東海道鐵道の停車場場設けられ、又京濱電車鐵道の停車場あり。



(蒲田海山)

山より三里にして山頂に達す。

**かぶしだけ 甲**

**武信嶽** 關東山麓に屬す、甲斐、信濃、武藏三國境に屹立す、高さ八千一百餘尺、信濃國南佐久郡川上村字梓

**かまぐらのみや 鎌倉宮** 官幣中社、相模國鎌倉の東北大字二階堂にあり、明治二年の創建にして護良親王を祀る、社背に土牢あり、俗に護良親王幽閉の地と稱せられ、神聖の地として賽者の眼を引くも、近來學者の研究により、其後世の偽造たる疑ふべからざるものとなれり。

**かまぐらまのよこあな 鎌倉横穴** 俗に之を「やぐら」と稱す、鎌倉附近の山腹、殊に覺園寺の後山に多く、其數百數十に及ぶ、而して其内部には佛像、梵寺、塔婆等の彫刻あり、中には白骨の散在するあり、思ふに鎌倉時代の墓地のあとならんか。

**かまぐらまち 鎌倉町** 相模國鎌倉郡にあり、東南は山嶺を以て武蔵國久良岐郡及相模國三浦郡に界す、三方山を以て圍まれ南相模灘に瀕して遙に伊豆の大島を望む、東西二里餘、南北一里四町、關東の一名區たり、昔時源賴朝の初て府を開きたる處にして、源氏北條氏世々此地に住して、天下を支配せり、足利時代に至り、關東管領の居所として、隆盛を極めたりしが、康正年間足利成氏長尾景仲と戦ひ、敗走するに及びて、遂に荒廢に歸したり、今は東鎌倉、西鎌倉及小坂の三區劃に分る、東海道鐵道大船より分れ此地をすぎて横須賀に通ず、江島電氣鐵道片瀬より來りて極樂寺坂に止まる、交通の便極めてよく、且名所舊蹟頗る多きを以て

かぶし

一一三

避暑、避暑及遊覽の客非常に多し。

かまじのちや

蒲郡町 三河國寶飯郡にあり、東海道鐵道は豊橋より來りて、西北に通ず、人口三千餘、郵便電信局、區裁判所出張所等あり、此地淨美灣に臨み、風景極めて佳、夏時海水浴場の設けありて、來遊する者多し。



(朝服)

かまさおんせん 鎌先温泉

磐城國荊田郡白石町の西北方、荊田嶽の山麓にあり、硫黄泉に屬し、逆上症、腸胃加答兒、脚氣等に効あり、交通不便なるも浴客頗る多し。

かまごせん 釜戸鑛泉

美濃國土岐郡餘戸村大字釜戸にあり、釜戸停車場を距る約二十二町、一に白狐湯と稱し、寶永年間の開湯と稱せらる、近年諸病に効驗ありとて、來り

り、如茂郡に屬す、此島に不動白色の燈臺あり、其光十九裡に達す。

かみすわまち 上諏訪町

信濃國諏訪郡諏訪湖畔にあり、松本町を距る南方七里六町、人口一萬一千餘、郡役所、警察署、郵便電信局、區裁判所、稅務署等あり、蠶業及び製絲業の盛地なり、附近に温泉多し、浴舎四十戸、浴客常に群集す、此地は當國中の名邑にして、諏訪氏代々の舊藩地たり、城址は町の西方にあり、今高島公園と稱す。

かみつしま 神津島

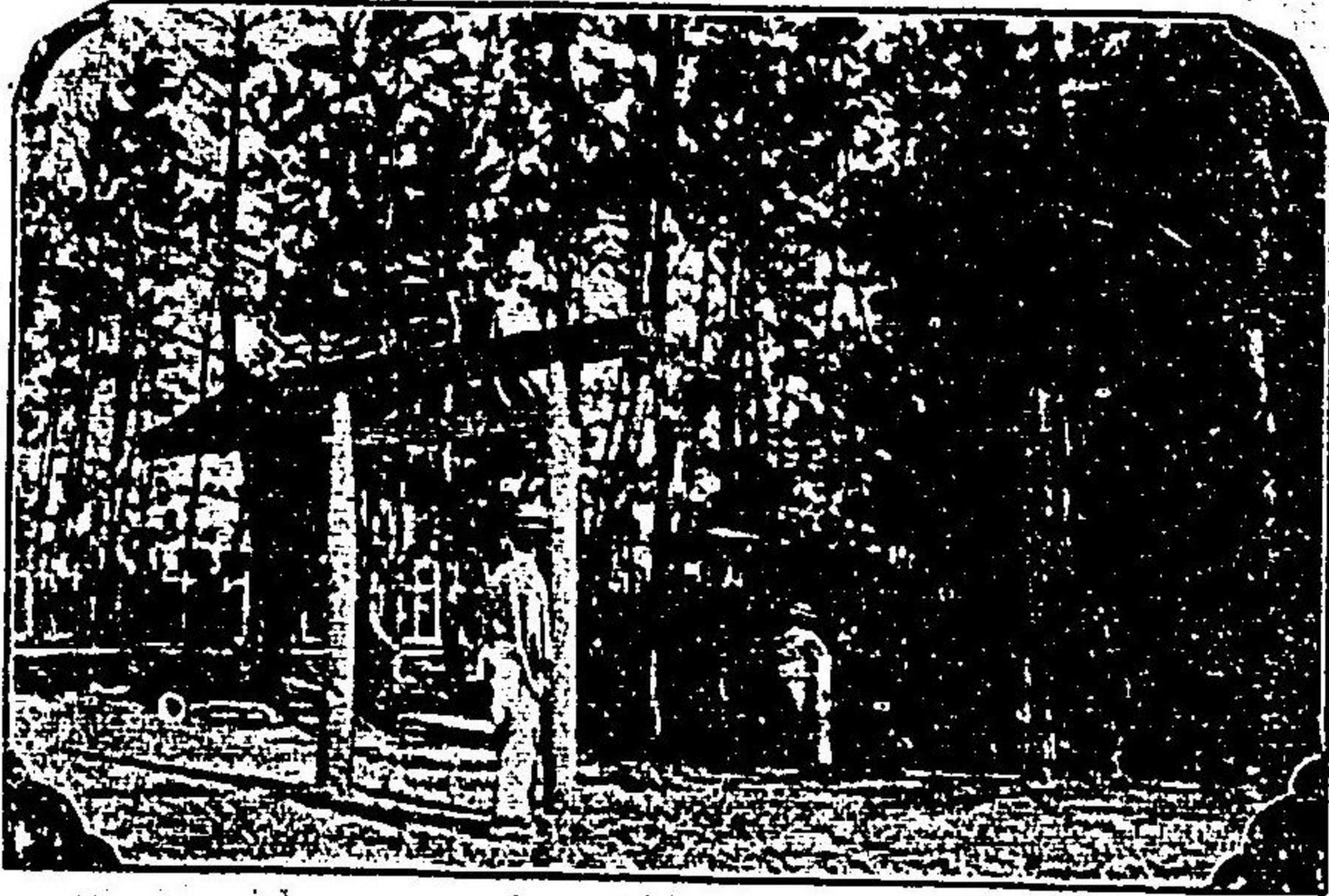
(神集島、上津島、高津島) 伊豆七島の一にして、下田港の南十八裡、新島を距る五裡の海上にあり、周囲五里三十三町、人口一千九百餘、住民専ら漁業に従事す。

かみなかむら 上中村

尾張國愛知郡名古屋市の四方、織豊村にあり、豊臣秀吉の出生地として有名なり、村に豊國神社あり、秀吉を奉祀す。

かみのやままち 上山町

羽前國南村山郡にあり、とも松平



(尾張國中村豊太閣誕生地)

西方若松を経て、耶麻郡喜多方町に至る、延長四十九哩三十六鎖、他日阿賀川に沿ひて、越後に入る豫定なり。

浴するもの多し。

かまなしがわ 釜無川

甲斐國にあり、源を甲斐國北巨摩郡駒ヶ嶽に發し、東北に流れて數多の小流を合し、葦崎町の南方を経て鹽川に合し、西八代郡に入りて、菅川、笛吹川と合し、南流して富士川となり、駿河國に入りて、駿河灣に注ぐ。

かまやまじんじや 竈山神社

官幣中社、紀伊國海草郡三田村大字和田にあり、和歌山市を距る東南二里、神武天皇の御兄、五瀬命を祀る、創建年代詳かならず、今の社殿は和歌山城主徳川頼宣の再建にかかる。

かみいあまち 上市町

大和國吉野郡吉野山の北方、吉野川岸にあり、奈良市を距る十二里十一町、人口二千餘、郡役所、警察署、稅務署、小林區署、區裁判所出張所、郵便電信局等あり、吉野登山の要衝にして、吉野山町と相距る僅かに一里許。

かみがもしや 上嶋社

「かもわけいかづちのじんじや」を見よ。

かみかわへいや 上川平野

石狩國上川郡石狩川上流沿岸の平野を云ふ、中央に旭川村ありて、第七師團司令部あり、此邊一帶に寒風強きも、土地肥沃にして將來有望の地たり。かみこもとちま 神子元島 伊豆國の南方下田港の沖にあ

氏三萬石の舊城下にして、人口六千餘、山形市の西南三里許官設奥羽鐵道の一驛たり、郡役所、警察署、區裁判所出張所、郵便電信局等あり、温泉あり、一に鶴屋温泉とも云ふ、鹽類泉にして、腸胃、皮膚病等に功驗あり、浴客常に多し、附近に月岡城址あり、天文年間武藤義忠の築く所、今廢して宅地となる。

かむりがたけ 冠嶽

相模國足柄下郡箱根山中にあり、大地嶽山の東南に聳ゆ、高さ四千三百餘尺、仙石原村より約五十町にして山頂に達す。

かむろ 學文路

(禿) 紀伊國伊都郡にあり、高野山の北にして紀の川の南岸に臨む、東は戀野村、西は九度山村に至る、高野山七口の一にして大和河内街道より高野詣する者は必ず此地を過ぐ。

がんえつてつとー 岩越鐵道

(私設) 日本鐵道東北線の郡山驛より起り、

かんか

かんかけー寒霞溪 神庭又は鐘掛とも書す、讃岐國小豆島内海村の上方、星城山の山中にあり、土の庄までは汽船、土の庄より内海までは小舟の往復あり、溪は花崗石及火山岩より成り、淵水溪を穿ちて進み、時に瀑をなし、岸頭突起奇形を呈す、屏風の如きあり、巨人の如きあり、獅子の哮るが



(寒霞溪)

如きあり、其景の佳なる名状す可らず、此勝一たび成島柳北翁の爲めに天下に知られてより、秋頭楓葉の霜に染むの頃に至りては、遠近來り遊ぶもの少なからず。

かんざき 神崎 攝津國川邊郡小田村にあり、官設新橋神戸間の鐵道此地より阪鶴鐵道を分岐す、昔時江口と共に大に

諸病に適す。

かんのうら 甲浦 土佐國安藝郡にあり、古は櫻津又かぶとの浦と稱せり、此地に甲の浦港あり、港内を東の股、西の股に別つ、船路又二あり、東向せるを京の口と云ひ、南向せるを土佐口と稱す。

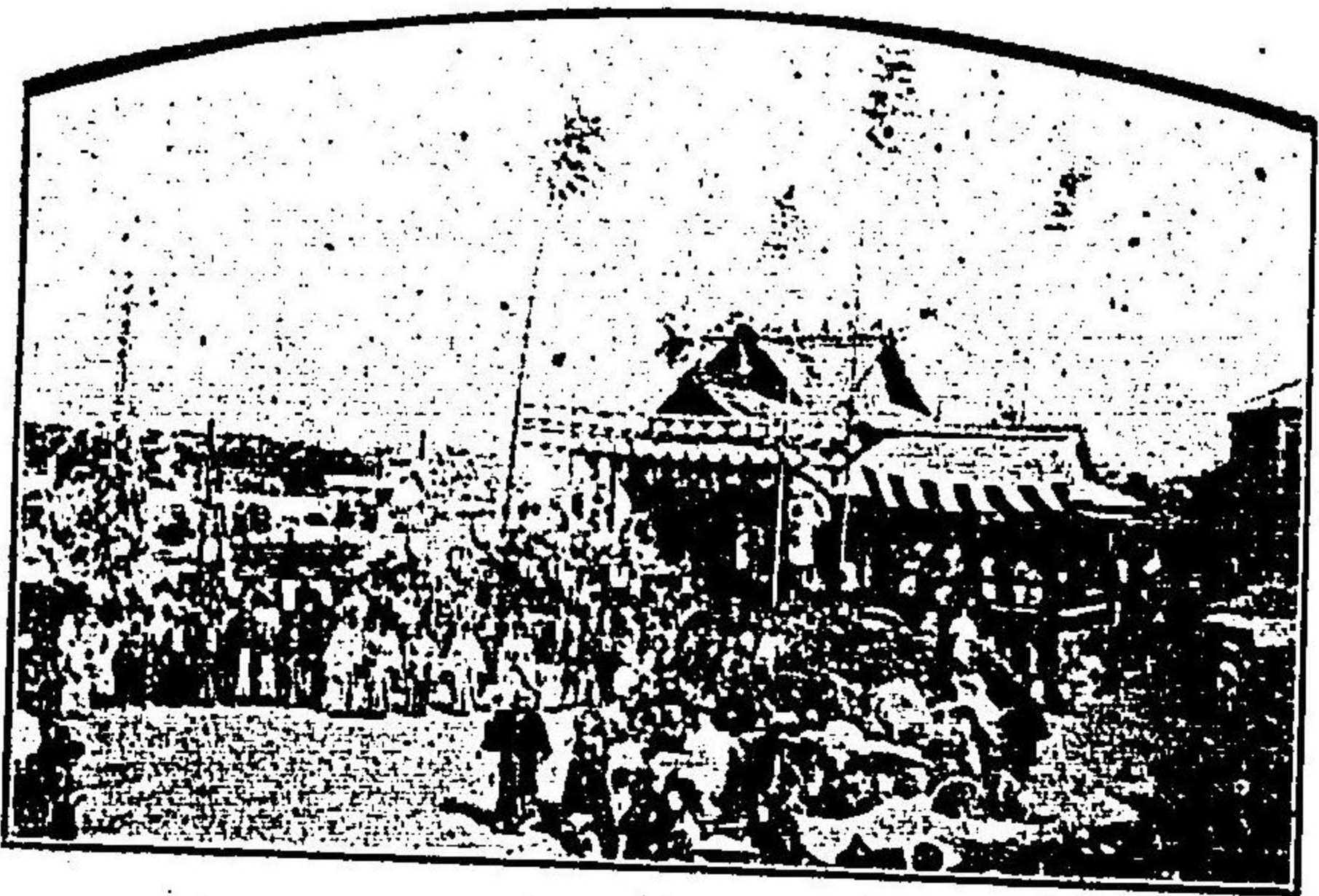
かんばんのたき 神庭瀑 美作國眞庭郡一ノ宮村大字神庭にあり、高さ三十六丈、巾八間餘、下流高田川に入る。

かんばんらまち 潘原町 駿河國庵原郡の東海岸富士川の西方にあり、舊東海道五十三驛の一にして、東海鐵道通過す、人口七千餘、郵便電信局、區裁判所出張所等あり、此地に古城址あり、永祿年間北條綱重の據る所なりしが同十二年武田信玄の爲めに攻め陥る。

かんぶーさん 寒風山 羽後國南秋

田郡雄鹿半島の東北部にあり、海に面して屹立す、高さ千二百餘尺、山頂に舊噴火口あり、周圍一里餘、全山輝石安山

かんの



(神田神社祭禮)

のある處にして、境内一小公園をなし、梅樹多し、又藤花を以て名あり、同社の東方三町、龜井戸町に梅園あり、園中數

かんな

賑ひし處にして、元弘二年楠木正成六波羅軍を此地に破る。かんざきがわ 神崎川 攝津國にあり、淀川の支流にして、西成郡江口村より分れ、西南流川邊郡に入りて池田川を合せ、尼ヶ崎に至つて武庫港に注ぐ、流域四里、一に三國川と稱す。

かんじゅーさん 岩手山 (岩鷲山) 陸中國巖手郡にあり、盛岡市の西北七里許に位す、關富士、南部富士の別稱あり、高さ六千八百餘尺、登路三あり、瀧澤口よりするを尤も近しとす、二里二十三町にして山頂に達す。

かんだじんじや 神田神社 東京市本郷區湯島臺にあり、大己貴命、少彦名神を祀る、もと芝崎にありて、天平年中の草創と稱す、慶長八年駿河臺に移し、元和二年今の地に移す、隔年九月十五日例祭を行ふ。

かんながわ 神流川 上野國多野郡三國山より發し東流して武藏上野の國境を流れ、武藏國兒玉郡勅使河原の北に於て烏川と會す、上流水勢奔激飛瀾巖石に激して沫泡飛散するの狀實に壯快なり、庭園家の愛賞する三波石此邊より産出す。

かんなみやま 神並山 大和國「みわやま」を見よ。

かんなわおんせん 鐵輪温泉 豊後國速見郡別府町の西北一里餘、朝日村大字鐵輪にあり、鹽類泉にして貧血及神經系

若より成る、一に妻戀山の別稱あり、左に入耶湯を望み、右に日本海を眺め風光快豁にして東北屈指の勝地と稱せらる。

かんべまち 神戸町

伊勢國河藝郡

にあり、津市へ五里三十町、白子町へ一里二十三町を隔つ、人口四千餘、舊參宮街道の一驛たり、警察署、郵便電信局あり、本多氏一萬五千石の舊城下にして、字本多に城址あり、享保以來本多氏の居城たり、又西條に澤城址あり、關具盛の築く處、後數度の變遷を経て遂に本多氏の族世襲す。

かんまんじ 蚶滿寺

羽後國由利郡

鹽越村字象海にあり、天台宗に屬す、創建年月未詳なるも寺傳によれば延暦中慈覺大師の建立にして文祿年間の再建とす。

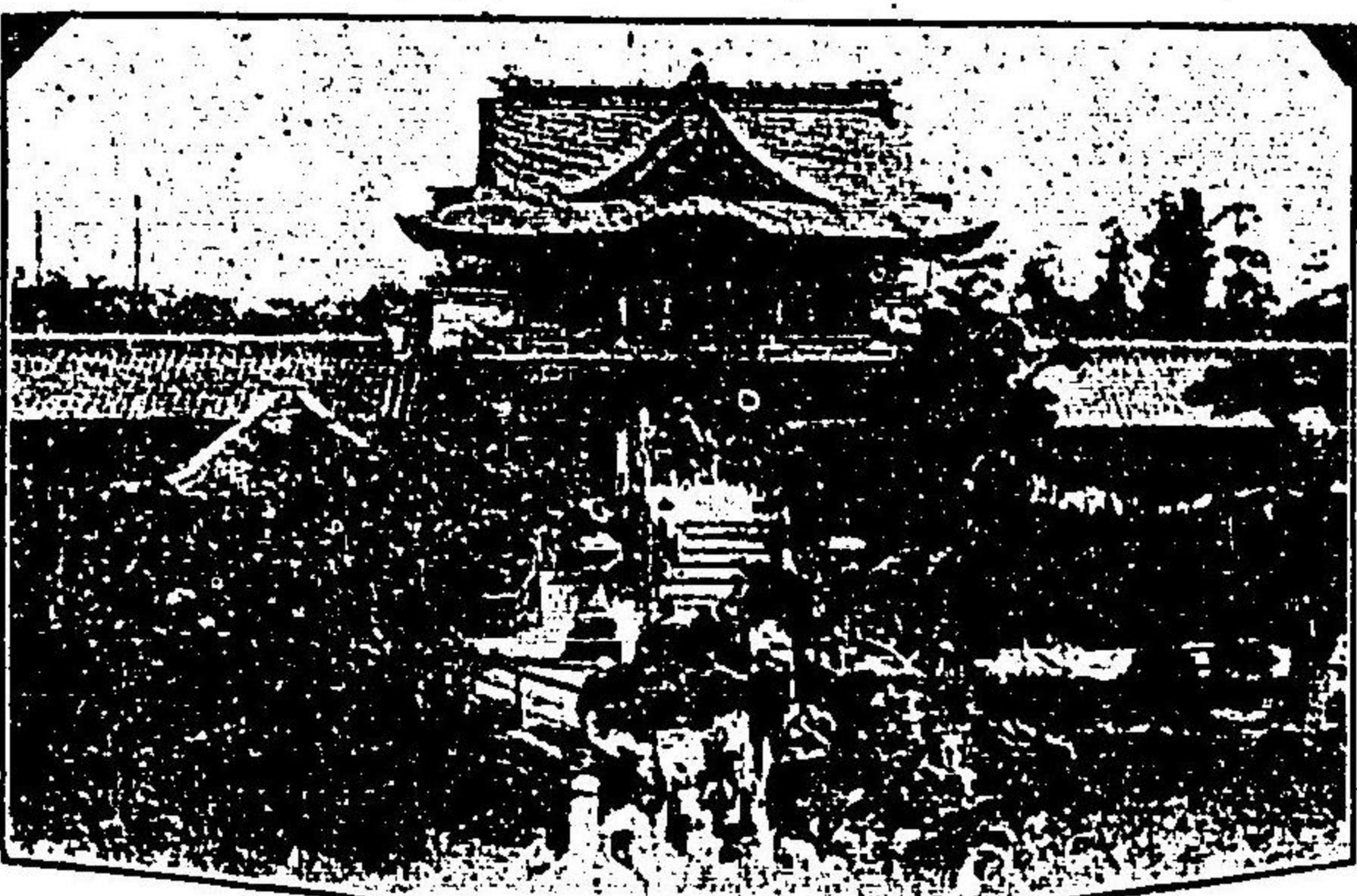
かめいご 龜井戸

東京市本所區の

東端にあり、有名なる龜井戸天満宮

かんの

百株の梅樹あり、就中臥龍梅は尤も有名にして梅花の候雅俗の來觀する者多し。



(宮 滿 天 月 非 龜)

かめいごてんまんごー龜井戸天滿宮 東京市本所區龜井戸にあり、正保年間の創建にして、菅原道真を祀る、もと此地の東南にありしを、寛文三年今の地に移し太宰府天滿宮に擬して社殿を建立せり、境内梅樹多く、又社前の池畔には藤棚を繞らし、下に茶店を設く、春夏遊覽の客多く日々雜沓す。

稱せり、人口七千餘、郡役所、警察署、郵便電信局、稅務署、區裁判所出張所等あり、城址は町の北端に位す、形原神社あり、町の附近に保津川流れ京都方面へ舟楫の便あり、今は京都關部間の鐵道停車場あり、交通の便多し。

かめさきまち 龜崎町 尾張國知多半島の東方、境川の河口にあり、大府武豊間の鐵道通過す、名古屋市を距る八里七町、人口六千餘あり、龜崎港は其東南にあり、南北十五町、水深三仞二尺、古來著名の港にして船舶の出入多し。

かめやままち 龜山町 伊勢國鈴鹿郡にあり、津市の北方七里十三町、關西鐵道の要驛にして、支線津市に至る石川氏六萬石の舊城下にして、人口七千餘、郡役所、警察署、郵便電信局、區裁判所、稅務署、小林區署等あり、龜山城は天正十七年間本宗憲の築く所、徳川氏の世石川氏の有となり、累世此處に居る、今は廢して公園となる。

かめいざん 神威山 北海道日高、十勝兩國境にあり、高さ五千四百餘尺。

かめがわ 賀茂河 山城四大河の一にして、山城愛宕郡山中より發し、東南に流れ鞍馬、貴船の諸川を合せ、南流高野川に合し、京都の東部を經、西南に轉流し紀伊郡に入り高瀬川等の諸溪流を容れ桂川に合し、水清く流淺く河幅廣さ六十間に亘る、架するに荒神口、三條、四條、五條の四大橋を

かめおかまち 龜岡町 丹波國南桑田郡にあり、京都市の西方六里六町、松平氏五萬石の舊城下にして、古くは龜山と

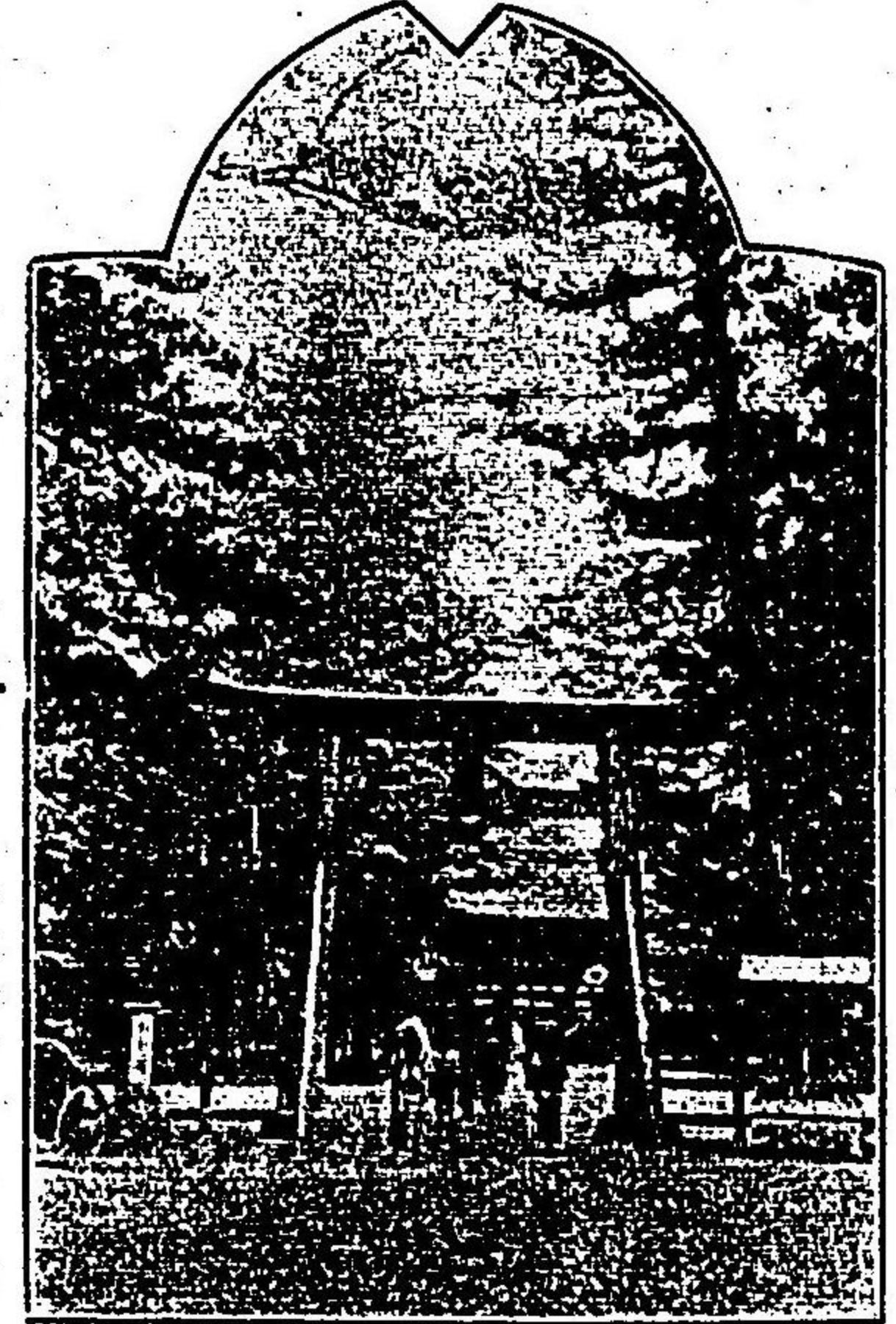
以てす、古此川を支那の洛水に比し京都を二分し、河東を洛外と云ひ、河西を洛中と云へり、鴨川染の名古來有名なり。かもじんじや 賀茂神社 「かもみおやのじんじや」「かもわけいかづちのじんじや」を見よ。

かもーたさき 浦生田岬 阿波國那賀郡の東端にあり、紀伊の日御崎と相對す、一に椿崎とも云ふ。

かものこ 加茂湖 佐渡國 越の湖の別稱。

かもまち 加茂町 羽前國 西田川郡にあり、大山町の

四一里、海に臨む、人口約五千、加茂港其前面にあり、港狭少にして暗礁多く、碇繋極めて不便なるも同國唯一の港にして、越後、秋田及北海道方面の航行船舶多く寄港す、近時築港の事あり。



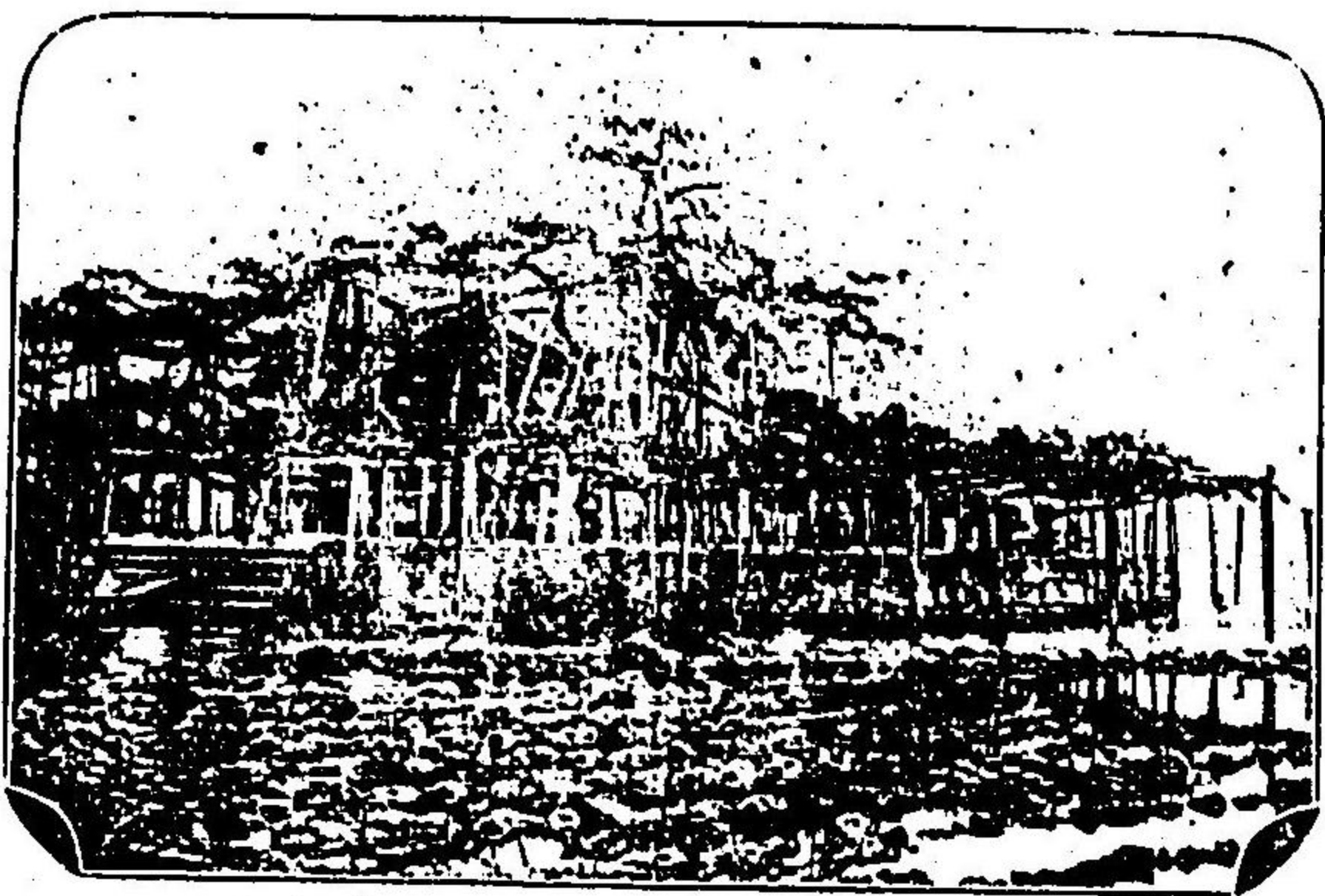
(社 神 祖 御 茂 賀)

かもみおやのじんじや 賀茂御祖神社 官幣大社、二十二社の一にして、山城國愛宕郡下鴨村にあり、一に下賀茂社とも云ふ、玉依姬命、加茂建角身命を奉祀す、天武天皇白鳳六年の創建にして莊嚴無比、境内殿舎、攝社、末社數多あり、毎

前よりの名祠にして、社殿の結構は下賀茂と伯仲す、祭日は下賀茂と同日なり、また別に五月五日の競馬の神事あり。

かもわけいかづちのじんじや 賀茂別雷神社 官幣大社、二十二社の一にして、山城國愛宕郡上鴨村にあり、依て上賀茂社と云ふ、別雷神を祭る、平安遷都以前より、依て上賀茂社と云ふ、

る、有名なる唐崎松は唐崎神社の社頭にあり、世に一つ松と云ふ、幹の圍り二丈五尺、高さ四丈二尺、枝葉八方に廣がりて約百坪を被ふ、こはもと天智天皇の植ゑられしものなるが、今の松は天正十九年新莊直賴が豊臣秀吉の命によりて植ゑつきたるものなりと云ふ。



(唐崎の松)

**からんむら** 唐澤山 下野國安蘇郡佐野町の東北、田沼町にあり、佐野停車場を距る北一里半、もと藤原秀郷の居城地にして山上に唐澤山神社あり、秀郷を奉祀す、今別格官幣社にして明治十八年の創建なり。

**からすがわ** 鳥川 信濃國の鼻山より發源し上野國碓氷郡に至り群馬郡の境を流れ、高崎市の附近にて碓氷川を合せ、多野郡を過ぎ佐波郡に至り利根川に合す、一に高崎川とも云ふ。

**からつまち** 唐津町 肥前國東松浦郡松浦湯の沿岸にあり、小笠原氏六萬石の藩城下にして、人口一萬二千餘、郡役所、警察署、郵便電信局、區裁判所、稅務署、小林區署、稅關支署、中學校等あり、陶器唐津燒の産地として有名なり、舊城は舞鶴城と稱し征韓役の際、豊臣秀吉の築く所、城址今公園となる、山に倚り海に臨み、風光絶佳。

**からつみなと** 唐津港 我國開港場の一にして、肥前國東松浦郡唐津町の前面にあり、東西二十町南北十八町、水深五仞、昔時支那との交通往々此地を經たるを以て唐津の名は之より起りたるならんか、今は特別輸出港たり、下の關港へ七十二哩。

**からんざん** 樺太山脈 樺太島より其脈を傳へたる山脈を云ふ、即ち分水山脈、北上山脈、阿武隈山脈、筑波山脈、出羽山脈、帝釋山脈、足尾山脈、三國山脈、關東山脈等は皆此系に屬す委しくは各條を見よ。

**からんはな** 鷲鷲鼻 臺灣島の最南端なる南岬の突角、近海暗礁多く海流急にして航海頗る危險なり、此處に白色不

動の燈臺あり、其光二十哩に達す、明治十六年清國政府の建設せる所とす。

**からめやま** 塙山 磐城國四白川郡白川町の東南なる南湖の東にあり、南北朝の頃結城氏の據りし白河城の故地にし



(感忠銘)

て、昔て白河樂翁の此地を領せし時、其誠忠を感じ、感忠銘を斷崖に刻して今に傳ふ、題は樂翁公の書にして、文は唐瀬典の撰する所なりと。

**かりざか** 鴈坂嶺 武蔵、甲斐の國境にあり、武蔵國秩父郡大瀧より甲斐國東山梨郡に出づる要路にあり、高さ六千八百餘尺、通路狹隘頗る峻峻の通路なり、武蔵國秩父郡

大瀧村字榎本より四里四町、甲斐國東山梨郡三富村大字釜川字上釜口より約四里四町にして山上に達す。

**かりただけ** 刈田嶽 磐城國刈田郡白石町の西北にあり、土釜「かつただけ」と呼ぶ、一に蔵王山と云ふ、尙「さおーざん」を見よ。

**かりやまち** 荻谷町 三河國碧海郡にあり、知多灣の北端に位す、紡績所煉瓦製造所等あり、もと徳川家康の外祖父水野忠政の居城なりしが、後土井氏二萬三千石の城下となる。

**かるいざわ** 輕井澤 信濃國北佐久郡、碓氷嶺の西麓にあり、高崎直江津間の鐵道通過す、當地は海拔三千八百尺の高地にして、氣候涼しきが故に、近年避暑客の來る、こと多し、こゝより西北淺間山に上る路あり、永祿四年上杉謙信小田原城を攻むるや武田信玄此地に陣し北條氏を授く。

**かれぬま** 洞沼 常陸國水戸市の南方にあり、周囲七里、其水東流して那珂川に入る。

**かろがわ** 加露川 因幡國千代川の下流を云ふ、尙「せんたいがわ」を見よ。

**かろむら** 加露村 因幡國鳥取市を距る四方一里、加露川の河口にあり、郵便電信局及び加露神社あり、風光の絶佳なる縣下第一となす、加露港は當國第一の港にして、水深一仞三尺、東西五町南北四十町、近年築港の事ありしも、風波の

烈しき爲め、充分の成功を見ずして終れり。  
**かわごえまち 川口町** 武蔵國北足立郡にあり、人口四千餘、鐵器を産す、川口の名は古へ此地の河口たりしを示せるものなりと云ふ。

**かわさきのこ 河口湖** 富士八湖の一にして、甲斐國南都留郡富士山の北麓、河口郡外四郡に亘る、周囲四里二十六町湖中鷓鴣島あり、一に辨天湖とも稱す。

**かわごえつご 川越鐵道(私設)** 甲武鐵道國分寺驛より起り、北行川越町に至る、延長十八哩三十七鎖。

**かわごえまち 川越町** 武蔵國入間郡にあり、東京を距る北方十三里十九町、埼玉縣下第一の名邑にして、人口二萬五千餘、郡役所、區裁判所、警察署、郵便電信局、稅務署、中學校等あり、織物の産額夥し、此地は松平氏八萬石の菑城下にして、城址あり、文明年中、太田持資の城く所、後、北條氏を経て豊臣氏の有に歸し、徳川時代に至りては、城主數次交代せしが、松平康



(社神野芳三越川)

英封を此地に受くるに及び終に相傳へて維新に至れり、城址に三芳野神社あり、附近甘藷の産額多し、町の東南字仙波に喜多院あり、天台宗に屬し天海僧正の名とともに名高し。  
**かわさき 川崎** 武蔵國橋本郡多摩川の河畔にあり、神奈川縣の管下に屬す、舊東海道第二の驛次にして、東京を距る四里三十四町、汽車電車の便あり、驛の東方に大師河原あり、川崎驛より電車鐵道往來す、平間寺は俗に川崎大師と稱す、新義眞言宗の巨刹たり、遠近人士の參拜する者常に群集す。  
**かわさきだいし 川崎大師** 武蔵國橋本郡川崎町の東方大師河原にあり、寺を平間寺と云ふ、新義眞言宗に屬する巨刹たり、弘法大師を本尊となす、大治年間平間某なる者大師の夢託により、海中に佛像を得、之を本尊となして、建立せしなりと、賽者常に多し。  
**かわさきのみなと 川崎港** 伊勢國度會郡宇治山田町の北

にあり、小川を以て神社港、二見浦等に通ず、漁船群集す。

**かわじりまち 川尻町** 常陸國多賀郡にあり、櫛形字友部に川尻停車場あり、此地もと多賀郡伴部郷と云ひ、又藻崎郷と稱し、豊崎港又豊浦とも云ふ、東は海に臨み、西は一帶の丘阜に倚る、人口三千餘、陸前濱街道に連る、其沿海の地に海水浴場を設く、夏時遊覽の客多し。

**かわせむら 河瀬村** 近江國犬上郡にあり、東海道鐵道の停車場あり、人口一千餘、蚊帳、帷子等の特産地として名あり、停車場より約一里二十町、本郡多賀村字多賀に官幣神社多賀神社あり、伊弉諾、伊弉册の尊を祀る。

**かわち 河内**

國 畿内五國の一、大和と和泉とに挟まれたる狹長なる國にして、地勢東西に短かく南北に長し、東南高山連綿たるも、西北は平



(玄信田武)



(信謙杉上)

川にして耕地多く、棉の栽培甚だ盛なり、國を分つて南河内、中河内、北河内の三郡となし、大阪府の管下に屬す、河内木綿の産川を以て名あり、もと凡河内と稱せしが元正天皇の時單に河内と改む、大化二年始めて國司を置き神護景雲三年河内職を置く、建武年間楠正成守護に任ぜられ、後鳥山氏の領となる、豊臣氏の代、攝津より兼治し、徳川氏の時丹南、狭山の二藩を置く、明治二年河内縣を置き同四年堺縣に屬し、同十四年大阪府の管下となる。  
**かわな 川中島** 信濃國にあり、千曲川犀川の會合する處にして、高井、水内、埴科、更科四郡に亘る、天文より



永祿年間迄上杉謙信、武田信玄の雄を争ひし處として有名なり。

**かわなべじつごー川邊十島** 薩摩國南方海中にある寶七島と硫黄島、竹島、里島の十島を云ふ。

**かわのえじよーし川之江城址** 伊豫國宇摩郡川之江町字城山にあり、土肥磯島之築く所、天正五年長曾我部氏の陥る所となる、徳川氏の世西條の城主一柳直盛の次子直家此地に封ぜられ、新城を修築せんとして病を以て果さずして歿す。

**かわべかわ川邊川** 備中國高梁川の下流にして、窪屋郡西北境より南流西轉、淺口郡に至りて二流となり、共に水島灘に注ぐ、一に川島川とも稱す。

**かわまたまち川俣町** 岩代國伊達郡にあり、福島の東南四里十二町、人口約五千、警察分署、郵便局、區裁判所出張所等あり、絹織物の産地として殊に有名なり。

あ

**あふな紀伊國** 南海道六國の一にして、北伊勢、大和、河内、和泉に接し、東南西の三面海洋に臨む、地勢北は高山連亘し低地少なきも、海岸及紀の川、有田川、熊野川、日高川流域地方は稍平地をなす、國を別つて一市十郡となし、南牟婁、北牟婁二郡は三重縣に屬し、和歌山市及び東牟婁、西牟婁、日高、有田、伊都、那賀、海草七郡は和歌山縣の管轄に屬す、もと木の國又紀の國と稱す、元明天皇の和銅六年詔して、國名二字と定めらるるに及び紀伊と改む、古來木材に富める故木の國の稱ありたるなるべし、神武天皇東征の際、皇軍利あらず、廻つて當國より大和に入り給ひぬ、鎌倉幕府の時佐原義連當國の守護に任ぜらる、足利氏の世、大内島山の兩氏相尋で守護となる、織田氏の時土家各地に割據して争奪を事とせしが豊臣秀吉之を一統して其弟秀長に賜ふ、淺野幸長當國に封ぜられしが、關ヶ原役後、廣島に移り家康の男頼宣之に代り五十五萬五千石を領し子孫相尋で王政維新に至る、維新後和歌山、田邊、新宮の三縣を置かれしが、後、これを廢して和歌山縣の管下に歸す。

**あふな紀伊海峡** 山長海峡の別稱「ゆらかいき」

よーを見よ。

**あふな紀伊川** 紀伊國紀の川の別稱。

**あふなみやく紀伊山脈** 日本二大山系の一なる崑崙山系一派の、九州四國を経て紀州に入りたるものにして高野山、那智山、彌山、山上ヶ嶽、大臺ヶ原山等を有名なる山嶺とす。

**あふな祇園** ①京都八坂

(やまか)神社の舊名。②祇園新地(きおんしんち)の畧稱。

**あふな祇園會** 一に天王祭と稱す、京都八坂神社

の祭禮にして、毎年七月十七日より一週間之を行ふ、古來京都名物の一にして、町々より山鉦を飾り建て市中を巡り神輿の駐所四條に集る、其華麗なること、群衆の雜沓すること海内第一と稱せらる。

**あふなやし祇園林** 京都祇園社、社頭の森を云ふ、一に祇園の森とも稱す、遠景大佳殊に晚景甚だ宜し。

**あふながしま鬼界島** (喜界ヶ島、奇界ヶ島) 大隅國南方



(祇園の浮)

の海中、大島の東にあり、周囲七里、大島郡に屬す、此地は治承元年六月僧俊寛等の流されたる處として名あり。

**あふな菊川** 遠江國にあり、源を榛原郡の山間に發し、西南小笠郡に入り、諸水を合して海に入る、承久三年中御門前中納言宗行卿「昔南陽縣菊水、汲下流」而延齡、今東海道

菊川、俗「西岸而失命」と傳して、誅せられし處なり。

**あふな菊池神社** 肥後國菊池郡隈府町字城山にあり、別格官幣社にして、菊池武時を祀り、武重、武國、武光、武政、武朝を合祀す、明治三年の創建にして、毎年五月五日大祭を行ふ、此地は菊池氏、累世の居城址たり。

**あふな積穀邸** 東本願寺の別邸にして、京都市東六條にあり、元河原院の舊跡にして、徳川秀忠、本願寺増地として賜ひし處なり、一に東殿と稱す、西本願寺の滴翠園と共に有名の芳園なり。

**あふな象潟町** 羽後國山形郡島海山の西北麓にあ

り、人口三千餘、警察分署、區裁判所出張所等あり、此附近海岸に象潟の古址あり、元風景を以て有名なる處なりしが、文化元年島海山噴火の爲に埋没して今は其面影を失へり。

**きさらづまち 木更津町** (歸去津村) 上總國君津郡富津岬の北方小櫃川口にあり、人口約八千、郡役所、警察署、郵便電信局、區裁判所、中學校等あり、千葉町を距る、九里二十一町、日々東京へ汽船の定期航行あり。

**きしゅーかいどー 紀州街道** 攝津國大阪市より、岸和田、信達、山口を経て紀州和歌山町に達する街道を云ふ、此間凡そ十八里七町餘あり。

**きしゅーなだ 紀州灘** 紀伊國西南海を云ふ、東方潮岬を以て熊野灘に接し、北方山真海峽に連る、此邊鯛、鰯、鯖等の産多し。

**きしわたまち 岸和田町** 和泉國泉南郡にあり、國の中央海岸、紀州街道の衝に當る、岡部氏五萬三千石の舊城下にして郡役所、警察署、郵便電信局、中學校、女學校等あり、此地もと岸村と稱せしを正慶年間楠正成の支族和田高家城きて是處に居り、爾來岸の和田と稱す、其城址今猶存す、町の西方に港あり、淺くして大船を入る能はざるも舟楫の便あり。

**きせがわ 黄瀬川** (木瀬川、喜瀬川) 駿河國にあり、源を駿東郡甲斐の國境より發し、富士郡の小流を合して、南流沼津

町の西に於て狩野川に入る、沿岸、清水村大字長澤の邊に黄瀬川宿址あり、源頼朝渡經と對面の地として知らる。

**きそかいどー 木曾街道** 「なかせんごー」を見よ。  
**きそがわ 木曾川** 尾張、伊勢の國境にあり、源を信濃國木曾山中に發し

諸水を合して西南美濃國に入り、飛騨川と合し、美濃尾張の國境を西南流し、長良川を合せ、更に尾張伊勢の國境を東南流して掛斐川と合し下流二派に分れ、伊勢海に入る、流域凡六十六里、起川の別

(圖のし出伐木材中山曾木)



あり河口より約二十里舟楫の便あり、其流域極めて廣く

灌漑の利を享くる平野頗る多し。

**きそんちゅー 木曾山中** (岐蘇山中) 信濃國西筑摩郡なる島居嶺より、南方美濃國に至る迄の山中を云ふ、中仙道の要路たり、此間木曾川の急流あり、山に倚り谷に沿ひ、兩岸に奇景多し、就中上松驛の寐覺床及其北方香掛村の木曾棧橋尤も有名なり、古へは此地美濃に屬す、木曾義仲が生長せし所として知られ、戰國の頃には、其裔なる木曾義昌ここに據りて威を振へり、材木及び木曾駒の産地として有名なり。

**きそんみやく 木曾山脈** 中仙道の中央を通ずる山脈にして、天龍川の上流を境として、赤岩山脈に並行し、南々四に走り、木曾川と天龍川との間に挟まり南するに從ひ、其市次第に廣くなり、美濃平原に至りて止む、脈中著名の山は、諏訪湖の西南に駒ヶ嶽、風越山、葛那山、阿加瀬山、參尾の國境に矢落峰等あり。

**きそち 木曾路** 信濃國島居嶺より美濃國境に至る、所謂木曾山中を経て美濃國に出づる通路にして、太寶二年初て此路を開きたりと云ふ。●木曾街道の別名。

**きそのかけはし 木曾棧道** 信濃國木曾山中、上松驛の北方香掛村にあり、千載集に「恐ろしや木曾の棧道の丸木橋、ふみ見るたびに落ちぬへき哉」とある處なり、今は木橋を渡して交通に便す。

**きたいん 喜多院** 武藏國川越町にあり、天台宗にして東京上野寛永寺に屬す、天長十七年慈覺大師の草創にして天台僧正(慈眼大師)寂焉の地として知らる、徳川幕府の頃寺領七百石を給せられ、境内廣く堂宇壯嚴を極めしと云ふ。



**きたうら 北浦** 常陸國香取行方二郡に瀕る、周圍十五里、其水流れて利根川に注ぐ、一に布川と云ふ、利根川航行の汽船により、銚田に通ず。

**きたおかしんじや 北岡神社** 肥後國龜託郡横手村にあり、崇徳鳴尊以下十一神を祭る、承平年中同郡湯の原村に創建せしが後今の地に遷せるなりと。

きたがた 北潟 越前國坂井郡三國町の東北二里餘にあり、周回五里二十二町、鹹湖にして一に北潟の入江、又、吉崎潟と稱す、湖口に一小島あり、鹿島と稱す、全島綠樹を以て覆はれ、斷崖障壁絶て、菴蘿に蔽はれ、眺望佳なり。

きたかたまち 喜多方町 岩代國耶麻郡にあり、檜川に跨る、郡役所、警察署等あり、岩越鐵道若松より來りて此地に止まる、福島を距ること二十七里十六町、若松市へ四里二十町。

きたかみがわ 北上川 源を陸中國巖手郡御堂山及北上山に發す、諸流を合して南流し、盛岡市を過ぎて、和賀川、豊澤川、松隈石川を入れて陸前國に入り、神取にて玉造川を合せ大森に至りて二派に別れ、一は南流して石巻港に注ぎ、一は東北に流れ、月濱に至りて海に入る、延長七十九里。

きたかみさんみやく 北上山脈 樺太山系の一派にして、陸奥國馬淵川口より起り、北上川の東北を走りて陸前國に入り、牡鹿半島となり、金華山に至る、脈中早池峰は最高峰たり。

きたしらかわ 北白河 今單に白川村といふ、京都上京區淨土町の北方、即ち志賀山越(近江滋賀に出づる路)の山口なり、延元元年新田義貞此處に屯せしこと太平記に見ゆ、北白河城は勝軍山又瓜生山城ともいふ。

きたのしよー 北庄 越前國福井市の舊名、慶長六年福井と改む。

きたみのくに 北見國 北海道十一國の一にして、東北一帯オコック海に面し、南釧路、根室十勝の三國に接し、四石狩天鹽に界す、地勢狹長中央往々廣しと雖三面山を以て圍まれ、湖沼其間に點在す、國を八郡に別ち、宗谷、枝幸、利尻、禮文、四郡は宗谷支廳の管下に屬し、網走、斜里、常呂、紋別の四郡は網走支廳に隸す、此地もと松前藩に隸せしが文化四年箱館奉行に隸し、明治二年八月初めて北見國を置かれ開拓使に屬し、次で北海道廳管下につく。

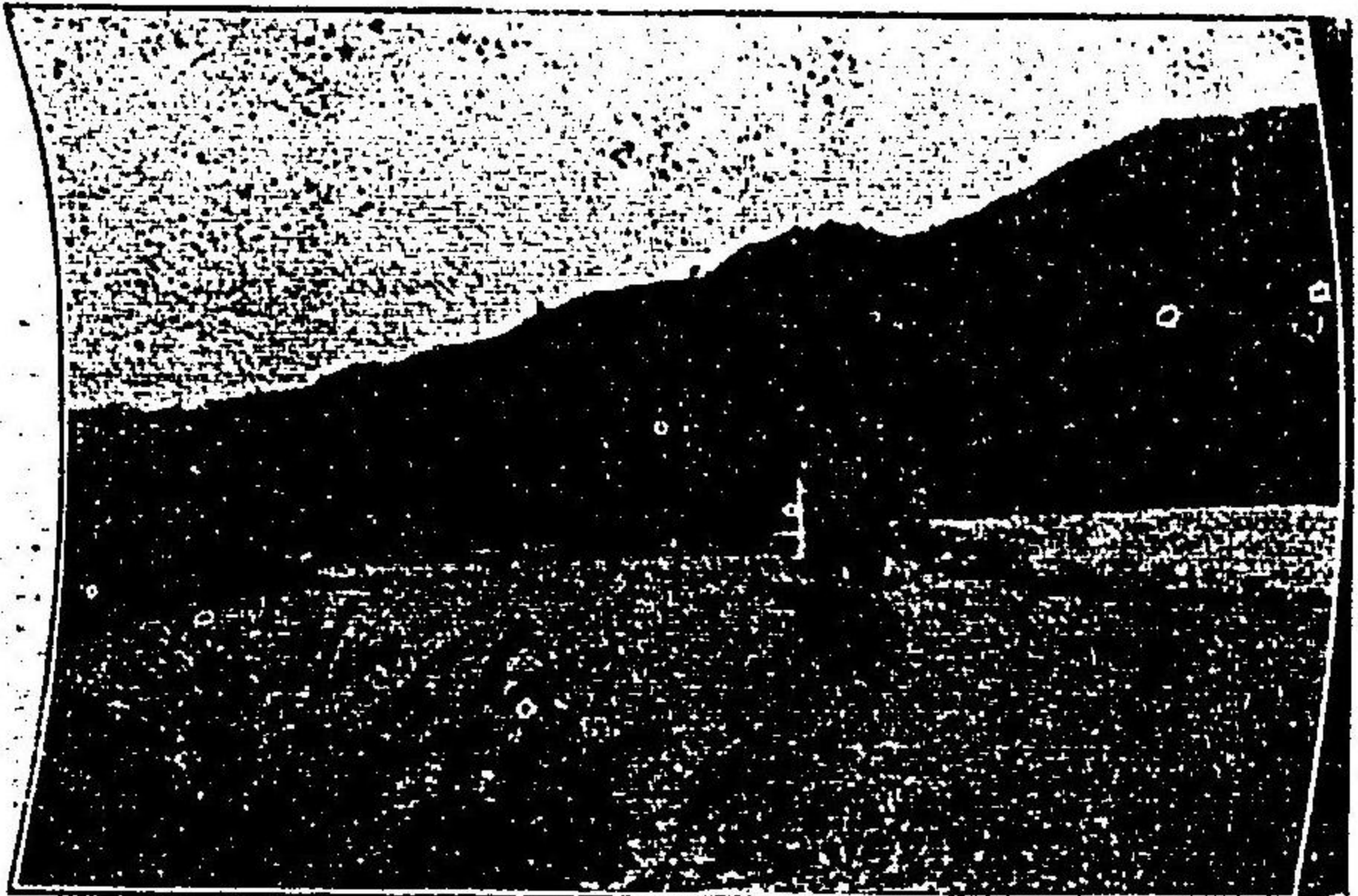
(近 附 川 津 木)

きたんかいきよー 紀淡海峽 由良海峽の別稱。

きたやま 北山 京都市の北方に連れる貴船鞍馬等諸山の總稱にして、東山に對したる名稱なり。

きたやまごぼー 北山御坊 本願寺派の別院にして、京都

きたの

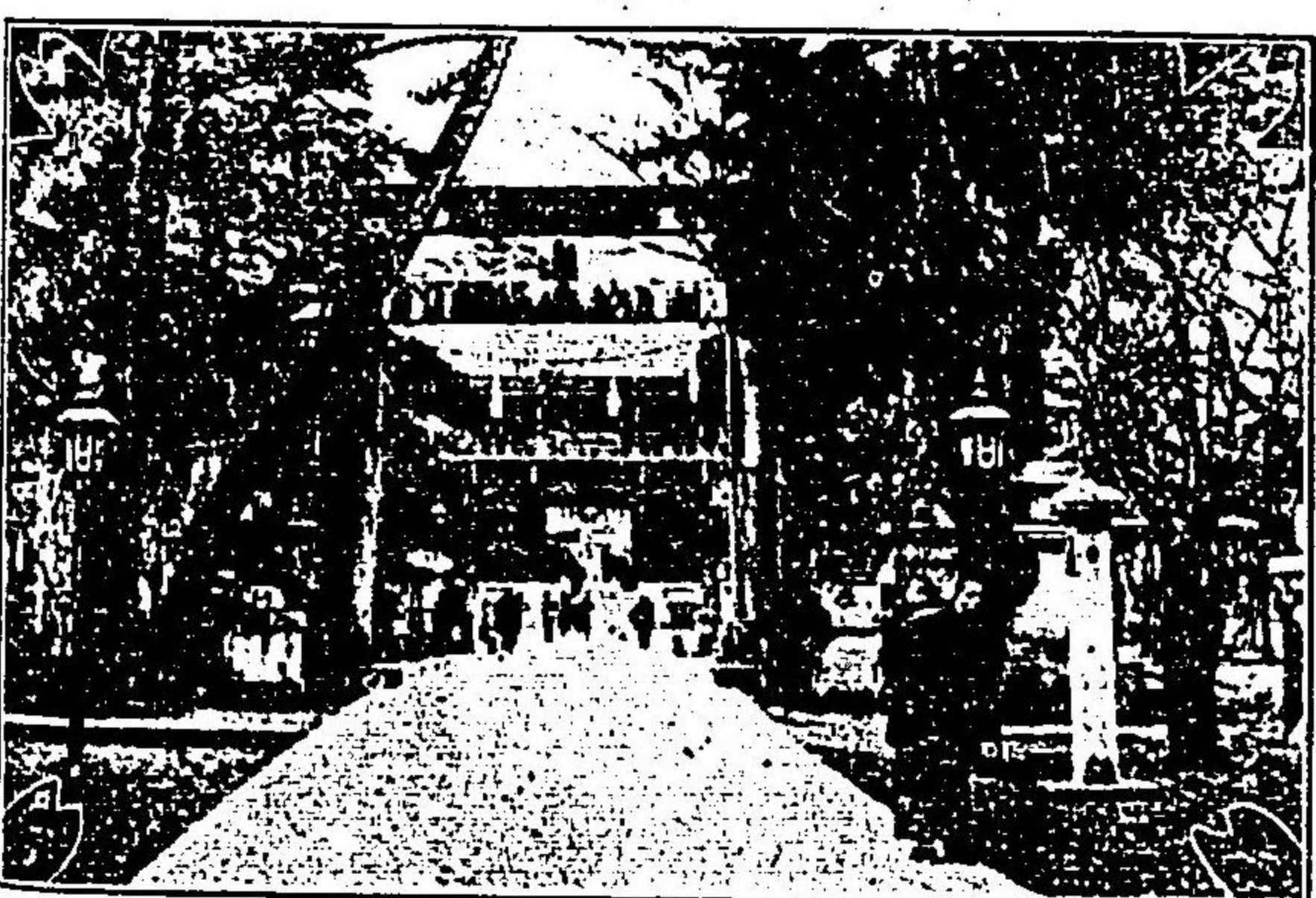


して人口七千餘、區裁判所、郵便電信局、小林區署、中學校等あり、前面に杵築港あれども良港ならず。

きたの

きたにほん 北日本 富士火山脈以北を總稱す、南日本に比すれば平野多く、河流は概ね長大なり、親潮東岸に沿うて流れ氣候頗る寒冷なり。

きたのじんじや 北野神社 二十二社の一にして、山城國京都市上京區馬喰町にあり、官幣中社にして、菅原道真を祀る、天曆九年近江の僧最珍、菅公の神託を受け、其後天徳三年之を改造す、爾來屢々改築して、社殿愈々宏壯となる、現社宇は慶長年中豊臣秀頼の修造する所とす。社地一萬二千坪、攝社末社羅列し、參詣の夥しき京都第一となす。



(社 神 野 北)

一乗寺村にあり、初め聖水山舞樂寺と稱して、山門の末寺なりしが、後、本願寺の有に歸す、今の堂宇は法如上人の建立なり、堂の前に靈水及び影向石あり。

きたがわ 木津川 山城四大河の一にして、伊賀國伊賀川及名張川の下流なり、山城に入り西流して、笠置山麓を流れ、木津町に至り、北流して綴喜郡に入り西北轉八幡町に至りて、湍川に合す、山城川、泉川、挑川等の稱あり、國境より流域十三里、笠置山下の眺望頗る佳なり。

きたまぢ 杵築町 出雲國簸川郡にあり、松江市を距る十一里三町、人口四千餘、郵便電信局、警察分署、區裁判所出張所等あり、此地出雲大社の所在地たるを以て、賽客群集し、町中大に賑ふ。豊後國速見郡杵築灣頭にあり、大分町を距る九里三十一町、能見氏三萬二千石の藩城下に

まづきのみや 杵築宮 出雲大社の別稱。

まづいあん 吉水院 吉水神社の古稱。

まづまち 木津町 山城岡相樂郡にあり、奈良市を去る一里三町、木津川の南畔に位す、名古屋、網島間及び京都奈良間の鐵道交叉す、人口五千餘、郡役所、警察署、郵便電信局、事務所、區裁判所出張所、小林區署等あり、古くは泉の里、又高瀬の里などいへり、町の東、宇城山に城址あり、文明の亂に畠山氏の築く所と稱す。

まなひ 畿内 本州の中央にあり、山城、大和、河内、和泉、攝津の五國を總稱す、一に五畿内とも云ふ、東、東海東山兩道に、四、山陽道に、南、南海道に、北、山陰道に接す、往時帝都の地たるを以て此名ありと、大化二年之を置く、地勢は東四に短く南北に長く、大牛山脈を以て圍繞せらるれども、四方沿海諸國は概ね平坦にして、地味豊沃頗る農業に適す、氣候中和にして、特に瀬海の地は人身に適す。

まのかさじょうし 衣笠城址 相模國三浦郡衣笠村大字衣笠山上にあり、横須賀町を距る南一里強、三浦家累世の居城地にして、治承四年畠山重忠の爲めに略取せられ遂に滅ぶ。

まのかさま 絹笠山 山城國葛野郡絹笠村にあり、京都の西北に位し、一に相掛山と稱す、山麓に等持院あり。

まのかは 鬼怒川 (衣川、細川、古稱毛野川) 源を下野國鹽

まのさきおんせん 城崎温泉 但馬國城崎郡城崎川畔、城崎町にあり、山陰道中著名の温泉にして、豊岡町を距る二里二十町、鹽類泉にして、湯の湯、曼荼羅湯、御所の湯、口の湯、柳の湯、地藏湯等あり、一に湯島温泉と稱す。

まのま 木本町 紀伊國南牟婁郡の東海岸にあり、三重縣下に屬す、熊野街道の一驛にして津市へ四十一里十三町、新宮町へ七里三十一町、人口約四千、郡役所、警察署、區裁判所、郵便電信局、事務所等あり。

まの 吉備國 備前、備中、備後、美作四ヶ國の古稱、光仁天皇寶龜年間二國に分ち、後ち四國とす、各條を見よ。

まのつじんじや 吉備津神社 國幣神社、備中國吉備郡眞金村大字宮内にあり、吉備津彦命を奉祀す、此社にて釜鳴神事あり、吉備の釜鳴と稱して有名なり、一に吉備彦津神社ともいふ。

まのこじま 吉備小島 今の兒島半島を云ふ、此地もと一の離れ島にして、源平時代佐々木盛綱淺瀬を渡りて、此地に屯在せる平軍を破りし、こと史に見えたり。

まのなかやま 吉備中山 備前國の國境、備中國吉備郡眞金村にあり、一に鯉山といふ、吉備津彦神社の北に當る、此地に吉備津彦命の墓地あり。

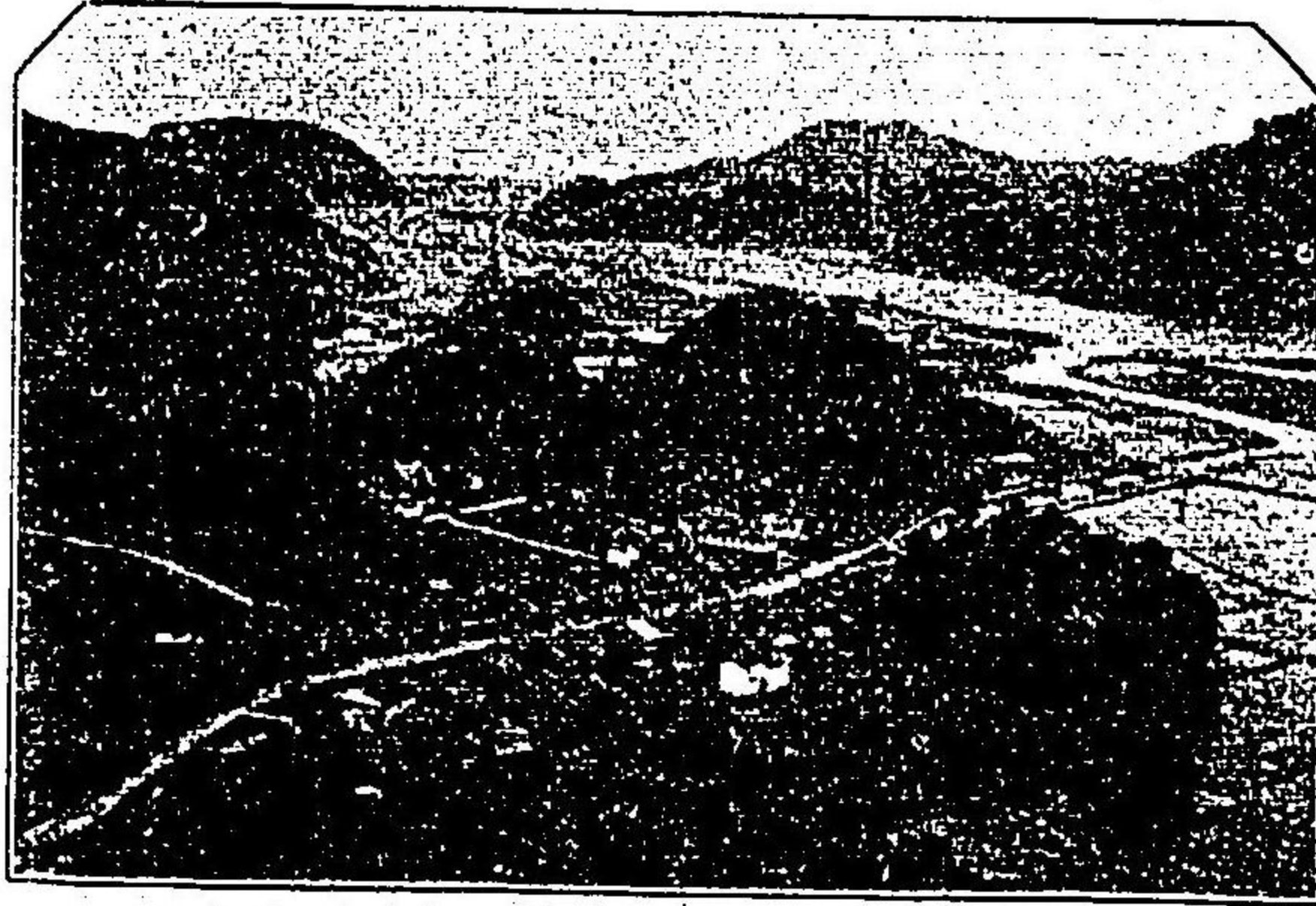
まのかわら 貴生川村 近江國甲賀郡にあり、近江鐵道

谷郡衣沼に發し、東流して、五十里川、大谷川を合せ、鹽谷、芳賀、河内の諸郡界を南流して、下總に入り、利根川に合す、流域三十里餘、下流より二十四里航行の便あり。

きねんでん 紀念殿 平安神宮を見よ。

きのかわ 紀川 紀伊國にあり、大和の吉野川の下流にして

一に紀伊川とも云ふ、大和五條より西流して紀伊國伊都郡に入り、那賀、海草兩郡を西流して和歌山灣に注ぐ、流域三十里、下流より十三里船楫の便あり、其河口は即和歌山港にして小湊船の碇泊に便なり。

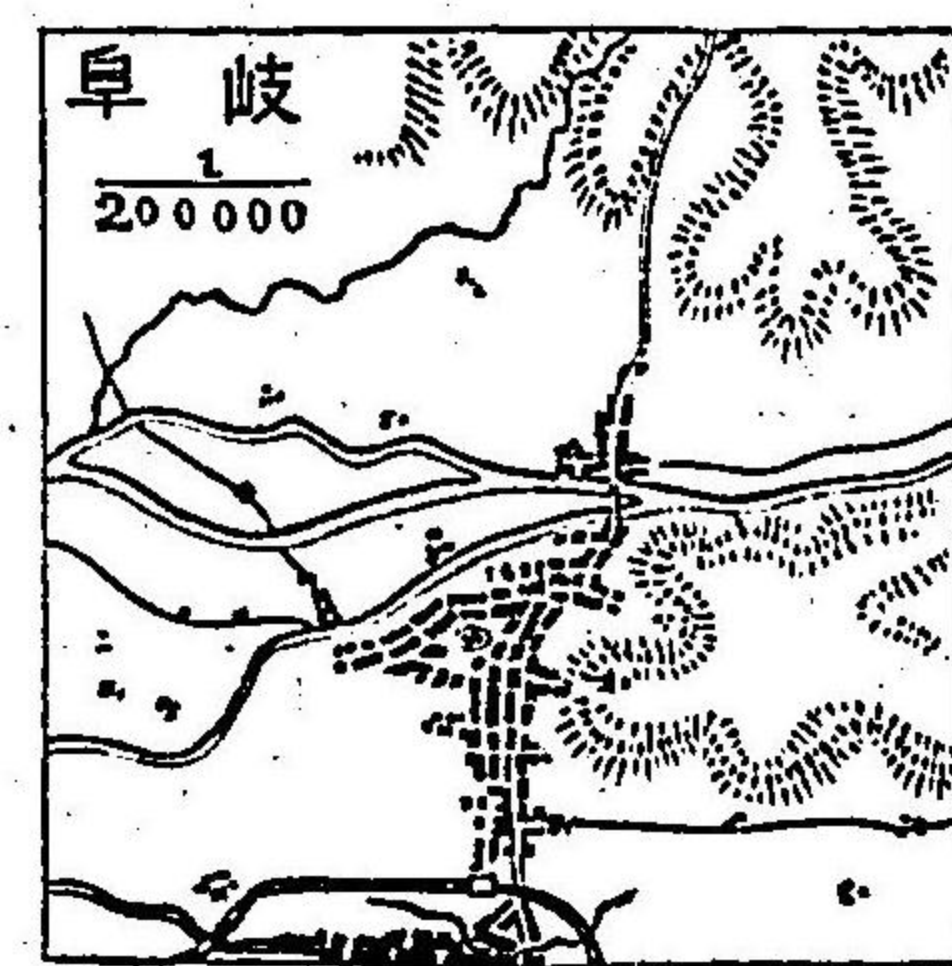


(泉 温 崎、城)

は此地より關西鐵道に連なる。

きふけん 岐阜縣 縣廳は岐阜市にあり、美濃、飛騨一圓を管す、面積六百七十一方里四五、一市十八郡三十八町三百六十村より成る。

きふし 岐阜市 美濃國稻葉郡稻葉山の西方、長柄川畔にあり、岐阜縣廳の所在地にして、東京を去る百四里、古くは井の口と稱す、縣廳、市役所、地方、區裁判所、郵便電信局、警察署、監獄署、測候所、中學校、女學校、事務所等あり、提灯、團扇、油團、縮緬、鮎及び大根漬の産出を以て名あり、當地は永祿の頃齋藤龍興の居城せし處にして城址、今尙市の東北金華山上に存す、一に稻葉城又井口城といふ、弘治年間織田信長清洲より移りて此處に居り、名を岐阜城と改め、天正年間安土に移り子信忠を置く、本能寺の變後信忠の弟信孝居城せしが、豊臣秀吉の滅す所となる、文祿年間信忠の長子秀信封せられしが、關ヶ原の役西軍に與みして國除かれ、城遂に滅ぶ、爾來德川幕府の直轄地となり、奉



奉

行を派して統治せしめたり。

**きぶねがわ 貴船川** (木船川、貴布禰川)山城國にあり、源を愛宕郡龍王瀧に發し、南流して柘野に至り、鞍馬川に合す。

**きぶねじょうし 木船城址** 越中國西礪波郡大瀧村字木船にあり、福間驛を距る約十町、昔時石黒氏數代の居城地にして天正年間前出秀繼代りて、入城せしが、間もなく大地震あり城崩壞して秀繼之に死し其男利秀石動に移り城遂に廢城となる。

**きぶねじんじや 貴船神社** 官幣中社、二十二社の一にして、山城國愛宕郡鞍馬村字貴船にあり、閻魔神を奉祀す、本社加茂川の源にあるを以て一に河上神とも稱す、古へより祈雨神として有名なり、新古今集に「大御田の瀧ふばかりせきかけて、井關に落せかほかみの神」。

**きみいでら 紀三井寺** 西國第二番の靈場にして、紀伊國海草郡紀三井寺村にあり、和歌の浦の東岸、名草山の西端に位す、眞言宗にして、本名を金剛寶寺と云ふ、寶龜元年の創建にして、僧爲光を開基となす、境内近く和歌の浦の全景を下瞰し、遠く淡阿の諸山を煙波の間に望み風景極めて佳なり。

**きんかいこみよし 金戒光明寺** 京都市上京區岡崎町にあり、紫雲山と號し淨土宗鎮西四個本山の一にして法然

物に列せらる。閣下の池を鏡湖池と云ふ、眺望極めて佳なり。

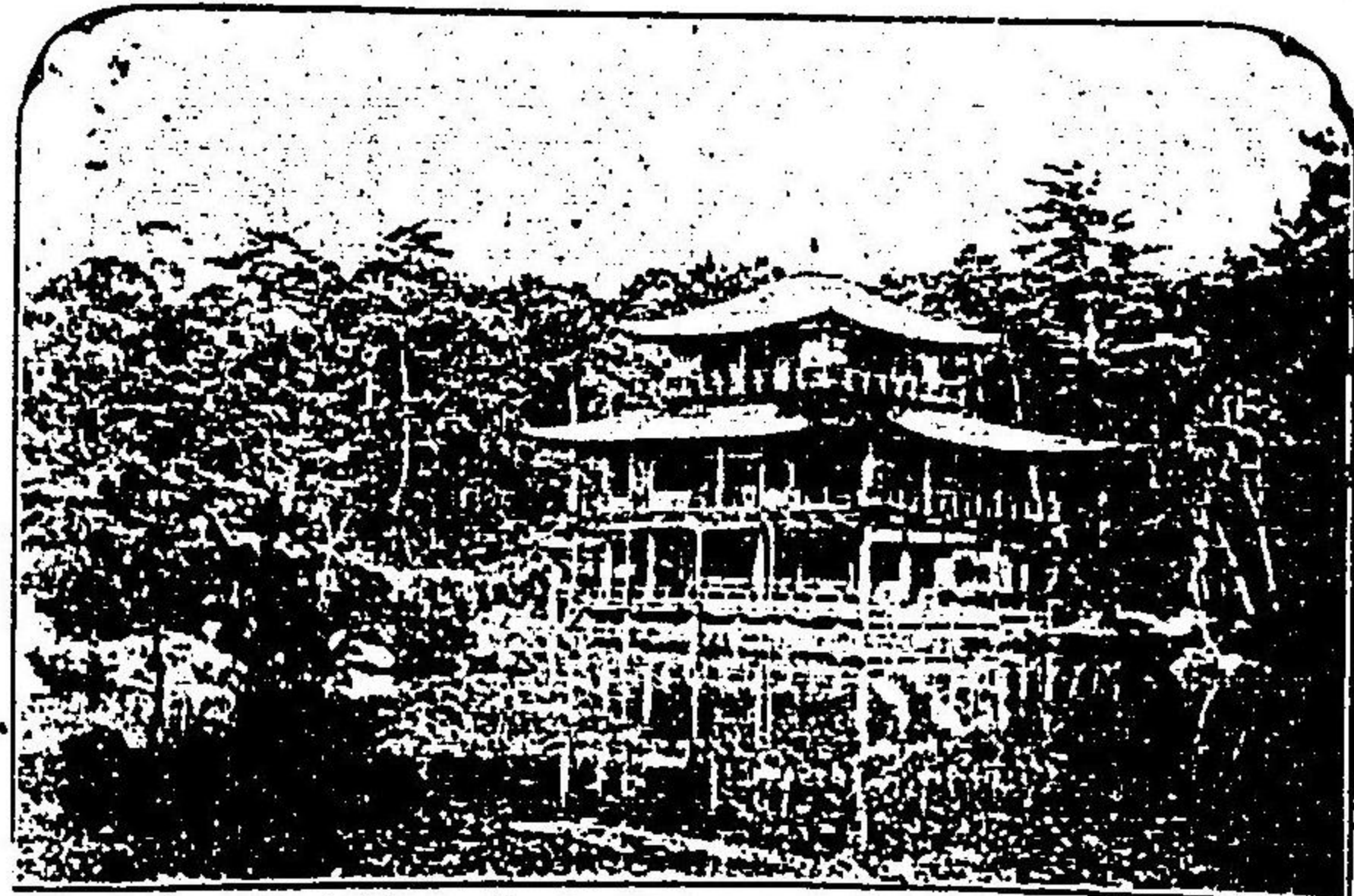
**きんかくじ 銀閣寺** 禪寺にして慈照寺と稱す、京都東山鹿ヶ谷の北方にあり、此地はもと足利義政閑居の地にして、世に東山殿と稱す、義政の薨後、遺命によりて寺となす、夢窓國師開基たり、有名なる銀閣は庭園の一隅にあり、文明年中の建造にして二層樓なり、北山の金閣に比して此名あり、金閣と同じく特別保護建造物たり。

**きんさちほー 近畿地方** 畿内附近の地方の謂にして、京都、大阪の二府、兵庫、奈良、三重、滋賀、福井、和歌山の六縣十七ヶ國十一市百〇七郡の地を云ふ、詳しくは各條に註す。

**きんくさん 金花山 (金華山)** 陸前國牡鹿半島の東海中に屹立す、高さ約八百尺、周回三里廿八町、山腹に黄金神社あり、山麓砂金を産す、古へは之を陸奥山と稱す、又蓬萊山の別稱あり、島上至る所風光明媚を以て知らる。美濃國岐阜市の東北に聳ゆ、一に稻葉山又被鏡とも稱す、滿山綠樹蒼鬱として風光極めて佳なり、山頂に岐阜城址あり應永年間齋藤氏の修築する所、慶長以來廢城となる、山は岐阜御山と稱し、岐阜奉行の管下に屬し庶人の獵入を禁せられしが、維新後官林となり、宮内省御料局に屬す、山頂の眺望極めて佳なりと、山下に岐阜公園あり、明治二十一年の開闢にして

上人居住の舊蹟地たり、僧支空の開基にして安元元年の創建たり、もと白川禪房と稱せしを御宇多天皇の時今の名に改む。

**きんかくじ 金閣寺** 山城國葛野郡衣笠村にあり、禪寺にして鹿苑寺と稱す、もと足利義滿閑居の地にして、殿堂は應



永四年の建立なり、義滿の薨後遺命によりて禪寺となす、著名の金閣は方丈の四、庭園の中央にあり、三層閣にして高さ四十餘尺、昔時四壁天非檀柱欄干ともに金箔を塗りしものなるも、今は殆んど剝落して見る影もなし、明治三十一年特別保護建造

城主居館の址たる千疊敷を込めて、境域頗る廣大にして四時遊覽の客多し。

**きんしよくじ 錦織寺** 眞宗一派の本山にして、近江國野洲郡にあり、世に木部の錦織寺と云ふ、天安年中の草創たり、嘉禎中親鸞上人一尺八寸の阿彌陀如來を此寺に安置して、念佛道場となす、後、四條天皇より天神護法錦織寺の勅額を賜ひて寺號となす。

**きんたいばし 錦帯橋** 周防國岩國町岩國川に架す、一に算盤橋と稱す、長さ百二十五間、奇巧を以て名あり、延寶元年舊岩國藩主の



(橋 帯 錦)

遊る所、爾來數十回の修築あるも舊形を改めず。

きんざん 金峯山

關東山麓に屬す、甲斐國西山梨郡と北巨摩郡とに亘り、信濃國に連る、高さ八千四百餘尺あり、中巨摩郡宮本村字黒平より約六里十四町にして山頂に達す、山上、東に秩父の連山、西に八ヶ嶽、南に富士山、北に淺間山を望み、眺望極めて快霽、山中所々に大塊の水晶を産す、山頂に小祠あり藏王權現を祀る。○金峯山(別稱大峯山、山上嶽)大和國吉野郡の中央にあり「おみれやま」を見よ。  
きんざん 金峯山寺 大和國吉野郡吉野町の中央にあり、木堂に藏王權現を安置す、依て藏王堂とも云ふ「ぞーおーぞー」を見よ。

きんぶじん 金峰神社

大和國吉野郡にあり、吉野山地主の神にして、金山彦神を祀る、俗に金精明神と云ふ。

きんぼくざん 金北山

佐渡國第一の高山にして、相川町の東北にあり、一に越高嶺、雪高嶺とも云ふ、高さ四千餘尺、相川町より登り三里にして山頂に達す、山中金銀を産す、坑口二十餘あり、徳川幕府の時、甲斐の人久保長安をして、舊坑を改良し盛に採掘せしめ爾來今に至り、其採掘止まず。

きんぼーじん 金峰神社

羽前國東田川郡貴金村大字青龍寺の金峰山の山腹にあり、縣社にして少彦名命、大己貴命等を祀る、創建年月詳かならざるも文安年間補氏の遺族

きんわん 牛公灣

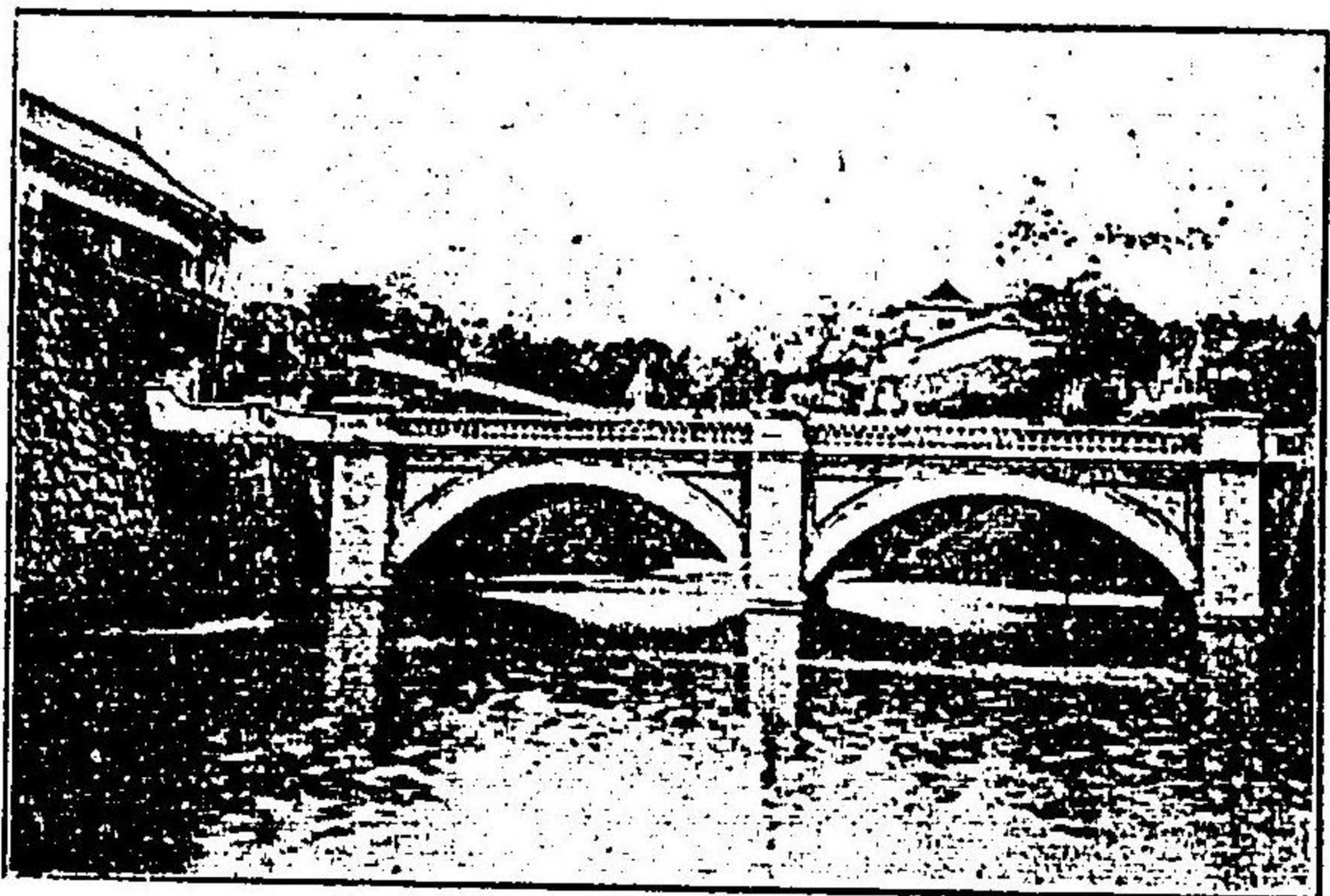
(Niu-King Bay) 臺灣の澎湖列島中の漁翁島と白沙島とに擁せらる、南西風を拒ぐを得。

きんしゅう 九州

山陽、南海兩道の四南海中にあり、筑紫或は鎮西と稱し、西海道とも云ふ、東は豊後國南海部郡鶴見岬(東經百卅二度五分)より、西肥前國北松浦郡の西端(東經百二十九分三十四秒)に至り、南大隅國大隅郡佐多岬(北緯三十一度)より、北豊前國金救郡の北端(北緯三十三度五十八分)に至る、屬島約百五十、面積二千六百八十八方里、別つて、福岡、大分、佐賀、長崎、熊本、宮崎、鹿児島七縣となし、沖繩縣を附屬として、十二國、四島、九市、八十五郡、二區を管す、詳しくは西海道及各縣各國の條を見よ。

きんしゅうていこ 九州鐵道

(私設)豊前國門司より起り、筑前の博多を経て筑後に入り、肥後の熊本を経て八代に至る、延長百四十三哩三十五鎮、支線に豊州線、長崎線、筑豊線、唐津線、伊萬里線、佐世保線、三角線等あり。



を二重橋と稱し、一は石を以てし、一は鐵を以てす、前皇居は明治六年五月炎上し、今の皇居は明治十七年より起工し、

大和の金峯山を遷し殿堂を修築せるなりと傳へらる、山嶺に奥院あり、鐵鎖を傳はり登山參拜す、山中の砂礫金色を帶ぶ、附近諸國よりの賽者頗る多し。

きんや 禁野

河内國北河内郡交野山麓にあり、古への交野の御獵地にして、皇室の御獵地として、臣庶の禁獵地たりしを以て此名あり。

きんぬま 喜門沼

十勝國中川郡にあり、周圍十里。

きんわんじ 久安寺

攝津國豊島郡細川村大字伏尾にあり、眞言古義の古刹とす、神龜二年行基菩薩の開基にして、昔時は境内廣漠たりしも、今は六百十五坪を存するのみ、城内朱雀池、逆川、千代の橋、觀音石、東の瀧、玄武ヶ嶽等ありて、四季共に幽邃閑雅なり。

きんこ 舊港

臺灣北方の西海岸にある海港にして新竹の西北にあり、人口五百餘、特別輸出港の一たり、港邊く「ジャンク」の外碇泊する能はざるも、此地方一般に苧麻の產地なるを以て重要な地位を占む。

きんこけい 舊港溪

臺灣の北方、溪列庄を下り、舊港に注ぐ、河幅一町許、舟行約一里。

きんこわん 吸江灣

土佐國にあり、長岡、土佐、吾川三郡に亘る、東西二十町南北二十二町、高知市に至る咽喉地たり、風景頗るよし。

きんしゅうなんぶざんみやく 九州南部山脈

日本二大山系の一なる崑崙山系の一脈にして、南日本外帶山脈をなし、九州南部を通過するものを云ふ、本脈は尙進みて、四國山脈に聯る、市房山、祖母山等は本脈中著名なる山嶺とす。

きんしゅうほくぶざんみやく 九州北部山脈

日本二大山系の一派に屬する南日本内帶山脈の九州北部を通過するものにして、北、白山火山脈に接す、本山脈中にて著名なる山嶺は、雷山、寶満山、福智山等なり。

きんしゅうみやき 宮城

皇居のある處にして、東京市の中央麹町區にあり、もと江戸城を改築したるものにして、周圍凡そ二里、圓らすに二重の濠を以てす、皇居のある處は即ち舊西丸にして、正門は元の大手門なり、此大手門の西に書院門橋あり、現時は之

廿一年に至りて竣工す、翌年二月十一日御遷宮あらせられたるなり。

**きよばとー牛罵頭** 臺灣森中府の西北にあり、人口約二千、警察署、憲兵屯署、郵便電信局、公立學校等あり、大甲へ五里。

**きよふんさん牛份山** 臺灣の北方基隆河の上流に位す、山麓砂金を産す。

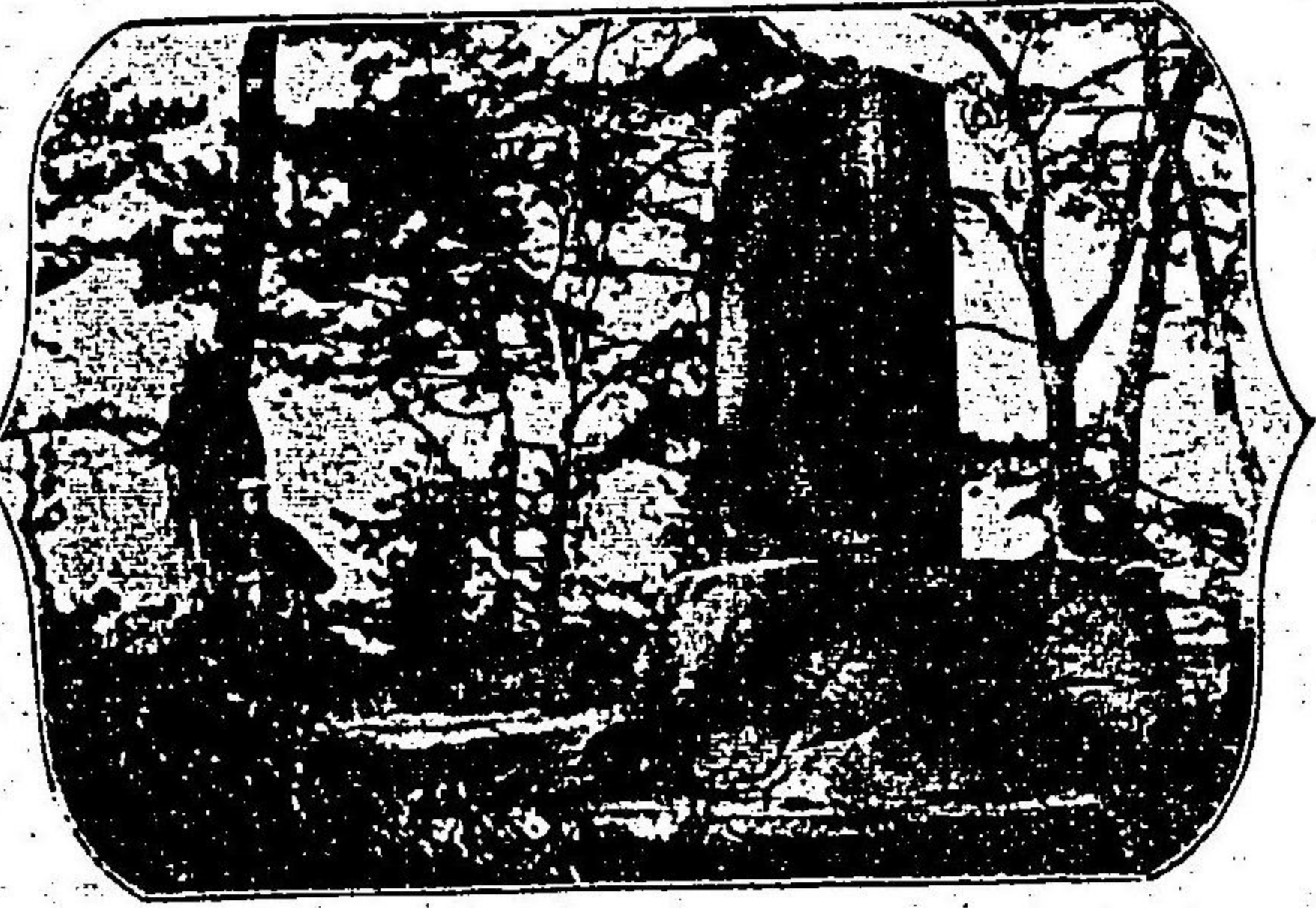
**きよおーかく魚翁角** 臺灣の澎湖列島中の魚翁島の東北にある巖狀の絶壁にして、岩上燈臺あり、燈光十五裡に達す、明治八年清國政府にて築造せるものにして、明治二十八年我政府之を再修せり。

**きよおーとー魚翁島 (Usher Island)** 澎湖列島の大島にして、清人は四嶼と呼ぶ、島は南北の延長約二里半、周回約七里。

**きよんてん鋸山 (Chinshan)** 臺灣山系の中央部、連山高峻にして、恰も鋸齒狀をなす、土俗呼んで鋸山と云ふ。

**きよすまち清洲町** 尾張國西春日井郡、名古屋市の西北二里十五町にあり、人口一千餘、東海道鐵道通過す、城址は町の北方五條川岸にあり、城は應永年間斯波氏の築きたるものにして、其臣織田氏之に居り、爾來數代其の有となり、信長の歿後信雄、これに居りしが、幾くもなくして、豊臣秀吉

の有となり、秀次の歿後瀧島正則封ぜらる、徳川時代に至り、家康の子忠吉、弟義直相次で封ぜられしが、慶長十五年名古屋に移り、今城となる、今は僅に數本の老松ありて、其城址を示すのみ。



(址城洲清)

**きよすみやま**

**清澄山** 安房國北境にあり、安房第二の高山にして高さ一千二百餘尺、市坂山と並びて上總と境す、山中に清澄寺あり、寶龜二年僧不思議の開く所、眞言宗に屬す、日蓮上人修行の地として知らる、天津町より登り二十四町にして達す、山中村家あり、百戸許、中に旅館を兼ねるもの八九戸、農

(院 源 徳)



科大學の演習林あり。  
**きよたぎら**  
**清瀧寺** 近江國坂田郡柏原村字清瀧にあり、柏原驛を距る約十町、叢通山徳源院と稱す、佐々木、京極家即ち江北屋形の菩提所に於て十八代の墳墓あり、天台宗に屬す。

**きよたぎら清瀧川** 山城國高麗川の別稱。

**きよとー京都** 桓武天皇以降、七十一千八百八十四年間の帝都にして、山城國の中央にあり、賀茂川、桂川市中を貫通す、現今京都府廳の所在地にして、東京市を距ること、一百三十一里、市は東西二里、南北一里半、分つて上京區下京區と



なす、京都府廳以下の各官衙、京都帝國大學及高等學校、師範學校、中學校、工藝學校、美術學校、同志社等の諸學校あり、舊内裏、仙洞御所、二條城、東西兩本願寺を始め、其他の名所古蹟擧げて數ふべからず、東海道鐵道は此地を通じて大阪に至り、市内亦電車の便あり、此地桓武天皇の延暦十三年に都を奠められしより、平安京と稱し、輪奐の美を極む、其位置は桂川と賀茂川との間にありて、東西千五百八丈南北千七百五十三丈、中央に朱雀大路ありて南北に通じ、東方を左京とし、西方を右京となす、大内裏は朱雀大路の北端にあり、東西三百八十丈、南北四百六十丈、四方に十二門あり、別に上東上西の二門ありて四方に通ず、今の京都市は、大に東方に偏し古への左京に、賀茂川以東を加へたるものにして、右京の地は大半田圃に化したり、賀茂川以東を洛外と云ひ、以西を洛中と云ふ、而して東方諸山を東山と稱し、西方諸山を西山、北方諸山を北山と稱し、名所舊蹟主に此附近に散在す。

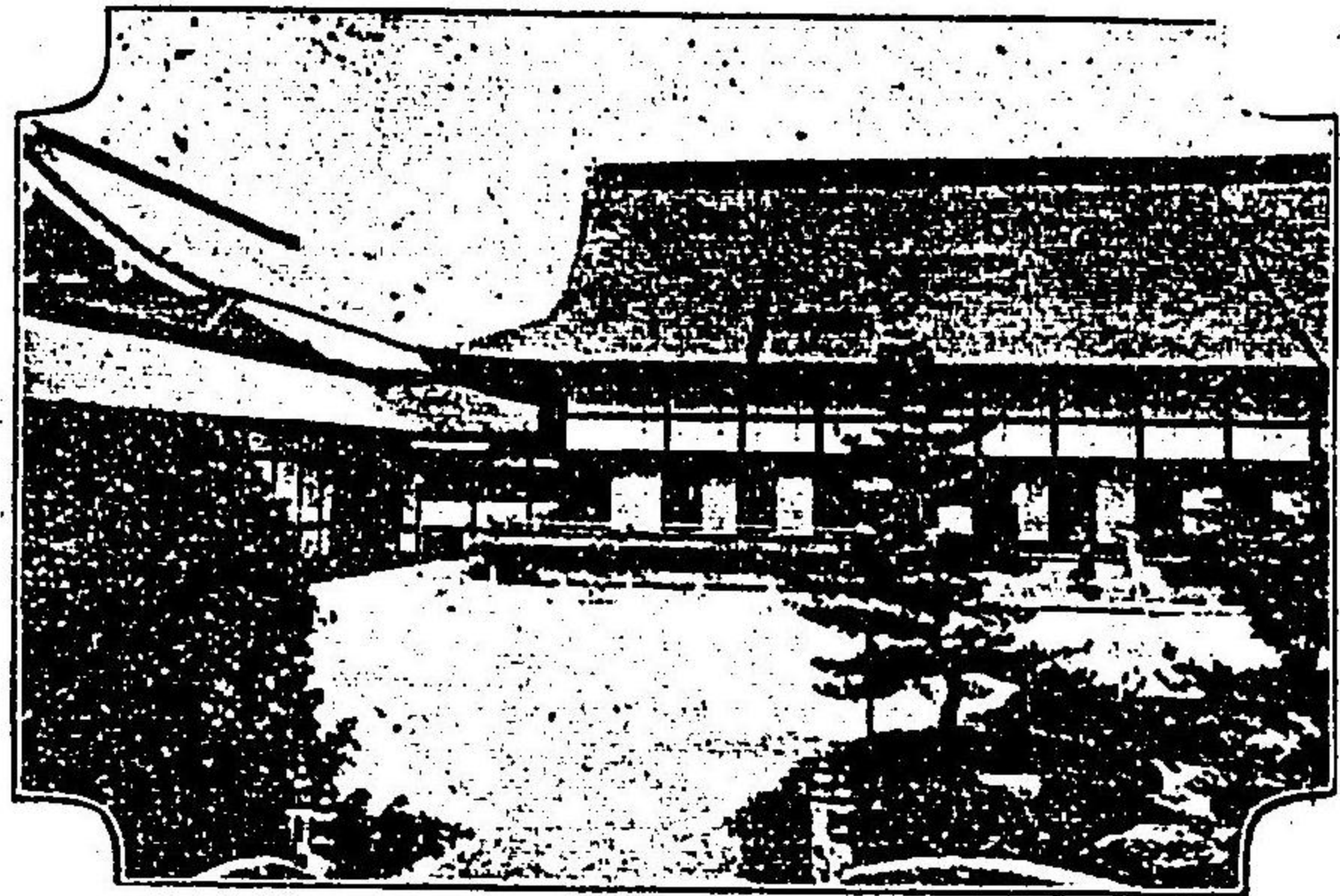
**きよみぢまち 行徳町** 下總國東葛飾郡市川町の南、海濱にあり、東京を距る三里十六町、江戸川航船の發着所たり、人口七千餘、警察分署及郵便局あり、食鹽の産地として知られ、至る所製鹽所あり、行徳鹽の名古來有名なり。

**きよみぢさん 京都五山** 京都にある禪宗五大寺にして、

天龍寺、相國寺、建仁寺、東福寺、萬壽寺を云ふ、各條を見よ。

**きよみぢしよ 京所御所**

桓武天皇以來今上天皇の東京遷都に至る迄歴代天皇の皇居にして其境域は幾度か變遷して非常に狭少となり現今の御所は



(所御都京)

其境域東は寺町、西は烏丸、南は丸太町より北今出川通に至る、面積十九萬七千五百餘坪、中央に御所あり、正門は南門にして、外に唐門、日之御門、公家門等あり、紫宸殿は四圍に宮垣を繞らし、承明、日華、月華の三門より其階下に通じ、清涼殿、清所、常御殿、内侍所、記録所、御學問所其他の宮殿深宮に聯なる、創立以來數度の火災に遇ひ、現存の建物は安政二年の御造營に保れるものなりと。

**きよみぢせん 京都鐵道** (私設) 京都市より丹波を経て、丹後國舞鶴に通せんとするものにして、今丹波國園部町迄開通せり、延長二十二哩十六鎮。

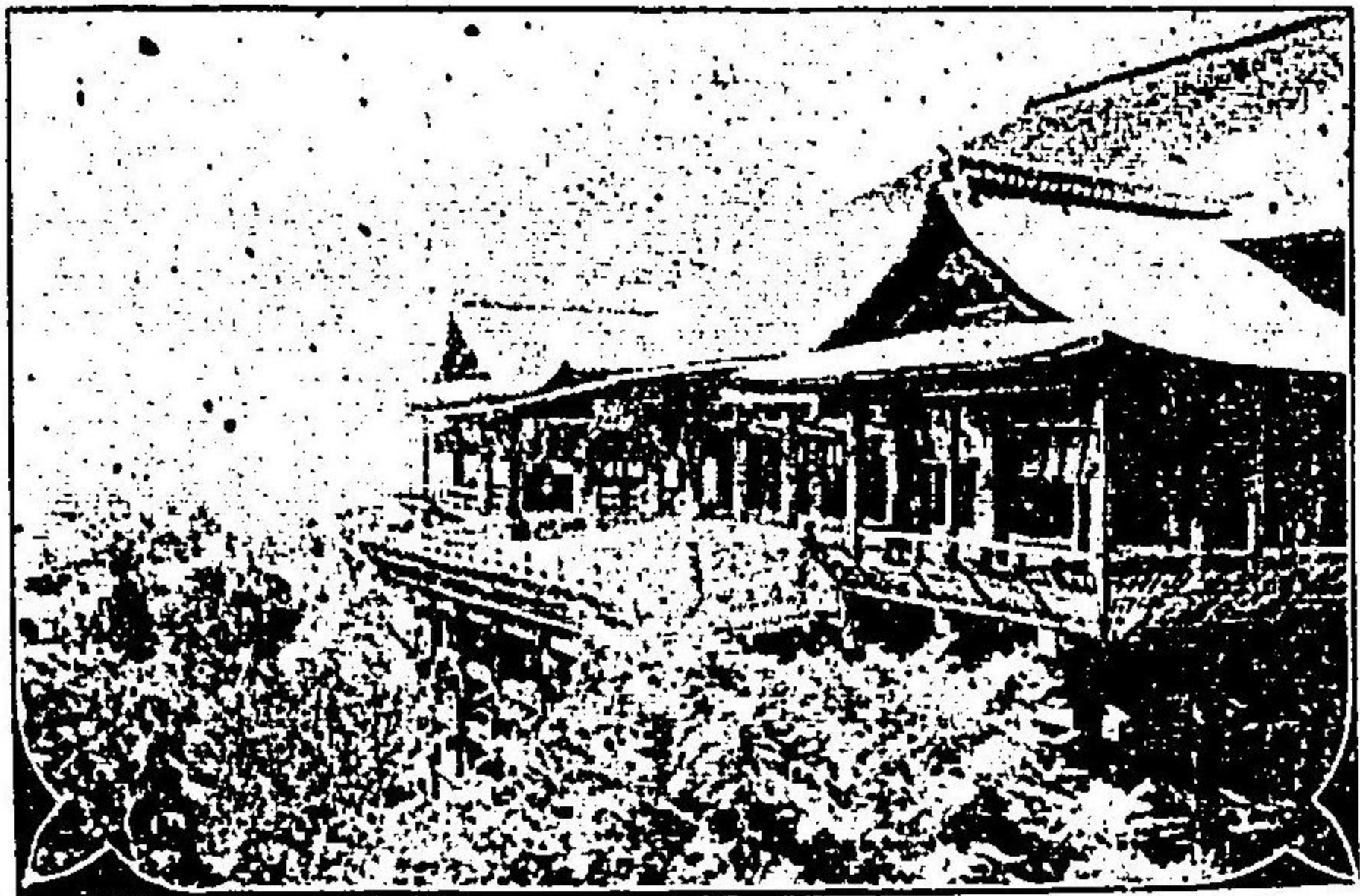
**きよみぢふ 京都府** 府廳は京都市上京區にあり、山城丹後の一圓及丹波の内南桑田、北桑田、船井、何鹿、天田の七郡を管す、面積二百九十六方里五五、一市十八郡十七町二百六十四村より成る。

**きよみぢがた 清見瀨** 駿河國庵原郡興津町の南方にあり、東御料林より、南三保松原に接す、東は海を隔てて伊豆の諸山を望み四に久能山、駿嶺山あり、南三保の松原を望み、北に富岳望え、風光佳、夏期海水浴場の設けあり。

**きよみぢたき 清水瀑** 肥前國小城郡清水にあり、高さ三十五丈、巾七間あり。

**きよみぢつでら 清水寺** 京都市東山の麓、清水坂の東端

にあり、法相、眞言二宗兼學にして、寶龜十一年僧延鎮初て草庵を結ぶ、後坂上田村麿歸依し、勅によりて堂宇を建築す、本堂は懸崖に架し、前南面に舞臺を設く、世に清水の舞臺と稱す、洛東第一の靈場たり。○天台宗の巨刹にして、出雲國能登郡宇賀莊寺大字清水にあり、推古天皇御宇の創建にして、僧尊隆の開基と稱せらる、初め教皇寺と稱せしが、大同年間今の名に改めたるなりと、雲州第一の古伽藍と稱せらる。



(寺水清)

**きらいん 宜蘭**

臺灣の北部、臺北府を距る東南十八里卅四町、東海岸地方に於ける

唯一の都會にして、宜蘭廳、警察署、憲兵屯署、郵便電信局、監獄署、税關、公立學校等あり、人口一萬六千餘、市街の周圍は、土壁を繞らし、四個の門戸を有す、此地方は三面山を扣へ、一方海に瀕し、土地肥沃なり、熟蕃人多し、此地もと噶瑪蘭廳の所在地たりしが、明治七年我臺灣征伐の際改めて宜蘭縣を置く、明治廿九年我領土となり宜蘭廳を置かる。

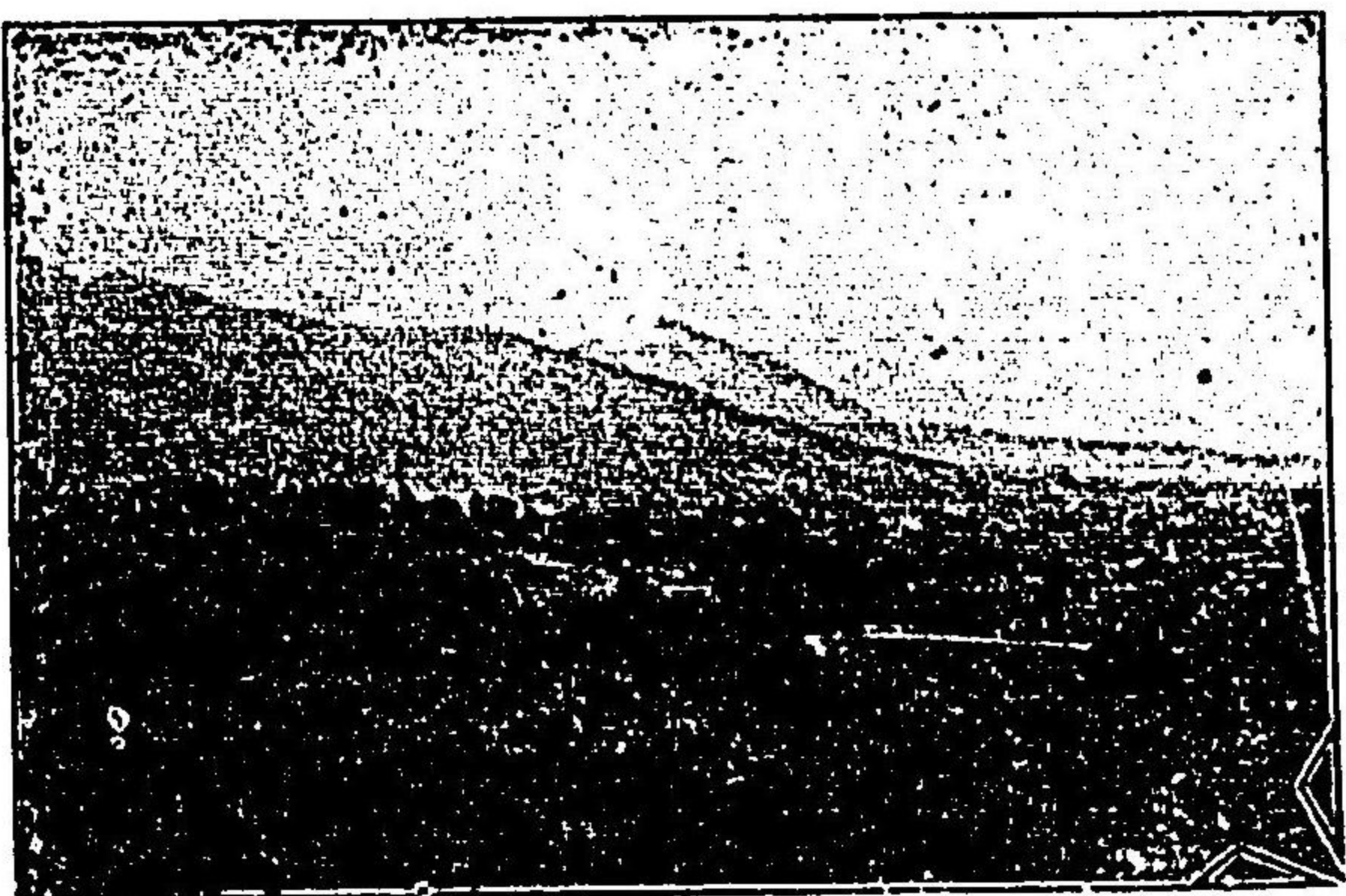
**きらいんけい 宜蘭溪** 臺灣東部の河流にして、員山堡、昌員庄より、圍捕打馬煙庄に至る、舟行五里。

**きらいんまぐさみやく 霧島火山脈** 日本三大火山脈の一にして、琉球列島の島嶼に起り、河邊七島の寶島、惡石島、諏訪の瀨島、中の島、硫黃島を経て九州に入り、開聞岳、櫻島を起し、霧島山となり、夫より稍々四北に折れ、肥前の温泉岳多良岳に於て止む。

**きらいんしまじんじや 霧島神社** 官幣大社、大隅國始良郡東山麓村字田口にあり、俗に西御在所神と呼び霧島六社の一なり、瓊々杵尊、彦火々出見尊、鸕鷀草不合尊、伊波禮彦尊を祀る、地理學考に、此社は後村上天皇の御世、霧島山上より田口村に遷座ありて、文曆元年十二月二十八日、霧島山噴火の際悉く燒亡し、文明十六年社殿及び寺院を造營す、寶永二年十二月十五日山上復燃えて神社寺院燒亡す、正徳五年重建して莊嚴以前に倍すと。



(山 島 霧)



と云ふ。四峰は韓國峯と稱し、煙火山にして、東峰より稍高し。

霧降瀑 下野國上都賀郡日光山中にあり、高さ三十四丈、巾十七間、飛沫霧の如し、依りて此稱あり。  
桐生町 上野國山田郡にあり、高崎市の東方

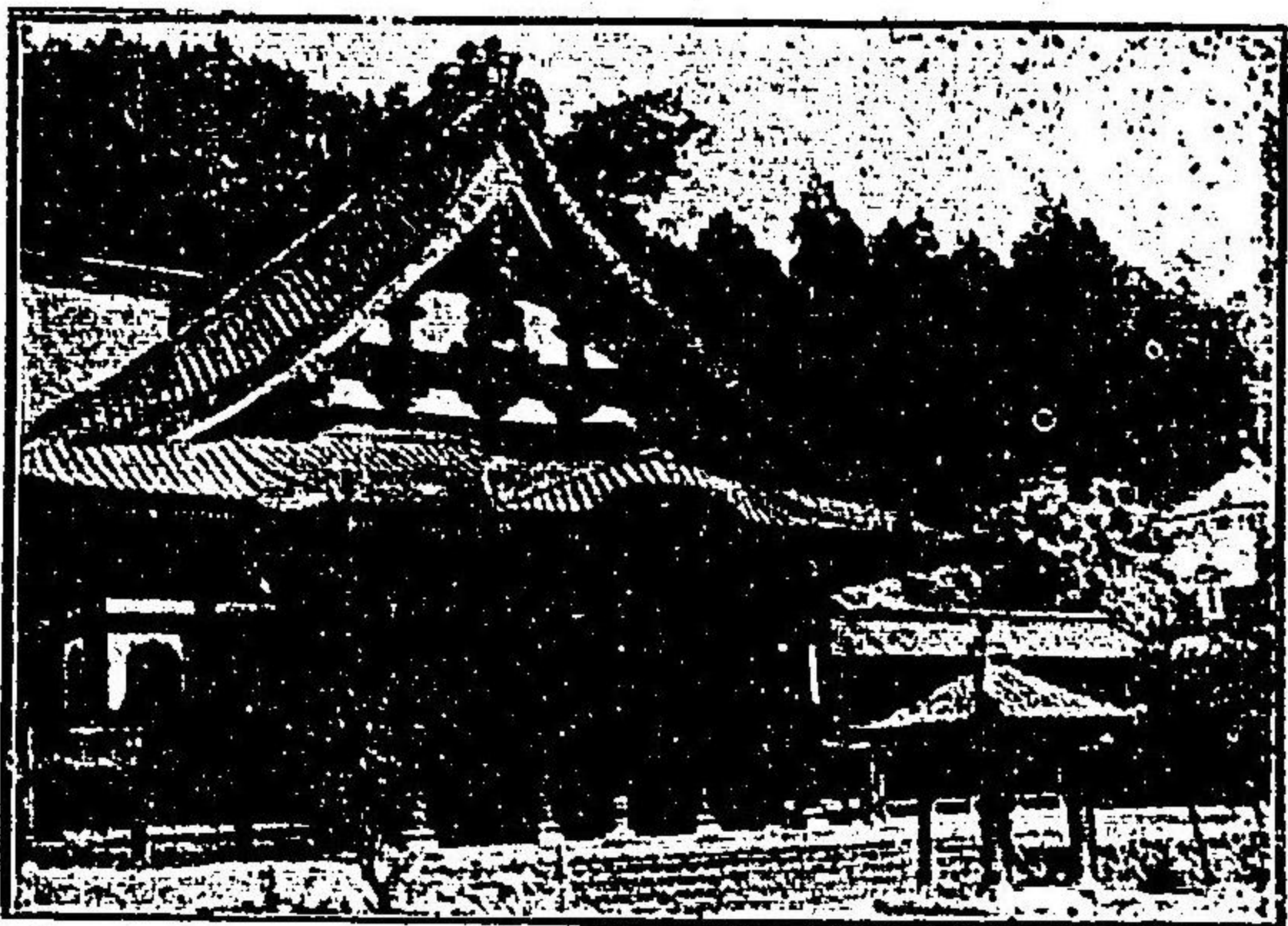
霧島山

日向大隅の境にありて東西二峯に分る、東峰は一に高千穂峯と云ひ、山上常に硫煙を吐く、山嶺に天逆針と稱するものあり、もとより借するに足らず、高さ約五千尺、傳へて天孫降臨の地

十一里、小山前橋間鐵道通過す、人口三萬餘、郡役所、警察署、區裁判所出張所、郵便電信局、稅務署、染織學校、其他銀行諸會社等あり、蠶業の盛地にして、絹繭、繻子、綾織、畝織等織物の産多く、其産額毎年五百萬圓以上に及ぶと云ふ。  
基隆 (鷓籠) 臺灣の東北端にあり、大小兩部に分る、臺北を距る九里、開港場にして、本島の門戸をなす、港は水深五仞乃至六仞、港口開けて、北東風を凌ぐ能はざるも西南風には安全なり、唯港口暗礁多きを怨とす、臺灣鐵道の起點にして、要塞砲兵の營所、基隆廳の所在地たり、其他警察署、郵便電信局、憲兵屯所、稅關、學校等あり、長崎へ六百三十七哩、上海へ三百七十六哩なり、此地臺灣東北部の要港にして古來種々の歴史あり、明治二十八年我が近衛師團三貂角に上陸し第一に占領せるの地たり。  
基隆川 臺灣の淡水川の一深流にして、瑞芳庄、關度庄を通過す、河中二町、下流より八里舟楫の便あり。

久遠寺

甲斐國南巨摩郡身延山の南麓にあり、日蓮宗の總本山にして、嘗て日蓮上人の草庵を結びし處、弘安四年初て一字を建つ、文明六年日朝上人、寺を今の地に移して、大伽藍を建立す、之れ今の久遠寺なり、毎年十二月十二、十三の兩日本堂に大法會を行ふ、遠近の信徒群集す。



(久遠寺)

くがむら久我村

山城國乙

訓郡にあり、向日町の東にして桂川の西岸に位す、桂川を渡り山崎に出づる間道を久我嶽といふ、元弘三年名越高家、赤松則村と此地に戦ひ、大永七年三好勝時、足利義晴の軍と戦ひ、天正十年明智光秀山崎の戦破れ或は丹波路、或は久我繩手より思ひ思ひに落行きけり。

くがしま久賀島 肥前國五島列島の一にして、福江島の東にあり、周囲十三里、南松浦郡に屬す、北岸より海水深入、一長湊を爲し全島を二分す、島内人口二千五百餘、主に農業とす。

くさのうみ洞海 筑前國遠賀郡の東北にあり、東西一里十丁、南北二十町、灣口に若松港あり、石炭の輸出多し。

くさまち久喜町 武藏國南玉郡にあり、人口二千餘、東武鐵道、日本鐵道東北線の交叉點にして、交通上重要な位置を占む、郵便電信局あり、町の四方に久喜城址あり、足利成氏の築く所と稱す。

くくりむら久々利村 美濃國可兒郡にあり、多治見町の西北に位す、此地は昔時景行天皇東幸の時、行宮沐宮(くぐりみや)を建てられし地なりと云ふ。

くげむら久下村 武藏國大里郡熊谷町の東南にあり、往時久下直光なるものの居住地にして、熊谷直實と領地を争ひ鎌倉幕府に訴へ、直實の敗訴に歸し、直實怒りて剃髮せり

との史を傳ふ。

**くげぬま 鶴沼** 相模國高座郡にあり、藤澤停車場を距る南二十餘町、片瀬、江島より濱つづきにして江島へ十二町、海水浴場あり、夏時來遊の客多し。

**くさつおんせん 草津温泉** 上野國吾妻郡草津町にあり、泉質酸性、多少の硫酸礬土を含む、泉源數所あり、最も大なるを御汲上湯と稱す、伊香保温泉と共に有名なるものにして、浴客常に群集す。

**くさつせん 草津線** 關西鐵道の支線にして、伊賀國柘植町より起り、近江國草津驛に至りて東海道線に合す、延長二十二哩四十九鐵。

**くさつまち 草津町** 近江國栗太郡にあり、大津市の東方四里、海道の岐路に當り、同町札の辻より右に曲れば東海道となり、直行すれば中仙道となる、今東海道鐵道は此地にて關西鐵道と聯絡す、又大津より日々流船の往來あり、人口五千餘、郡役所、警察署、區裁判所出張所、郵便電信局、稅務署、小林區署等あり、名物姥ヶ餅は古來其名高く、竹根の鞭も亦名あり。

**くじがわ 久慈川** 常陸國にあり、源を磐城の國入溝山に發し、諸水を合して常陸に入り、久慈郡の中部を南流して、久慈浦に注ぐ。

**くじがわ 櫛田川** 伊勢國にあり、源を飯南郡高見山及國見嶽に發し、多氣、飯南兩郡界を東北流して、伊勢海に入る、流域十八里、一に藤原川と稱す。

**くじまち 久慈町** 陸中國九戸郡久慈川の南岸にあり、濱街道の驛邑にして、盛岡市を距る三十里二十八町、人口四千餘、郡役所、警察署、郵便電信局、區裁判所出張所、稅務署等あり、久慈港は久慈川の河口にあり、東西一里三町、南北二十七町、水深十五仞あり。

**くじゅうりの はま 九十** 九里濱 下總國の東海岸 飯岡岬以南大



(濱の里九十九)

東崎に至る、凡そ十五里の海濱を云ふ、一に白里濱、矢立濱、矢刺濱と云ふ、本邦第一の鱈漁場にして、毎年の産額六七十萬圓に達すと云ふ。

**くじゅうさん 久住山** 豊後國直入郡の北西にあり、山脈延いて阿蘇山に連なる、高さ六千餘尺、久住山は九重山と音相通じ同山なりと云ひ、又兩山は全く分離せるものなりと云ふも詳かならず。

**くじゅうまち 郡上町** 美濃國郡上郡八幡町の別稱。

**くしろ 釧路國** 北海道十一國の一にして、東根室に、北北見に、四十勝に接し、南一帯海に面し、地勢山岳重疊平野少なし、國を白糠、足寄、釧路、阿寒、川上、厚岸の六郡となし、釧路支廳之を管す、此國文政年間松前藩に屬せしが、安政年間箱館奉行に隸し、明治二年初めて釧路國を置かる。

**くしろせん 釧路線** 官設、北海道釧路より海岸に沿ひて白糠に至る延長十七哩二十四鐵、他日延長して東は根室に至り、北は網走に至らんとする豫定なり。

**くしろまち 釧路町** 釧路國釧路郡釧路河口にあり、國中第一の都會にして、人口五千餘、支廳、警察署、郵便電信局、稅務署、税關支署等あり、附近大漁場と著名の硫黄山あり、北海道東海岸に於て根室に亞ぐ都會たり。

**くしろみなと 釧路港** 我國開港場の一にして、釧路國釧

路町、釧路河口にあり、市五町、水深八仞、國館港へ二百十哩あり、「シレド」岬西南に突出して能く東南の風浪を防ぐ、近時日本郵船會社の定期航行船の寄港あり。

**くす 國栖** 大和國吉野郡吉野川の上流、國樺村字國栖附近を云ふ、國栖とは元此地方に住せし一種の土人にして、特殊の風俗を有せり、應神天皇嘗て此地に行幸せらるるや、國栖人來賀し、土産を獻じて、風俗歌を奏す、爾來毎年參賀して土産を獻するの風習あり、之を國栖の奏と云ふ。

**くたに 九谷** 加賀國江沼郡西南村にあり、此地を中心として、近村山代、寺井、栗生、大聖寺、小松等より九谷機を産す、殊に金澤市にての製出甚だ多く、年々二三十萬圓の産額ありと云ふ。

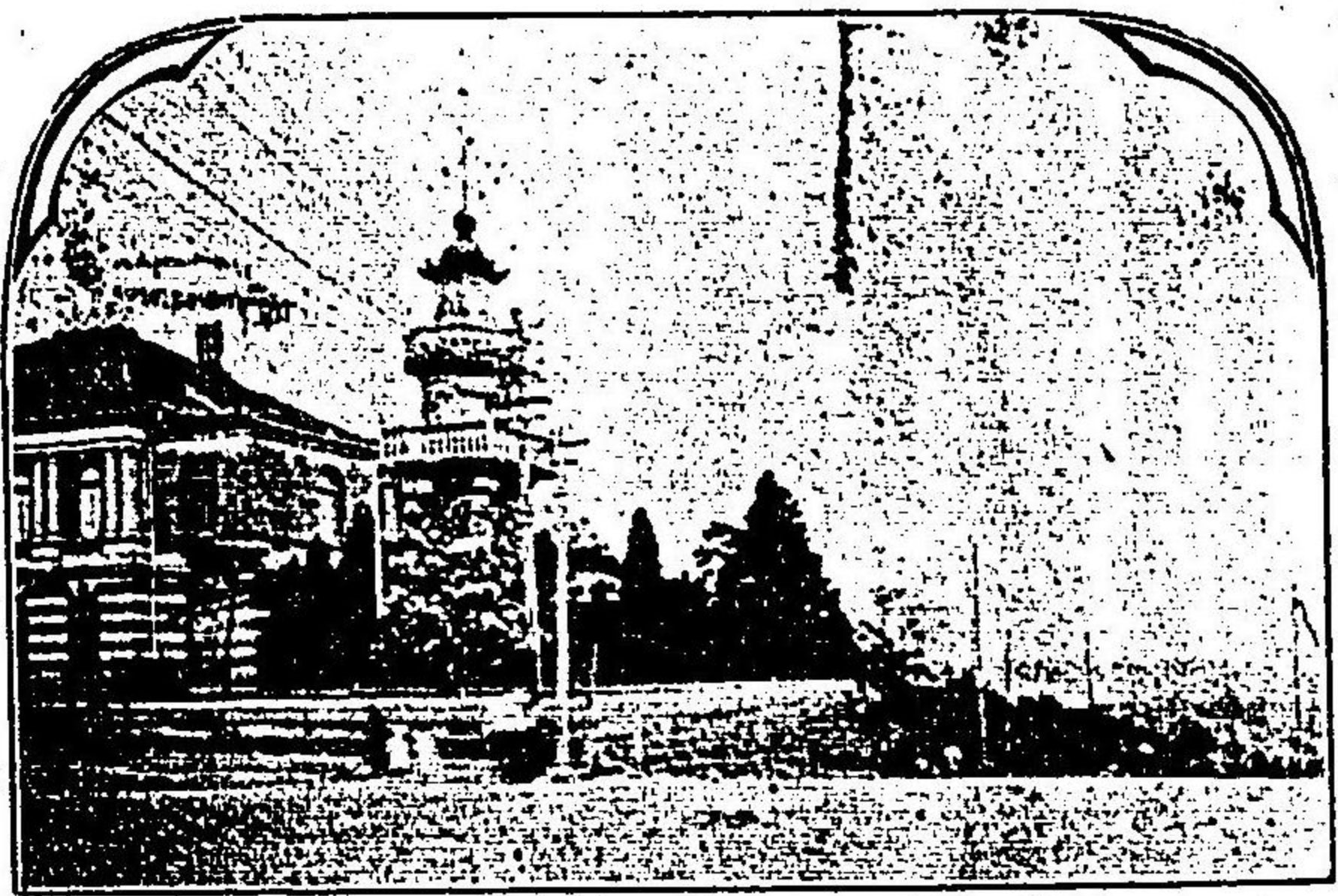
**くだんざか 九段坂** 東京市麹町區飯田町より富士見町に上る坂路を云ふ、此間百間餘、葛時田安臺と云へり、坂の南下を牛ヶ淵と云ふ、パノラマ館あり、坂上右側に階行社、左側に近衛聯隊、正面に九段公園靖國神社あり、近時東京市街電氣鐵道敷設の計畫あり。

**くちのえらぶしま 口永良部島** 「えらぶ島」を見よ。

**くちのしま 口島** 薩摩國南方の海中、中島の北方二里三十町にあり、周囲五里十八町、川邊郡に屬す。

**くちのつみなと 口津港** 我國開港場の一にして、肥前國

島原半島の南端にあり、長崎を去る十六津、南高来郡に屬す、東西十五町、南北六町、水深六切四尺、此地に警察署、郵便電信局、税關支署、區裁判所出張所、海港検疫所等あり、天正慶長の頃切支丹教徒の本據地となれる事あり、其南に原城址あり。



(坂 段 九)

くしやろこ 屈斜路湖 釧路國川上郡にあり、標茶村の北方十一里二十町、釧路川の水源地とす、東西二里二十五町、南北三里二十町、周囲十二里、湖中二三の島嶼あり、其大なるものは周囲二里餘。

くつなしま 忽那島 伊豫國北方の海中與居島の西北にあり、周囲六里十町、讃岐の鹽飽島、備後の因の島と共に倭寇の根據地たり、今は温泉郡に屬す。

くづりゅうがわ 九頭龍川 越前國にあり、源を美濃の國境大野郡の山中より發し、油坂川、石徹白川、眞名川等其他支流を合し、吉田郡に入りて安居川に會し、坂井港に注ぐ、流域三十二里、河口より二十四里舟楫の便あり、一に舟橋川、黒龍川とも稱す。

くなじりかきよー 國後海峽 千島群島國後島と、擇捉島との間十津許の海峽を云ふ。

くなじりしま 國後島 千島群島の一にして、擇捉島の西南海中にあり、周囲百六十里、國後郡をなす、毎年十一月より翌三四月頃迄は海水凍結して航海なし、西端に泊港あり、本島第一の良港とす。

くにかかすじんじや 國懸神社 官幣大社、紀伊國海草郡宮村秋月にあり、國懸大神を祀る、日前神宮と相並びて鎮座す、初め當郡毛見郷にありしを垂仁天皇の十六年今の地に遷せりと、天正の兵亂に破壊せられしが、徳川頼宣入國の後之を再興せり。

くにさきはんとー 國東半島 豊後國の東北に斗出したる半島にして、東國東、西國東の二郡をなす、双子山其中に巒

えて、溪流四方に流る。

くはひさむら 國比佐村 土佐國土佐郡高知市の東北凡そ三里にあり、昔時當國國府のありし處にして、延喜の頃紀貫之國守として此地に住し、跡途土佐日記の紀行あり。

くのーさん 久能山 駿河國安倍郡静岡市の東方にあり、山上に別格官幣社東照宮あり、山麓を静岡市の公園となす、永祿十一年武田氏當國討入の時、山上に築く、武田氏没落後、徳川氏に屬し、元和二年家康の遺命によりて其遺骸を葬りし處、社殿の壯麗日光に次ぐ、一に補陀落山とも云ふ。

くぼかわむら 窪川村 土佐國高岡郡の南方海岸にあり、同國南海岸の名邑にして、郵便電信局、小林區署、區裁判所出張所等あり。

くまがいまち 熊谷町 武藏國大里郡にあり、中仙道屈指の都邑にして、日本鐵道上野前橋間の支線此地を通過し、又上武鐵道の起點地たり、郡役所、警察



(門大宮照東山能久)

署、郵便電信局、區裁判所、小林區署、稅務署、中學校等あり、此地に熊谷次郎直實の苗字の地として有名なり、熊谷寺あり、直實法師の墓あり、明治の初年に一時熊谷縣を置かる。

くまがわ 球磨川 日本三急流の一、源を肥後國八代郡の山中に發し、諸溪流を合せ、人吉の北を廻り、球磨、葦北の二郡境を經、再び八代郡に入り、八代灣に注ぐ、延長三十里餘、下流より二十里十五町、舟楫の便あり、人吉より八代灣に至る、十六里餘、僅に四時間にて達し得ると云ふ。

くまの 熊野 紀伊國牟婁郡の總稱にして、古へ熊野國と稱す、神武天皇東征の際海路より此地に入り、大和を平定せらる、沿海四十里、漁利多し、世に口熊野、奥熊野の稱あり、口は西牟婁郡にして、奥は東牟婁郡なりと。

くまのうら 熊野浦 紀伊國東、南兩牟婁郡の東南海を云ふ、一に熊野洋、又熊野沖とも云ふ、此邊潮流急にして風浪常に荒く航海者の苦慮する處たり、

古へより捕鯨を以て有名なる處なり。

**くまのがわ 熊野川** 紀伊國にあり、大和十津川の下流にして、一に新宮川又音無川とも云ふ、紀伊に入りて、東南半葦郡の郡界を東南流して新宮港に注ぐ、流域五十五里、下流三十七里舟楫の便あり。

**くまのさん 熊野山** 熊野三山の總稱。

**くまのさん 熊野三山** 紀伊國東牟婁郡にある、本宮山、新宮山、那智山を云ふ、各條を見よ。

**くまのさん 熊野三社** 熊野三社大権現とも云ふ、紀伊國東牟婁郡にあり、三社とは新宮、本宮、那智の三山に祀れる權現社を云ふ、中世以來神佛混合の結果、修驗道の者之が別當たりしが、明治に至りて之を廢し、本宮を熊野坐神社、新宮を熊野速玉神社、那智を熊野夫須美神社と改稱せり、尙ほ本宮、新宮、那智の條を見よ。

**くまのじん 熊野神社** 出雲國八束郡熊野村、熊野山麓にあり、國幣中社にして、熊野大神及御氣野命を奉祀す、其建立年月不詳なるも、延喜式神名帳には當社を以て出雲國神社の第一に置き、出雲風土記にも熊野大社と記せり、もと熊野山嶺にあるを建久年中今の地に移せるなりと。

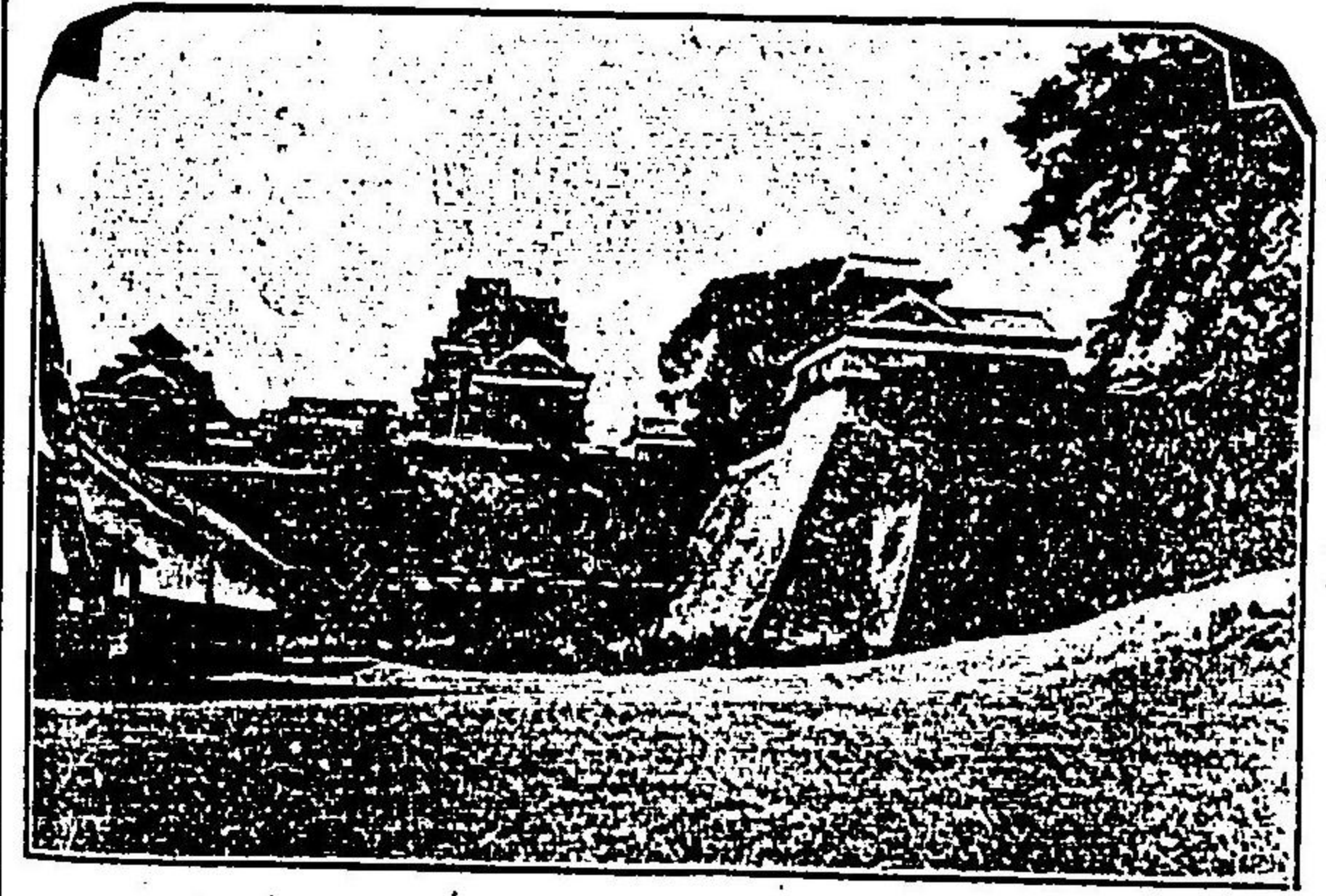
**くまのなだ 熊野灘** 「くまのうら」を見よ。

**くまもとけん 熊本縣** 縣廳は熊本市にあり、肥後一圓を

管す、面積四百六十五方里四七、一市十二郡二十八町三百四十五村より成る。

**くまもとこいん 熊本公園** 肥後國飽託郡熊本市外出水村にあり、寛永九年豊州羅漢寺玄宅一寺を此地に營み、水尊寺と稱す、後ち細川家の茶亭となる、明治に至りて此地を公園となし、出水神社を建てて細川家の祖を奉祀す、假山青芝の望頗る佳にして、泉水又清く、九州第一の公園と稱せらる。

**くまもとし 熊本市** 熊本縣廳の所在地にして、東京を距る三百二十五里、肥後



(城 本 熊)

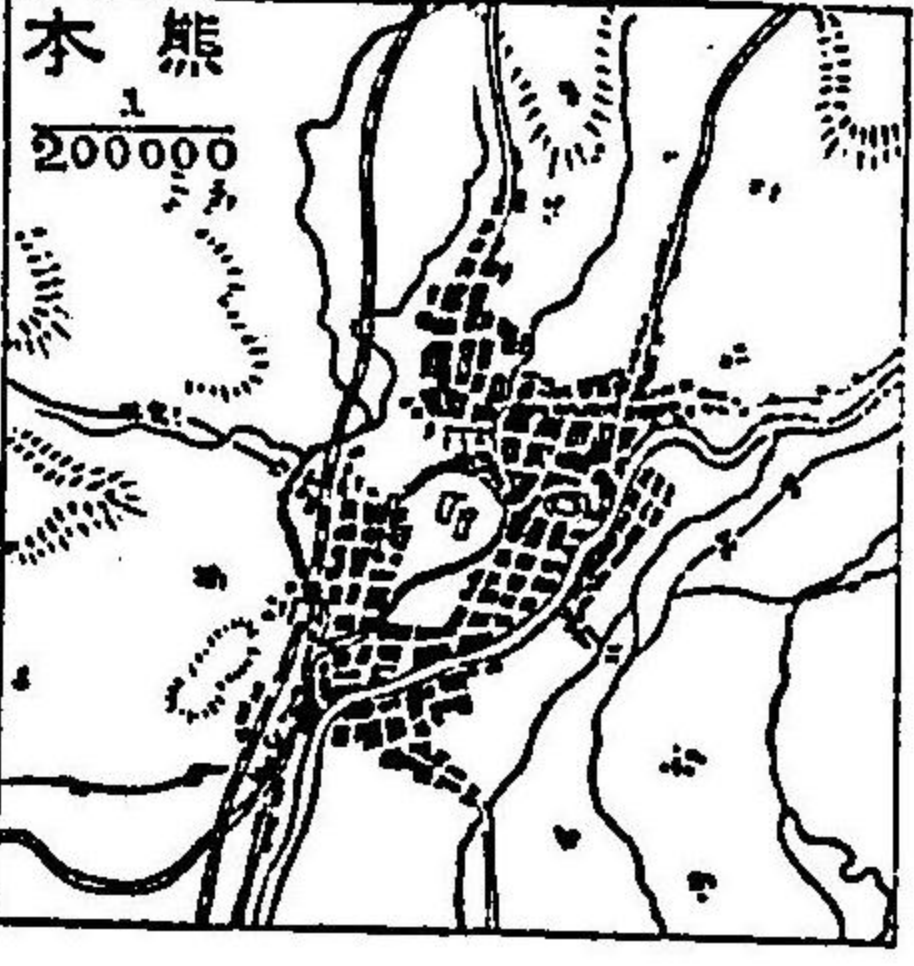
**ぐんまけん 群馬縣** 縣廳は前橋市にあり、上野國一圓を管す、面積四百七方里二五、二市十一郡三十五町百七十二村より成る。

**くめじま 久米島** 琉球國沖繩島の西方、慶良間島の西北方にあり、周囲十二里廿二町、元明天皇の和銅年間信覺、球美人來朝の事史に見ゆ、信覺は石垣島の古稱にして、球美人は即ち本島の舊稱なりと云ふ、島内平野多く、地味頗る豊沃なり、久米島紬一名琉球紬の産あり。

**くめでら 久米田寺** 和泉國泉南郡八木村大字池尻にあり、眞言宗にして隆池院と號す、天平十年僧行基の創設にかゝる、永祿三年三好の一黨入道實休等當寺に屯し、國主島山紀伊守と戦ひ陣歿せること古史に見ゆ、門前に久米田池あり、周圍一里餘、行基の開鑿する所と稱す、灌漑の利あり。

**くめでら 久米寺** 大和國高市郡久米村にあり、靈禪山東塔院と號し、聖德太子の弟、久米皇子の創建と云ふ、久米の仙人が術を失ひたるは此地にして、今に幸洗川ありと雖も、は後人の附會せしことなるべし。

**くめのさらやま 久米皿山** 美作國久米郡佐良川村佐良山村にあり、高さ僅に百二十尺許、同國津山の西南に位す、古歌に「美作や久米の皿山さらさら」に、むかしの人の戀しきやなぞ「又」美作や久米のさら山さらさらに、我名はたてじ萬



國飽託郡白川の兩岸に位す、細川氏五十四萬石の舊城下にして、明治十年の役、市街大半兵燹にかりしが間もなく新築せられ街衢頗る整頓せり、縣廳、第六師團司令部、旅團聯隊司令部、第五高等學校、師範學校、中學校、高等工業學校、高等女學校、幼年學校、地方、區裁判所、測候所、警察署、郵便電信局、稅務管理局、稅務署等あり、此地もと

隈本と稱せしを加藤清正入國の際改めて熊本とせりと、熊本城は慶長中加藤清正の築く所、日本一の堅城たり、明治十年の役に谷少將此に籠城して薩軍を防げるは史上有名なる所とす、今は第六師團司令部を置かる。

**くんちやん 國頭** 琉球國沖繩島の東北部を云ふ、一に山北とも稱す、全部皆山にして、沿岸を除くの外は平地なし、故に村落の如きも海岸の地に非れば見る能はず。

**ぐんないちほ 郡内地方** 甲斐國南北郡留郡の地を云ふ、有名なる郡内絹の産地にして、山岳多く、桑樹を栽培して蠶業紡織の盛地たり。

(寺 米 久)



二年の創設にして孔子を祀る。  
**くもろさん 雲取山** 武蔵國四多摩、秩父の二郡及甲斐の北都留郡に跨る、高さ六千九百餘尺、西北雁坂峠及甲斐信嶽に連る、山陰に三峰神社あり。●紀伊國東牟婁郡にあり、大小二峰に分る、大雲取山は同郡の東方にあり、高さ二

代までも「古今集」とあり。  
**くめむら久米村** 琉球國沖繩島の南端、首里の西南にあり、住民は何れも、支那明朝の時に居住せし支那人の後裔にして別に一郭をなし、今に琉球人と婚嫁せず、村内に聖廟あり、延寶

千九百餘尺、小雲取は同郡の北にあり、高さ千三百餘尺、大雲取は同國第一の嶮山にして東牟婁郡色川村大字口色川より十六町にして山頂に達す。  
**くらいやま 位山** 濃飛高原に屬し、飛騨國大野郡高山町の南方にあり、古來よりの名地にして、覺惠法師の北國紀行に「かくて明る年の十八のさ月の末に、飛騨の山路をしのぎあつまのかたへおもむき侍りぬ、位山を見るに千峰万山かさなりていづこをかぎりとも知らず、梢吹く嵐もたかき位山、檜原のもとにかかる白くも」とあるはよく其眞景を寫せるものとして知らる。  
**くらうちめま 倉内沼** 陸國奥上北郡の東海岸にあり、周囲十三里二十四町、水直ちに海に通ず、一に小河原沼、又姉海とも云ふ、沼中魚介の産多く特に鯉の名産地として名あり、日本鐵道青森線沼畔を通過し車上の風景極めて佳なり。  
**くらがりどいげ 暗峠** (闇峠) 大和國生駒郡より、河内國中河内郡に出づる坂路を云ふ、近代奈良大坂間の通路は専ら之によりしを以て其名著はる、一に暗嶺越といふ。  
**くらしきがわ 倉敷川** 美作國勝田郡の山間に發し、英田郡倉敷町の西をすぎ江見川を容れ、後津山川に入る。  
**くらしきまち 倉敷町** ●備中國都窪郡にあり、兒島半島の咽喉に位す、岡山市の西方四里二十六町、山陽鐵道通過す、

人口七千餘、郡役所、警察署、郵便電信局、區裁判所出張所等あり、紡績絲の産出を以て名あり。●美作國英田郡倉敷川畔にあり、津山町の東方五里に位す、郡中第一の都邑にして、人口二千餘、郡役所、警察署、郵便電信局、稅務署、區裁判所出張所、小林區署等あり。

**くらたておんせん 藏館温泉** 陸奥國南津輕郡藏館村にあり、東北に楠ヶ峰、西南に甚吉森の峰巒を擁し、西方遙かに阿耨羅山を望み、風景絶佳にして國中第一の温泉と稱せらる、鹽類泉にして眼病、皮膚病等に効あり、一に丑の湯と稱し、夏時丑日に來浴者多し。

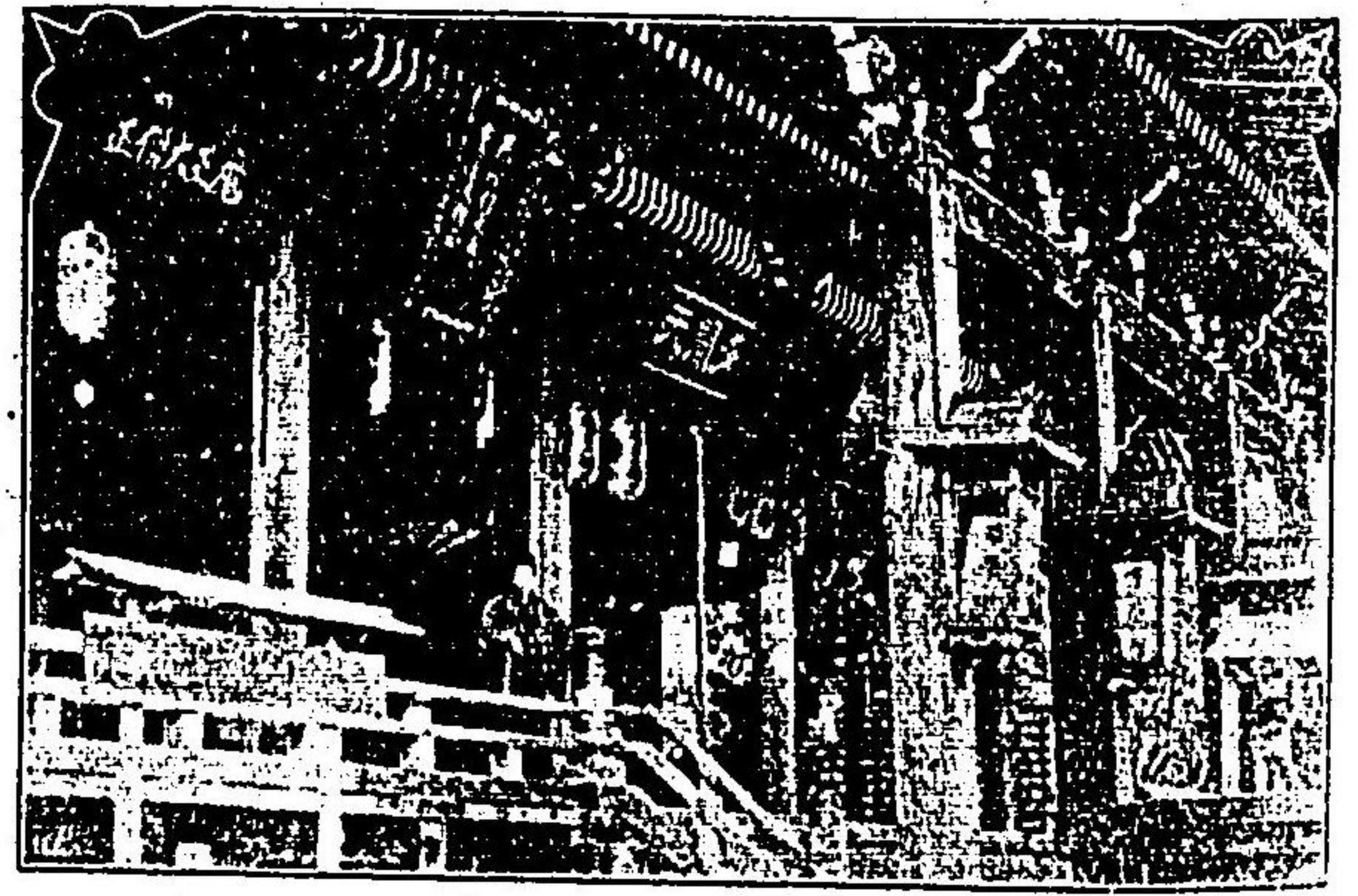
**くらはしじま 倉橋島** 安藝國の南海中にある大島にして、周囲二十五里二十五町、倉橋島、渡之小島、瀬戸島の三島に別ち、安藝郡に附屬す、一に瀬戸島、又音頭島、渡子島とも云ふ。

**くらまがわ 鞍馬川** 山城國にあり、源を愛宕郡の北方山中に發し、南流鞍馬村に至りて貴船川を合せ、更に南流して加茂川に入る。

**くらまでら 鞍馬寺** 天台宗にして、山城國愛宕郡鞍馬山の半腹にあり、延暦十六年藤原伊勢人の草創にして毘沙門天を安置す、堂は明治四年の再建なり、本堂の西二町、空也上人の舊跡あり、近傍に僧正ヶ谷、牛若背鞍石、不動堂、太

郡坊社等の勝地多し。

**くらまやま 鞍馬山** 山城國愛宕郡にあり、京都市の北方丹波の國境に亘る、一に松尾山と云ふ、昔時源義經の生長せし處として名あり、山に鞍馬寺あり、詠歌多し、古今集に「梅の花匂



(寺 馬 鞍)

ふはるべはくらふ山、やみに越ゆれどしる人ぞある哉」及び夫木集に「是やこの音にききつつ雲珠さくら、鞍馬の山に咲けるなるべし」、など尤も名あるものとす。

**くらよしまち 倉吉町** 伯耆國東伯郡にあり、菰池田氏の支城地にして、人口八千餘、郡役所、警察署、郵便電信局、區

裁判所、税務署、小林區署、農學校等あり、生糸、木綿等の産  
多く、殊に倉吉飛白の名著る、鐵道米子より來り此地を通  
過して因幡國加藤に至る、此地もと山名氏の封地にして七  
世澄之に至り尼子氏の爲めに滅さる、天正年間南條元清封  
を此地に受けしが後池田氏に屬し其支城となる。

**くりからどーげ 俱利伽羅峠** (粟殼嶽、粟柯嶺) 越中國西  
彌波郡彌波山の坂路を云ふ、加賀國河北郡に跨る、昔し越の  
大德泰澄禪師此山に止まりて俱利伽羅明王を念ぜしより俱  
利伽羅峠の名ありと、壽永二年木曾義仲、平維盛の大軍を撃  
破せし處なり、其東麓に彌波の關の舊址あり。

**くりこまやま 栗駒山** 一に酢川岳又、駒ヶ岳と稱す、陸前  
國栗原郡の西北に聳え、陸中、羽後の兩國に跨る、高さ五千  
四百餘尺、齊整せる圓錐形にして菫噴火口あり、山頂に駒形  
神社あり。

**くりはしまち 栗橋町** 武藏國北葛飾郡にあり、利根川の  
西岸に位す、奥州街道の一驛にして日本鐵道奥州線の停車  
場あり、水陸交通の便極めてよく商業頗る繁盛す、町の西南  
五町許りに靜御前の墓と稱するものあり。

**くりはまむら 久里濱村** 相模國三浦郡にあり、浦賀町の  
南方一里許、嘉永六年六月米艦渡來の際幕府此地に應接館  
を設け、戸田氏榮等をして米使に應對せしめし所とす、今其

石の舊城下にして、歩兵第二十四旅團の本營、警察署、郵便  
電信局、區裁判所、税務署、中學校、商業學校、高等女學校等  
あり、久留米飛白の名産地として知らる、久留米城址は市の  
北端筑後河畔にあり、天正十五年毛利秀包の修築する所、關  
ヶ原の役秀包西軍に屬し、戦後國除かれ、田中吉政、代り治  
めしが元和六年嗣絶えて有馬豊氏之に代はり、二十一萬石  
を食み、子孫世襲して明治維新に至る、此地の水天宮は有名  
なるものにして其名遠近に聞ゆ、今縣社たり、東京蠟燭町に  
支社あり、永正元年の分祀とす。

**くりり 久留里** 上總國君津郡にあり、黒田氏三萬石の舊  
城下にして小櫃川に臨む、此地もと里見氏に屬し、天正十六  
年里見義康、北條氏政を此に防げり、慶長五年番城となり、  
同七年土屋氏の有に歸せしが、延寶八年酒井雅樂頭忠興の  
有となり、寛保二年更に黒田氏の領となり、子孫相承けて明  
治維新に至る。

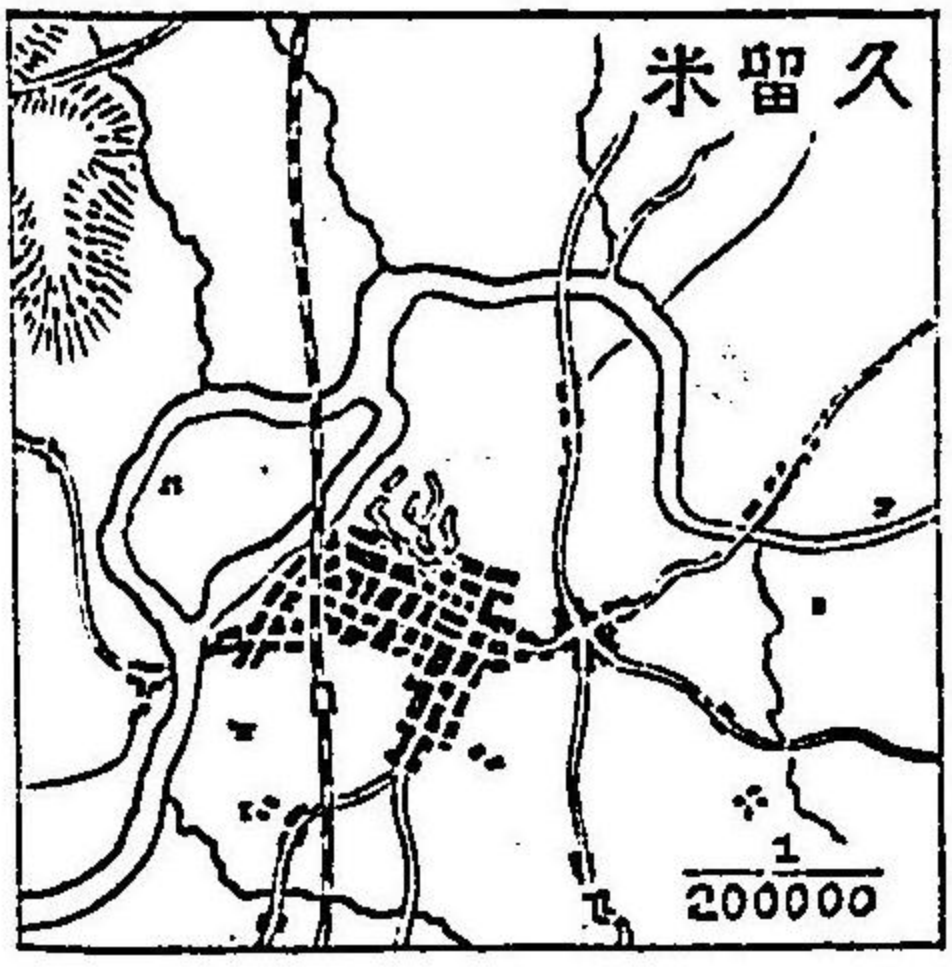
**くりりかいきよー 久留里海峡** 千島群島の最東北なる占  
守島と、露西亞の領土カムチャツカとの中間なる海峡を云  
ふ、此間二十二哩あり。

**くれはやま 吳服山** 富山停車場の西約十町許に横はれる  
一帯の丘陵にして、北に北代の梅林あり、東に五福の桃林あ  
り、丘上文富山の市街より有機海、能登半島等を眺め風光極

地に「ヘルリ」上陸記念碑あり。

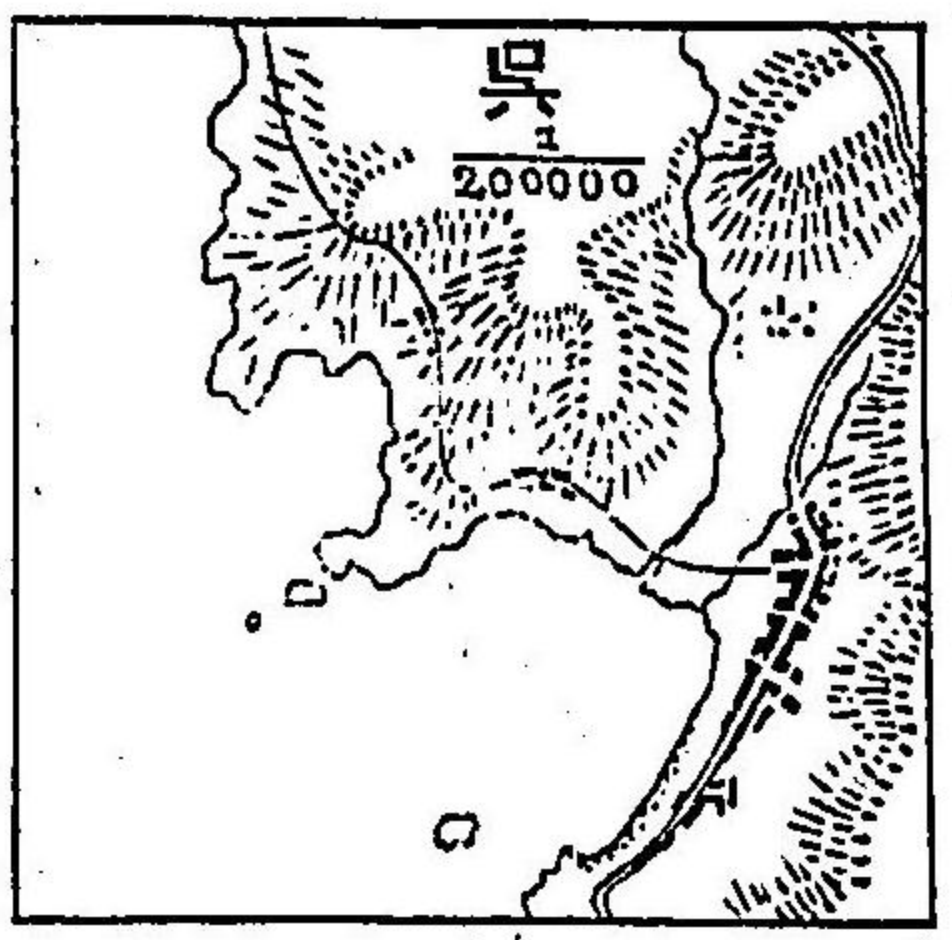
**くりやがむら 厨川村** 陸中國巖手郡盛岡市の西方にあ  
り、盛岡停車場を距る三十餘町、郵便電信局、警察署、監獄署  
等あり、此地は厨川柵のありし處にして、康平五年九月安倍  
貞任の擒にせられし處とす、文治年間源頼朝、藤原泰衡討伐  
の際進んで此地に至れること史に見ゆ。

**くるしま 來島** 伊豫國越智郡の海上にある一島なり、足利  
氏の末、土家來島氏此地より出で、遠く支那の沿岸を脅掠せ  
りと云ふ、豊太閤征韓の際、水軍の將となる。  
**くるしまかいきよー 久留島海峡** (來島海峡) 伊豫國越智  
郡北端と、同郡大島との間を云ふ、此邊暗礁多く、航海頗る  
危険なり。



**くるのし 久留米市** 筑  
後國三井、三瀬兩郡界に  
あり、當國第一の都會に  
して、福岡市を距る十里  
九町、筑後河其西北を流  
れ九州鐵道此地を通過  
し、頗る運輸交通の便あ  
り、もと有馬氏二十一萬

めて佳なり。  
**くれし 吳市** 我國第二海軍鎮守府所在地にして、安藝國安藝  
郡にあり、宇品港を距る南方十哩、江田、渡の子、能美の諸島  
前面を扼す、此地もと微  
々たる一小港なりしが、  
明治廿年鎮守府を設け、  
第二軍港となすに及び、  
俄かに繁昌に赴き市制を  
布き、今や人口六萬六千  
餘を有するに至れり、山  
陽鐵道海田市より分れて  
此地に達す、相距る十哩  
二十五鎮、瀬戸内海定期航海船も亦多く此地に寄航す。  
**くろいしまち 黒石町** 陸奥國南津輕郡にあり、弘前市の  
東北三里六町、淺瀬石川の北岸に位す、もと津輕氏支藩の舊  
城下にして、人口七千餘、郡役所、警察署、郵便電信局、税務  
署、區裁判所出張所、小林區署等あり、宇市の町に黒石神社  
あり、藩祖津輕信英を祀る、今縣社に列す。



**くろえまち 黒江町** 紀伊國海草郡にあり、和歌山市の東  
南二里十町、紀三井寺村と坂路を隔てて相接す、人口六千  
餘、警察署、區裁判所出張所あり、漆器の名産地として有名

なり。

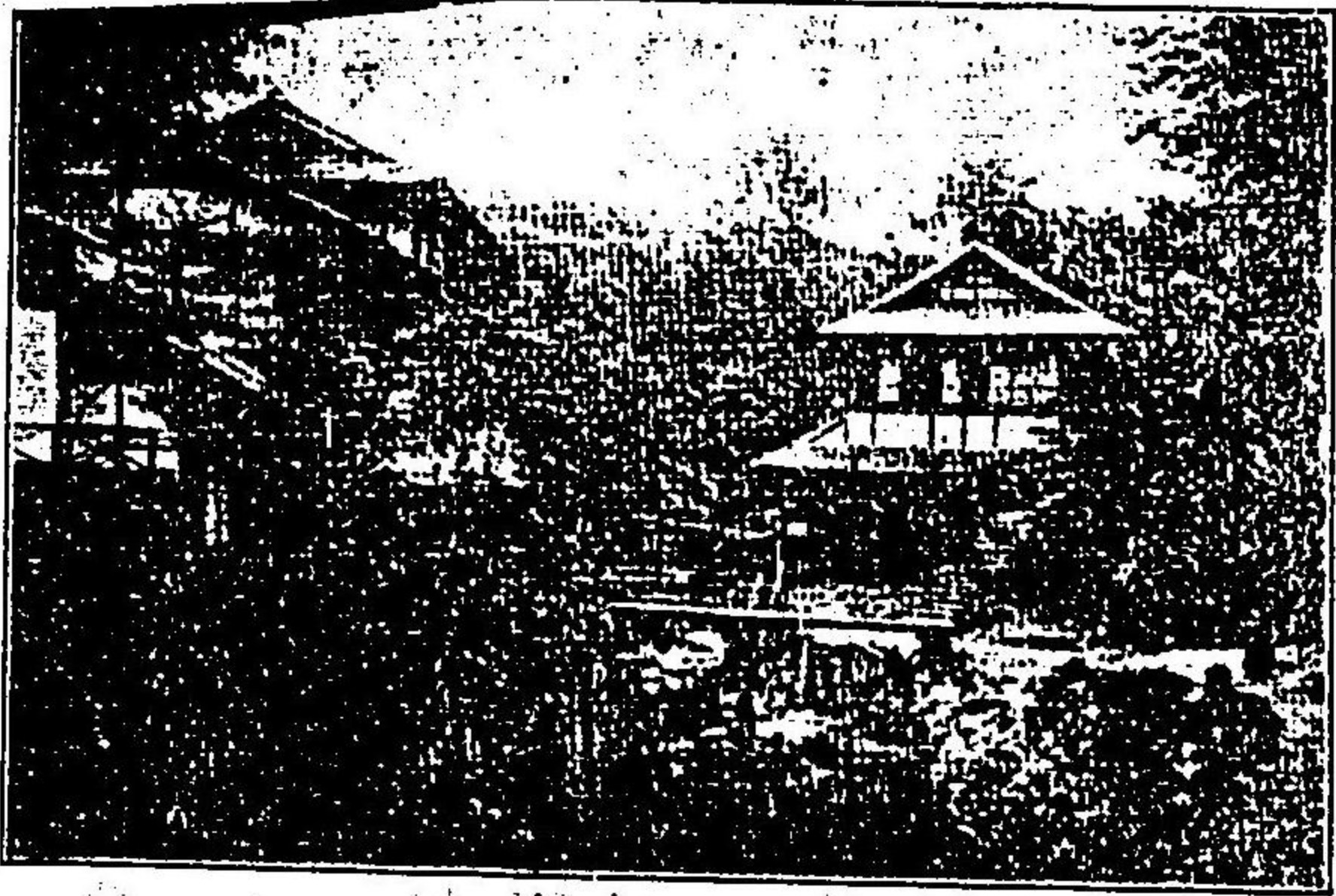
**くろかみま 黒髪山** 下野國男體山の別稱。上野國群馬郡榛名山の東方にあり。備中國阿耆郡赤瀧山の西南にあり。肥前國にあり、杵島、西松浦の兩郡に跨る、高さ二千餘尺。

**くろきんじや 黒木神社** 阿岐國島前四の島黒木と稱する處にあり、後醍醐天皇の行在所、黒木の御所のありし地にして、同天皇の御靈を奉祀す。

**くろさきま 黒崎町** 筑前國遠賀郡の東北に位す、門司、八代間鐵道の停車場、郵便電信局、警察分署等あり、人口四千餘。

**くろさわじりまち 黒澤尻町** 陸中國和賀郡にあり、日本鐵道此地を通過す、陸羽街道の要所にして、此地より羽後國横手町に至るの街道あり、慶平年間安部氏の據れる所たり。

**くろせがわ 黒瀬川** 伊豆國八丈島と御倉島との間に流るる潮流にして、其幅凡二十町、激潮東流し、其流極めて迅速、



(泉 温 原 田 黒)

航海常に危險なり。

**くろたけ 黒嶽** 豊後國直入郡の北西方にあり、高さ五千四百餘尺、休火山にして、四面絶壁より成り、極めて峻峻なり。

**くろたわら 黒田原** 下野國那須郡那須村にあり、日本鐵道奥州線の一驛なり、山間の一僻邑にして、もと曠漠たる一松原にすぎざりしが、近時温泉場の設けられてより稍々繁華の地となれり、温泉は停車場より僅かに二三町松林の中にあり、那須温泉より繩を以て引るけものなり。

**くろひめやま 黒姫山** 美濃國上水内郡の北方にあり、越後國に跨る、高さ六千九百餘尺、山形圓錐體にして蒸噴火口あり。越後國刈羽郡の西南にあり、高さ三千五百餘尺。越後國四頸城郡にあり、高さ三千六百尺、山姿秀麗、俗に沼川姫の栖みたまへる靈峰といふ。

**くろべがは 黒部川** 越中國にあり、源を中新川郡鷲羽山に發し、立山の東麓を北方に流れ、數多の小流を入れて、西

北に轉じ、三江市附近にて二派に別れ、共に富山灣に注ぐ。  
**くろぼしだけ 黒法師嶽** 遠江國榛原周智兩郡界にあり、剃刀嶽の南に聳ゆ、高さ七千餘尺、同國第一の高山とす。  
**くろや 黒谷** 武藏國秩父山中にあり、相傳へて和銅の産地と云ふ、元明天皇の朝武藏の國秩父郡より銅を貢す、依つて和銅と改元すとあるは、則ち之なり、其西大瀧山(大宮町より五里餘)に鑛孔の跡あり、昔し武田信玄の金を採掘せし所と云ふ。

**くわさん 火山** 地球の内部は炎々たる猛火にして、各種の礦物皆溶解せられ、其勢、常に外に向つて迸出せんとす、に地皮薄弱なる所あれば之を衝て噴出す、即ち火山なり、而放して其形は圓錐形をなす、之を別つて活火山、熄火山(死火山)睡眠火山(休火山)の三種となす、其總數本州及豆南諸島に九十二、北海道に四十六、四國に一、九州に十六、其他の諸島に十七、總て七百十二あり、尙各條を見よ。

**くわしよーしよ 火燒嶼** (ほーしよーす) 臺灣の南東海中にありて、紅頭嶼を距る北方十七里許、全島石灰岩よりなり、西北端は長き低角をなす、住民五百、厦門より移住せしもの、馬來人と雜婚したるものにして、頗る臺灣土人に似たり、米、玉蜀黍、胡瓜を産す、四人之をサマサナ(Samanea)と稱す。

**くわちーさん 華頂山** 京都東山の一嶽にして、南禪寺の西南、青蓮院の東にあり、東國街道其下を通ず、中世此に華頂院ありしが應仁の亂に滅びて其跡全く絶ゆ、應仁記に「華頂山は唐の天台山を移して、嶺にも尾にも雲の端の咲きうづもれて、日影敷に花の照り添ふ」などあるこれなり。京都智恩院の山號なり、後轉じて同院の所在地をも稱するに至れり。

**くわちーさん 活火山** 火山の一、常に噴火しつつあるものを云ふ、即ち信濃の淺間嶽、渡島の駒ヶ岳、伊豆大島の三原嶽、肥後の阿蘇山等の如きを云ふ、此に屬する山は全國凡て廿八峰あり。  
**くわなまち 桑名町** 伊勢國桑名郡揖斐川口にあり、名古屋市を距る七里、四日市へ三里半、溝渾市街を貫通し、關西鐵道四日市より來りて名古屋に行く、水陸交通の便多く、郡役所、警察署、郵便電信局、區裁判所出張所等あり、時雨蛤及萬古燒の産地として名あり、大字三崎に桑名神社あり式内に屬す、此地は松平氏十八萬石の舊城下にして、城は町の東北部にあり、文治中伊勢平氏の藤原氏行政の居りし處、其後鎌倉足利時代を経て、天正二年には瀧川一益封せられ、次で天野、丹波、氏家、本多等の諸氏を経て、松平定勝の領有となり、世襲して維新に及ぶ。

くわの

**くわのがわ 椹野川** 周防國吉敷郡にあり、長門の國境より發し、西南流して宮野川、木町川等を合せ、椹野庄上郷より南に流れ、名田島の西に至り海に入る、長さ七里。

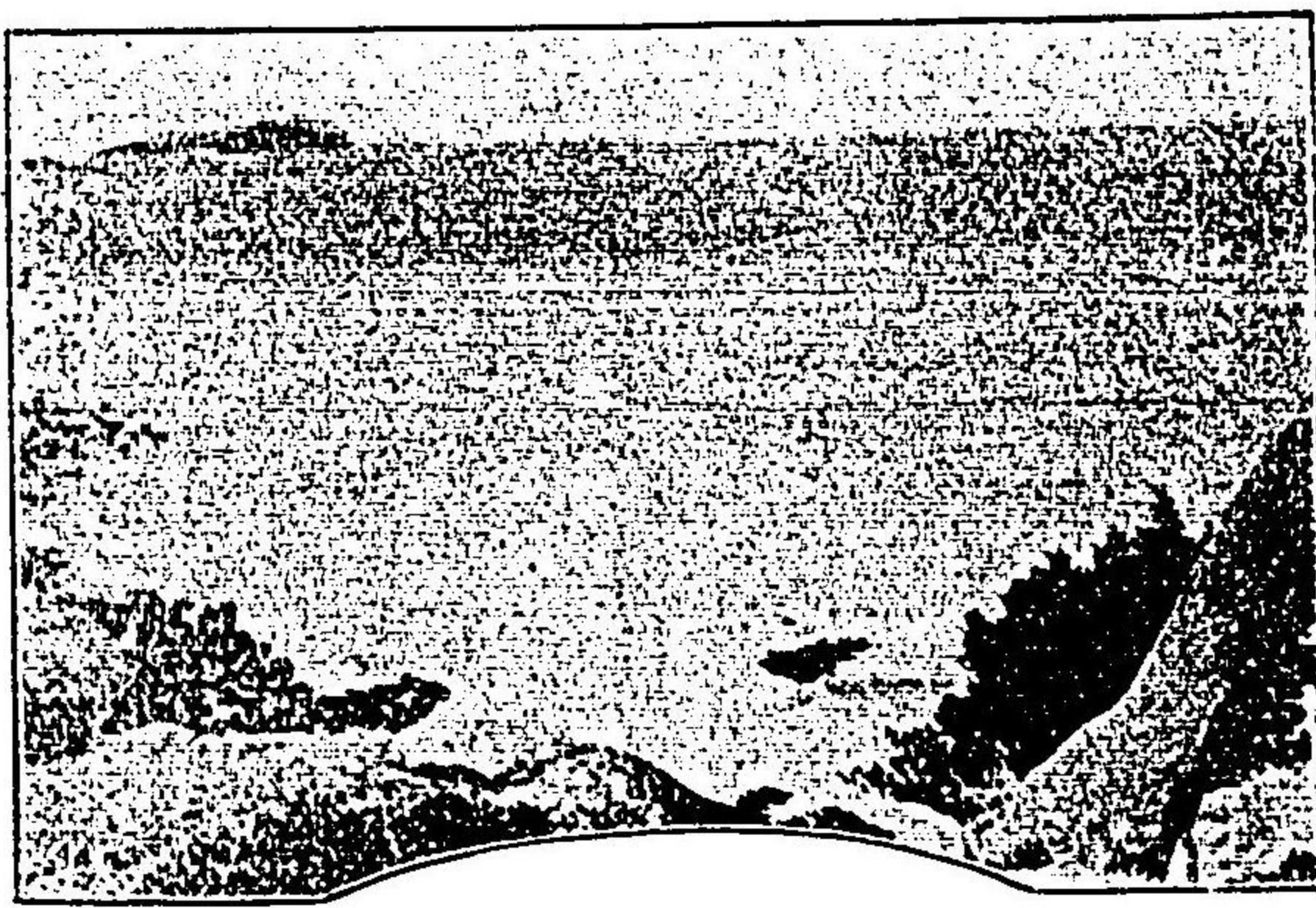
**くわまがわ 桑間川** 淡路國三原郡の東南より發し、西北に流れ津名郡に入り、洲本港に注ぐ、一に鮎屋川と稱す。

**くわんえいじ 寛永寺** 東京市上野公園の西北隅にあり、天台宗の巨刹にして、元和八年十二月僧天海の開基たり、芝増上寺と共に將軍家の菩提所にして、坊舎三十六宇、世々一品法親王を座主となす、七堂伽藍眼を驚かすに足るものありしが、戊辰の役兵燹にかりて殆んど烏有に歸し、今は其存在すら知るもの稀なるに至れり。

(瀨の明有寺音觀)

**くわんおんじ 觀音崎** 相模國三浦郡三浦半島の北海岸に突出せる處を云ふ、燈臺あり、又砲台ありて、上總の富津と相對し以て東京灣口の防備に充つ、此地今浦賀町に屬す、古くは佛時とい

年蘇我馬子の建立にして、もと高市郡飛鳥の北にあり、法興寺或は豊浦寺又葛城寺などと云ひ後元興寺と稱せしが、元明天皇の和銅三年平城遷都の擧あるや、舊都附近の寺院は多く新都に移されしも、本寺獨り舊地に残り、新都には新たに一寺を建てて本元興寺と云ひ、其後間もなく今の奈良市元興寺町に廣大なる伽藍を造營し新元興寺と稱し、南都七大寺の列に加はり興福寺等と拮抗すべき勢力を有せしが、後次第に衰へて元和の頃には五層塔と觀音堂とを残すのみとなれること當時の記録にあり、次で安政六年火災あり、此堂塔をも焼き盡せしを以て、さしもの伽藍も遂に滅びて今は單に假堂を設け、僅かに其面影を存するのみ。



あり、縣社たり。

**くわんごし 元興寺** 大和國奈良市にあり、推古天皇の四

くわん

ふ、觀音堂あり。  
**くわんおんじ 觀音寺** 近江國神崎郡石馬寺村嶺山頂にあり、西國第三十三番の札所にして、今大に衰微せるも昔時近江守護六角、佐々木氏の盛なるや頗る隆盛を極めたりと。

**くわんおんじさん 觀音寺山** 近江國蒲生郡の西北部老蘇村にあり、一に衣織山と云ふ、山に近江源氏の居城、觀音寺城の舊跡あり。

**くわんおんじまる 觀音寺町** 讃岐國三豊郡にあり、觀音寺川の南岸に位する一都邑にして一に假屋といふ、人口一万餘、郡役所、警察署、郵便電信局、中學校等あり、高松市を距る十五里、觀音寺川の河口を假屋浦と云ふ、當町の港たり、其北を有明濱と稱し風光明輝を以て著ける、町の北に坐する琴引山の南麓に觀音寺あり、眞言宗に屬す、山頂に琴引八幡宮

一五四

眞言宗にして龍頭山大鏡寺と號し、天平寶字年間の創立と傳ふ、境内に嵯峨天皇の皇妃陰明門院の墓あり、又有名なる宋朝傳來の大藏經七千餘卷を藏す、其經卷後東京芝増上寺に納付せること記録に見ゆ。

**くわんしんじ 觀心寺** 河内國南河内郡川上村大字寺元にあ

り、檜尾山と稱す、眞言宗にして天長四年僧實慧の開基たり、寺に楠正成の首塚及作りかけの塔あり、本堂は七間四面の入母屋作にして、今は特別保護建築物に屬す、寺寶多し、當寺は正平の頃一時後村上天皇の行

**くわんざんじ 管山寺** 近江國伊香郡餘吾村字坂口にあり、

くわん

此等の關を中心として關東、關西に別つ(關東の部参照)。



(寺心觀)

くわん

一五五



宮となれることあり、寺後にある檜尾親心寺は同天皇の御陵とす。

**くわんじゅじ 勸修寺** 京都市の東南、宇治郡栗栖野にあり、延喜四年醍醐帝の母后胤子の本願によりて建立す、開基は範俊僧正にて、華嚴、真言二宗兼學たり、後伏見天皇の皇子寛胤法親王當寺門跡となられしより、代々皇族より入つて法燈を嗣ぐ、第三十二世の門跡清純法親王は則ち後の山階宮見親王とす、今の殿舎は寛永年中の造作にして、佛殿は延寶年中皇居内侍所を賜りて作れるものと云ふ。

**くわんぜおんじ 觀世音寺** 我邦三戒壇の一にして、筑前國筑紫郡太宰府町の四方水城村大字觀世音寺にあり、昔は九州第一の巨刹にして、諸寺の僧徒集まり來り頗る盛大を極めしも、今は廢墟昔を忍ぶにすぎず、菅公の聞き給ひしと稱する有名なる鐘は寶物として保存せらる。

**くわんちーだき 灌頂瀧** 阿波國勝浦郡藤川山にあり、高さ四十八丈、幅九尺あり、一に御來迎の瀑と稱し、勝浦川の水源たり、餘水奔流し、四邊櫻花楓樹多く、春秋二季、眺望極めて可なりと。

**くわんごー 關東** 大寶令の三關則ち伊勢の鈴鹿關、美濃の不破關、越前の愛發關、以東の諸國の總稱にして、後の關東則ち箱根關以東諸國の名稱とは全く異なる、源賴家の時天下の

地頭職を二分し、關東二十八國の地頭職を弟千幡に、關西三十八國の地頭職を子一幡に傳へんとせしことあり、當時日本六十六國中、東海、東山、北陸三道より近江、若狹の二國を除けば、實に關東二十八國にして、其以西の諸國則ち畿内、山陰、山陽、南海、四海の諸國に近江、若狹の二國を加ふれば實に關西三十八國なり、則ち其意味の確然たるを知る。

**くわんごーさんざん 關東三山** 關東眞言宗の巨刹、武藏國川崎の平間寺(俗云川崎大師)下總國成田の新勝寺(俗云成田不動)武藏國高尾山の神護寺(樂王院)を云ふ、委しくは各條を見よ。

**くわんごーはっしー 關東八州** 相模國箱根關以東にある八ヶ國を云ふ、一に關八州、又は坂東八州、或は略して坂東とも稱す、即ち相模、武藏、安房、上總、下總、常陸、上野、下野の八國之れなり、各條を見よ。

**くわんごーへいや 關東平野** 富士帶火山脈及び足尾山脈の間、方三十里に亘れる一大平野を云ふ、一に八州平野とも稱す、此間只丘陵の起伏するの外、山と稱すべき程のものもあらず、月の入るべき山もなして、武藏野も此平野の一部なり。

**くわんはっしー 關八州** 「くわんとーはっしー」を見よ。  
くわんあわん 南灣 Kwai-lung 臺灣島の最南にありて、南

岬と西南岬にと擁せらる。

**くわんごー 花連港** 臺灣臺東廳下に屬す、人口五百餘、臺東廳出張所、郵便電信局、憲兵屯營等あり、港口東に向ひ、十五仞より十六仞に至る。

(瀑の嚴華)



け

**けいちーざん 鷄頂山** (鷄島山) 下野國鹽谷郡の中央にあり、高さ五千四百十尺、一に高原山とも云ふ。

**けいよかいきよー 蕪豫海峽** 安藝國豊田郡の東南端と伊豫國越智郡の北端との間を云ふ、中間に大三島あり、瀬戸内海航行の要衝にして、要塞砲兵在りて之を守備す。

**けいごー 外宮** 伊勢國宇治山田町山田にあり、豊受大神宮と稱す、尙ほ「伊勢太廟」を見よ。

**けごんのだき 華嚴瀧** 下野國日光の山中にあり、中禪寺湖の水流れて此瀑をなす、高さ七十五丈、幅八間、其壯觀なる關東第一と稱せらる、下流大谷川となり、流れて利根川の水源をなす。

**けたがさき 氣多崎** 因幡國鳥取市の西方二里半許の海岸、氣高郡内海村の四方に突出したる處を云ふ、古事記に

見えたる白兔の神話ありし處、同地に白兔神社あり、式内の社にして、今に痘瘡加護の神として尊奉せらる。

**けはら** 假粧坂 相模國鎌倉町の西、源氏山の北麓にあり、鎌倉七口の一にして、元弘三年新田義貞の鎌倉攻の時此坂を越えしこと史に見ゆ。

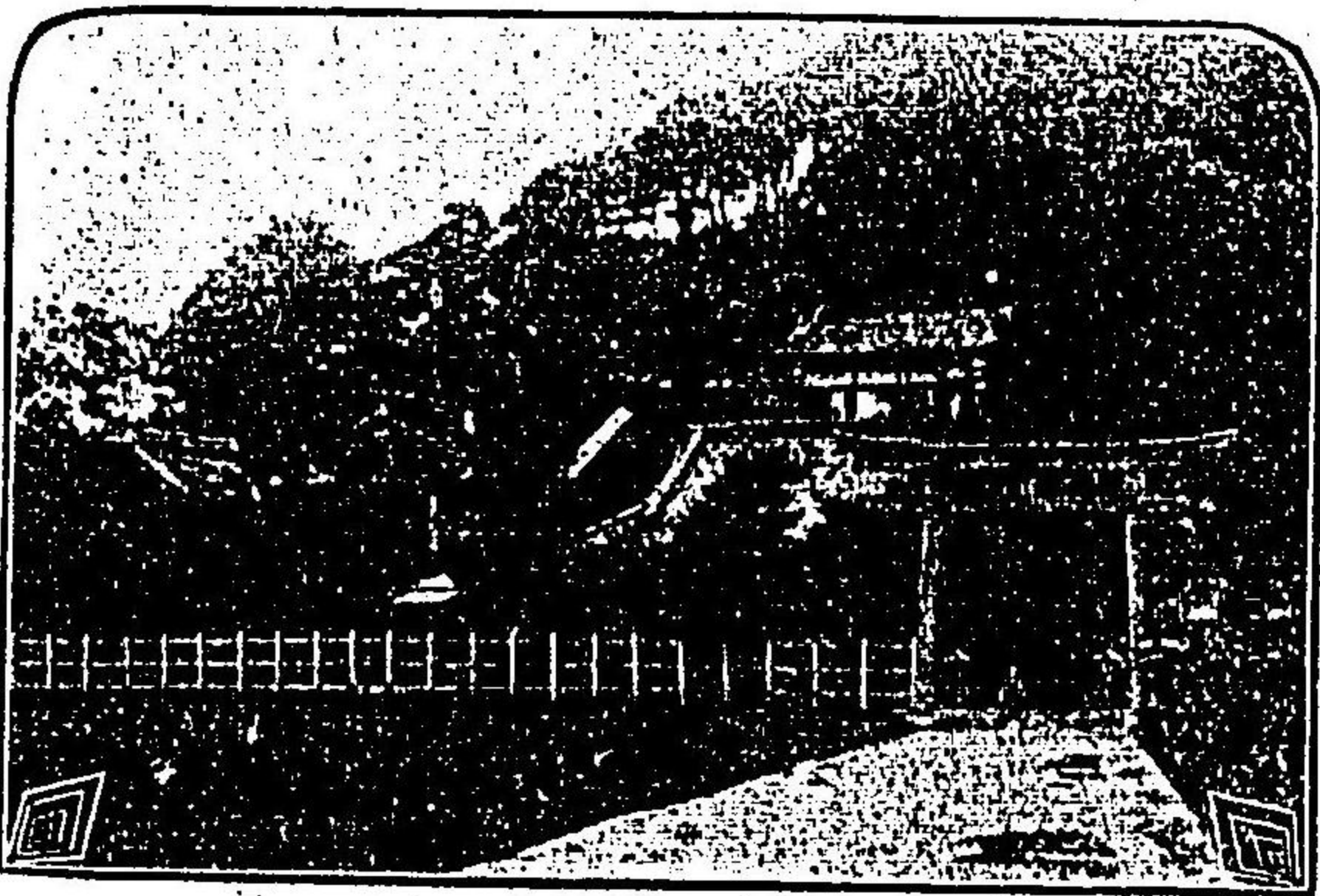
**けひのうら** 筈飯浦 (氣比浦) 越前國敦賀浦の別稱にして、白沙青松遠く連なり風光絶佳を以て稱せらる、萬葉集に「筈飯浦によする白浪しくしくに、妹がすがたはおもほゆるかも」。

**けひのみや** 筈飯宮 (氣比宮) 越前國敦賀郡敦賀町にあり、官幣大社にして、伊香沙別命及仲哀天皇、神功皇后、應神天皇、日本武尊、豊姫命、武内宿禰を合祀す、一に氣比神社、又氣比の神宮と云ふ、此社は上古よりの名所にして仲哀天皇熊襲を征せんとし給ふや、神功皇后とともに先づ此に詣で給ひ、次で皇后三韓征伐の功成り、本國に凱旋し給ふや、功臣武内宿禰をして、皇太子に供奉して祭祀を行はせらる、其後歴代皇室の尊信淺からず、屢々勅使の参向あり、古來稱して北國の總社と云ふ、元龜年間織田信長の爲めに焼かれ、徳川秀康越前入國の際新に社殿を造營し、社領を寄附せり、明治初年國幣中社に列せられ次で官幣大社に昇る、毎年九月四日大祭を行ひ勅使の参向あり。

**けんかいなだ** 玄界灘 筑前國の西北方の海洋を云ふ、東北響灘に連る、此邊、鯛、鱈等の漁利多し、一に九州洋とも云ふ、海上浪荒く、離航路の一として知らる、近世蒙古侵來の歌とともに其名廣く世に傳はる。

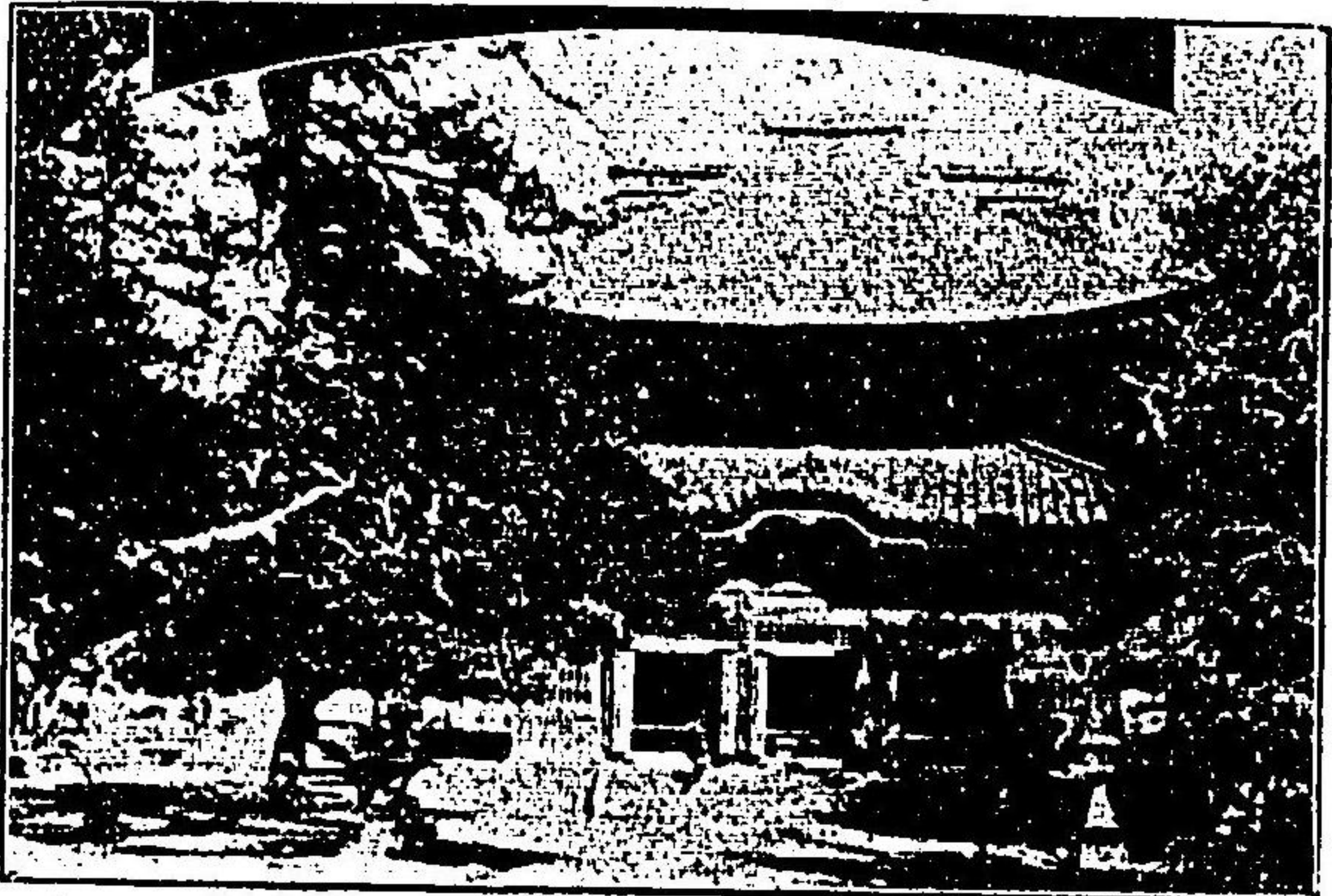
**けんくんじんじ** 建勳神社 山城國愛宕郡大宮村船岡の東方にあり、

別格官幣社にして、織田信長を祀る、明治十四年の創建にして、同十八年別格官幣社に列せられ、建勳神社の神號を下賜せらる、船岡山は應仁の亂四軍の陣地となりし所にし



(社神勳建)

(寺長建)



りし雲林院の舊蹟在り。  
**げんけいじ** 元慶寺 山城國宇治郡山科村花山にあり、天台宗に屬す、陽成天皇貞觀十一年の建立にして、應徳寺又は東山寺と云ふ、花山天皇當寺に入つて、落飾し給ひしを以て有名なり。

**けんざん** 劔山

阿波國「つるぎやま」を見よ。

**けんちやうじ**

**建長寺** 相模國鎌倉の西北方小坂村大字山内にあり、鎌倉五山の第一にして、建長五年北條時頼の建立する處にして宋の大覺禪師の開基たり。

り、寺域五千二百餘坪、東に外門及び總門あり、總門の裡に山門あり、構造總て宋の寺門に擬せらるものなりと。  
**けんじんじ** 建仁寺 臨濟宗京都五山の第一にして、京都市大和路四條の南にあり、土御門天皇の勅願によりて、建仁三年建築落成す、敷地は源頼家の寄進にして榮四禪師の開基たり、本邦最初の禪寺にして、建仁寺派の總本山たり。

**けんぶと** 玄武洞 但馬國城崎郡鶴野村字赤石にあり、

豊岡町の北約一里十町、洞の長約四十間、左、中、右の三房に分る、左房間口十三間、奥行十七八間、中房間口十二間、奥行十四五間、右房間口十三間、奥行十六七間、全洞八角、七角、六角或は五角なる黒色堅緻の玄武岩柱より成り、各柱七八寸乃至一尺毎に裂目あり、千百の石柱を縦横に積み重ねたる如く、其狀實に奇觀を極む。

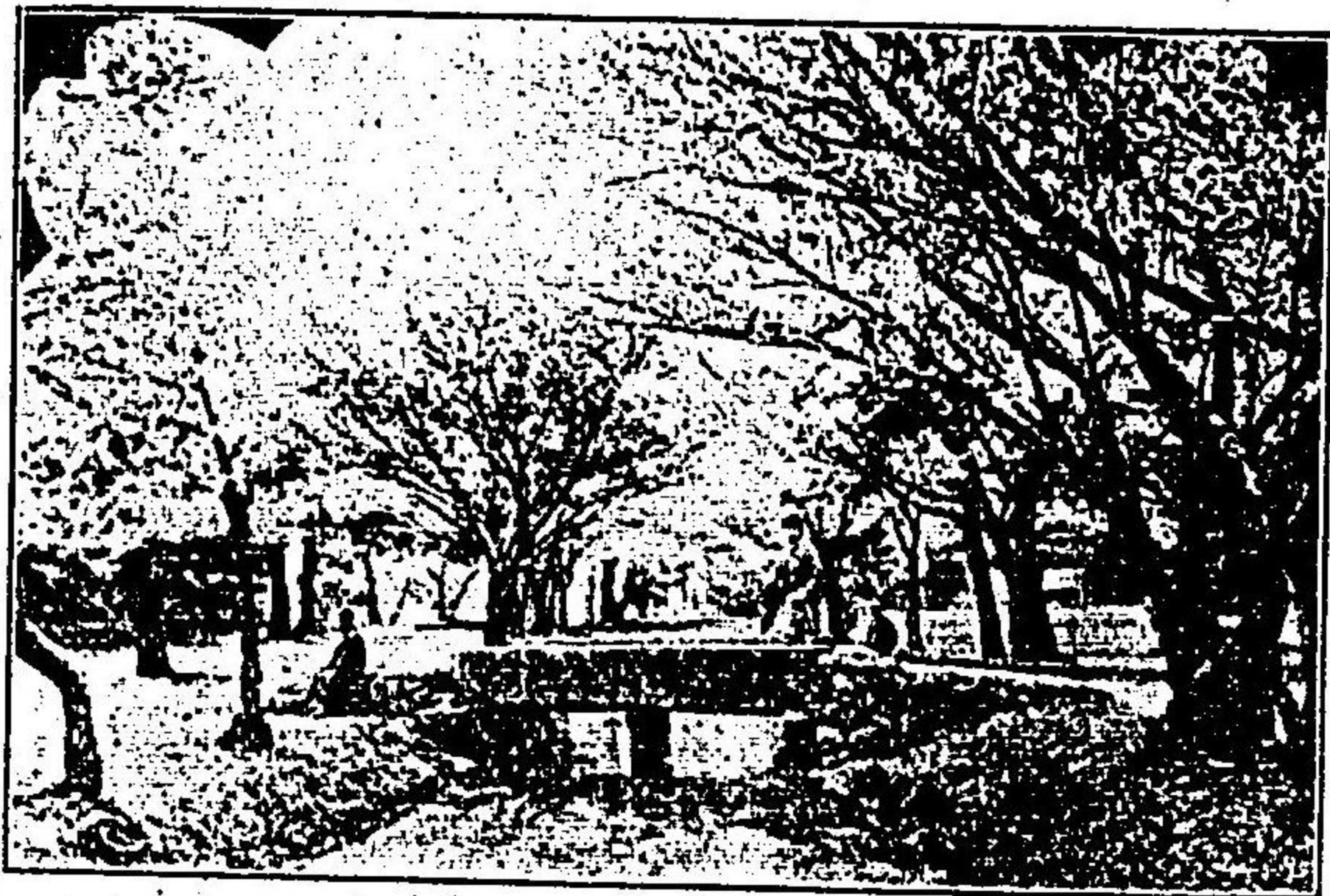
**けんろくこーえん** 兼六公園 日本三公園の一にして加賀國金澤市にあり、金澤城の東南に隣接し、土地高燥小辰野に連り、天然の美、人工の妙を極め、風景眺望共に佳なり、もと前田侯の庭園にして、兼六の名は、宏大、幽邃、人工、若古、水泉、眺望の六つを兼ねたりとて、松平樂翁公の命名せしものなりと傳ふ。

**けや** 芥屋 筑前國糸島郡の西海岸の一村にして、其西北端

には有名な、大門崎あり。

けらまぐん

慶良間群島 琉球沖繩島の西南にあり、十餘の小島より成る、其中慶良間島尤も大にして、周囲三里、二間切九村に別る。

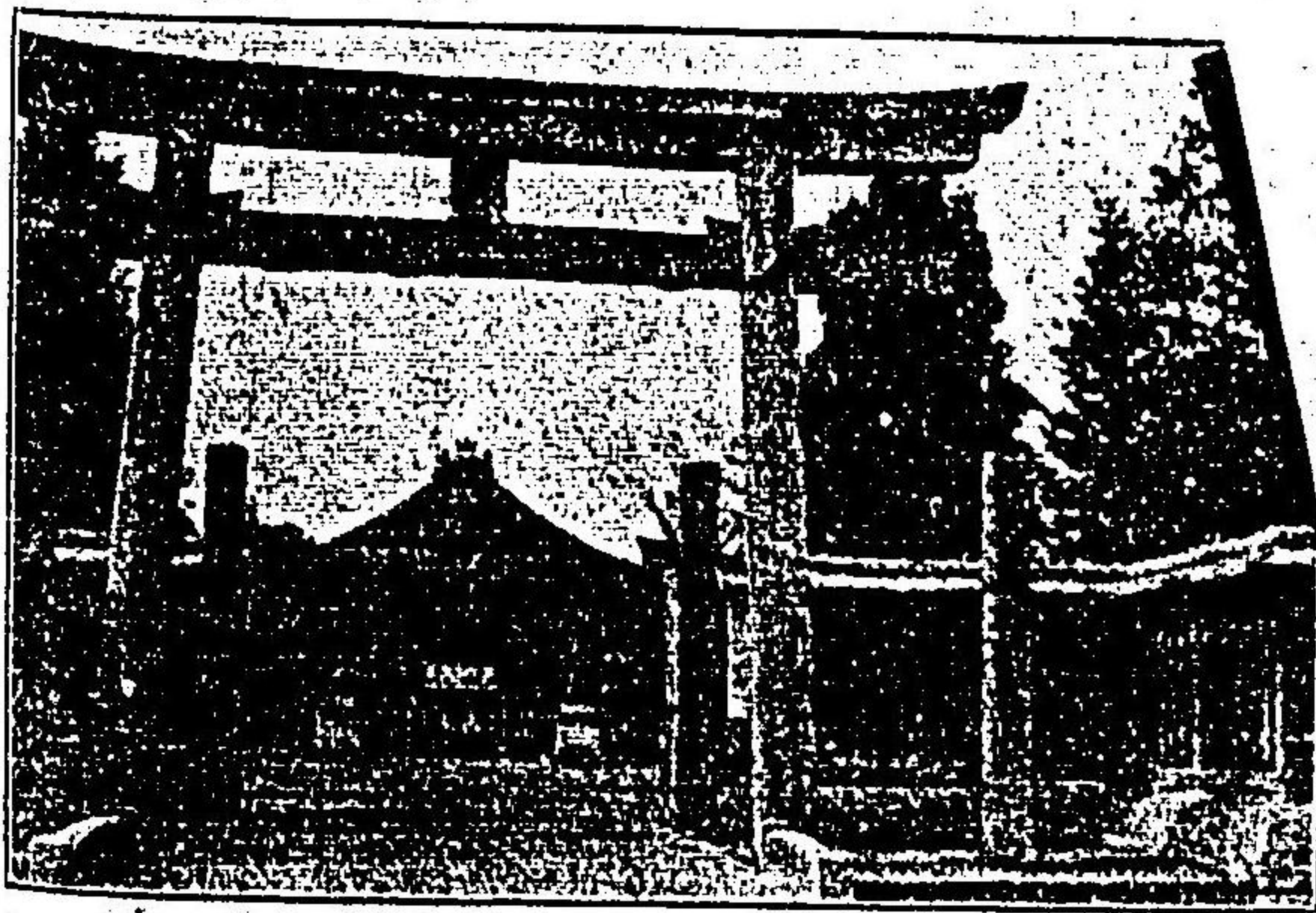


(園公六兼)

ごおーじんじや 護王神社 京都市上京區櫻地町にあり、別格官幣社にして、和氣清磨を祀る、古くは護法宮神社と稱し、高雄神護寺に屬したり。

ごおりまち桑

折町 岩代國伊達郡にあり、阿武隈河畔に位す、福島町を距る、二里三十三町、陸羽街道の一驛にして日本鐵道の停車場あり、伊達郡役所の所在地とす。



(社神王護)

こが 古河町

下總國猿島郡の西北隅にあり、土井氏八萬石の舊城下にして、陸羽街道の衝に當り市街稍々殷賑なり、日本鐵道此地を通過す、警察署、郵便電信局、區裁判所出張所等あり、古河城址は町の西南にあり、寛正二年關東管領足利成氏上杉氏と戦ひ破れて、此地に據る、一に古河御所と稱す、後北條氏の有となり、徳川氏に及んで城主屢々變じ、小笠原、松平、奥平等の諸氏を経て、土井氏に至る、城内賴政神社あり、源三位賴政の靈を祀る、又同地停車場より約一里、勝鹿村大字大堤の鮭延寺内に熊澤蕃山の墓あり。

こがのんち 五箇山中

越中國西礪波郡城端町の東南、庄川の上流地方、平村、上平村、利賀村等の總稱なり、附近の山中數所に鐵釣橋あり、又平村松尾には高さ二十丈の天柱石あり、山中、奇巖怪石磊々として重疊し、至る處風景に富む、米穀の産なきも蠶業は一般に隆盛にして繭、生糸等の産多し。○肥後國八代郡白川島の東南方にあり、「こがのしよ」を見よ。

こがせがわ 五箇瀬川

日向國にあり、源を西臼杵郡鞍岡村の山間に發し、北流して諸小流を合せ、延岡町の北方を経て、北川を合し東海港に注ぐ、流域三十里、通船七里。

こがね 小金井

武藏國北多摩郡府中の北方にあり、多摩川上水の兩岸殆ど一里、櫻花を植う、東都櫻花の名所として有名なるものにして、花時遊覽者頗る多し、承應年間此地の郡官川崎定孝なる者、大和の吉野及び常陸の櫻川より、櫻樹を移植したるものなりと云ふ。

こがねがはら

小金原下

總第一の高原にして、東葛

飾、千葉、印旛の三郡に跨る、右へは、高田臺、上野、中野、下野、印西の五區に分れ、有名なる牧場たりしが、明治維新後、東京府下の窮民を、茲に移住せしめ、開墾業に従事せしめてより、新開の地既に數千町歩に達せり。

こがねやまじんじや 黄金山神社 陸前國遠田郡涌谷町に



(非金小)

あり、縣社にして金山彦命、金山比賣命、猿田彦命等を祀る、社傳によれば寶龜年間の創設にして、其後幾多の變遷あり、今の社は文祿年間の再建にして天保年間に改造せるものなりと。

こかのしよー 五家莊

肥後國八代郡白川の東南方、球磨川の水源地にあり、此地阿波の祖谷山中と同じく、平家の落人の籠りし處なりと云ふ、其地峻峻にして、村里に遠ざかること、祖谷山中よりは一層甚だしく、今に至る迄四隣の地とは大に其風俗を異にす、一に五箇山中と稱す、五家莊とは、椎原、久連子、樵子、葉木、仁尾田の五村より成るを以て其名ありと。

こがわまち 粉河町

紀伊國那賀郡の北部にあり、和歌山市の東北五里二十九町に位す、人口五千餘、警察分署、郵便電信局、區裁判所出張所、中學校等あり、有名なる粉河寺此地にあり、



(粉河寺)

賀郡粉河町にあり、風猛山の麓に位す、一に施音寺と云ふ、天台宗に屬す、寶龜中大伴孔子古の創建にして、千手千眼觀世音を本尊となす、今の堂は享保年中の再建なりと、和歌あり「父母のめぐみもふかき粉河寺、ほとけのちかひたのもしの身や」。

こがわらぬま 小河原沼 陸奥國倉内沼の別稱。

こきしちごー 五畿七道 山城、大和、河内、和泉、攝津を五畿内とし、東海、東山、北陸、山陰、山陽、南海、四道を七道とす、現今北海道を加へて八道とす。

こくしがだけ 國師岳 甲斐、信濃、武藏三國に跨る、高さ八千五百餘尺あり、甲斐國東山梨郡三富村大字釜川字上釜口より四里十八町にして山頂に達す、一に四澤御林山と云ひ、又附近の諸山を總稱して奥仙丈とも云ふ。

こがわまち 粉河寺 西國第三番の靈場にして、紀伊國那

こくせいの 國清寺 伊豆國田方郡韭山村大字奈古谷にあり、臨濟宗の禪寺にして、正平年中島山國清の創建する所、

僧妙謙開基たり。

こくぞーさん 虚空藏山

羽前國東置賜、西置賜、南村山西村山四郡に亘る、一に白鷹山と云ふ、高さ三千六百餘尺、東置賜郡吉野村字小瀬より一里十五町にして山頂に達す、土佐國高岡郡の北東方にあり、高さ二千餘尺、秩父古生層及石灰岩より成る。

こくぶ 國府

孝德天皇の朝、國毎に置かれたる地方行政官廳の所在地にして、其官衙を國衙と云ひ、長官を守又は國司と稱す、源賴朝起るに及び、國司の威令行はれず、漸次廢滅して其所在地の如き多くは詳ならざるも、地名又は記録によりて推考すれば、略ぼ之を知る事を得、即ち左の如し。

- 山城 (乙訓郡大山崎村大字大山崎)。
- 大和 (高市郡高取町大字土佐)。
- 河内 (南河内郡道明寺村大字國府)。
- 和泉 (泉北郡伯太村大字府中)。
- 攝津 (初大阪市天神橋、舊名渡邊)。
- 伊勢 (鈴鹿郡國府村大字國府)。
- 伊賀 (阿山郡府中村、一説に三田村大字三田)。
- 志摩 (志摩郡國府村)。
- 尾張 (中島郡國府宮村大字松下)。
- 三河 (寶飯郡國府村大字國府)。

遠江 (磐田郡中泉町大字中泉府中)。

駿河 (静岡市舊名駿府)。

甲斐 (東八代郡英村大字國衙)。

伊豆 (田方郡三島町大字三島宿)。

相模 (中郡國府村大字國府本郷)。

武藏 (北多摩郡府中町府中驛)。

安房 (安房郡國府村大字府中)。

上總 (市原郡市原村大字總社)。

下總 (東葛飾郡市川町大字國府臺)。

常陸 (新治郡(舊茨城郡)石岡町舊名府中)。

近江 (栗太郡瀬田村大字橋本)。

美濃 (不破郡府中村大字府中)。

飛騨 (吉城郡國府村)。

信濃 (東筑摩郡松本町)。

上野 (群馬郡國府村?)。

下野 (下都賀郡國府村大字國府)。

陸奥 (陸前國宮城郡多賀城村大字市川)。

出羽 (羽前國東田川郡廣野村字廣野新田)。

若狹 (遠賀郡今富村大字府中)。

越前 (南條郡武生町)。

加賀 (能美郡古河村大字古府?)。

- ・能登 (鹿島郡矢田郷村大字府中村)。
- ・越中 (射水郡代木町大字古府村)。
- ・越後 (中頸城郡直江津町大字鹽谷新田)。
- ・佐波 (佐渡郡真野村大字竹田)。
- ・丹波 (南桑田郡龜岡町?)。
- ・丹後 (與謝郡府中村?)。
- ・但馬 (城崎郡國府村大字市場村)。
- ・因幡 (岩美郡國府村大字宮下村)。
- ・伯耆 (東伯耆郡社村大字國府)。
- ・出雲 (八束郡出雲郷大字出雲郷?)。
- ・石見 (那賀郡下府村)。
- ・隱岐 (周吉郡西郷四村?)。
- ・播磨 (姫路市(舊名衙府中)の東南國衙村)。
- ・美作 (苫田郡西苫田村大字總社)。
- ・備前 (上道郡高島村大字國府市場)。
- ・備中 (吉備郡總社村大字總社)。
- ・備後 (蘆品郡國府村大字府中)。
- ・安藝 (安藝郡府中村)。
- ・周防 (佐波郡佐波村大字西佐波村)。
- ・長門 (豊浦郡長府村大字豊浦)。
- ・肥前 (海草郡肥前村大字府中)。

- ・淡路 (三原郡神代村大字國衙?)。
- ・阿波 (名東郡國府村大字府中)。
- ・讃岐 (饒歌郡府中村大字府中)。
- ・伊豫 (越智郡櫻井村大字國分)。
- ・土佐 (長岡郡比佐古村大字比江)。
- ・筑前 (筑紫郡水城村)。
- ・筑後 (三井郡御井町?)。
- ・豊前 (京都郡被郷村大字草場?)。
- ・豊後 (大分郡豊府村大字古國府村)。
- ・肥前 (佐賀郡春日村大字久池井)。
- ・肥後 (飽託郡白坪村大字田崎)。
- ・日向 (宮崎郡佐土原村大字佐土原村)。
- ・大隅 (始良郡國府村大字府中)。
- ・薩摩 (薩摩郡高城村大字麓)。
- ・豊後 (豊後郡那賀村大字國分?)。
- ・對馬 (下縣郡嚴原町大字國分町)。

こくぶら 國分村 (日本歴史地理要覽採録)  
 兒島鐵道は此地を通過して吉松驛に至る、有名なる國分櫻草の産地にして、警察署、郵便電信局、區裁判所出張所等あり、相傳ふ文藝年中、山内某、櫻草種を肥前の唐人より傳へ、

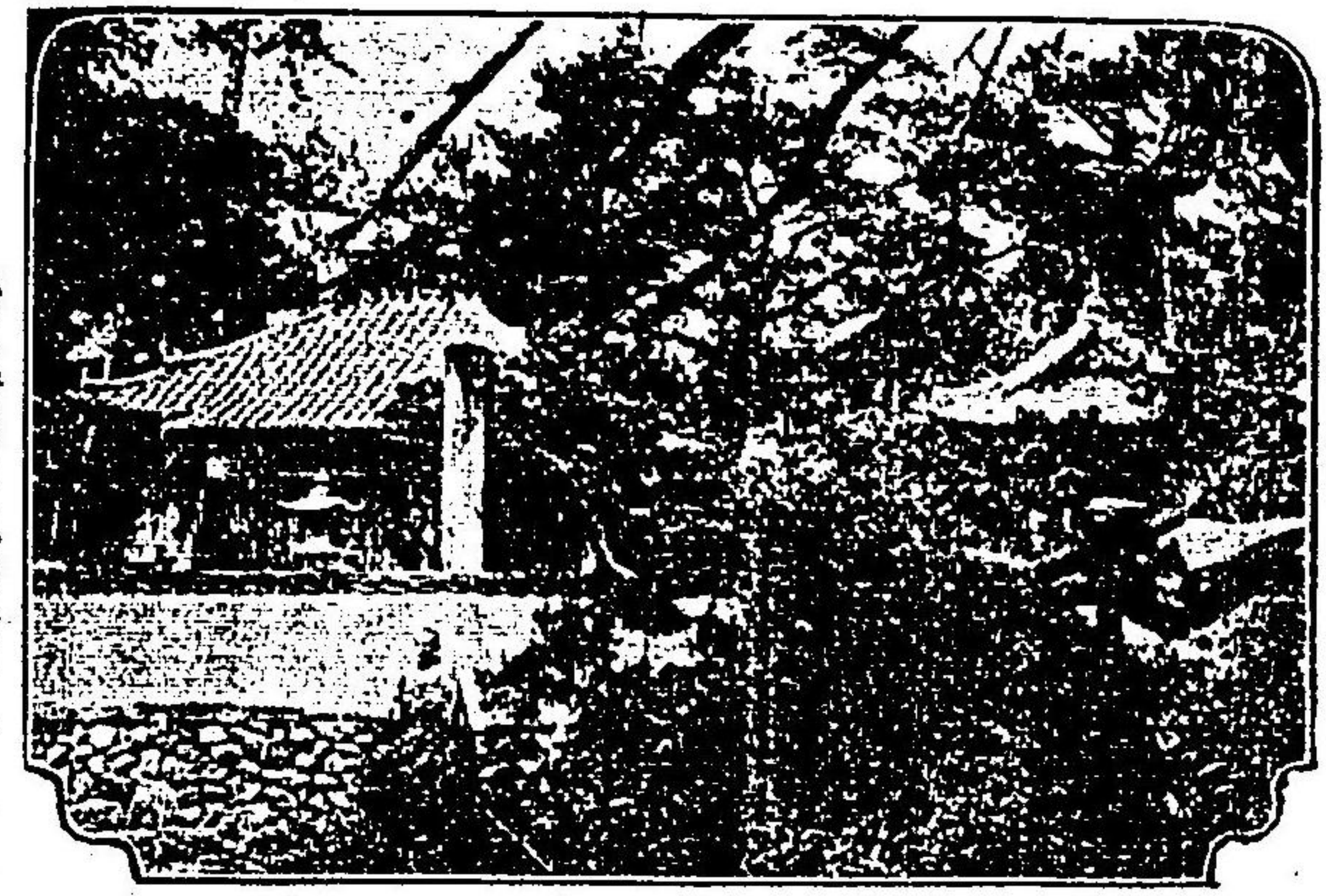
之を本地に移し、寛文の頃より漸く著名となれりと。  
 こくぶんじ 國分寺 聖武天皇の天平年間國毎に僧尼二寺を建立せしめ、僧寺を金光明四天王護國寺と云ひ、僧二十人宛を置きて東大寺の管下に屬せしめ、國府の費用を給して其隆盛を保ちしも、國府の衰頹と共に國分寺亦衰へ、終に廢滅して後世に傳はらず、但し其位置は建設當時の主旨に従ひ國府より遠からず近からざる所にあり、古書によりて考定せる所在地は左の如し。

- 山城 (相樂郡瓶原村大字河原東)。
- 大和 (奈良市)。
- 河内 (南河内國分村)。
- 和泉 (泉北郡南池田村大字國分)。
- 攝津 (四成郡豊崎村大字國分)。
- 伊賀 (阿山郡三田村大字三田)。
- 伊勢 (阿美郡河曲村大字國分)。
- 志摩 (志摩郡國府村)。
- 尾張 (中島郡國分村大字矢合)。
- 三河 (寶飯郡平幡村大字八幡)。
- 遠江 (磐田郡光明村大字東山)。
- 駿河 (安倍郡安東村大字北安東山)。
- 甲斐 (東八代郡國立村大字國分)。

- 伊豆 (田方郡三島町大字三島宿)。
- 相模 (高座郡海老名村大字國分)。
- 武蔵 (北多摩郡國分寺村大字國分寺)。
- 安房 (安房郡館野村大字國分)。
- 上總 (市原郡市原村大字總社)。
- 下總 (東葛飾郡國分村大字國分)。
- 常陸 (新治郡石岡町)。
- 近江 (滋賀郡石山村大字國分)。
- 美濃 (不破郡青野村)。
- 飛騨 (大野郡大名田村)。
- 信濃 (小縣郡神川村大字國分(上田町の東))。
- 上野 (群馬郡國府村大字東國府)。
- 下野 (下都賀郡國分寺大字國分)。
- 陸奥 (陸前國宮城村原町大字南目)。
- 出羽 (羽前國南村山郡山形市の東)。
- 若狭 (遠賀郡遠敷村大字國分)。
- 越前 (南條郡武生町大字曙町)。
- 加賀 (能美郡古河村大字古河の邊り)。
- 能登 (鹿島郡徳田村大字國分)。
- 越中 (射水郡伏木町大字國分)。
- 越後 (中頸城郡國府村大字五智國分)。

佐波 (佐波郡眞野町大字國分)。  
 丹波 (南桑田郡千歳村大字國分)。  
 丹馬 (與謝郡府中大字國分)。  
 但馬 (城崎郡日高村大字國保)。  
 因幡 (岩美郡國村分大字國分寺)。  
 伯耆 (東伯郡社村大字國分寺)。  
 山雲 (八束郡竹矢村大字國分)。  
 石見 (周吉郡國分寺村)。  
 播磨 (那賀郡國分寺村大字國分)。  
 美作 (飾磨郡國野村大字國分寺)。  
 備前 (勝田郡河邊村大字國分寺)。  
 備中 (赤坂郡四高月村大字馬屋)。  
 備後 (都窪郡三須村大字上林)。  
 安藝 (蘆品郡栗生村大字栗柄)。  
 周防 (賀茂郡吉行村?)。  
 長門 (佐波郡佐波村大字東佐波會)。  
 紀伊 (豊浦郡長府村大字豊浦)。  
 淡路 (那賀郡上岩山村大字西國分)。  
 阿波 (三原郡市村)。  
 讃岐 (名東郡國府村大字矢野)。  
 伊豫 (綾歌郡端岡村大字國分)。  
 土佐 (越智郡櫻井村大字國分)。  
 筑前 (長岡郡國比佐村大字國分)。  
 筑後 (筑紫郡水城村大字國分)。  
 豊前 (三井郡國分村大字國分)。  
 豊後 (京都郡豊津村大字國分)。

(寺分國豫伊)



豊後 (大分郡賀來村大字國分)。  
 肥前 (佐賀郡春日村)。  
 肥後 (鹿託郡出水村大字國分)。

日向 (兒湯郡下穂北村大字三宅)。  
 大隅 (始良郡國分村大字上小川)。  
 薩摩 (薩摩郡東水引村大字宮内)。  
 豊岐 (壹岐郡那賀村大字國分)。  
 對馬 (下縣郡嚴原町)。

こくぶんじむら 國分寺村 (日本歴史地理要覽採録) 諸國にあり、往古國毎に國分寺を置きしが、終に地名となりて、今は傳はれるものなり、(國分寺の條下を見よ)。  
 こくぶんじ 國分尼寺 聖武天皇の天平年間、國分寺と共に諸國に建立せしものにして、法華滅罪寺と云ひ、大和の法華寺をして之を管せしむ、國分尼寺(即ち法華寺)は國分寺よりも早く衰頽せしもの如く、其所在地遺跡の如きも

之を求むるに難く、僅に知れるもの左の如し

山城 (相樂郡加茂村大字法華寺野)。  
 大和 (添上郡佐保村大字法華寺)。  
 攝津 (東成郡生野村大字國分)。  
 伊賀 (阿山郡花の木村大字法花)。  
 伊勢 (飯南縣伊勢寺村?)。  
 尾張 (中島郡國分村大字法花寺)。  
 駿河 (安倍郡安東村)。  
 甲斐 (東八代郡國分村大字國分)。  
 相模 (高座郡海老名村大字國分)。  
 武蔵 (北多摩郡國分寺村大字國分寺)。  
 上総 (夷隅郡上野村大字法花?)。  
 下総 (東葛飾郡國分村)。  
 若狹 (遠敷郡遠敷村大字國分)。  
 越中 (中新川郡北賀積村大字法華寺)。  
 越後 (中頸城郡里五十公野村大字法花寺)。  
 但馬 (城崎郡三江村大字法華寺)。  
 因幡 (岩美郡國府村大字法華寺)。  
 石見 (那賀郡分村大字國分)。  
 隱岐 (周吉郡尼寺?)。  
 播磨 (飾磨郡御野村大字國分寺)。

備前 (兒島郡高島町宮浦の海)。  
 備中 (都窪郡三須村大字上林)。  
 安藝 (賀茂郡吉行村?)。  
 紀伊 (那賀郡池田村大字東國分)。  
 淡路 (三原郡入木村大字笑原)。  
 伊豫 (越智郡櫻井村大字櫻井の西)。  
 阿波 (名東郡八萬村大字八幡字法華)。  
 土佐 (長岡郡國比佐村大字國分?)。  
 豊後 (大分郡賀來村大字國分)。  
 筑前 (筑紫郡水城村大字國分)。  
 肥前 (佐賀郡春日村大字尼寺?)。

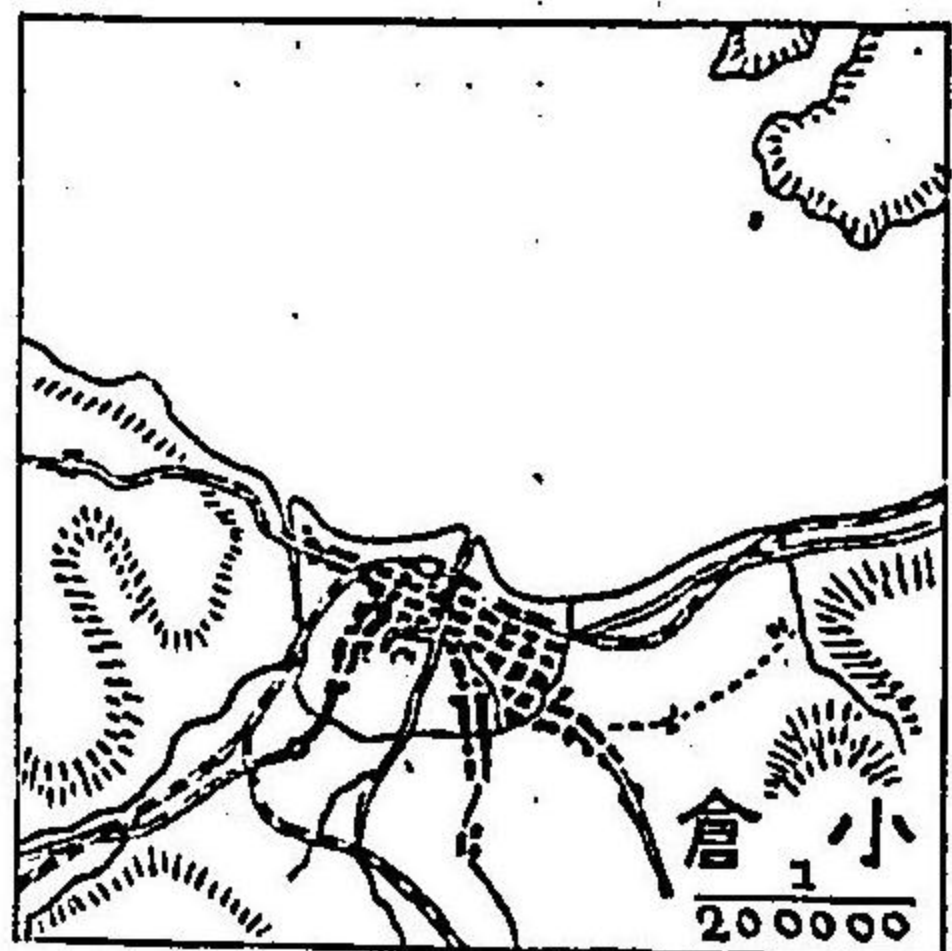
(日本歴史地理要覽採録)

極樂寺 相模國鎌倉の西南極樂寺坂の路北にあり、靈山と號し、眞言律に屬して奈良西大寺の末寺たり、北條重時の建立にして、忍性菩薩其觀上人を以て開基となす。  
 小倉市 豊前國企救郡の北方、門司市の西南にあり、九州鐵道は此地より支線を宇佐に派す、小笠原氏十五萬石の舊城下にして、市役所、警察署、區裁判所、稅務署、第十二師團及第十二旅團司令部及此れに伴ふ諸兵營あり、小倉織は當地の名産にして、小笠原氏就封以後に起れる機業と

す、小倉城は市街の中央、蒲生川の左岸にあり、天正十五年毛利登岐守の據りし所とす、一に勝野城と稱す、黒田、細川等の諸氏を経て小笠原氏の有となり王政維新に至る。

**ごけんざん 五剣山** 岐國八栗山の別稱。

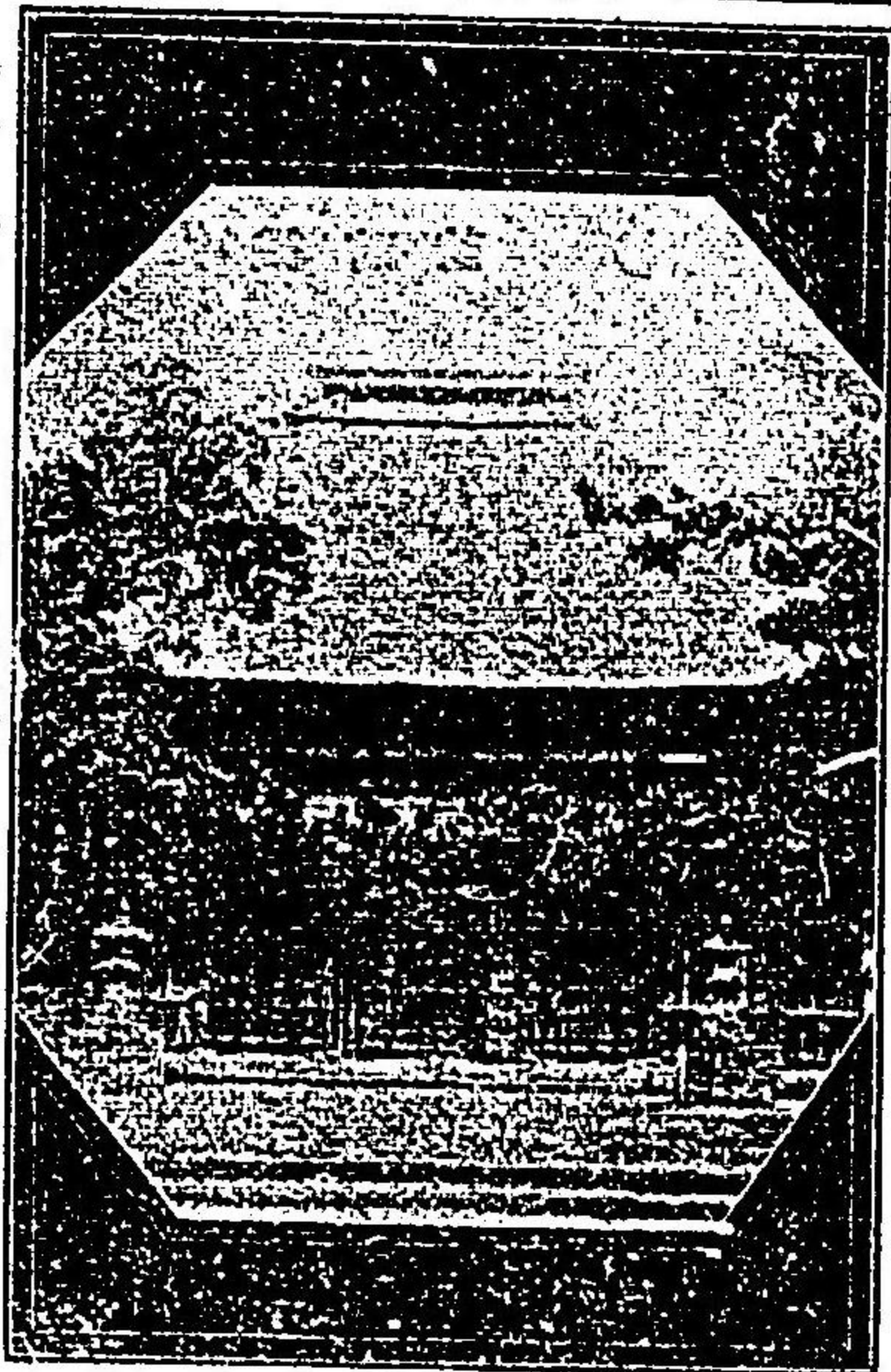
**こいげんじし 向原寺址** 大和國高市郡飛鳥村字豊浦にあり、一に豊浦寺とも云ひ又建興寺小墾田寺とも云ふ、欽明天皇の御代に蘇我稻目が其邸宅を寺となしたる處にして、我邦最初の佛寺たり。



**ごごくじ 護國寺** 東京市小石川區音羽町豐島ヶ岡にあり、眞言宗の巨刹にして、大和長谷の小池坊に屬す、天和元年二月の創建にして僧亮賢の開基とす、本寺もと今の植物園内にありしが、元祿年中此地に移す、徳川五代將軍の母公桂昌院殿其願主たり、寺域四萬七千餘坪舊幕府時代に寺領千二百石を領し、頗る隆盛を極めたりと、境内に權現山あり、今は宮内省御用地となり豊島ヶ岡御陵と稱す。

**ごごしま 興古島** 一に伊豫の小富士とも云ふ、伊豫國松山の西北海中にあり、周圍二十四町、全島一山より成り、其形富士山に相似たり、依て此別稱あり。

**ごさかむら 小坂村** 陸中國鹿角郡の北隅、能代川の發源地にあり、此地に有名なる銀山あり、院内銀山と共に其産額



(寺覺圓倉鎌)

殆ど全國第一に位す、**ごごま 相模國鎌倉郡の村名にして、その大字山内は昔鎌倉の一部にして、今圓覺寺、建長寺等の名蹟多し。**

**ごごんごー 香山港 (Hongshan)** 臺灣西海岸の一海港にして大姑隘街の西南二里半、港内水深二尺、乃至五尺、船

舶の碇泊に堪ふる能はず、竹筏を以て往來す。

**こしがやまち 越谷町** 武藏國南埼玉郡にあり、元荒川を隔てて大澤町に相接す、昔時陸羽街道の一驛にして、人口三千餘、警察署、區裁判所、郵便電信局等あり。

**こしごしま 既島** 薩摩國の西海中にあり、薩摩郡に屬す、上、中、下の三島に分る、上既島は最北にありて、東西二里二十八町、南北一里十八町、周圍十七里四町、中既島は其中央にありて、周圍四里十二町、下既島は其南方にありて、周圍二十里二町あり、島内岩石より成り山林少く、郊野多し、中既島の中に海門ありて、串瀬と云ふ、其中に既島の巨岩あり、既島の名は是より出でたるなりと、古書に既島(横日本紀、三代實錄等)又子敷(異稱日本傳)ともあり。

**こしぎだけ 既嶽** 羽前國北村山郡の南方にあり、高さ千五百餘尺、全山火山岩より成る、東郷村字泉郷より登り入り、**ごご 日向國西諸縣郡の四方にあり、全山輝石安山岩より成る、高さ四千三百餘尺。**

**こしごえ 腰越** 相模國鎌倉の四方七里ヶ濱の果つる處にあり、今は腰越村に屬す、文治元年源義經平家を討滅して、鎌倉に歸るや、頼朝諱を信じて、此地に止む、義經狀を送りて、其宛を訴ふ、所謂腰越狀これなり。

**こしが 越路** 越の國即ち今の北陸道の街道を云ふ、帝都より

り出で、北の方一帯の山脈を越えて彼方の陸路の義なり。

**こしなんざんみやく 哈子難山脈** 臺灣淡水河上流にありて、東北より、西南に走る山脈にして、有名なる雪山山地の東方に位す。

**こしのくに 越國** (古志國) 今の越中越後及羽前の一部分を云へるなるべし、又越路の稱あり、今の北陸道を云ふか。**こしのこ 越湖** 佐渡國の東海岸にあり、夷港外數村之に沿ふ、周圍五里二町、海水と通じ夷港其口にあり、加茂湖、夷港の別稱あり。

**こしのふじ 越富士** 越後國鷲葉山の別名。**こしまはんごー 兒島半島** 備前國岡山市の南方に斗出したる大半島にして、其端東方に延びて、兒島灣をなす、昔時は吉備の小島と稱して、一の離れ島なりしが、何時しか於泥填塞して遂に本國に連なり、兒島の一郡をなす。

**こしまわん 兒島灣** 備前國岡山市の南方にあり、兒島半島東方に斗出して灣形をなす、東西四里、南北二里、灣内養介場ありて牡蠣を育成す。

**こしんざん 庚申山** 下野國上都賀郡日光山の西南、上野との國境にあり、那須火山系に屬する休火山にして、高さ六千二百餘尺あり、山中怪巖奇石累々として屹ち、人目を驚かすもの多し、足尾町より登り四里。

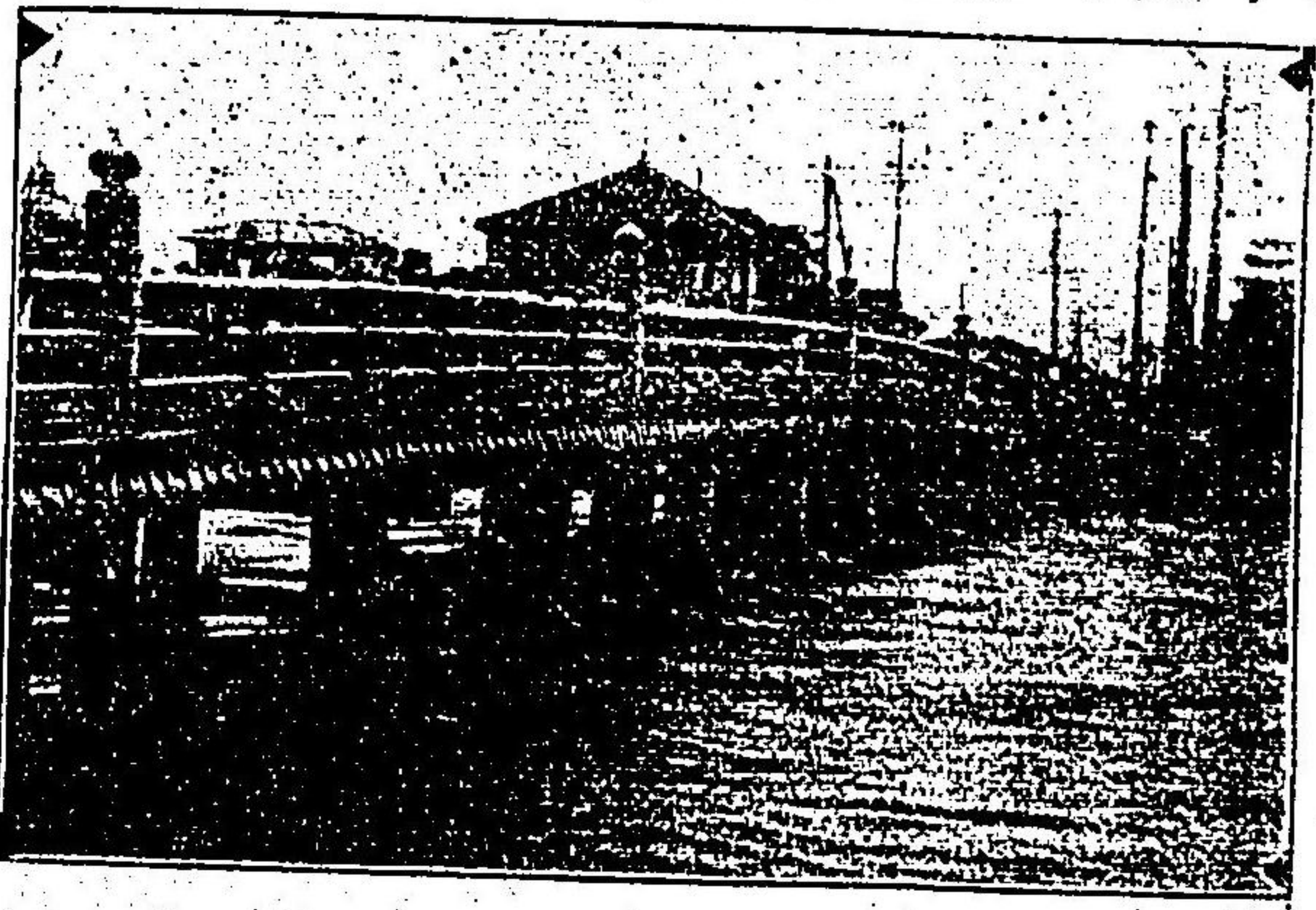
**ムーラーがらー 甲州街道** 江戸大街道の一、武蔵國新宿より發し、四方淀橋、府中、立川、八王子、小佛を経て相模國に入り、小原、吉野を経て、甲斐國に入り、野原、烏澤、初狩、征子、駒飼、石村等を経て甲府に入る、此里程約三十四里。

**こーしん 恒春** 臺灣の最南端にある一都會にして、人口一千餘、恒春廳の所在地たり、憲兵屯署、警察署、郵便電信局、公立學校等あり、臺南府へ三十六里十五丁、總督府へ百十七里二十六町。

**こーしよーじ 興聖寺** 山城國宇治郡宇治村にあり、曹洞宗の一寺にして、道元和尚の開基たり、寺は後深草天皇の建立なりしが、年を経て頽廢せり、今の堂は慶安二年淀城主永井直正の再建なりと云ふ。○眞宗興正寺派本山にして、京都西本願寺の南方にあり、門跡寺院にして、正親町天皇の御宇第十七世顯尊上人勅許を被り門跡號を得たりと、もと山科にありしが、天正十九年今の地に移り本願寺に屬せしが、明治初年分離して、一本山となれり。

**こじよーてんじん 五條天神** 京都市松原通り四洞院にあり、桓武天皇莫都の時、玉城鎮護の爲に祀られたる社にして、少彦名神を祀る、一に天徳社と稱す。

**こじよーのおーはし 五條大橋** 京都賀茂川三大橋の一にして、古くは松原通り、今の松原橋の處にありしが、豊太閤大佛建立の時今の地に移せり、今の橋は明治十一年の架設にして、長さ四十八間三尺、市四間二尺、橋上の眺望極めて佳なり。



(橋 大 條 五)

**こじよーまち 五條町** 大和國宇智郡にあり、關西鐵道南和支線此地を通過す、此地もと松倉氏の居城地たりしが、元和以後徳川幕府の直轄地となり、代官を派遣して之を治む、郡役所、警察署、郵便電信局、區裁判所、稅務署及中學校等あり、文久年間天誅組の亂起り、藤本、吉村等の志士陣屋を襲ひ代官鈴木某を殺し、

吉野十津川に走りて遂に敗死す。

**こせまち 御所町** 大和國南葛城郡葛木山麓にあり、關西鐵道南和支線此地を通過す、人口五千餘、郡役所、警察署、郵便電信局、稅務署、工業學校等あり、木綿織物の産地として名あり、此附近に武内宿禰及蘇我入鹿父子の墓と稱する大阜小陵等あり。

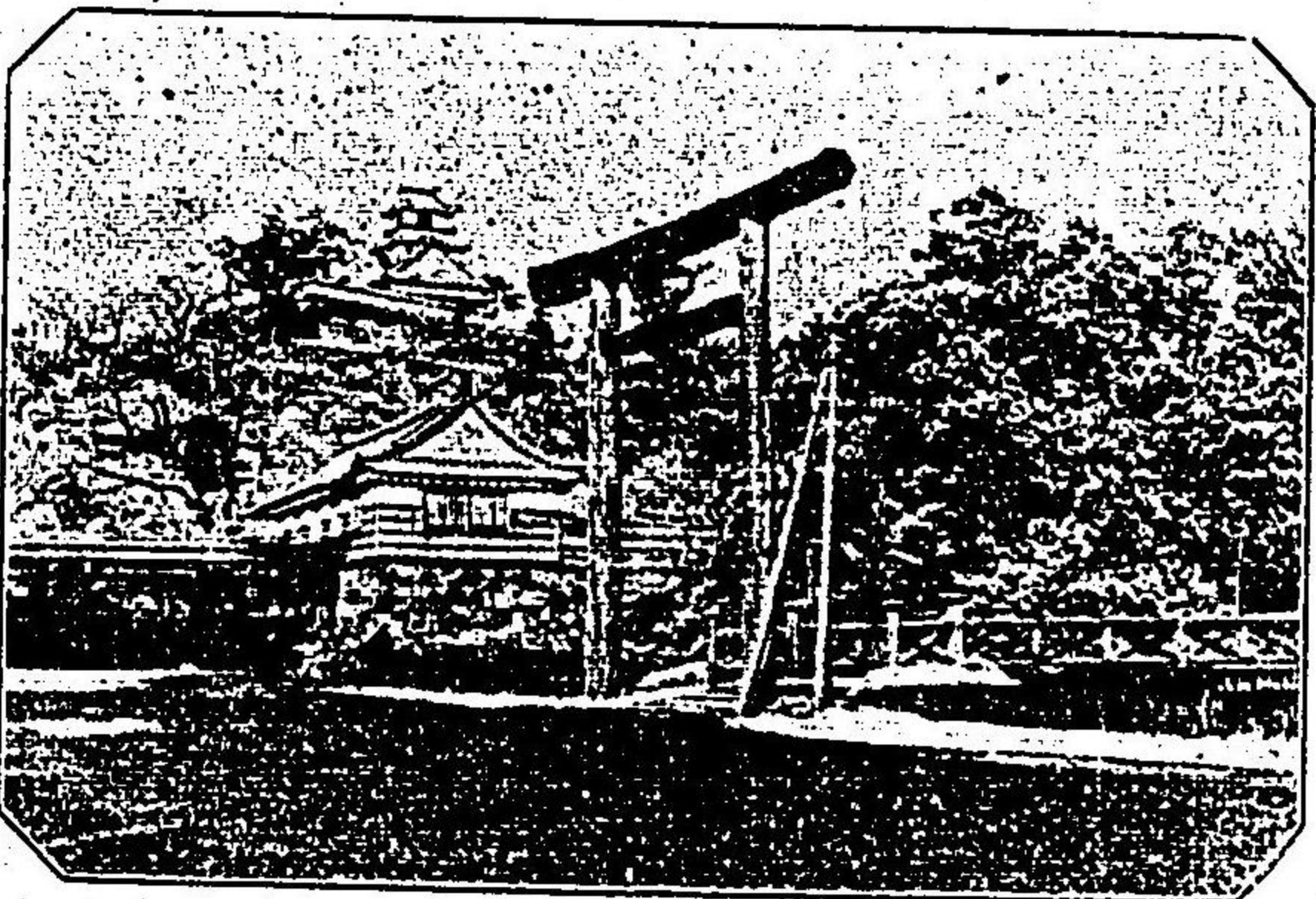
**こーせん 礦泉** 礦物を多く溶解含有する泉にして本邦の如き火山國にありては、其數多く、本島に三百九ヶ所、四國に九ヶ所、九州に七ヶ所、總て三百八十八ヶ所(北海道蘆海は除く)あり、而して其温度の高きを温泉と云ひ、低きものを冷泉と云ふ、其種類硫酸質のもの尤も多く、鹽質及鹽類質のもの之に次ぎ、炭酸質、鐵質のもの之に次ぐ。

**こせんまち 五泉町** 越後國中蒲原郡にあり、新潟市の南方七里二十九町、人口約六千、警察分署、郵便電信局等あり、五泉平と稱する稔地の産地として有名なり。

**こーだいじ 高台寺** 京都市下河原鷺尾町、雙林寺の南にあり、臨濟宗に屬す、此地は元雲居寺方丈の地にて、應仁の亂に燒失せしが、慶長六年豊臣秀吉の夫人、北政所菩提所として、之を再建し、今の名に改む、寺域一萬七千坪、堂宇壯麗を極めたりしが、先年火災に罹り、今は僅かに開山堂及豊臣氏の廟宇を存するのみ。

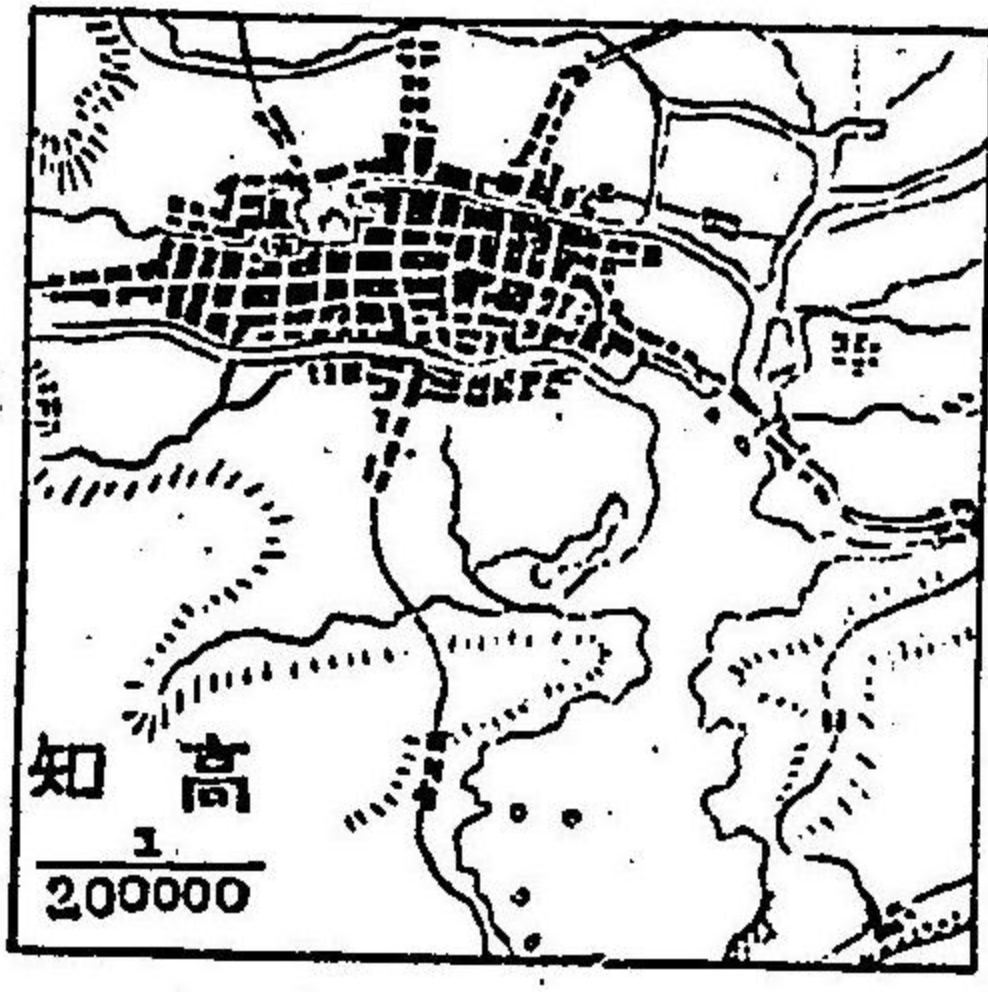
**こちくが 五智國分** 越後國中頸城郡直江津の西方にあり、此地には國分寺ありて、五智如來を安置するが故に此名ありと、海岸の風景殊によく、夏時來遊する者多し。

**こちし 高知市** 高知縣廳の所在地にして、東京を去る二百三十四里、土佐國土佐郡の南海岸、高知灣頭に位す、人口三萬五千餘、縣廳、郡役所、警察署、郵便電信局、地方、區裁判所、大小林區署、測候所、稅務署、海務署、師範學校、中學校、農學校、女學校等あり、此地は山内氏二十二萬石の舊城下にして、城は天正中長曾我部氏の築く所、もと大高阪城といふ、慶長



(城 知 高)





五年山内一豊封を此地に受け、爾來子孫世襲して維新に及ぶ、明治五年廢城と共に公園地となる。

**こーちけん 高知縣** 縣廳は高知市帶屋町にあり、土佐國一圓を管す、面積四百五十四方里餘、一市七郡七町百九十村より成る。

**こーちわん 高知灣** 土佐國土佐郡高知市前面の海灣を云ふ、長岡郡の四南端と、吾川郡の東端種崎と相對して、灣口を扼す。

**こーつ 國府津** 相模國足柄下郡にあり、小田原町の東北一里十七町、東海道鐵道此地を通ず、電氣鐵道は此地より起りて小田原及箱根に至る、海岸の風景極めてよく、夏時海水浴場の設あり、浴客多し。

**こーつひ 上野國** 東山道十三國の一にして、東は下總、下野に、西は信濃に、南は武藏に、北は越後岩代に接す、地勢、西北は山嶺起伏せるも、南方は平坦にして、關入州大平野の一部をなせり、國を別つて勢多、群馬、多野、北甘樂、邑樂、

佐波、碓氷、吾妻、利根、山田、新田の十一郡となし、群馬縣の管下に屬す、古へは下野と共に一國をなし、毛の國と稱す、崇神天皇の御代皇子豊城入彦命を東國の都督とす、子孫相襲ぎに在る數世、代々上野に治す、上毛野若是より起る、和銅年間改めて上野國を置く、天長三年親王の任國となし特に大守と稱す、鎌倉幕府の初、安達盛長當國の守護に任ぜられ、元弘年間新田義貞當國より起りて北條氏を誅し建武中興の偉業を翼賛し、次で當國の守護に任ぜらる、足利氏の世上杉氏守護となり子孫相傳で平井城に治す、戰國の時長尾、武田、北條諸氏の争奪の中心地となり、戰亂常に止まず、慶長年間徳川家康關東に移り平岩氏を厩橋に、本多氏を白井に、眞田氏を沼田に、奥平氏を宮崎に、松平氏を藤岡に、牧野氏を大胡に、菅沼氏を吉井に、松平氏を那波に、本多氏を入幡に、榊原氏を館林に封じ、後尙、總社、小幡、伊勢崎、安中、七日市の諸藩を起し、凡て十七藩あり、慶應の初年滅じて九藩となりしを維新後廢して岩鼻縣を置き、次で群馬縣を置きしが廢して熊谷縣に合せ、後又間もなく群馬縣を再置し縣廳を前橋に置きて全國を治む。

**こーつひてつぎ 上野鐵道** (私設) 上野國高崎市より起り、富岡市を経て、下仁田に至る、延長二十一哩。

**こーつひのさんび 上野三山** 妙義山、赤城山、榛名山

を云ふ、各條を見よ。

**こーつひのさんび 上野三碑** 上野國にある多胡碑、山上碑、金井澤碑を云ふ、各條を見よ。

**こーつさん 高越山** 阿波國麻植郡の西北境にあり、美馬郡に至る、高さ三千七百尺、一に衣笠山又阿波富士と稱す、麻植郡川田村より登り一里二十町、山頂に小洞あり、伊井踏尊を祭る。

**こーつじんじや 高津神社** 大阪府南區高津町一番町にあり、府社にして、仁徳、仲哀、應神、神功、履仲の四天皇一皇后を奉祀す、元は



(社 神 津 高)

大阪城の邊りにありしを天正十一年此地に移す、社地高燥、境内の舞臺に登れば、大阪全市双眸の中に集まる。

**こーつさしがはら 小手差原** 武藏國入間郡所澤町の西南にあり、古戰場にして、建武年間新田義貞、北條高時の將櫻田貞國を此地に破り、正平七年、義貞の子義宗義興等足利尊氏の兵と戦ひし處なり。

**こーつんば 御殿場** 駿河國駿東郡御厨町にあり、東海道鐵道通過す、富士登山の者多く此處より下車す、新道あり、一合目迄は馬車の便あり(御厨町参照)、相傳ふ、昔時徳川家康の遺骸を久能山より日光に遷さんとする時道に此に取りしが、旅館なく、新に假殿を設けたるより其名ありと。

**こーつんやま 御殿山** 武藏國荏原郡品川町の西、東海寺に聯れる高丘を云ふ、昔時太田道灌居住の地なりと云ふ、寛永年間將軍家御狩の御殿ありしを以て此名ありと、又言ふ慶長の頃此地に省耕の御殿ありしを以て其名ありと、古來櫻花の名所として知らる、陽春の候杖を曳く者多し。

**こーつー 五島** 肥前國の西海中にあり、一に五島列島、松浦五島とも云ふ、尙ほ「まつら」と「い」を見よ。

**こーつーしや 紅島嶼** (Kii-ang-tai-sai) 臺灣の南岬を距る東北二十里、燒山嶼の南方海中に横はる、周回十二里、面積六方里、島來種に屬する蕃人の六社あり、人口僅に一千二三

百にして、言語風俗頗る本島と異なり、漁業に従事す、島中椰子樹多し、西人は此島を Bolei-Island. と稱す。

**こひきん 琴曳山** (琴弾山) 讃岐國三豊郡觀音寺町の東方にあり、四方一面の海にして、海岸には白砂青松相連り、山上の眺望極めて佳なり、山麓に觀音寺公園あり、山上に入幡宮を奉祀す、祀畔の風景極めて佳なり、古歌あり、「松風にむかしのしらべかよひ来て、今にあとあることひきの山」。

**こひらじんじや 金刀比羅神社**

(琴平神社) 讃岐國仲多度郡琴平町象頭山にあり、國幣中社にして、大物主神及崇徳天皇を奉祀す、其創建年月詳かならざれども、慶長頃より大に現はる、昔時は金毘羅大権現と稱し、松尾寺之が別當たりしが、明治の初年神社となし、今の名に改む、海内無比の靈祀と稱せられ、昔時より参客の多き、殆ど全國第一に位す。

**こひらまち 琴平町** 讃岐國仲多度郡象頭山麓にあり、舊



(社末社神羅毘刀金)

名松尾村、明治維新の際今の名に改む、丸龜市を距る南三里半、警察分署、郵便電信局、小林區署、區裁判所出張所等あり、山陽鐵道讃岐支線は高松より起り多度津を経て、此地に至る、金刀比羅神社あるを以て、参客四方より集り、市街大に賑ふ。

**こひのうら 郷浦** 讃岐國安岐郡の南海岸にあり、當國の名邑にして、其前面に郷の浦港あり、東西七町南北一町四十間水深七仞三尺、附近暗礁多く、淨賀島瀬戸の如き航海難を以て名あり。

**このがは 江川** 石見國にあり、備後三次川の下流にして、安藝の國境より北流し、轉々諸小流を合して那賀郡の東部を経て郷の津港に注ぐ、流域五十里、川口より二十二里舟楫の便あり、一に石見川とも云ふ。

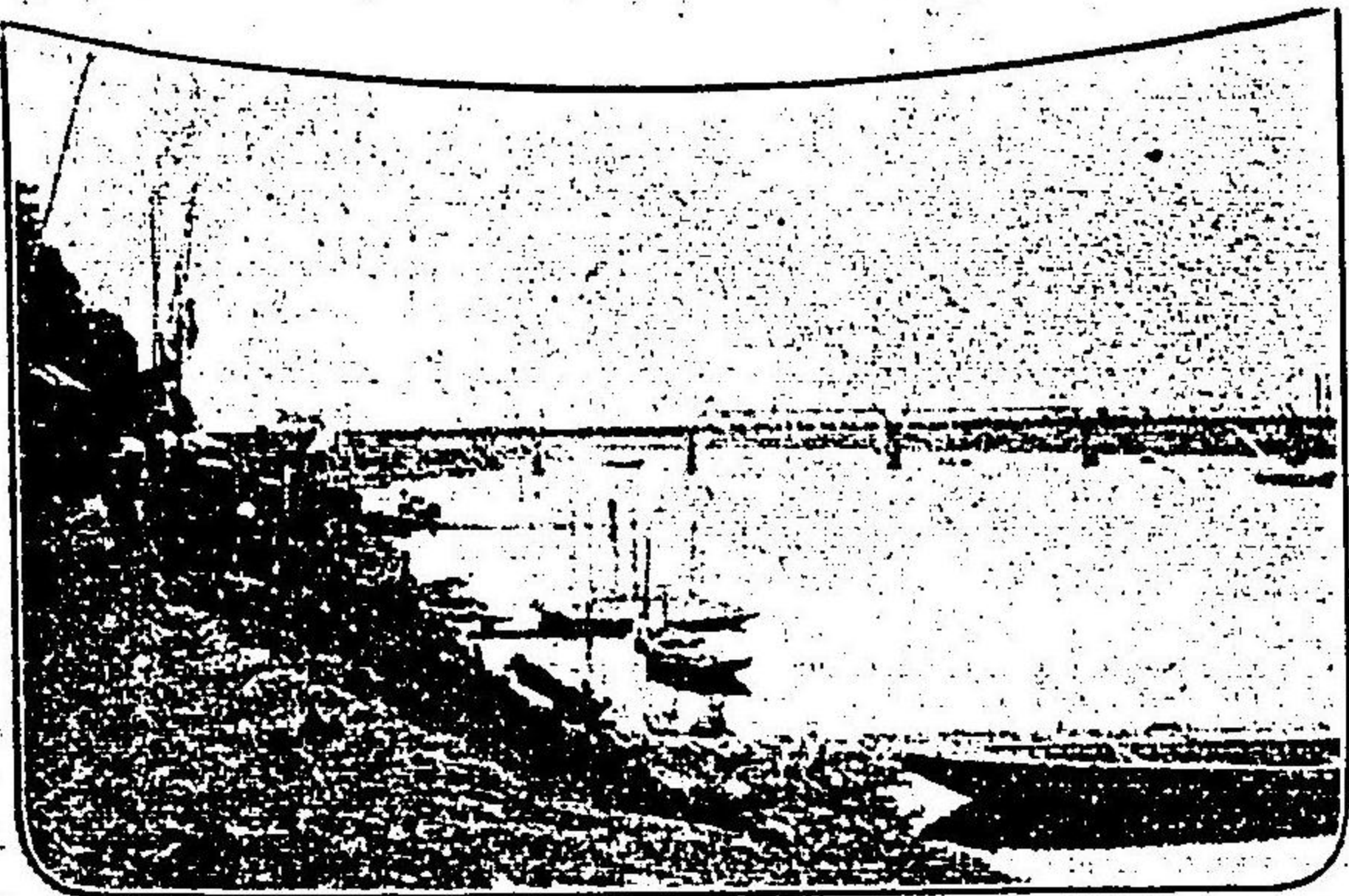
**ここのすまち 鴻巣町** 武蔵國北足立郡にあり、郡の北端に位し、熊谷町を距ること四里十六町、人口五千餘、日本鐵道、大宮、前橋間の停車場あり、中仙道の一驛にして、今は警察分署、郵便電

信局、區裁判所出張所等あり。

**このたけ 國府台** (鴻の臺、高野臺) 下總國東葛飾郡市川町の北方なる高丘を云ふ、曹洞宗總持寺此地にあり、元下總國府のありし處にして、江戸川に臨み、綠樹鬱茂、風光甚だ佳なり、明治に至りて教導園を置きしが、近年廢して、今は野戰砲兵第二旅團の所在地たり、天文、永祿の兩度、里見義弘、北條氏綱、氏康と戦ひし古戰場として有名なり。

**こほく 五泊**

奈良朝時代に僧行基の定むる所にして、櫻生泊、(播磨國揖保郡室津) 津泊、(同



(橋鐵の川市)

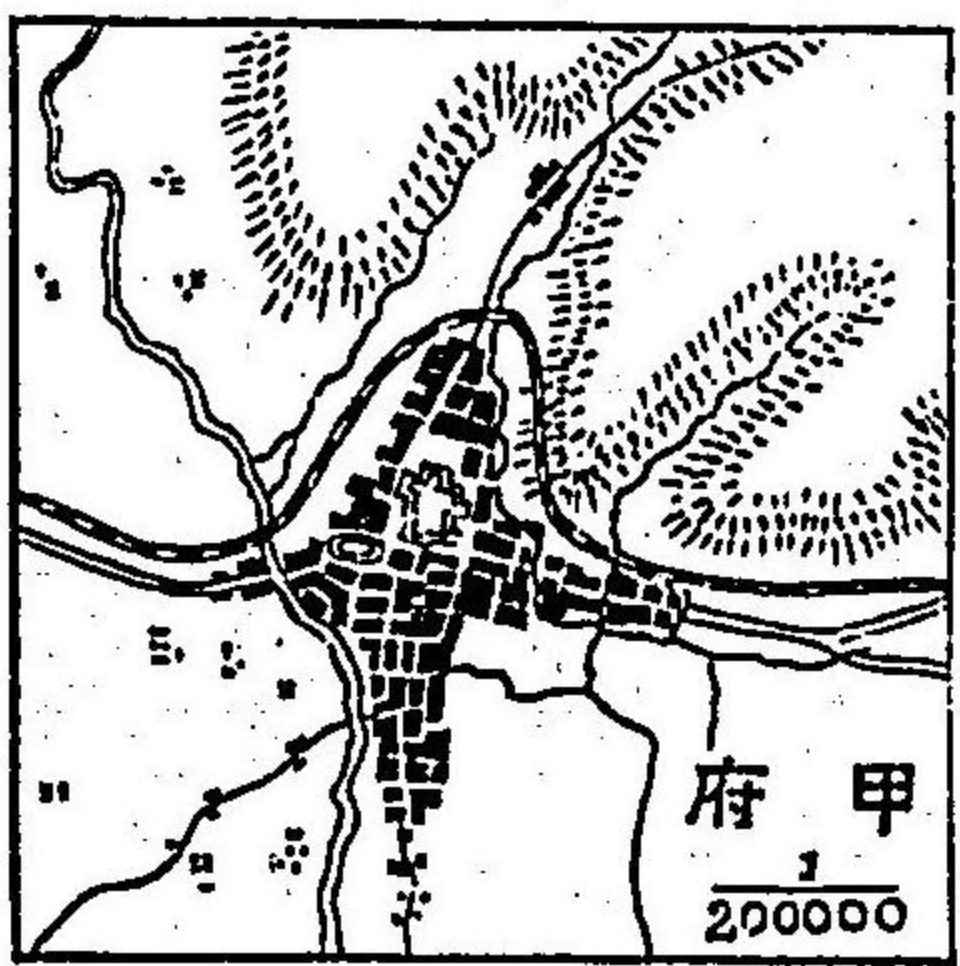
加古川口の邊)。魚住泊、(同明石郡大久保村)。大輪田泊(攝津國武庫郡兵庫の邊)。河尻泊(同川邊郡澁川尻)。の五に泊して以上各一日程なりと稱す。

**こぼた 木幡** 山城國宇治郡にあり、もと紀伊郡伏見山の東面迄の總稱なりしを、今は櫃川を以て郡界となし東部のみを稱す、奈良、宇治より伏見、大津に通ふ岐路此に分れて金辻と云ふ、今關西鐵道京都支線の一驛あり、古歌あり、拾遺集に「山城のこぼたの里に馬はあれど、かちよりぞ行く君を思へば」(人丸)、新撰古今集に「かち人の道ぞ思ふ山しるの、木幡の里のあきの夕暮」(後京極攝政)、其他多し、附近に藤原氏歴代の墳墓並びに皇妃皇子の陵墓多し。

**こび 瀧尾** 臺灣の淡水港の別稱、同條参看。

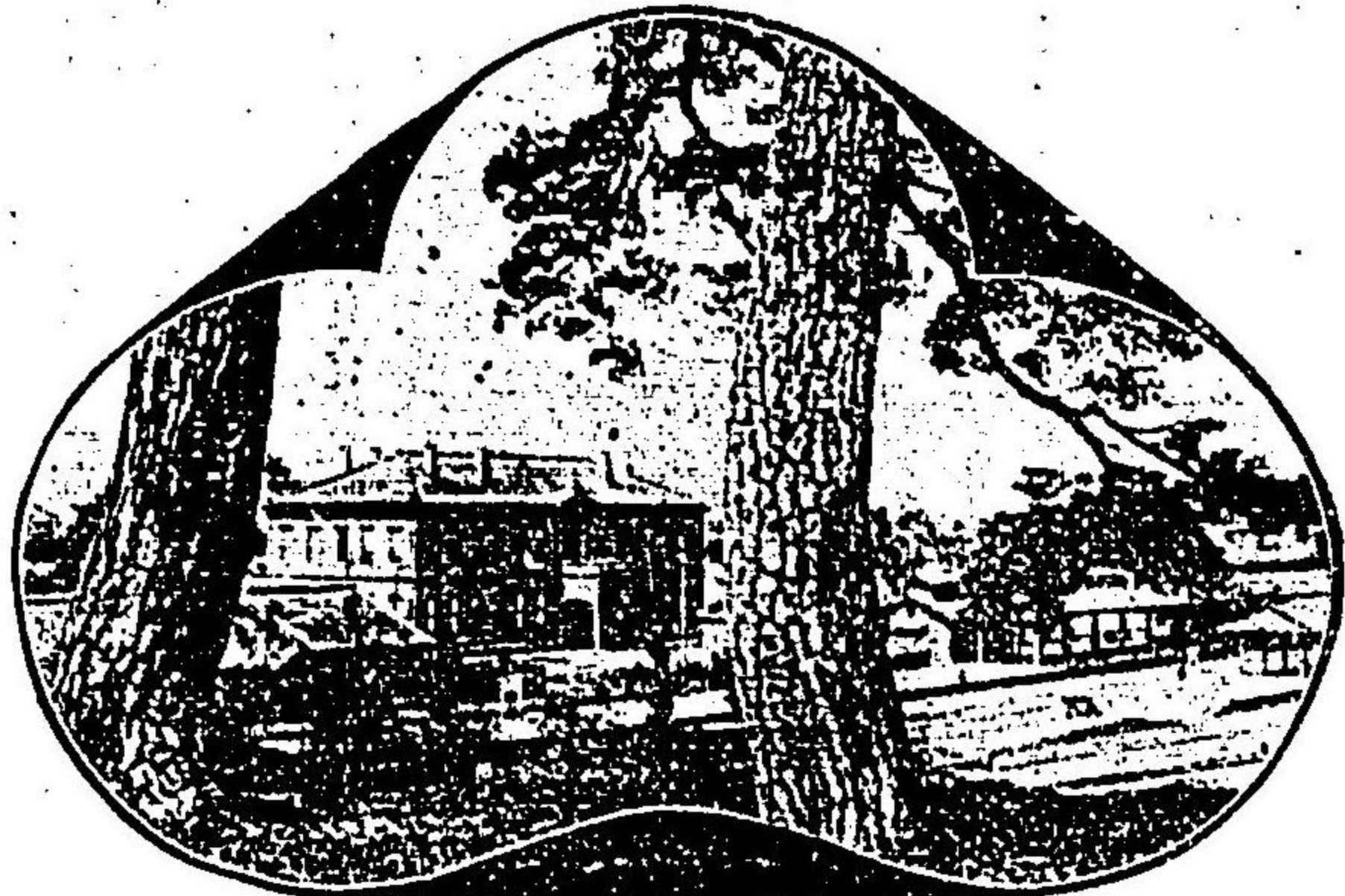
**こぶ 古府** 甲斐國にあり、「つつじがさき」を見よ。

**こふし 甲府市** 山梨縣廳の所在地にして、甲斐國の中央山梨郡の西南方に位す、東京を距る三十四里、近時中央鐵道の開通あり、交通極めて便なり、縣廳



及地方裁判所、郡役所、警察所、郵便電信局、監獄署、測候所、  
税務署、師範學校、中學校、高等女學校等あり、もと府中と稱  
す、郡内各地の物産集散地にして市況甚だ盛なり、市の東  
南に公園あり、又北方に古府城址あり、一に舞鶴城とも云  
ふ、慶長の初年淺野長政封を此地に受け初て築城せる所と  
す、其後徳川義直、同忠長等を  
經て幕府の直轄地となり、城  
代を置いて治めしが、後之を廢し  
て徳川綱重其子綱豊を封じ、次  
で五代將軍の世柳澤吉保に賜ひ  
しも、間もなく之を收めて直轄  
地とし再び城代を置く、維新後  
廢城となり、今僅かに其石垣の

(場車停府甲)



僅かに其石垣の

ム左す。

二一 興

福寺 南都

七六寺の一にして、奈良市

猿澤池の北方にあり、藤原

鎌足の祈願にして夫人鏡女

王の創建とす、もと山城

宇治郡にありて山階寺と稱

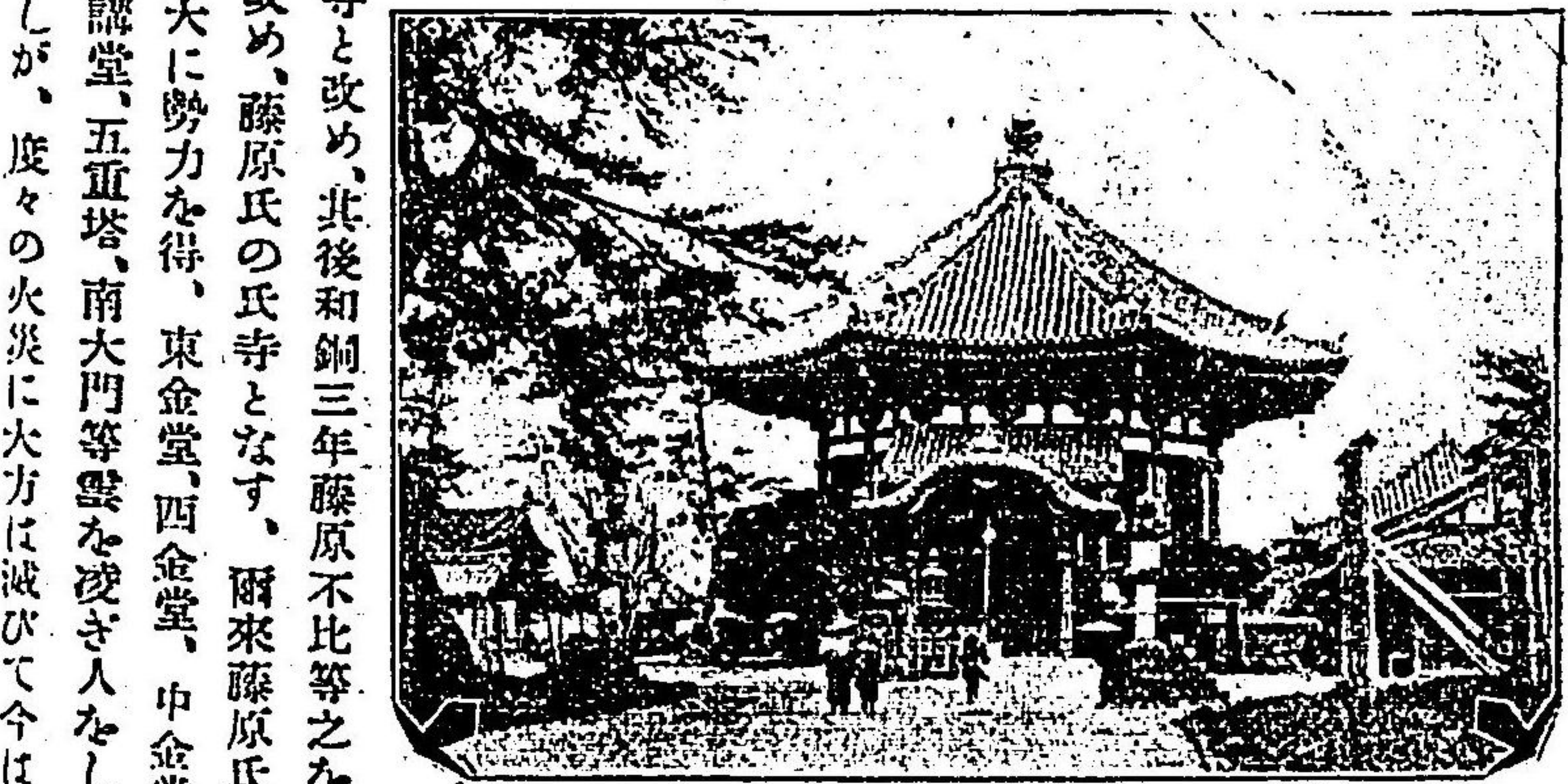
せしが、天武天皇の朝に大

和國高市郡廢坂に移し、厩坂寺と改め、其後和銅三年藤原不比等之を奈良

に移し、今名に改め、藤原氏の氏寺となす、爾來藤原氏の全

盛と共に本寺も大に勢力を得、東金堂、西金堂、中金堂、南

四堂、北四堂、大講堂、五重塔、南大門等雲を凌ぎ人をして其



(堂四南)

五重塔、南圓堂、北圓堂其他二三を存するのみ。

二二 甲武鐵道

(私設) 東京飯田町より起り、  
甲州街道に沿ひて八王子に至り、官設中央鐵道に會す、延長  
二十七哩あり。

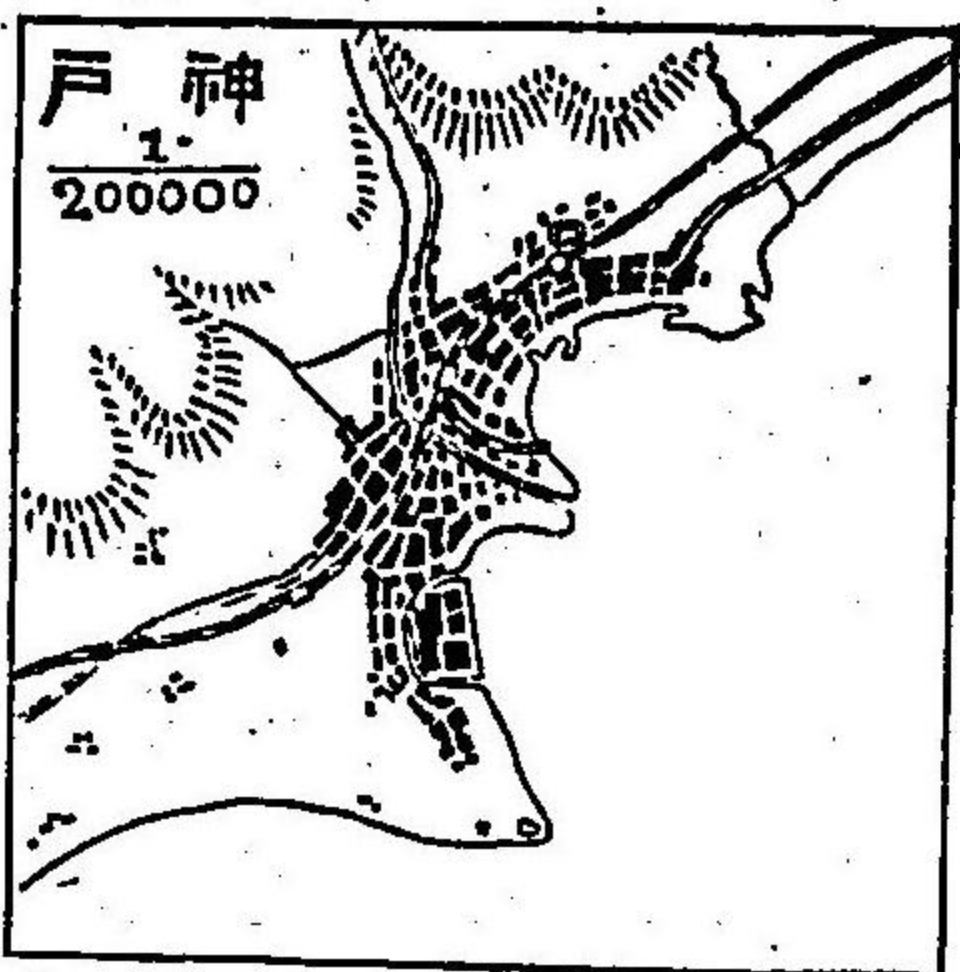
二三 甲府平原

山梨縣甲斐國甲府附近の平野  
を云ふ。

二四 神戸市

兵庫縣廳の所在地にして、攝津國武庫  
郡の西南海岸にあり、東京を距る百五十里、大阪の四方九里  
三十一町、東海道鐵道は

此地に於て山陽鐵道と連  
絡す、湊川以東を神戸と  
し、以西を兵庫とし、合し  
て神戸市と云ふ、縣廳、警  
察署、郵便電信局、地方、  
區裁判所、税關、稅務管理  
局、港務署、海港檢疫所、  
測候所、小林區署、高等商  
業學校、師範學校、中學校、女學校、工業學校、鐵道局出張所  
等あり、此地はもと一砂濱たりしが、慶應三年神戸港を開き  
て五市場となすに至り、日に月に繁盛となり、今や全國都市  
の第五位を占むるに至れり、尙ほ次條及兵庫の條參照。



二五 神戸港

日本五港の一にして、攝津國神戸  
市の南面にあり、東四十町、南北十六町、水深満潮の時八仞、  
本邦港灣中横濱に次げる良港なり、此地はもと兵庫につづ  
ける一帯の砂濱たりしが、慶應三年初て開港して、五市場と  
なすに及び、日々に繁昌して今は全國開港場の第二位を占  
むるに至れり。

二六 小佛嶺

武藏國南多摩郡にあり、相模國  
に亘る、甲州街道第一の險路にして、海拔一千五百餘尺、小  
佛、小原兩驛間に位す、八王子町を距る二里三十餘町、永祿  
四年武田信玄の兵北條氏の軍と戦ひし古戰場たり。

二七 御坊町

紀伊國日高郡日高川口にあり、一に  
日高の御坊とも云ふ、熊野街道の一驛にして、人口五千餘、  
郡役所、警察署、郵便電信局、區裁判所、稅務署等あり、此地  
に有名なる本願寺の大伽藍あり、日高の御坊と稱す、湯川直  
光の建立と稱す。

二八 駒飼驛

甲斐國東八代郡笹子峠の西方にあ  
り、笹子驛へ二里七町、勝沼驛へ一里十七町をへだつ、甲州  
街道の要地にして、昔時武田勝頼が、部將小山田信茂に欺か  
れたる處たり。

二九 駒嶽

木曾山脈に屬し、信濃國上伊那、西筑  
摩の兩郡に跨る、高さ九千五百餘尺、四筑摩郡駒根村大字

上松より四里八町にして、山頂に達す、山上の眺望極めて快  
 楽なり。①赤石山脈に属し、上野國利根郡にあり、越後國北  
 魚沼郡及岩代國南會津郡に至る、高さ六千六百餘尺あり、山  
 形圓錐體をなし、山上に火口あり。②甲斐國北巨摩郡の南  
 四方にあり、高さ九千九百餘尺、駒城村字横手より五里にし  
 て山頂に達す。③岩代國南會津郡の西南部、帝釋山の北方  
 にあり、高さ七千三百餘尺、五峯より成る。④陸中國勝澤、  
 和賀の兩郡に跨る、高さ三千八百餘尺、和賀郡夏油温泉より  
 登り二十五町。⑤北海道渡島國茅部郡の海濱にあり、千島  
 火山系に属する噴火山にして、高さ三千二百餘尺、一に内浦  
 嶽とも云ひ又渡島富士とも云ふ、函館の正北に位す、明治三  
 十八年噴火せり。⑥相模國足柄下郡の西方にあり、高さ四  
 千四百餘尺、箱根町より登り三十一町餘。

**こまがわむら 小松川村** 尾張國東春日井郡にあり、名古屋市  
 の北方四里三町に位す、人口四千餘、警察分署、郵便電信局、  
 區裁判所出張所あり、西方小牧山は、徳川豊臣兩氏の古戦場  
 として有名等なり、近年此地を公園となし、山上に一館を設  
 けて創垂館と云ふ。

**こまがやま 小牧山** 尾張國東春日井郡小牧町の西方にあ  
 り、一に飛車山とも稱す、高さ一千百餘尺、山上小牧城址あ  
 り、弘治二年織田信長の築きし處と云ふ、天正十二年三月

織田信雄徳川  
 家康兵を合し  
 て此地に陣  
 し、豊臣秀吉  
 の別將三好秀  
 次の軍を長久  
 手に破り池  
 田、森の諸將  
 を討取り、大  
 に秀吉の軍を  
 苦めし處とし  
 て知らる。



(山 牧 小)

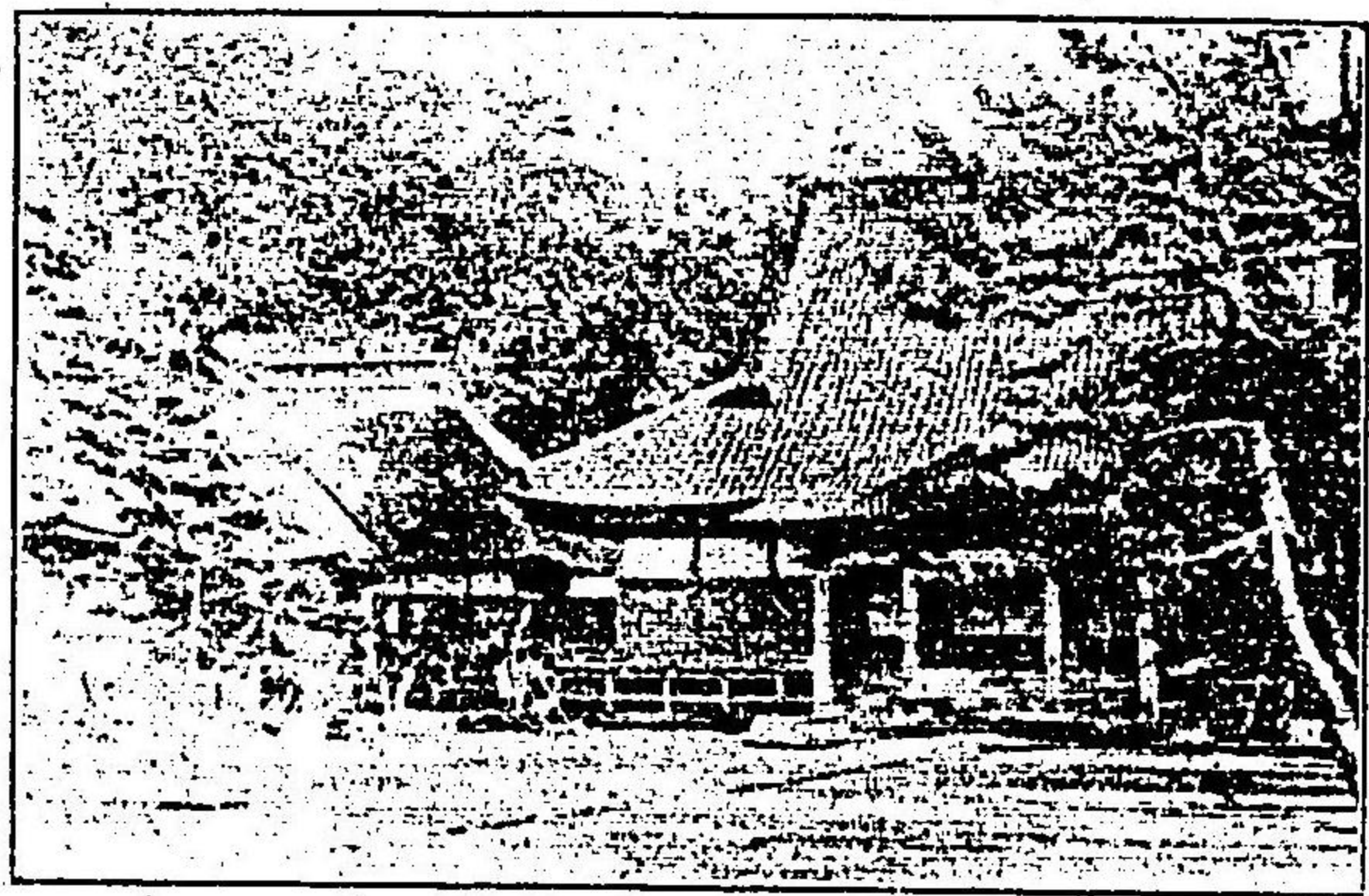
**こまがわむら 小松川村** 武蔵國南葛飾  
 郡、東京市本  
 所區の東方にあり、人口二千餘、郡役所、警察署、郵便電信  
 局、稅務署、區裁判所出張所等あり、徳川時代將軍家遊獵地  
 の一として知らる。

**こまつじまむら 小松島村** 阿波國勝浦の東北部にあり、  
 當國の名邑にして、郡役所、警察署、郵便電信局、區裁判所出

張所等あり、小松島港は其前面に位し、水深九仞、良港なり。  
**こまつまち 小松町** 加賀國能美郡にあり、金澤市の西南八  
 里十九町、北陸鐵道は此地を経て金澤に至る、郡役所、警察  
 署、郵便電信局、區裁判所、稅務署、中學校、農學校等あり、粗  
 茶、油、等の産地として名あり、此地もと村上義明の城址に  
 して、後ち丹羽長重の居城地となり、慶長年間前田利長の歸  
 路を扼せしこと史に見ゆ。

**こみかどじんじや 小御門神社** 下總國香取郡滑河町の東  
 南小御門村大字名古屋にあり、文貞公藤原師賢の靈を祀る、  
 現今別格官幣社たり、師賢は族姓花山院、後醍醐天皇に仕へ  
 て忠勤を擢んで、元弘の變に、叡山に登り僧兵を募りしが謀  
 離し遁れて笠置に至り、笠置陥るに及び北條氏の爲めに  
 捕へられ、下總に流竄せられ、元弘二年終に其地に歿す、爾  
 來五百有餘年、忠魂空しく荆棘の中に埋没せられ、跡弔ふ人  
 もなかりしが、安政年間下總の人伊能某の着目する所とな  
 り次で清宮某の公家墳考の著あり、初めて其埋骨の地知ら  
 れ、明治十年には特旨を以て小御門神社の神號を下賜せら  
 れ、次で社殿の新營成り、十四年九月別格官幣社に列せら  
 る、然るに其塚制は全く上古のものにして當時のものなら  
 ず、且其墳墓の地も海濱ならざるべからずとの理由を以て  
 同神社の此地に指定建設せられたるを惜むもの多し。

(寺 明 光 倉 鎌)



**こみなと 小湊** 安房國東北隅の海濱にあり、此處に日蓮宗  
 の巨刹誕生寺あり、日蓮上人誕生の地として、信徒の崇敬殊  
 に篤し、境内の誕生水は日蓮誕生と同時に涌出せりと、今尚  
 ほ病氣平癒の功驗ありとして用ひらる、(たんじょうじ參  
 照)。

**こみやうじ 光明寺** 京都市東山黒谷  
 にあり、淨土  
 宗鎮西四個の  
 一本山たり、  
 此地はもと法  
 然上人閑居の  
 地にして紫雲  
 山と號し、又  
 金戒光明寺と  
 稱す、もと單  
 に白川禪房と  
 稱せしが御宇  
 多天皇の時光  
 明寺の號を給

へるなりと、昔時熊谷直實の隠遁後住したる處、熊谷堂は勢至堂の下にあり、又北庭に鏡の池あり、熊谷入道鏡を洗ひし處なりと云ふ。○相摸國鎌倉の南海岸宇乱橋材木座にあり淨土宗にして、天照山と號す、仁治元年五年北條經時の建立にして、もと蓮華寺と稱し佐介ヶ谷にありしが、寛元元年今の地に移して光明寺と改む。○羽前國山形市七日町にあり、時宗に屬す、天授年中最上兼頼の創建する處にして、僧覺海の開基と稱せらる。

**こむかいばいせん 小向梅園** 武藏國橋本郡御幸村大字小向にあり、川崎停車場を距る約二十五町、園内梅の稗樹多し嘗て今上陛下の行幸を以てその名遠近に知られたり。

**こんげんごーかわ 權現堂川** 利根川の分流にして下總國東葛飾郡新郷村と武藏國北葛飾郡栗橋町との間より武藏下總兩國界を東南に流れ、北葛飾郡權現堂川村に至り東轉して東葛飾郡に入り關宿に至り赤川川と合す。

**こんごーざん 金剛山** 葛城山脈の一峰にして、河内國南河内郡にあり、大和國南葛城北葛城兩郡に亘る、一に葛城山又高天山とも云ふ、海拔四千餘尺、大和國南葛城郡高天山より登り一里十四町、河内國南河内郡千早より登り廿八町、上に金剛山寺あり一に釋法輪と云ふ、役小角の開基と稱せらる、有名なる千早城址は山の四方半段にあり、楠正成の築く所、

遺址今猶存す、山の北方水越嶺は河内より、大和に通ずる山路にして楠氏の吉野行宮へ往還したるは此路を取れりと。  
**こんごーざんじ 金剛山寺** 大和國生駒郡矢田村にあり天武天皇の勅額所にして、白鳳四年の建立と稱す、眞言宗にして俗に矢田寺と云ふ、本尊は地藏菩薩にして、世人の信仰頗る厚し。

**こんごーじ 金剛寺** 河内國南河内郡天野村天野山にあり、眞言宗にして僧行基の草創と稱せらる、正平九年後村上天皇此地に御遷幸あり、塔頭摩尼院を以て行在とし伽藍の食堂を假に政廳とし、同十四年迄此地に駐まり給へり、世に天野殿と稱す。

**こんごーしよじ 金剛證寺** 伊勢國度會郡朝熊山上にあり、臨濟宗に屬し京都南禪寺の末寺なり、其建立年代詳かならず、大同年間僧空海の中興と稱せらる、中世衰微せしを建長年間僧東岳此地に來り重修し、是に始めて禪眞兩宗を兼ね、城内に香海庵及び富士見臺あり、眺望絶佳と稱せらる。

**こんごーふくじ 金剛福寺** 土佐國幡多郡清松村にあり、眞言宗の巨刹にして、弘仁三年嵯峨天皇の勅願によりて、僧空海の建つる處と稱す、寛永年中山内忠茂再建す。

**こんごーぶじ 金剛峯寺** 紀伊國伊都郡高野山上にあり、眞言古義派の大本山にして、弘仁七年僧空海の開く處、寺城

六十七萬五千坪、寺院七百二十三宇、支院四百四十字、數千



(亭月觀全)

(山野天) (門總寺剛金)



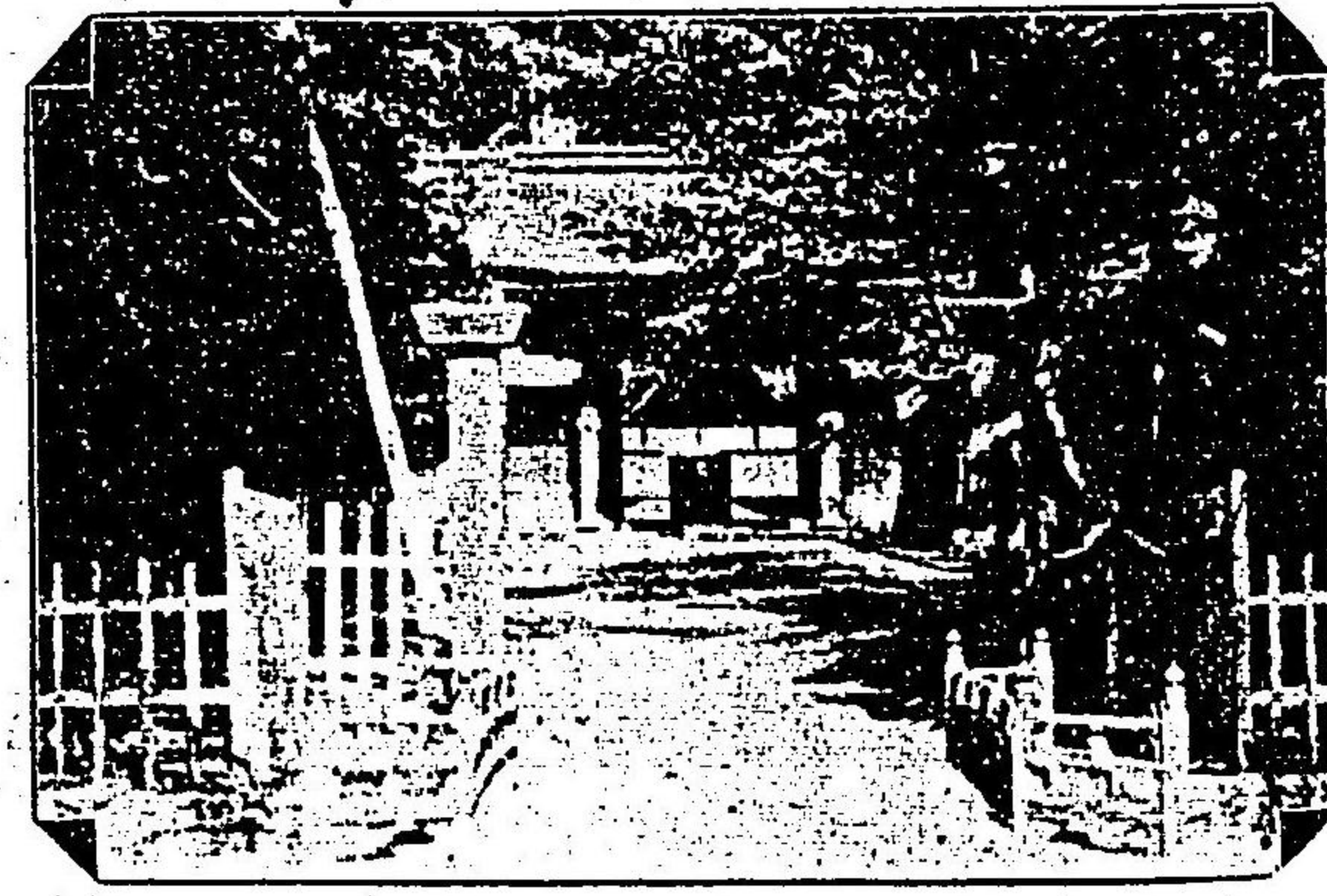
の僧徒ありて、中古以來盛なりしも、維新の頃大に衰へ、殊

に明治廿一年

火災ありて金山殆んど烏有に歸し、益々疲弊せしも、今尚ほ數千の寺院を存し、殊に維新前諸大名より獻ぜし石塔婆は、寺より奥の院に至る五十町の道路の右左に林立して、登山者の目を驚かしむ。

**こんごーぼーじ 金剛寶寺** 紀伊國海草郡三井寺村にあり、俗に三井寺と稱す、「きみいでら」を見よ。

**こんじきごー 金色堂** 陸中國磐井郡中尊寺内にあり、天仁二年藤原清衡の建つる處、三間四面の堂宇にして、黒漆を塗り金箔を貼し金光燦爛たり、内部は鍮柱彫染、螺鈿珠玉を裝



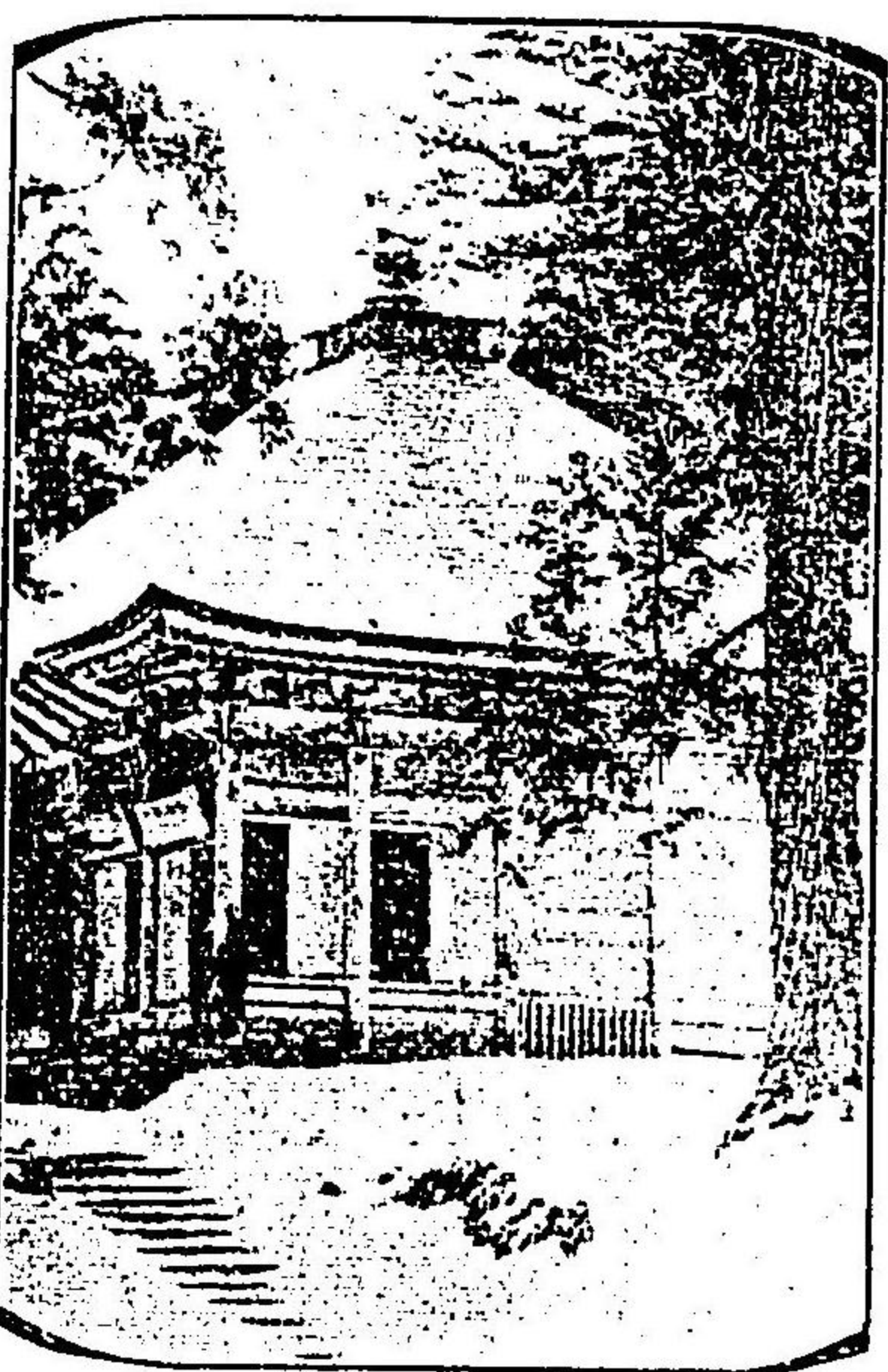
(寺峯剛金山野高)

ひ、實に金色堂の名に反かず、藤原時代美術の精華を集めたものにして、今特別保護建造物たり、堂内今猶清衡以下三代の棺を納む。

こんぞーじ

◎金藏寺、京都西山の名刹にして、乙訓郡大原野村にあり、養老三年の創立にして、僧行善を開基となす、俗に西岩倉とも稱す、天台宗に属す。◎金倉寺、讚岐國仲多度郡龍川村大字金藏寺にあり、仁壽元年僧圓珍の創建にして、寛永年中國守松平頼重の再建と稱す、舊稱道善寺、後今の名に改めたりと、附近に山陽鐵道讚岐支線の金藏寺驛あり。

◎こんだ 譽田 河内國南河内郡古市村にあり、古くはほむだと呼びしを後に訛りて「こんだ」と云ふ、正平二年楠正行細川顯氏を此に破り、明應二年畠山義豊此に畠山政長の軍と戦ひ、元和元年大阪役眞田幸村伊達氏の軍と激戦せるの地として知らる、應神天皇惠我孫伏魔陵此地にあり、有名な譽田八幡宮も亦此處にあり。



(堂 色 金)

こんちいん 金地院 山城國洛東南禪寺城内の西南にあり、應永年中大業和尚の開基にかかる、文祿慶長の頃住僧崇傳(本光國師)徳川家康の知遇を得て國政に參與す、是より徳川氏の世を終る迄臨濟宗五山録所たり、堂宇は、伏見城桃山殿の舊構を移せるものなりと、城内に東照宮廟あり。

こんびらこんげん

余毘羅權現 讚岐國琴平神社の舊稱、「ことひら」を見よ。

こーむら 國府村

概ね諸國にあり、往昔國府の所在地の名残なるべし、「こくぶ」を見よ。

こんりゅうじ 金龍寺

攝津國三島郡新守村字成合村の山腹にあり、高槻驛を距る約三十町、延暦年間參議阿部是雄の草創にして、遷返山と號し、天台宗に属す、念佛上人を開山とす、其後山を金龍寺山と稱し、山上の眺望極めて佳なり、山中多く松茸を産す。

こもろまち 小諸町

信濃國北佐久郡千曲川の東岸にあり、上田町の東方四里三十一町に位す、高崎直江津間の鐵道停

車場あり、北國街道の要路にして人口八千餘、郵便電信局、警察署、區裁判所出張所等あり、慶長の初年仙石秀久此地を領したりしが、其後青山氏を経て、牧野氏の領となり、遂に維新に及べり、小諸城址は町の西部にあり、一に乙女ヶ城と云ひ武田晴信の築く所とす。

こーやさん 高野山

紀伊山脈に屬し、紀伊國伊都郡の南部にあり、高さ二千八百餘尺、峰巒連亘數里、山上別に一高原を爲す、此處に金剛峰寺あり、僧空海入定の地にして、信者の登山する者常に多し、一に南山とも云ふ、尙ほ「こんごーぶじ」を見よ。

こーやてつどー 高野鐵道

(私設)大阪沙見橋より起り、和泉の堺市を経て、河内の長野に通ず、他日紀伊高野山に通ぜんとの豫定なり、延長十七哩三十一鎖。

こやでら 昆陽寺

攝津國川邊郡稻野村大字寺木にあり、崑崙山と稱す、天平年間僧行基の開山にして、古義眞言宗に屬す、開山塔は行基を埋葬せる處、境内昆陽の池は行基の開鑿にして周囲三十三町あり、傳へ云ふ天平五年僧行基當寺を開基し、池を造り旧を壘き院家に施入し、寡孤廢疾を救治し攝津第一の名刹と稱せられしと、天正年中火災に罹り、後僅かに造營す。

こやの 昆陽野

攝津國川邊郡稻野村、伊丹町の西方を云

ふ、大字昆陽は驛舎にして伊丹を距る十餘町、其北に昆陽池あり、夫木抄に「夕されば木のまの月しくらければ、たゞりぞわたるこやの松原」及び堀河百首に「いかばかりいぶせかるらんこやの池、みくさのものとすだく蛙は」等は皆此地につきて詠めるなり、建武二年赤松圓心京師に入らんとして此に陣す、天正六年織田信長花隈を攻めんとして此に陣せること史に見ゆ。

こやべがわ 小矢部川

(小谷部川)越中國にあり、西瀛波郡大門山より發し、栗殼嶽の東境を環りて射水郡に入り、射水川と合して富山灣に入る。

こやまけ 湖山池

因幡國鳥取市の西方一里、氣高郡にあり、東西一里、南北二十二町、周圍三里二十六町、青島以下五島あり、池中、鯉、鮒、鰍等の産多く、沿池八ヶ村多く漁業に従事す、湖中八景の勝あり、鳥取市人の杖をひく者常に多し。

こゆまち 御油町

三河國寶飯郡にあり、東海道五十三次の一驛にして豊橋町を距ること二里二十三町、郡役所、警察署、郵便電信局等あり、東海道鐵道御油停車場は町の南方里餘、御津村字西方にあり、御油城址は字今齋にあり、俗に狐屋敷と稱す、文安年間稻石某の築く所といふ。

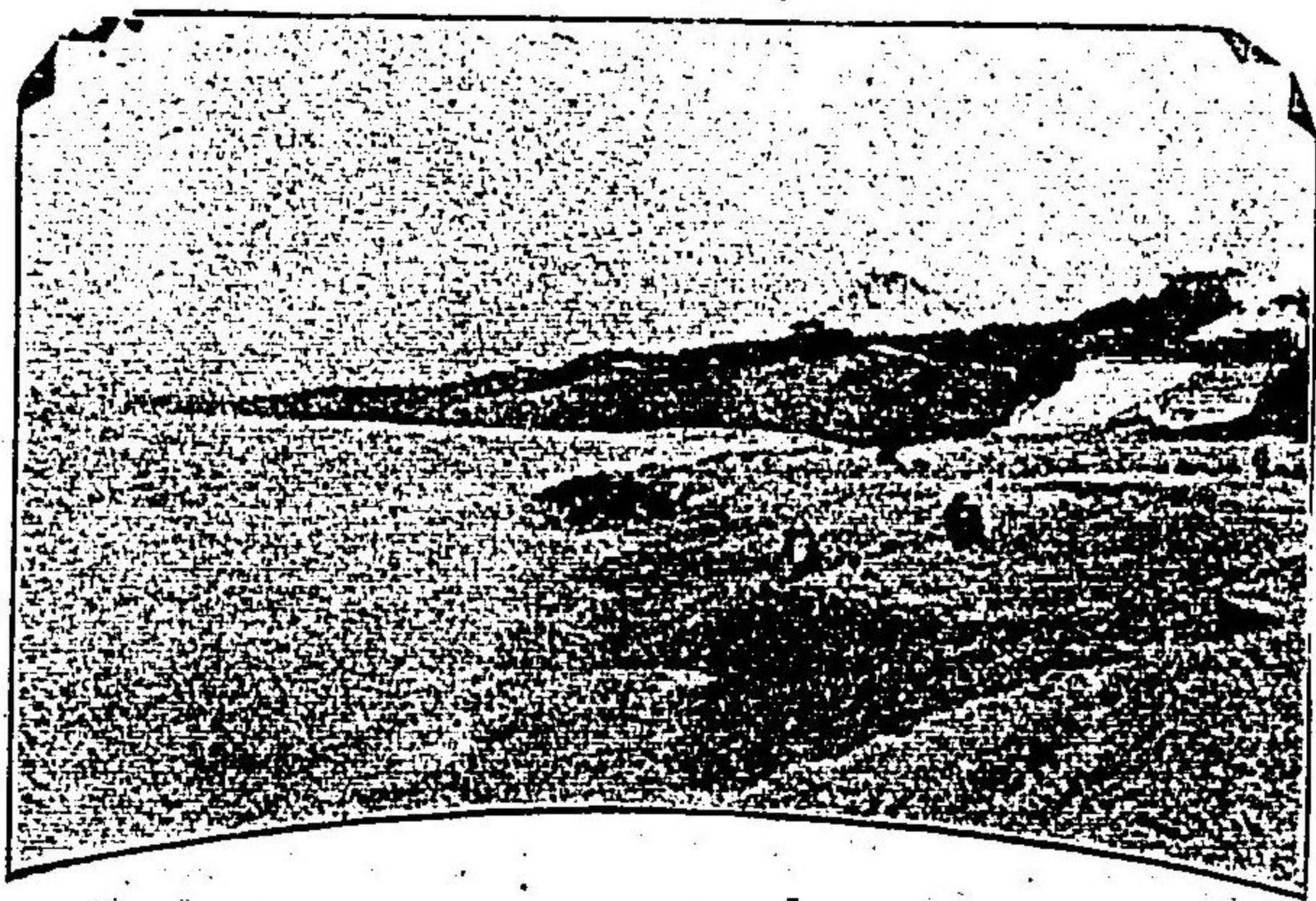
こゆるぎのいそ 小洵綾磯

相模國大磯附近の海岸なりと

雖詳かならず、東海道名所圖會には小湊の磯は河匂より大磯までの磯遊なるべしとあり或は然らんか、古へより東國の名所として古歌などに數多よまれたり、古今集に「玉だれのこがめやいづら小山留幾の、磯の波わけ沖に出でにけり」、「こゆるぎの磯立ちならし磯菜つむ、めざしわらすな沖に居れ波」、夫木集に「鶴もすみ松も生たるこゆるぎの、磯のあまさへ千代をこそ祈れ」、兼好集に「こゆるぎの磯より遠くひく汐に、浮べる月は沖に出でにけり」。

**こよしがわ 子吉川** 羽後國にあり、源を山利郡島海山の麓に發し、東北に流れて諸川を入れ、更に西北に走りて矢島町を過ぎ、半瀬川を合せて西流し、本莊町に至りて、古雪港に入る、流域十八里、一に矢島川と稱し、下流を古雪川とも云ふ。

**こいらいばし 高麗橋** 大阪市の中央にあり、各地に至る里程元標の在る處にして、東區東横堀に架す、明治三年九月の



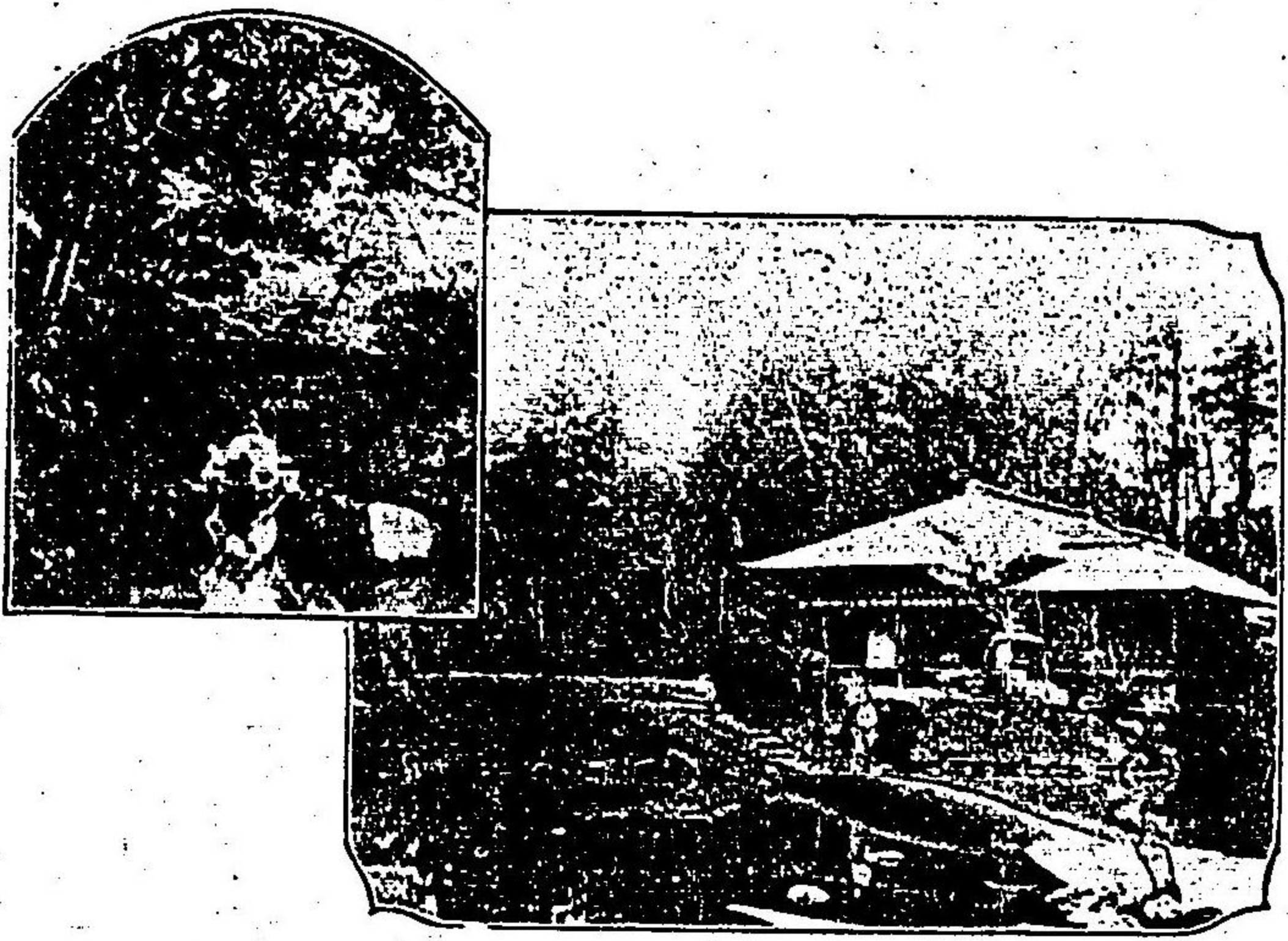
(相州大磯海岸)

架設にして、長三十九間餘、市四間餘、大阪市中鐵橋の嚆矢たり。

**こいらくえん 後樂園** 備前國岡山市にあり、日本三公園の一にして、岡山城の北方にあり、面積三萬二千餘坪、貞享年間藩主池田氏の作る處、旭川の水、園中に流れて溪流池沼をなし、四邊の樹木鬱茂して深山の觀あり、國人誇稱して日本三景を兼備すと云ふ、**こいらくえん** 東京小石川區砲兵工廠内にあり、舊水戸侯の公園にして市内第一の名園と稱せられ、廣表方六町、老樹蒼蔚として、境内幽邃閑雅、神田川の水流れて池塘をなし其景更に一段の美を加ふ。

**こいらさん 高良山** 筑後國三井郡の東南隅に聳え、久留米市の東方に位す、不瀟山、高牟禮山等の名あり、山上高良神社あり、高良玉垂神を祀る、社傳に武内宿禰を祀ると稱す、國幣神社に列せらる、山中に神籠石と稱せる周圍二十餘町の石壁あり、古の神籬なりと稱す、足利氏の世今川

探題たりし時大内義世とともに菊池武光を破り、機に乘じて四征府の軍を此山に破れることありき。



(東京小石川後樂園)

**こいのりやま 郡山町** 大和國生駒郡にあり、奈良市の西南二里十二町、關西鐵道の停車場あり、人口一萬四千餘、郡役所、警察署、郵便電信局、稅務署、小林區署、中學校等あり、柳澤氏十五萬石の舊城下にして、同國中奈良市に次ぎて繁華の地たり、大和木綿の産地として名あり、城は永祿年間小田切春次の築く處、天正十三年、豊臣秀吉の弟秀長此地に封ぜられ大阪城の藩屏となる、關ヶ原役後大久保長安此に封ぜられしが、其後數度の交替ありて、享保九年柳澤氏の有となり、世襲して維新に及ぶ、今は廢城に歸し、城址には中學校あり、**こいらくえん** 岩代國安積郡の東隅にあり、上野青森間の鐵道此地を通じ、岩越鐵道此地より發して會津に至る、三春町へ三里十町、馬車鐵道の便あり、人口二萬四千餘、郡役所、警察署、郵便電信局、稅務署、小林區署等あり、製絲業地として知らる、街西に長者邸と稱する舊趾あり、又北端に安積國造神社あり、西隣桑野村に中學校あり郡山中學と稱す。

**こいらくえん 廣隆寺** 山城國葛野郡大森にあり、眞言古義派に屬す、一に峰岡寺と云ふ、推古天皇の十一年、聖德太子、秦川勝に命じて建立せしめられたる有名のお古刹なり、毎年十月十二日牛祭あり、世に大森の牛祭と稱して有名なる祭典なり、寺内の桂宮院は八角造の建造物にして、世に推古天皇十一年創建のままと稱せらるるも、桂宮院勸進帳によ

るに大治年中に再修せられたるもの如し。

このよへかゝ五稜郭 渡島國龜田郡龜田村にあり、箱館區の北方一里餘、安政二年函館奉行の經營する處、其形五稜にして、周圍に龜田川の水を引きて堀となす、周圍凡そ千九百間郭高さ約一丈五尺、明治元年十月、榎本武揚、大島圭介等據りて官軍に抗す、明治五年之を毀ち、今其空郭をのみ存す、函館要塞砲兵大隊の營所あり。

USUJI 御靈社 京都市にあり、上下に分る、上御靈社は鞍馬口にあり、下御靈社は寺町通にあり、延暦遷都の頃崇道天皇及び井上内親王の靈を祀らんがため御靈社を建つ、今の上御靈社は是なり、其後貞觀年間伊豫親王及び大夫人藤原吉子の靈廟を建て下御靈社と稱するに及び初めて上下の二社を生ず、其後橋邊勢、文室宮田慶をも合祀し、次で藤原廣嗣、菅原道真をも配し、八座の御靈を祀る、或は井上内親王を除き吉備眞備を加ふるものもあり、又中御靈社と稱するも



(社 靈 御 上 都 京)

のもありしが、明治の初年廢絶せり、上御靈の林を御靈林と稱す。應仁の亂に島山政長此地に據り、島山義就と戦ひ利なくして退けること史に見ゆ。大阪市東區平野町五丁目御靈筋にあり、天正年間の創建にして、天照大神を祀り、別に鎌倉權五郎の靈を祀る、境内廣く、南方に人形繰り淨瑠璃文樂座あり。相模國鎌倉長谷にあり、鎌倉權五郎景政の靈を祀る、境内に景政が弓掛の樹、權五郎の手玉石と稱するものあり、後三年の役生年僅かに十六歳にして從軍し、一眼を射られながら、其矢を抜かずして敵を討ち名を末代に留めし鎌倉武士の面影忍ばれてゆかし。USUJI 後壠 (Ota) 臺灣四海岸の一海港にして、後壠河口に臨む、人口三千三百餘、郵便電信局、憲兵屯所等あり、港は水深四尺乃至一仟五尺。このよへかゝ後壠溪 臺灣四海岸の一河流にして、苗栗の東方を北流し、後壠轉して海に注ぐ。このよへかゝ衣川 陸中國騰澤郡高日王山及び瓜山の二處

に發し、東流して四幣井郡に入り、平泉村中尊寺の北方に至りて北上川に入る、流域十里二十四町、中尊寺附近に衣川の橋址あり、昔時安部貞任の據りし處として、有名なり、古歌あり「このよへ川汀によりてたつ涙は、岸の松がれあらふなりけり」(西行法師)、「たが袖につつむ笠のこのよへ川、思ひあまりて玉ともゆらん」(家隆卿)。

このよへかゝ衣川柵址 陸中國衣川村大字下衣川にあり、昔時安倍賴時、同貞任が居館のありし處にして今並木屋敷と稱す、東鑑に文治五年九月二十七日賴朝卿安倍賴時が衣川の遺跡歴覽あり、「麻土空しく残りて秋草鑽すこと數十町、礎石何處にかある舊苔埋むこと百餘年」との記事あり、文治五年は今を去ること七百十七年、此時にして已に斯の如し、間斷櫻(昔時柵外に植並べたる樹の殘といふ)の古幹徒らに昔を偲ばしむるあるのみ。

このよへかゝ衣關址 安倍賴時の設けたる關にして、東鑑に西白川の關に至り、東外濱を限り各々十餘日の行程を測りて關門を立て、衣の關と名づくことあり、今陸中國磐井郡衣川の中なりと雖も其址明かならず、古歌多し「影さゆるよはの衣の關守は、ねられぬままの月を見るらん」(順徳院)、「さくら色に四方の山風そめてけり、衣の關の春の曙」(定家卿)、「諸ともたたましものをみちのくの、衣の關を

餘所に見るかな(和泉式部)。

このよへかゝ舉母町 三河國西加茂郡にあり、岡崎町を距ること五里餘、矢作河畔に位す、内藤氏二萬石の舊城下にして郡役所、郵便電信局、稅務署等あり、古は衣の關と稱し、古來有名の勝地にして詩歌に詠ぜられたるもの頗る多し、忠隆卿の歌に「白妙に咲き重れる卯の花は、衣の里の妻にぞりける」又定家集に「わさも、が衣の里の梅の花、さぞ紅の色に添ふらん」とあるは、皆此地につきて詠めるなり。



ろくがしりー西海道 本州、四國の西南海中にある一大島

嶼を云ふ、別つて筑前、筑後、豊前、豊後、肥前、肥後、日向、大隅、薩摩の九國となし、壹岐、對馬及沖繩諸島之れに屬す、詳しくは、九州及各國の條下を見よ。

ろくががけ 犀崖 遠江國濱松町の北方三方原に在る隘溝にして、元龜年間三方原の戦に甲州勢夜討に遇ひ此崖に追ひ込まれ、多数の死者を出せる所とす。

ろくがむら 雜賀村 紀伊國海草郡にあり、和歌山市の南方に連る、中世雜賀庄といひ、萬葉集に「狭日鹿浦」又「左日鹿野」といへる即此なり、同書に「木の國の狭日鹿の浦にいで見れば、海人のともし火波間より見ゆ」とあり、村内の彌勒寺山は天正五年織田信長一向宗徒征伐の時、雜賀黨の築きて江海の要害を固うして防げる所とす、同村西方の岬角を雜賀崎、又鷹巢岬と稱す、今村名となる。

ろくがわ 犀川 (才川)加賀國にあり、源を加賀國石川郡三方嶽に發し、二三の小流を合して北方に流れ、金澤市の西方を経て金石港に注ぐ。

ろくがわ 犀川 (才川)信濃國にあり、上流を奈良井川と云

ひ源を駒ヶ嶽に發し、松本町の西にて梓川を合せ、北流安曇、東筑摩の兩郡界をなし、更科郡に入り、筑摩川に會す、此合流地點は有名なる川中島にして、武田、上杉兩氏の古戰場とす。

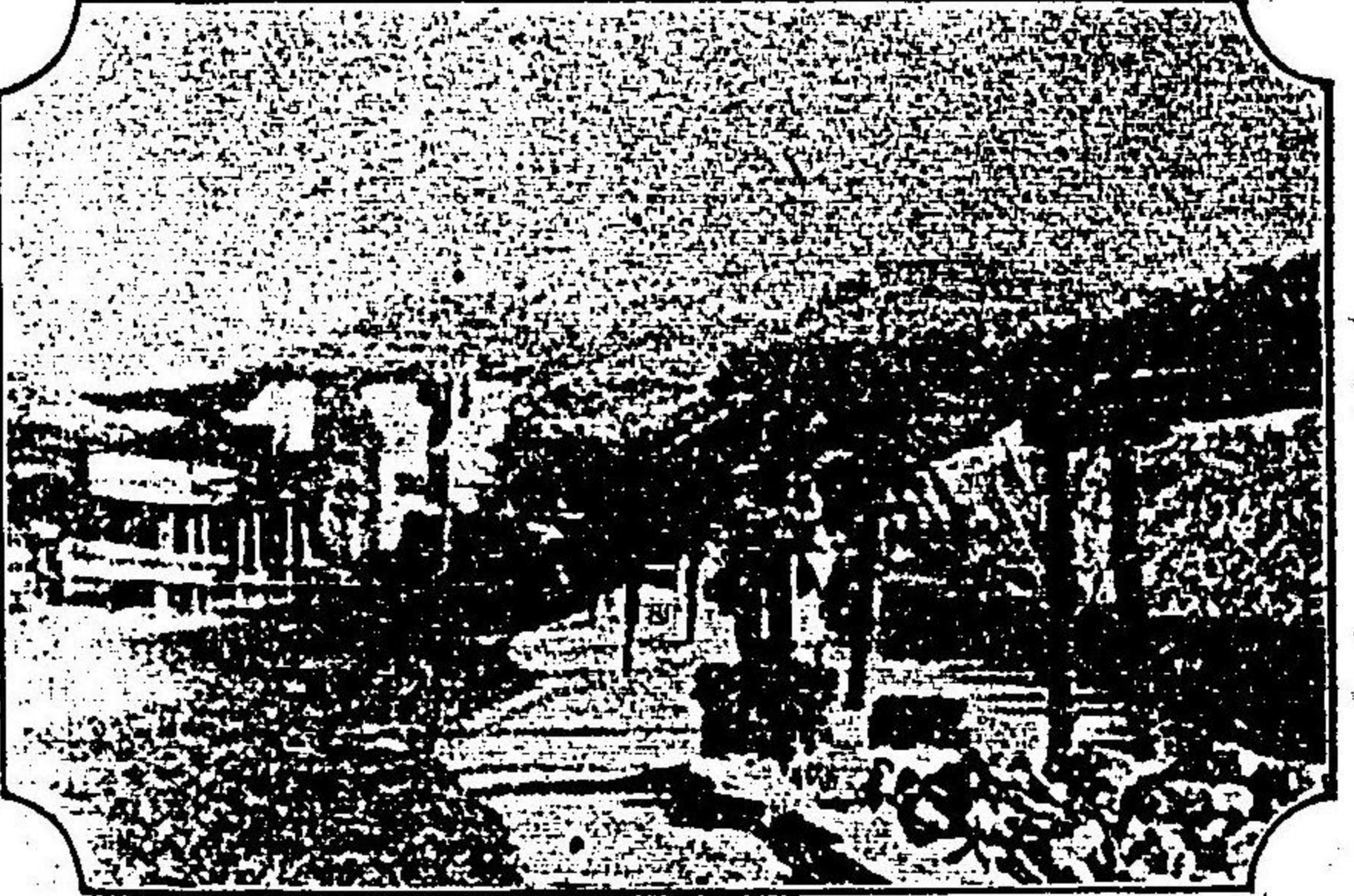
ろくきー西京 山城國京都市の別稱、東京に對したる名なり。

ろくきー西教寺 天臺宗眞盛派の本山にして、近江國滋賀郡坂本村日吉社の北方八九町にあり、文明中僧眞盛の開基たり、藥師佛を以て本尊となす、境内明智光秀の墓あり。

ろくきー西郷町 隱岐國第一の名邑にして、周吉郡入尾川の注口にあり、人口二千八百餘、島廳及び區裁判所、郵便電信局、稅務署等あり、元當國々府のありし地にして、徳川時代には松平侯に屬し、此地に陣屋を置きて、新府と云へり、四郷港は東四廿五町、南北七町、水深約十仞にして船舶常に入出入す、松江市を距ること海上六十里、同島知夫里港へ二十二里あり。

ろくきー西國三十三番札所 一 那智山青岸渡寺 (紀伊國東牟婁郡那智村)。  
二 名草山金剛寶寺三井寺 (同海草郡紀三井寺村)。

- 三 風猛山施恩寺粉河寺 (同那賀郡粉河村)。
- 四 横尾山施福寺 (和泉國泉北郡西横山村)。
- 五 紫雲山剛琳寺葛井寺 (河内國南河内郡長野村)。
- 六 壺坂山南法華寺壺坂寺 (大和國高市郡高取町壺坂)。
- 七 東光山龍蓋寺岡寺 (同郡高市村字岡寺)。
- 八 豊山長谷寺 (同國磯城郡初瀬町)。
- 九 興福寺塔頭南圓堂 (同奈良市)。
- 一〇 明星山三室寺 (山城國宇治郡宇治村大字菟道)。
- 一一 笠取山醍醐寺 (同郡醍醐)。
- 一二 岩間山法正寺 (近江國滋賀郡石山村字内堀)。
- 一三 石光山石山寺 (同石山村)。
- 一四 長等山三井寺 (同大津市)。
- 一五 新那智山觀音寺 (山城國京都府今熊野町)。
- 一六 音羽山清水寺 (同東山)。



(寺峰所札番十二第)

- 一七 補陀洛山六波羅密寺 (同松原通大和路)。
- 一八 六角堂頂法寺 (同上京區六角通烏丸の東)。
- 一九 草堂行願寺 (同一條町通竹屋町)。
- 二〇 西山善峯寺 (山城國乙訓郡大原野村大字小鹽)。
- 二一 穴太菩提寺穴穗村 (丹波南桑田郡曾我部村大字穴太)。
- 二二 尊陀洛山總持寺 (攝津三島郡三矢村字總持寺)。
- 二三 應頂山勝尾寺 (同郡豐川村大字栗生)。
- 二四 紫雲山中山寺 (同豐能郡長尾村大字中山寺村)。
- 二五 御岳山清水寺 (播磨加東郡鴨川村)。
- 二六 法華山一乘寺 (同加西郡下里村)。
- 二七 栴寫山圓教寺 (同飾磨郡曾佐村)。
- 二八 世野山成相寺 (丹後國興郡府中村)。
- 二九 青葉山松尾寺 (同加佐郡志摩村)。

三〇 岩金山寶岩寺 (近江國東淺井郡竹生島)。  
 三一 煖新山長命寺 (同蒲生郡長命寺村)。  
 三二 敷山觀音正寺 (同郡老蘇村)。  
 三三 谷汲山華嚴寺 (美濃大野郡德積村)。  
 四〇 曹洞宗にして越前永平寺の末寺たり、永享五年管領上杉憲清の創建にして吾寶禪師の開基とす、後北條氏時代の文書類を多く所蔵すといふ。

西條町 伊豫國新居郡の西北海岸にあり、今治町を距る八里九町、人口五千餘、郡役所、警察署、區裁判所、稅務署、小林區署、郵便電信局、中學校等あり、此地は松平氏三萬石の藩城下にして、城は寛永年中一柳直盛の築く處、寛文中松平頼純封せられ、世襲して維新に及ぶ、城址に中學校あり。

西條山 信濃國埴科郡千曲河畔に登り、永祿四年、上杉謙信此山に臺を築けることあり。

西大寺 南都七大寺の一にして、大和國生駒郡伏見村大字西大寺にあり、眞言律宗の本山たり、天平神護元年稱徳天皇の勅願にして、僧常騰の建つる處、本尊は丈六の觀音立像にして鳥羽天皇の勅願によりて作りたるものにて、興正菩薩勅を受けて此寺に納めたりと云ふ、本寺は創

立以來屢々火災に罹り興正菩薩一たび中興して律宗の六道場となせしかども其後復燒失し、今の堂塔は悉く後世の建造物にして、荒れ果てたる光景昔時の面影だになし。本寺に納むる資財流記帳及び古文書類には珍奇の物多し。備前國上道郡西大寺町にあり、眞言宗の古刹にして、寶龜年中僧



(像薩菩基行寺大四)

安隆の建つる處、千手觀音を本尊となす、もと摩訶寺と稱せしが中世今の名に改む、永正年中僧直阿の中興にして、天文元年火災に罹りしが同三年修造せり、毎年正月會陽と稱する大法會を修し、午王符を授く、遠近の賽者群集して頗る雜沓す。

西大寺川 備前國東大川の下流を云ふ。

西大寺町 備前國上道郡にあり、岡山市を去ること二里二十町、西大寺川畔に位す、人口三千餘、郡役所、警察署、郵便電信局、稅務署等あり、町内西大寺あるを以て賽客常に群集し、市況甚だ盛なり、此地又西大寺川の水利あるを以て、物貨常に輻輳し商業稍々盛なり。

埼玉縣 縣廳は武藏國北足郡浦和町にあり、武藏國北足立、入間、比企、北埼玉、秩父、北葛飾、兒玉、大黒、南埼玉の九郡を管す、面積二百六十五方里九九、四十二町三百五十二村より成る。

佐伯町 豊後國南海部郡佐伯藩頭にあり、毛利氏二萬石の藩城下にして、人口八千餘、郡役所、警察署、郵便電信局、區裁判所、稅務署、小林區署等あり、佐伯港は國內屈指の良港にして大阪、細島等に汽船の定期航海ありて交通の便多し、海上小島嶼點在し、風光明媚を以て知らる。

佐伯灣 豊後國南海部郡佐伯町の東海を云ふ、蒲戸崎、鶴留崎東方に斗出して灣口をなす。

藏王山 (藏王嶽、象王嶽) 磐城國刈田郡にあり、羽前國南村上及び陸前國栗田郡に亘る、高さ六千四百六十餘尺、熊野嶽、刈田嶽、白石嶽等の別稱あり、熄火山にして明治二十九年盛に噴出せり、山頂に舊噴火口あり、山麓に奇

根、遠刈田、峨々、鎌先等温泉多し。

嵯峨 山城國葛野郡田邑郷宇多野以西を云ふ、今嵯峨村、下嵯峨村の二に分る、嵯峨天皇離宮を此地に置き給ひしより、歴代高貴の御居館多く、大覺寺、清涼寺、天龍寺の名刹を初め其他の名所古蹟頗る多く、殊に嵐山の景は天下の絶景と稱せられ四時遊覽の客絶えず、今此地に京都鐵道の一驛あり、七條停車場を距る五哩。



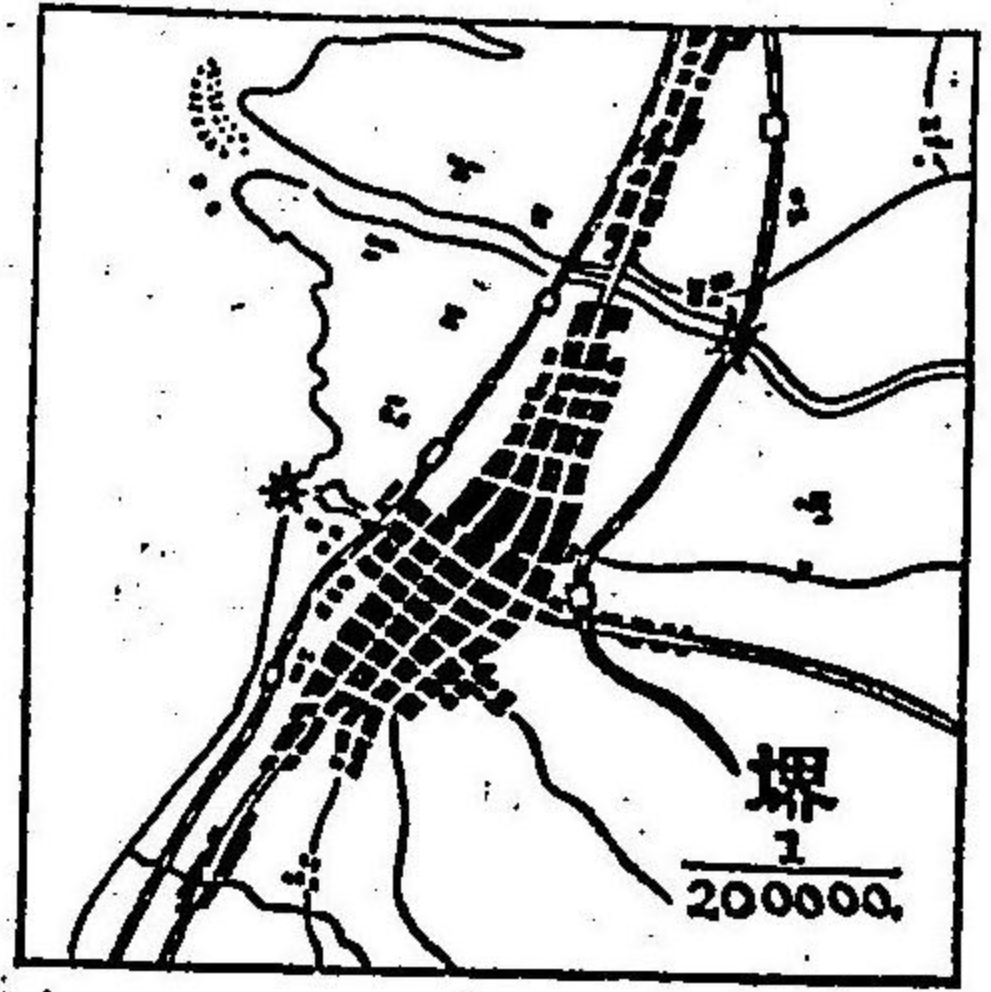
(城賀佐)

境川 三河國四加茂郡前生村に發源し、西南流して尾張の國境に沿ひ碧海郡に入り、刈谷の西を過ぎ大濱港に注ぐ、流域十里半、一に太平川と稱す。相模國津久

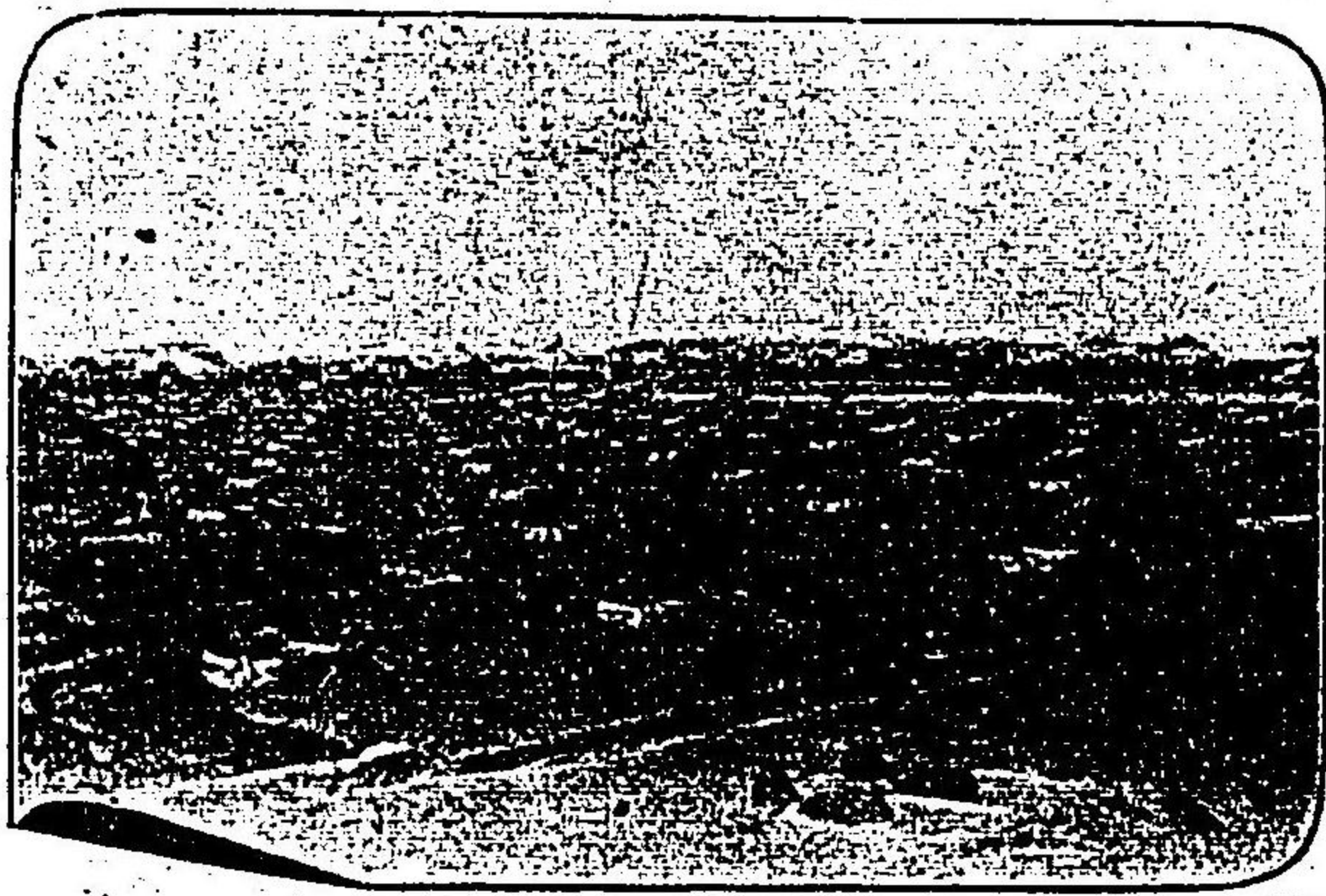
井郡川尻村に發し高坐郡の東端を繞りて鎌倉郡界を過ぎ、藤澤町を経て片瀬村に至り海に入る。流域十里、下流を片瀬川と稱す。

さかいし 堺市

和泉國泉北郡にあり、大阪市の南方三里十  
七町大和川の南岸に位す、足利時代に於ける支那との交通  
の要津にして、當時尤も繁昌したりしが、其後豊臣秀吉大阪  
を開くに及び、其繁昌は  
大阪に移り、漸次衰頹の  
運に向ひつつあるも、今  
尚五萬餘の人口を有し、  
區裁判所、警察署、郵便電  
信局、務稅署、中學校、高  
等女學校等あり、南海鐵  
道大阪より來りて、和歌  
山に通ず、物産は双物、級  
通、酒等有名なり、此地元泉府と稱し、足利時代泉州守護職  
を置く、天正五年には織田信長政所を此處に開き、徳川時  
代には堺奉行を置き、安政三年六月砲臺を築き以て外寇に  
備ふ、明治に至りて大阪府に屬し、近年港を特別輸出港とな  
す、市の西南海濱を堺大濱と稱し、茅渚海を隔てて遙かに淡  
路島と相對し、右に攝津の翠巒を眺め、左に紀州の煙峰を望



(田 鹽 町 出 坂)



み、白沙青松遠く連なり、風景極めて佳にして、近時海水浴  
場の設あり、夏時來遊の客多し。

さかいでまち 坂出町

設岐國綾歌郡にあり、丸龜市の東  
方一里二十五町に位す、坂出浦に臨み船舶の出入多し、山陽  
鐵道設岐支線は高松より來り此地を過ぎて丸龜に行く、人  
口一萬三千  
餘、郡役所、警  
察署、郵便電  
信局、務稅署、  
區裁判所出張  
所等あり、此  
邊鹽田多く、  
從て鹽の産額  
多く國內第一  
の稱あり。

さかいまち 境

町 伯耆の  
國四伯耆夜見  
ヶ濱の西北端  
にあり、海を  
隔てて島根半

さかけん 佐賀

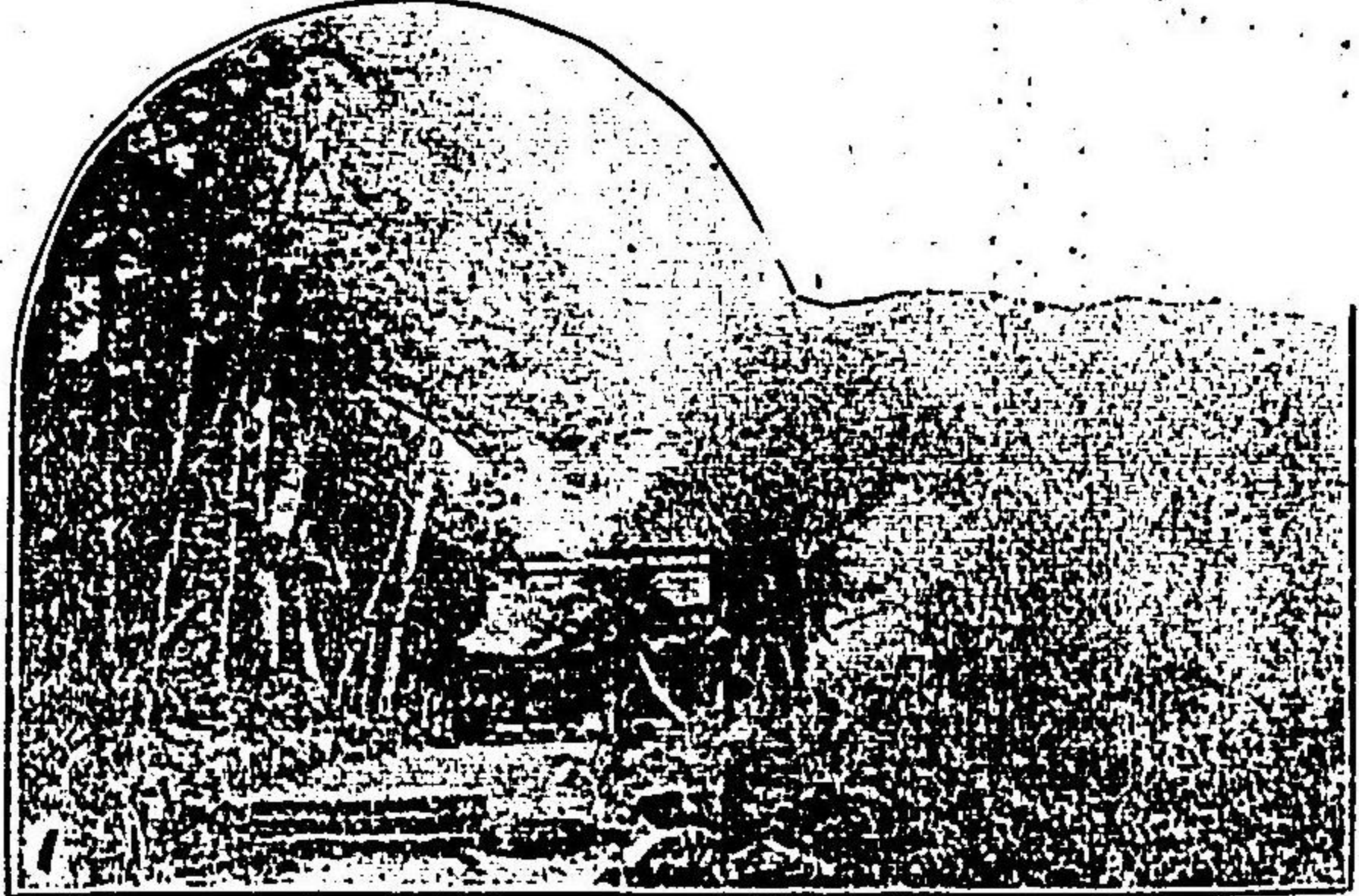
縣 縣廳は佐  
賀市舊城内に  
あり、肥前の  
内位賀市、及  
佐賀、神崎、小  
城、三養基、東  
松浦、西松浦、  
杵島、藤津の  
一市八郡七町  
百二十八村を  
管す、面積百  
六十方里餘。

さかみち 道

富士 相模  
國箱根山中な  
る芦の湖の水面に寫りたる富士山を云ふ。

さかし 佐賀市

佐賀縣廳の所在地にして、東京を去る三  
百十四里、肥前國佐賀郡の中央にあり、九州鐵道通過す、鍋  
島氏三十五萬七千石の舊城下にして、縣廳及市役所、地方區  
裁判所、警察署、郵便電信局、務稅署、測候所、小林區署、工業



(宮 折 河)

島に對す、鳥取市を距る三十里八町、米子町を距る五里餘、  
入口五千餘、警察署、郵便電信局、測候所、稅關、區裁判所出  
張所、務稅部等あり、鐵道は此地より起り、鳥取市に向ふ、  
其港灣は則ち境港にして町の前面にあり、我國開港場の一  
にして、東四二十三町、南北八町、水深四仞乃至五仞、港内浪  
濤かにして大船巨舶の碇繋に便なり。 下總國後島郡にあ  
り、郡内第一の都邑にして古河町を距る三里二十六町、利根  
川の北岸に位し、西長井戸沼に臨み、日々漁船の住居あり  
て交通頗る便なり。

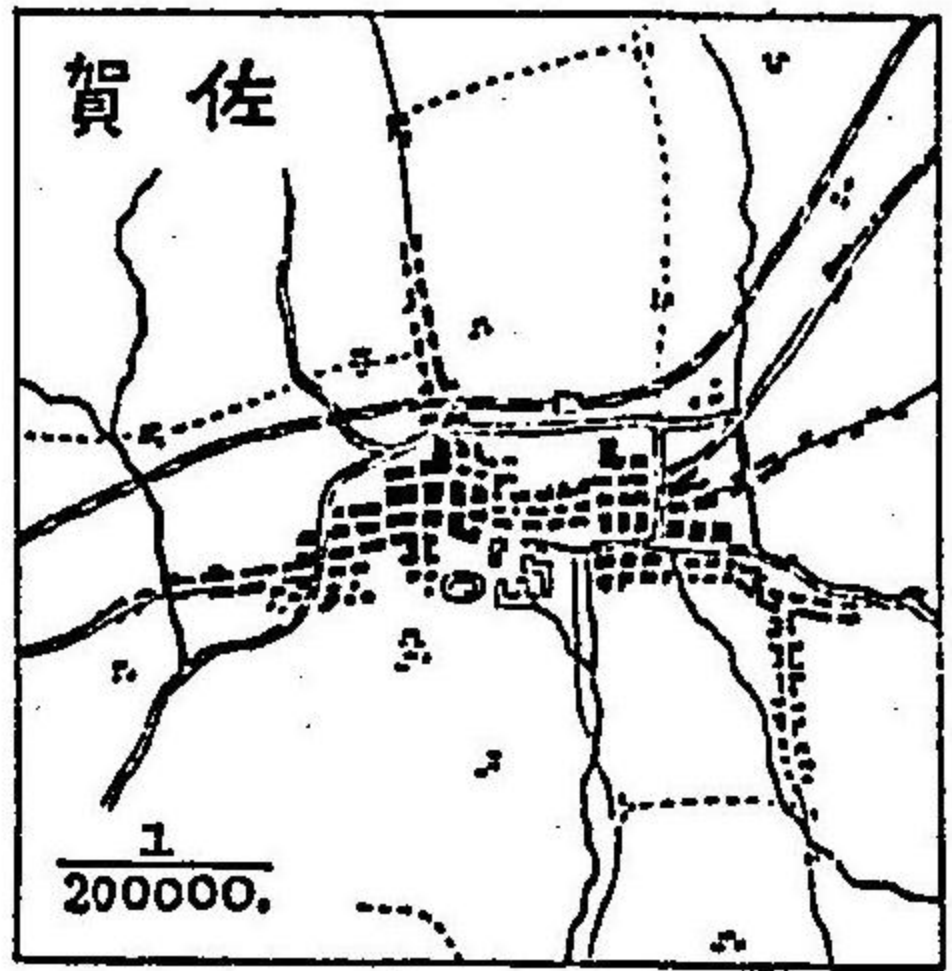
さかのみなと

坂井港、越前國坂井三郡國町安居川の河口  
にあり、河海の合處を子口と稱し、廣き三町二十四間、水深  
二仞二尺あり、致賀に次げる良港にして、商船常に輻湊す、  
一に三國港とも云ふ。 堺港、和泉國堺市の四面にあり、足  
利時代全國商業の中心地として甚だ隆盛なりしが、豊臣氏  
の時大阪の勃興せると共に商權全く該地に移り、加ふるに  
大和川開けてより土砂堆積して、港口淺くなり、今は東西六  
町南北五町、水深一仞半に過ぎず、港頭に燈臺あり、不動綠  
色、光達十浬。

さかおりのみや 酒折宮

甲斐國四山梨郡甲府市の東里垣  
村にあり、昔時日本武尊東征の際の行宮の遺址と稱す、今神  
社を建て日本武尊の靈を祀る。

學校、女學校、中學校、師範學校等あり、舊城址は市の中央平原の中にあリ、龍造寺隆信の經營する所、永祿十二年大友義興の襲撃あり、後鍋島氏の有となり、盛に經營して九州一の名城と稱せられしが、維新後崩壊して今は僅かに外濠と石垣とを存するのみ。



200000.

**さかたがわ 酒田川** 羽前國最上川下流の別稱。

**さかたまち 酒田町** 羽後國飽海郡の南、最上川の河口にあリ、山形縣の管下にして川により羽前國と境す、山形市を距る西北二十八里二十町、もと酒井氏の藩地にして、古くは砂瀉と稱せし地なり、郡役所、警察署、區裁判所、郵便電信局、稅務署、高等女學校等あり、明治二十七年十月庄内大地震の際、震害及び火災の大被害を被り、爾來稍々其面目を恢復せるも、昔時の觀を呈する能はず。

**さかたみなと 酒田港** 羽後國飽海郡酒田町、最上川の河口にあリ、日本海岸屈指の港にして、東西十三町、南北八町、水深一仞一尺新瀉港へ七十二浬あり、米の輸出殊に多し、昔時

北海道方面航行船舶の碇泊る地として頗る盛なりしが、近時最上河口より吐き出す泥砂の爲め港港淺せて、船舶の碇緊困難を覺え稍々衰微の徴あり。

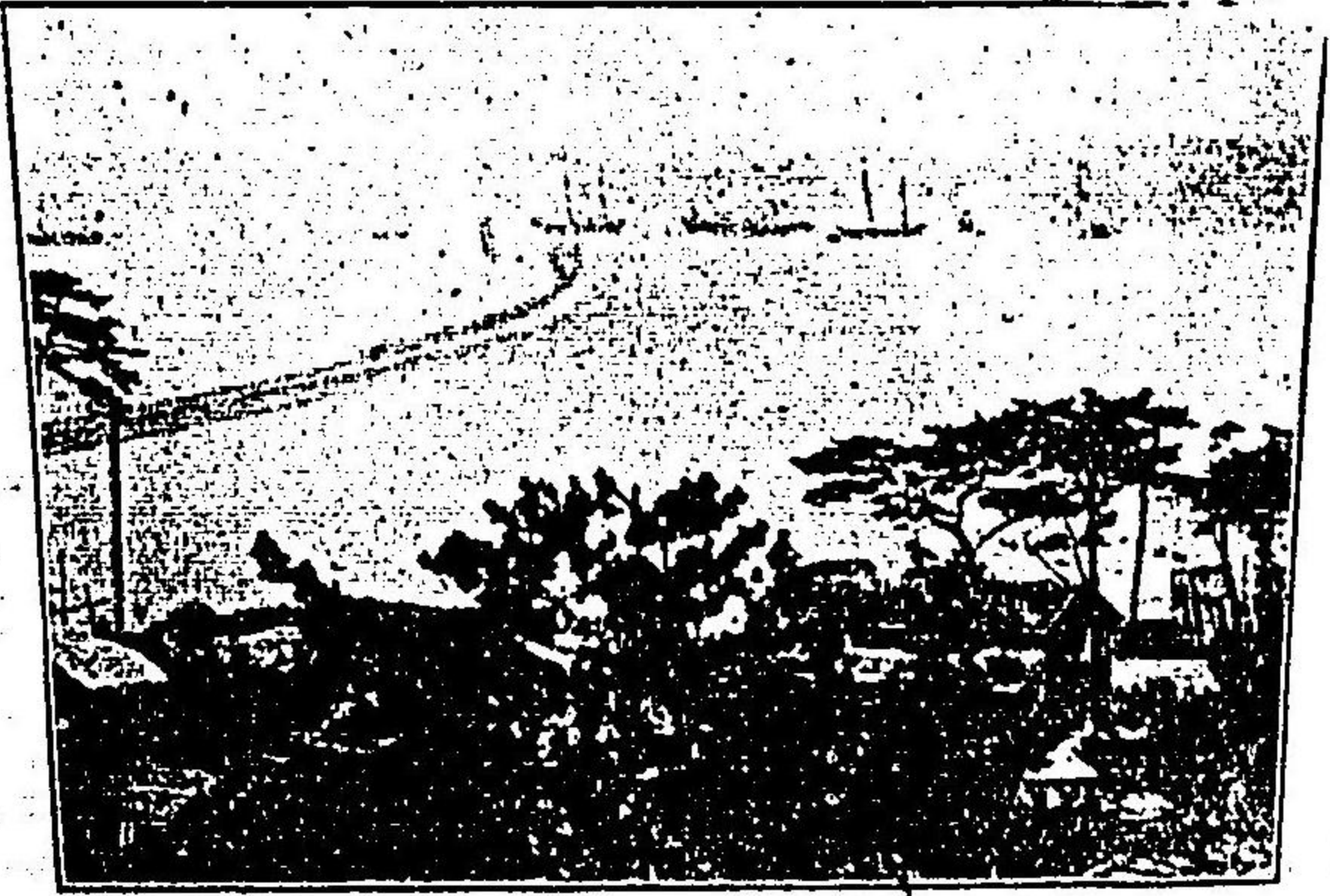
**さかつらじんじ**

**酒列神社** 常陸國那珂郡平磯町より十五町、磯前岬

にあり、別格官幣社にして、大己貴命少名彦命を祀る、岬は大洗岬と相對し、老松其上を覆ふ、國中有数の勝地たり。

**さかの 嵯峨野** 山城國葛野郡大井川畔にあリ、洛西の勝地にして、昔時屢々行幸ありし地なり(嵯峨參照)。

**さかのせきまち 佐賀關町** 豊後國北海郡佐賀關半島の



(口 港 田 酒)

岬端にあり、東方に地蔵岬斗出し、伊豫の佐田岬と相對して海峽を扼す、大分町を距る東八里、人口八千餘、佐賀關港は其前面にあり、東西五町南北十五町、水深六仞、良港なり。

**さがみ 相模國** 東海道十五國の一、東北武蔵及海洋に、西駿河、甲斐に、西南伊豆に、南相模灘に面す、地勢山嶺起伏し高低同じからず、國を足柄上、足柄下、三浦、鎌倉、高座中、愛甲、津久井の入郡となし、神奈川縣に屬す、當國は關東八州の隨一にして、源賴朝の起るや頼朝を鎌倉に開き、爾來天下の中心として、北條氏の末年に至る、元弘三年新田義貞義兵を擧げて北條氏を討滅し、建武元年成良親王東國の管領に任ぜられ足利直義これが執權たり、正平年間足利尊氏の次子基氏關東管領となり鎌倉に治す、明應年間北條長氏伊豆に興り、謀を以て小田原を取り其子氏綱、孫氏康に至り遂に關東八州を侵略せしが、天正十八年豊臣秀吉の討滅する所となる、徳川氏の世大久保忠隣小田原に封ぜられ四萬五千石を食む、後、事に因り國除かれしが、貞享年間再び大久保氏を興して其故地を賜ひ、子孫相紹けて明治維新に至る、維新後小田原縣を置き、後改めて足柄縣とせしが、明治四年

神奈川縣管下に屬す。

**さがみがわ 相模川** 「げにゅーがわ」を見よ。

**さがみなた 相模灘** 相模國の南海、伊豆半島より東北三浦

半島に至る間の海洋を云ふ、鎌倉、平塚、大磯、國府津、小田原等此沿岸にあり。

**さかもと 坂本** 近江國滋賀郡にあり、坂本、下坂本の二村より成る、比叡山の東麓にして琵琶湖に臨む、下坂木村に坂本城址あり、元龜年間織田信長延暦寺討伐の際此處に築き、後明智光秀に賜ふ、光秀信長を弑するや妻子を此處に置く、豊臣秀吉光秀を誅して來り攻むるや、光秀の從子光脊城を燒き一族殲滅す、後丹羽長秀此地に封ぜられしが、天正年間北國に移り城遂に滅ぶ。

**さがらまち 相良町** 遠江國藤原郡の東南海岸にあり、人口八千餘、警察分署、郵便電信局、區裁判所出張所等あり、此地石油の産多し、城址あり、天正四年高坂彈正の築く處にして寶曆以後山沼氏の有となり、王政維新の際廢城となれり。

**さかわがわ 酒匂川** 相模國にあり、源を駿河國駿東郡富士山の東麓に發し、數派の小流を合して、相模に入り、足柄上郡を南流して、足柄下郡に入り、國府津、小田原間に至りて海に入る、流域六里餘、古くは相模川と云ふ、又鞠子川の別稱あり、河口附近は海水浴客の來集多し。

**まがたのもりむら 鷺森村** 紀伊國海草郡宇治の西方にあり、鷺森神社あり、延喜式の名草郡朝糠神社と稱するものはなり、此地に又有名なる鷺森御坊あり、天正八年本願寺の顯如